

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1・第8章、配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第9章、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達3	青年期①.....運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達4	青年期②.....社会性の発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能、言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト 30%、期末試験 70%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
----------	---------------

備考	Teams コード 火曜 5 限： o3hr1s8 木曜 1 限： 9oex0u1 木曜 5 限： j4uz0u4 金曜 5 限： 8h3rwzd
----	---

	<p>Moodle コース名と登録キー</p> <p>火曜 5 限：2024 教育心理学 (火 5) あるいは 24 教心 (火 5) 2024EPTUE5</p> <p>木曜 1 限：2024 教育心理学 (木 1) あるいは 24 教心 (木 1) 2024EPTHU1</p> <p>木曜 5 限：2024 教育心理学 (木 5) あるいは 24 教心 (木 5) 2024EPTHU5</p> <p>金曜 5 限：2024 教育心理学 (金 5) あるいは 24 教心 (金 5) 2024EPFRI5</p> <p>・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</p>
--	---

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典, 西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

到達目標
1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。
5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

授業方法と留意点
講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グルーワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

科目学習の効果 (資格)
教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グルーワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グルーワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景との関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グルーワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目
すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育

	社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するという事に尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P.169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程 (カリキュラム) は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原則・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも1冊は入手すること (栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと)。 (3) 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程 (カリキュラム) とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定 (成績づけ) とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特質、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
6	カリキュラム編成原理1: 経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特質と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
7	カリキュラム編成原理2: 系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特質と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
8	日本における学習指導要領の歴史1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
9	日本における学習指導要領の歴史2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
10	教育課程の思想と構造: 領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを作成する (20時間)
12	総合的な学習 (探究) の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習 (探究) の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
14	カリキュラム・マネジメントの具体例: 同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを改稿し提出する (10時間)
15	総括: 教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) 定期試験に向けた準備をする (15時間)

関連科目 同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程（第5版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
	2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
	3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会
評価方法 （基準）	<p>(1) 期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。</p> <p>(2) 授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。</p> <p>評価基準（ループリック）の詳細は講義内で提示する。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階 鎌田研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に依りて変更することがある。			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用(デジタル教材を含む)に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
15	総括：教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する(15時間)

関連科目 同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では1単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 (基準)	(1) 模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および10分間の模擬授業を実施する。 (2) コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 (3) 授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。			
学生への メッセージ	授業のお知らせはTeamsを通して連絡します。必ずTeamsに登録してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(鎌田研究室)			
備考	事前・事後学習総時間を60時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。			

科目名	生徒指導論 (進路指導を含む)	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>昨年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり、課題が山積している。本講義では、生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し、具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで、生徒指導の諸課題に対応し、進路指導を通じたキャリア教育の実現に寄与する。</p>
到達目標	<p>本講義を通して、生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね、学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また、進路指導では広くキャリア発達の視点から学び、将来教員になった際、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は対面形式で行う。PowerPointを用いながら授業を展開し、毎時間課題を提示する。また、Teamsのファイルより、各資料を共有する。本講義は、アクティブ・ラーニングを採用しているため、ディスカッションやKJ法、ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて、授業では教科書を使用するため、毎時間持参すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の定義と目的 生徒指導の構造 (2軸3類4層構造) チーム支援による組織的対応 	教科書P.12～38 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達を支える教育課程 教科、道徳科、総合的な学習 (探求) の時間、特別活動の各領域と生徒指導との関連 	教科書P.39～67 学習課題：探求学習の4STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	<ul style="list-style-type: none"> チーム学校における学校組織と生徒指導体制 生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援 	教科書P.68～118 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策推進法 いじめに関する生徒指導の重層的支援構造 関係機関等との連携体制 	教科書P.119～140 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	<ul style="list-style-type: none"> 暴力行為に対する対応指針 暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造 関係機関等との連携体制 	教科書P.141～152 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と児童福祉法 少年非行の基本的な対応 喫煙、飲酒、薬物乱用 特定少年 	教科書P.153～170 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律 学校の体制 虐待対応に対するアセスメント 	教科書P.171～188 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	<ul style="list-style-type: none"> 自殺対策基本法 自殺防止のための学校の組織体制と計画 関係機関との連携に基づく自殺予防の体制 	教科書P.189～208 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学、インターネットに関わる問題	<ul style="list-style-type: none"> 中途退学の関係法規と基本方針 インターネット問題への組織的取組 各課題に対する重層的支援構造 	教科書P.209～220, P.240～254 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	<ul style="list-style-type: none"> 不登校に関する関係法規と基本方針 不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画 関係機関との連携体制 	教科書P.221～239 学習課題：不登校の定義、教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> 性に関する課題 発達障害に関する課題 支援を要する家庭状況 外国人児童生徒 	教科書P.255～289 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育とは何か 進路指導とキャリア教育の歴史的背景 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：4領域8能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「4領域8能力」	<ul style="list-style-type: none"> 4領域8能力 基礎的、汎用的能力 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	<ul style="list-style-type: none"> 中学校におけるキャリア発達 高等学校におけるキャリア発達 校種間連携 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の諸課題 進路指導とキャリア教育の結び付き 総括 	学習課題：第1～14回で最も関心のあるトピックを1つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	
評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。			
学生への メッセージ	生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに、学生自身が自発的・主体的に学び、豊かな人間性を養う必要がある。本講義では、双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西村研究室			
備考	本講義は、複数の曜日時限が設けられている。必ず、自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。

到達目標
①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
③今日の特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。

授業方法と留意点
・本授業では指定している教科書を購し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい(教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します)。
・授業では、教科書(および配付資料)に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。
・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。
・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。
・いずれかの回で、(予告した上で)収録済講義動画を

科目学習の効果(資格)
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目: 教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変	トラッキングやメリトクラシーの問題	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を

		遷②	から、日本におけるキャリア教育について学習する。	み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	15	総括	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間) 期末課題に備えて、先行研究涉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5時間)																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場で使える教育社会学</td> <td>中村高康・松岡亮二</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎・近藤博之</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新・教育の社会学</td> <td>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>これからの教育社会学</td> <td>相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣	2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣	3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣																	
2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣																	
3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣																	
評価方法(基準)	授業後課題(45%)・期末レポート課題(55%) ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等備考	3号館3階・竹中研究室																			

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム学校、関係諸機関や家庭、保護者と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する。 ⑥貧困・LGBTなどの理由により、特別の支援を必要とする子供たちに対する支援方法について理解する。 ⑦ICTの活用により、障害の疑似体験をしたり、支援に役立つ学習アプリを実際に操作したりする。
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間)
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間)
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。(2時間)
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第11章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間)
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめる。(2時間)
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。(2時間)
8	知的障害・発達障害について (2)	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間)
9	LGBT等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
11	通常学級での特別支援教育 (小・中学校)	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
12	通常学級での特別支援教育 (高等学校)	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間)

	14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる(2時間)																
	15	発達障害等に対する指導技法 まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2時間) ・今までの学修をふりかえる(2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしく学ぶ教職課程特別支援教育</td> <td>是永かかな子他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かかな子他	学文社	2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かかな子他	学文社																	
2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法(基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と「問題」への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 ① 幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 ② 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。
 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせで行う。講義の資料は、事前に Moodle で配付するので、各自入手しておくこと。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習
3	チームビルディング	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	教育相談の体制	教育相談の構造、チーム支援の意義、チームの作り方	テキスト第1講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	教育相談の実際1	チーム支援のプロセス、アセスメント	テキスト第1講・第10講・第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	教育相談の実際2	チーム支援の実際	テキスト第1講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	学校における諸課題とその対応①	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	配付資料を用いた予習・復習
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第13講・第15講、配付資料を用いた予習・復習

関連科目 教職課程の科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 [第2版]	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	<p>グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</p> <p>Teams コード 月曜2限: xfdelyw 火曜2限: mi255ww 木曜1限: irmdqyv 木曜4限: ui2p7a7</p> <p>Moodle コース名と登録キー 月曜2限: 2024 教育相談 (月2) あるいは 24 教育相談 (月2) 2024ECMON2 火曜2限: 2024 教育相談 (火2) あるいは 24 教育相談 (火2) 2024ECTUE2 木曜1限: 2024 教育相談 (木1) あるいは 24 教育相談 (木1) 2024ECTHU1 木曜4限: 2024 教育相談 (木4) あるいは 24 教育相談 (木4) 2024ECTHU4</p>

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	3年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。(1)教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2)教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3)教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習(教育実習に係る事前及び事後指導)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際(1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際(2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業における積極性・貢献度(30%)、模擬授業(40%)、提出物(30%)によって総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田研究室・吉田研究室：寝屋川キャンパス7号館3階
----------	---------------------------

備考	教職フォーラム(10月最終土曜日)、教育実習総括講義(11月最終土曜日)には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
----	--

事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	栄養教育実習 I	科目名 (英文)	Practice in Teaching I (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習で行う事前指導は、教育実習を円滑かつ効果的に実施するために、実習校の担当指導教員と連絡、調整する基本的なマナーなどを理解するとともに、栄養教諭として身につけるべき専門知識と技術の統合をはかるものである。教育実習の目的や内容を習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。また、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導に必要な技能と態度を修得し、栄養教諭として行う食に関する指導の具体的な技能と方法を修得する。さらに、実習終了後の成果発表の方法やまとめ方を学修する。
到達目標	① 教育実習に主体的に取り組むことができる。 ② 実習受け入れ校と打ち合わせをすることができる。 ③ 実習校と打ち合わせた内容で指導案を作成することができ、教育実習に必要な知識と技術を身につける。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③食に関する指導の手引きから読み解く ④グループ討議とロールプレイング
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教育実習の意義と目的	オリエンテーション 教育実習の意義と目的を理解し、教育実習に対する意欲を高める。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
2	事前挨拶について	マナーを守った電話対応に必要な情報を得る。(ロールプレイング・グループ討議)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
3	身だしなみについて	礼儀作法、言葉使い、守秘義務、マナーについて学修する。(挨拶、礼状の書き方の演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
4	教育実習における注意点について	教育実習記録の記入方法や欠勤届けについて、事例をもとに学修する。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
5	学校・学級経営の研究について	学校経営や学級経営がどのように行われているかその方法について考える。	事後: レポート提出 (1 時間)。
6	食に関する指導の研究について	児童生徒の食生活に関する実態把握、教科等の指導、個別指導、連携調整、その他のポイントについてどのように調査・研究したらよいかグループで考え発表する。 (講義、グループ活動)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
7	学習指導案の立て方	食教育上の課題を発見し、その課題を解決するための指導案を作成する。	事前: プリントの熟読と食に関して懸念される事項や食料自給率の問題を調べる (1 時間)。 事後: 指導案提出 (1 時間)。
8	生徒指導について	生徒指導は子どもの理解から始まることを理解し、その方法をグループで考え発表する。(グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: レポート提出 (1 時間)。
9	栄養食事管理について	栄養食事管理の方法、集団と個別や合理的配慮を要する児童生徒の栄養管理の方法について話し合う。 (グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
10	給食の時間の指導について (偏食指導)	給食の時間における指導の特質について理解し、偏食等の問題のある子どもへのことばがけについて学修する。 (講義、ロールプレイング)	事前: 食に関して合理的配慮の必要な児童生徒について調べる (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
11	給食の時間の指導について (事故防止)	給食の時間中に起きると想定される窒息事故、ノロウイルスに対する処置ができるように学修する。(講義・演習)	事前: ノロウイルスによる二次感染の予防対策について調べる (1 時間)。
12	給食の時間の指導について (給食当番)	給食当番へ、協力の大切さと衛生の観点で指導ができるように学修する。(講義・グループ討議・演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
13	給食時のクラスの衛生管理について	給食時における衛生上の指導ができるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 給食時のクラスの衛生について調べる (1 時間)。 事後: ルーブリック表を提出 (0.5 時間)。
14	食事のマナーについての指導方法について	給食時の食事のマナーについて指導できるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 食に関する指導の手引 (食事のマナー) を熟読する (0.5 時間)。
15	成果発表会について	実習報告のまとめかたと発表の方法について学修する。 (講義・配布資料)	事後: レポート提出 (1 時間)。

関連科目	学校栄養指導論 I・学校栄養指導論 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論—理論と実際—	金田雅代	建帛社
	2	配付資料		
	3			
評価方法 (基準)	提出物 70% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 30%			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一・朝日 素明・鎌田 祥輝・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員6名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	<p>問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。</p> <p>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</p>	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
3	いじめ問題への取り組み	<p>日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。</p> <p>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</p>	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
4	「よい授業」を探究する: 「わかる授業」と「たのしい授業」	<p>「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。</p>	(事前) 「よい授業」のイメージを考えておく。 (事後) 小課題を課す。	
5	学習指導案を読み解く	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の主體的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。 ・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。 	(事前) 配付資料を読んでおく。 (事後) 小課題を課す。	
6	学校の危機管理 (1): 学校管理下の事件・事故	<p>学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</p>	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
7	学校の危機管理 (2): 災害	<p>災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</p>	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
8	学校における行動問題支援 (理論編)	<p>学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。</p>	(事前) 学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 (事後) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。	
9	学校における行動問題支援 (実践編)	<p>持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。</p>	(事前) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 (事後) 2回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。	
10	カウンセリングマインドと生徒対応	<p>カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。</p>	(事前) カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。	

				(事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導: 生徒理解と学級運営	・生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	13	進路指導: 保護者対応とキャリア教育	・キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	14	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	近隣市の教育委員会との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。	
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します(87.5%(12.5%×7名))。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します(12.5%)。これらを合計し、最終的な評価とします。			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けていきましょう。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日、鎌田、西村、松浦、吉田) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	教職実践演習 (栄養教諭)	科目名 (英文)	Practical Seminar on Teaching (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子, 谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本演習は、栄養教諭となるために必要な知識技能を修得したことを確認するものである。よって、昨今の食に関する問題や教育実習でつかんだ児童・生徒の状況を踏まえ、これらの問題を解決するための手立てを、給食の時間や授業、家庭や地域との連携の場合について考えていく。さらに、考えた手立てを学習指導案や給食だよりといった具体的な指導に結び付け、模擬授業や親子料理教室などへ展開していく。児童・生徒が抱える食の課題に対する効果的な指導となるように実践的な手立てを修得し、豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①今までの学修を振り返り、各自の課題を発見することができる。 ②摂取する食品と健康との関連や毎日の食事と社会とのつながりについて、食育の視点で指導案を作成し模擬授業ができる。 ③児童・生徒が適量を食べようとするための指導ができる。 ④スポーツをする児童・生徒への個別指導の方法を考え、その一環として食品構成表を作成するなど食事提案ができる。 ⑤地場産物を活用した学校給食献立を考えることができ、そのメニューを活用した親子料理教室の企画書を作成することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントや配布資料を用いて授業をすすめる。 ②グループ討議では受身にならず、意欲的に意見交換を行い傾聴力や実行力を高める。 ③教育実習で経験した児童・生徒の状況を整理し、学校教育現場を常に想定しながら演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育実践演習について	教育実習の振り返りや「教職履修カルテ」と「自己評価シート」に基づいて自分の課題を発見し、課題に取り組む。	予習：今までの教職科目を振り返る (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
2	教職の意義・役割について	「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」について各自振り返り発表、討議し、教職の意義や教員の役割、教職内容、児童・生徒に対する責任について考えを深め、自分の課題を克服する。	予習：「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
3	組織としての栄養教諭について	組織の一員としての自覚、食育のコーディネーターとしての在り方、保護者や地域の方々、児童・生徒との人間関係の構築等で自分の課題を発見し、克服しようとする手立てを考える。	予習：学校組織についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
4	食に関わる問題について	学校が目指す児童・生徒像に近づけるため食育でどう近づいていくか考え、食育の全体計画を作成する。	予習：児童・生徒の食に関する課題をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (3時間)。
5	全体計画の発表	児童・生徒の食に関する問題点、目指す児童・生徒像から食育の全体計画を作成し発表する。	予習：食育の全体計画の修正 (3時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。
6	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (指導案と指導資料)	給食では必ず提供される牛乳を飲もうとする意欲を高める指導案作成と指導資料作り、家庭へのおたよりを作成する。	予習：牛乳と健康の保持増進について調べておく (2時間)。 事後：指導案提出 (2時間)。
7	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (模擬授業と評価)	健康を考えて牛乳を飲もうとする意欲を高める模擬授業を行い、意見交換や発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。
8	学校安全で行う安全教育について理解する。	学校での安全教育の位置づけを理解し、栄養教諭としての役割を考える。	予習：安全教育の3つの領域について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
9	学校安全で行う食に関する災害安全学習について (模擬授業と評価)	災害時の食に関する学習の単元構成の発表と指導方法についてグループで考える。	予習：過去の災害時の食の問題について調べておく (3時間)。 事後：災害時の食についての学習指導案提出 (2時間)。
10	適量を食べようとするための取組み (授業、給食時間の働きかけ)	児童・生徒の肥満や、やせの問題についてグループ討議を行い、児童・生徒が適量を食べようとするためには、どのような手立てが必要か考え、それに基づく学習指導案や給食だよりを作成する。	予習：食品構成をまとめておく (2時間)。 事後：指導案提出 (3時間)。
11	障害のある児童生徒への食に関する指導について	障害のある児童生徒への食に関する指導の視点や展開を考える。	予習：特別支援学校について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (1時間)。
12	個別指導 (食物アレルギー対応・スポーツをする児童・生徒)	食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題を考え、個々に対応した食品構成を作成し、それを基に指導演習を行う。	予習：食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題について調べておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。
13	学校給食管理について (施設見学・調査)	学校給食施設を見学し、衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査する。	予習：学校給食の給食管理について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
14	学校給食管理について (レポート作成)	学校給食における衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査したことや新たな発見・課題をまとめて発表する。	予習：学校給食の給食管理について課題点をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
15	家庭・地域連携について	児童・生徒の食の問題点を解決するための給食試食会を企画する。	予習：児童・生徒の食の問題点について調査しておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

関連科目	全ての教職課程必修科目、栄養教諭免許状に関わる必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂	文部科学省	東山書房
	2	栄養教諭論Ⅱ 実践研究	金田雅代	建帛社
	3	プリント配布		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出物 60% 成果発表 30% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 10%			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で自らの実習の課題点を見出し、課題解決のための目標を設定し、授業やグループワークを通して克服し、栄養教諭として実践的力を身に付けましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	学校栄養指導論 I	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。食育基本法や学校給食法を理解しながら、学校における食育推進の在り方や学校給食管理の方法について学修し、栄養教諭の職務内容について考える。また、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴う食生活の乱れや健康に関して懸念される事項、食料自給率の問題、地産地消の重要性、食文化や郷土料理の継承といった面からも学校給食をどのように生かしていくべきなのかを考える。さらに、児童生徒の食生活に関する実態把握やその指導法など栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	① 児童生徒の食生活に関する課題等に栄養教諭として対応していこうとする意欲を高める。 ② 学校給食法から学校給食の意義や目的を読み取り説明できる。 ③ 学校給食の実施基準を活用して、個人を対象とした栄養食事管理ができる。 ④ 学校給食衛生管理基準に沿った調理業務の指導ができる。 ⑤ 食をめぐる社会的状況や食文化の継承等を視野に入れた学校給食献立を計画することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③グループ討論と発表（ループリック） ④演習
科目学習の効果（資格）	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 栄養教諭の職務	オリエンテーション 関連法令から栄養教諭制度について知る。栄養教諭の職務内容について中央教育審議会答申「食に関する指導体制の整備」から読み取る。	事前：食に関する指導体制の整備について熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
2	食育基本法	児童生徒の食生活ならびに栄養に関する課題や社会状況に対応した食に関する指導の必要性、意義について食育基本法から読み解く。	事前：食育基本法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
3	第4次食育推進基本計画	食育推進のために栄養教諭は何をすべきか第4次食育推進基本計画から考える。	事前：第4次食育推進基本計画を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：第4次食育推進基本計画についてまとめる（2時間）。
4	学校給食法	学校給食の意義と目的について学校給食法から読み解く。学校給食の基本計画の設定や調理指導、栄養教諭が行う学校給食全般を理解する。	事前：学校給食法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：学校給食の意義や目的についてまとめる（2時間）。
5	学校給食の栄養管理（学校給食摂取基準の考え方）	学校給食の栄養管理を学校給食摂取基準から考える。	事前：日本人の食事摂取基準2020と学校給食摂取基準2021を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
6	学校給食の栄養管理（個別対応）	クラス全体の食事管理と個別対応の方法ならびに評価について考える。	事前：個別的な相談指導を必要とする児童生徒の対象者について調べる（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
7	学校給食の衛生管理基準：給食施設及び設備の整理	学校給食衛生管理基準について理解し、学校給食調理場の施設設備をレイアウトする。	事前：学校給食衛生管理基準（施設設備について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
8	学校給食の衛生管理基準：調理過程	献立作成、食材の購入、検収、保管についてまとめる。	事前：学校給食衛生管理基準（献立作成、食材購入、検収、保管について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
9	学校給食の衛生管理基準：演習	調理過程、配送についてまとめ、二次汚染防止のための手立てとして作業工程表作業動線図を作成する。	事前：学校給食衛生管理基準（作業工程表と作業動線図の作成について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：作業動線図・作業工程表を作成する（2時間）。
10	学校給食の衛生管理基準：衛生管理体制	検食や保存食、衛生管理体制について学修する。	事前：学校給食衛生管理基準（衛生管理体制について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
11	学校給食の衛生管理基準：ノロウイルス対応	厚生労働省ノロウイルスに関するQ&Aを理解し、ノロウイルス対策として、様々な場合を想定したマニュアルを作成する。	事前：ノロウイルス食中毒について調べる（2時間）。 事後：学校給食衛生管理基準とノロウイルス対策についてまとめる（2時間）。
12	学校給食の現状	学校給食実施状況調査から、児童生徒の実態を把握するための方法をグループで話し合い発表する。	事前：学校給食実施状況調査から課題点をまとめる（テキスト）（2時間）。 事後：児童の食生活に関するアンケート調査を作成する（2時間）。
13	学校給食における食物アレルギー対応	学校給食における食物アレルギー対応指針から、対応のための体制づくりや準備すべき書類、調理現場での指導、クラスでの対応について考える。	事前：アナフィラキシーについて調べる（2時間）。 事後：食物アレルギー対応マニュアルをまとめる（2時間）。
14	食料の供給状況や食文化の継承と学校給食	食料需給表から日本の食品供給状況について検討する。また、食文化の継承や地産地消について考え、学校給食献立の在り方について考える。	事前：最新の食料需給表を考察し、まとめる（プリント）（2時間）。 事後：地域の食文化や特産物、郷土料理を活かした献立を作成する（2時間）。
15	自然災害と学校給食	自然災害に備えた学校給食について考	事前：自然災害と学校給食についてまとめる（2時

			え、栄養教諭の役割について考える。	間)。 事後:栄養教諭として自然災害にどう向き合うかまとめる(2時間)。
関連科目	学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論—理論と実際—第2版	金田雅代	建帛社
	2	食に関する指導の手引き—第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	学校栄養指導論Ⅱ	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。子供の発育や発達、あるいは行動特性や教科等の特性を学びながら、食育の全体計画を作成し、子供の発達段階に応じた系統立った食育の模擬授業を行う。また、学校、家庭、地域と連携し学校給食を生きた教材として活用した食育の推進や、肥満、るい瘦、食物アレルギーといった個別指導の実践につながる取り組みを行い、栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①こどもの発達段階が理解でき、発達段階に応じた内容の食育を考えることができる。 ②食に関する指導の全体計画の意義を説明でき、立案の方法がわかる。 ③教科の単元目標に沿った食育指導案を作成し、模擬授業をすることができる。 ④学校、家庭、地域が連携した食育指導を計画することができる。 ⑤学校給食を活用した食育の指導案を作成することができる。 ⑥個別指導の手法に基づいた栄養相談ができる。
授業方法と留意点	①パワーポイント及び配付資料による講義 ②グループワーク ③テーマに沿った指導案の作成と模擬授業を通して意見交換を行い、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し、その技能と方法を学修する。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食に関する指導 (指導案)	オリエンテーション。 学習発達理論について知り、小学校中学年における「食べ物の3つの働き」の授業でどう活用していくか考え、グループごとに指導案を作成する。	事前：ピアジェの学習発達理論を読む (プリント) (2時間)。 事後：振り返りシート提出 (2時間)
2	食に関する指導 (模擬授業)	第1回の指導案を基に、グループごとに模擬授業を行う。	事前：指導案・教材を作成する (ワークシート) (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)
3	食行動に関するステージ別指導	食行動に関するステージ別指導理論を知り、この理論に基づく野菜嫌いの子供への給食の時間の指導について考える。	事前：行動科学について調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
4	コミュニケーション技術の コーチング	栄養教諭としてまず、子供とラボールの形成をどう築いていくかをグループで話し合い発表する。	事前：コーチングについて調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
5	食に関する指導の全体計画の 意義	食に関する指導の全体計画の意義について知り、実態に即した食に関する指導の全体計画を作成する。	事前：食に関する指導の全体計画について調べる (テキスト) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
6	学習指導要領について	学習指導要領について知り、そのねらいが「生きる力」であることに気づき、そのねらいに沿った授業とはどのようなものか考える。	事前：学習指導要領総則を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
7	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (家庭科、技術 家庭科)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。(家庭科、技術家庭)	事前：家庭科、技術家庭の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
8	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (保健体育)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((保健体育)	事前：保健体育の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
9	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (道徳)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((道徳)	事前：道徳の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
10	食育指導の評価の方法	7回～9回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、食に関する指導の効果、児童生徒の理解、定着度を評価する方法を考える。	事前：模擬授業の練習ならびに教材作成をする。(3時間) 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
11	給食の時間における食育	給食の時間における食育の特性を理解し、ねらいをもった献立を作成し、指導媒体を活用した給食の時間の指導を行う。	事前：ねらいをもった献立作成と指導媒体の資料収集をする (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
12	総合的な学習の時間における 食育	総合的な学習の時間の目標を知り、食育の単元を構成する。	事前：総合的な学習の時間の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
13	給食だよりの作成と活用方法	給食だよりを作成し発表する。	事前：今月の献立をもとに給食だよりに掲載する資料をまとめる (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
14	学校給食の生きた教材の活 用法	地域の食文化や地場産物の活用という視点での家庭や地域との連携の必要性や地域との連携の方法について考える。	事前：地域の地場産物や郷土料理、食文化について調べる (2時間)。 事後：(2時間)。
15	肥満、るい瘦、食物アレルギー 等の個別指導	個々に応じた指導方法について知り、指導資料を作成し、グループ内でローリングプレーを行う。	事前：食品構成の作成法を調べる (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改	文部科学省	東山書房
	2	四訂栄養教諭論－理論と実際－第2版	金田雅代	建帛社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆, 浅尾 俊樹, 井上 亮, 大澤 直哉, 川崎 通夫, 岸本 良美, 北川 太一, 黒川 通典, 佐藤 和広, 田中 樹, 種市 豊, 増田 太郎, 水間 智哉, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点がもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	15回を担当教員のリレー講義にて行う。各回に課題が出されるので、期限内に提出すること。評価は各回の評価の積算とする。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当：椎名隆)	事前：シラバスの理解 事後：レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当：浅尾 俊樹)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当：川崎 通夫)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当：田中 樹)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当：大澤 直哉)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
6	植物の遺伝資源とその利用	世界中には約 800 万の作物とその近縁植物の遺伝資源が保存されている。これらの遺伝資源はどのように収集され保存されているか、また我々が遺伝資源をどのように利用しているかを紹介する。(担当：佐藤 和広)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
7	遺伝子組換え技術と農業	遺伝子組換えによる品種改良が実用化されて 30 年近い。遺伝子組換え技術の利点や課題を整理し、新技術と社会の関係について考える。また、ゲノム編集技術などの最新の技術を紹介し、農と食の未来を考える。(担当：椎名 隆)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学においては産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出

			修する。(担当：井上 亮)	
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：増田 太郎)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：水間 智哉)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	11	食文化と食品機能性	日本の食文化を理解し、現代の様々な食や栄養の課題を考えることは重要である。和食の特徴や、食生活の変化、さらに緑茶を例に食品の機能性について学修する。(担当：岸本 良美)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：種市 豊)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学概論	久保康之 編	朝倉書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺真一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 2) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例：4月8日（月）の授業は4月14日（日）午後11時59分までに提出)			
担当者の 研究室等	応用昆虫学研究室（大澤）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（佐藤）、食料・農業市場研究室（種市）、植物分子生理学研究室（椎名）、作物科学研究室（川崎）、基礎栄養学研究室（岸本）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（浅尾）、海洋生物学研究室（増田）、食品学研究室（水間）、応用微生物学研究室（和田）			
備考				

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	佐藤 和広, 玉置 雅彦, 浅尾 俊樹, 牛島 智一, 川崎 通夫, 佐野 修司, 藪田 伸
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋（9月のイネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>田植えの前に</td> <td>稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>田植え</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ガイダンス</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>稲刈りの前に</td> <td>稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>稲刈り</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜栽培 -ダイコン-</td> <td>ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>収穫後の米</td> <td>収穫された米の品質について学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水田土壌の特徴</td> <td>水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備</td> <td>レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認	2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出	3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習	8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出	9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	12	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出	14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出	15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認																																																																
2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出																																																																
3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
6	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出																																																																
9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
12	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出																																																																
14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出																																																																
15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出																																																																
関連科目	土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	演習参加とレポート（100%）で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを経験してください。コロナ感染状況等によっては、現地での実習（田植え、稲刈り）ができなく可能性があります。その場合はTeamsでの課題提供（課題提出はWebHolder使用）、本学農場での見学および実習を行う予定です。																																																																		
担当者の研究室等備考	園芸科学研究室（浅尾）、作物科学研究室（玉置、川崎）、生産生態系盤学研究室（佐野）、植物遺伝育種科学研究室（佐藤、牛島）、藪田																																																																		

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	飯田 祐一郎, 戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に1週間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	①世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ②演習に訪れた国・地域の農業、食に関わる文化、食生活等の特徴について説明できる。 ③演習に訪れた国・地域の人々と協働できる。

授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は春学期休暇期間中で、おおよそ1週間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。また、講義の内容は先方との調整で変更する場合もある。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容 (雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流) の説明	事前: シラバスの理解
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物 (動植物) についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	中国の農林水産業	中国の農林水産業の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	中国の生物多様性	中国の生物多様性の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	雲南農業大学見学	雲南農業大学の教育・研究施設について見学する	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	雲南省の茶産業 (1)	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
9	雲南省の茶産業 (2)	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての視察 (茶間屋など)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
10	雲南省の花卉産業 (1)	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11	雲南省の花卉産業 (2)	花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
12	雲南省の少数民族 (1)	雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
13	雲南省の少数民族 (2)	民族村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物 (一部再現物) を見学する	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
14	雲南省における青果物の流通と食生活	全国から集荷される青果物市場を見学し、販売形態や、消費者の購買行動の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後: 全実習のレポート提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関するプリントを配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目の履修登録の方法と時期については別途周知します。履修希望学生は英語・中国語に精通している必要はありません。海外の大学生等と交流意欲のある方は大歓迎です。
-----------	---

担当者の研究室等	飯田祐一郎 (農業生産学科 植物病理学研究室) 戴 容泰思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)
----------	---

備考	
----	--

科目名	スマート農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Smart Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅尾 俊樹, 川崎 通夫, 北村 祐人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3004a0		

授業概要・目的	日本農業における就農人口の減少、高齢化、激しい気象変動と異常気象等、農園芸作物生産を取り巻く環境は厳しさを増している。そんな中、高収量・高品質、安定生産、省力・軽作業化、省エネを実現するためのロボット技術や ICT を活用した新しい農業スタイル「スマート農業」が動き始めている。本演習ではスマート農業について、その理論と実際を学び、日本農業がかかえる課題と「スマート農業」の可能性とその重要性について正しく認識させる。
到達目標	① スマート農業とは何か、説明できる。 ② スマート農業の具体例を列挙し、その内容と特徴を説明できる。 ③ スマート農業についての学びから、その可能性について自分の考えをまとめ、述べることができる。
授業方法と留意点	本学教員による講義及び学外の施設視察と受講、および他大学教員、試験研究機関の研究員をゲストスピーカーとして迎え、講義を進める。講義内容はプリント、資料等で事前配布する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スマート農業とは	スマート農業と呼ばれている農業技術、施設、システムの概説	事前：次回実習内容の確認
2	植物工場 その1	太陽光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
3	植物工場 その2	人工光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
4	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 植物工場における環境制御技術 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
5	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 体内時計制御による生長の最適化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
6	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (視察) 植物工場施設の見学	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
7	栽培環境情報の「見える化」	ハウス内気象情報の「見える化」と遠隔操作 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
8	生産技術の「見える化」	篤農家技術の見える化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
9	ドローンの農業利用	ドローンによる薬剤散布、播種作業 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
10	ロボット技術	無人トラクターと収穫ロボット (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
11	オミクス利用	オミクス情報利用による新世代栽培技術の開発 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
12	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (講義)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
13	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (視察)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
14	農業と AI	農業における AI 活用の可能性 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
15	まとめ	スマート農業の可能性	事後：レポートの提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート (100%) を総合して評価し、60%以上で合格とする。6回以上欠席したものは受験資格なし。
-----------	---

学生へのメッセージ	本講義は通年の講義です。原則、隔週の土曜日開講としていますが、一部、講義日等に変更が生じる場合があるかもしれませんので、ご承知おきください。その場合はできるだけ早いうちお知らせします。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	農業気象学	科目名 (英文)	Agricultural Meteorology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 宏之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3005a0		

授業概要・目的	さまざまな気象現象の基礎的な特徴と発生原理等について講義を行い、気象と動植物との関わり、農業や人間生活との関わり等について、具体的な事例を示しながら解説する。それにより、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象の発生原理、大気大循環、地球温暖化を含む気候変化とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、それらの農業への影響や対策等について現実的に考察することが可能となる学力を身に付ける。
到達目標	大気の中で起きるさまざまな現象を理解しながら大気環境の実態を把握し、大気圏と水圏・地圏・生物圏との相互影響も理解でき、それらが農業生産に及ぼす影響や対処方法を自ら考察できる能力を身に付けることを目標とし、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象、大気大循環、地球温暖化を含む気候変動とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、科学的に説明できるようにすること。
授業方法と留意点	毎回、プリントを配布し、それを元に授業を進める。更に、ビジュアル化した映像資料を映写し、理解を深めていく。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球大気の構造と特徴	地球大気の組成や階層構造別 (対流圏、成層圏、中間圏、熱圏) の特性について講義する。	事前に対流圏、成層圏、中間圏、熱圏の言葉の意味と内容を確認すること。事後には、それぞれの圏域の特性を再確認すること。
2	放射収支と熱収支	地球表面や農耕地における太陽光の放射収支、熱収支について講義する。	事前に短波放射、長波放射、日射量、純放射量などの用語について調べておくこと。事後には、地表面熱収支の内訳 (各成分の収支) について確認しておくこと。
3	大気の大気水平方向の動き	対流圏における気流 (風) の特性について講義する。	事前にコリオリ力 (偏向力) について調べておくこと。事後には、地上で生じる風にかかる各種力の内容について確認すること。
4	大気の大気動きの特徴 (1) : 大気大循環	大気によるエネルギー輸送、海流によるエネルギー輸送、大気大循環の構造と特性について講義する。	事前に地球上の海流の種類と特性について調べておくこと。事後には、大気大循環のメカニズムについて確認すること。
5	大気の大気動きの特徴 (2) : 低気圧と高気圧	低気圧および高気圧の発生過程と特性について講義する。	事前に温帯低気圧と熱帯低気圧について、一般的な特性を調べておくこと。事後には、日本列島付近での低気圧、高気圧の挙動と季節変化について確認しておくこと。
6	大気の大気鉛直方向の動き (1) : 温位と乾燥断熱減率	積乱雲の発生過程を追いながら、大気の温位と乾燥断熱減率の特徴等について講義する。	事前に大気の乾燥断熱減率、湿潤断熱減率について調べておくこと。事後には、乾燥断熱減率、湿潤断熱減率を用いて、積乱雲の発達過程を説明できるように確認しておくこと。
7	大気の大気鉛直方向の動き (2) : 大気の大気安定度と湿度	大気の湿り具合と雲の発生、雹や雷の発生等について講義する。	事前に相対湿度と絶対湿度の違いについて調べておくこと。事後には、容積絶対湿度のグラフを用いて、結露や雲の成因について十分に説明できるように、内容を確認しておくこと。
8	気候と植物 (1) : 気候区分	ケッペンの気候区分を題材に、気候と植物との関わりについて講義する。	事前にケッペンの気候区分について調べておくこと。事後には、日本の気候区分と植生について確認しておくこと。
9	気候と植物 (2) : 植物分布	地球上の植物分布と気候との関わり、過去の気候変動が現在の植物分布に及ぼす影響などについて講義する。	事前に熱帯、温帯、亜寒帯、寒帯の植物について調べておくこと。事後には、各気象帯の植生の特性について確認すること。
10	気候環境と植物の成育	植物の生育に影響を及ぼす気候因子について講義する。	事前に気温、日射、風が植物生育に与える影響について調べておくこと。事後には、各気象要素が植物生育に与える影響と、その原理について確認すること。
11	気候の栽培への応用	気候を利用した作物栽培、暖地農業と寒冷地農業などの実例を通じて、気候と農業生産の関連性について講義する。	事前に暖地農業と寒冷地農業について調べておくこと。事後には、作物の温度条件への適合性について確認すること。
12	農業気象災害とその防止	農業栽培における風害、凍霜害、冷害等について、その実態と発生原理について講義する。	事前に風害、凍霜害、冷害の意味について調べておくこと。事後には、イネの冷害対策の具体事例について確認すること。
13	施設栽培の気象環境管理	ビニールハウスやガラス温室などの栽培施設内の気象環境の特徴と、その制御技術について講義する。	事前にビニールハウスとガラス温室の一般的な特性について調べておくこと。事後には、素材別の光透過率等について確認すること。
14	都市気象と都市農業	都市気象の特徴、成因、対策等について講義する。また、それが都市農業に与える影響を解説し、実際の都市農業の事例紹介を行う。	事前に都市気象の一般的な特徴について調べておくこと。事後には、都市気象が人間や植物に与える影響について確認すること。
15	健康と気象、まとめ	熱中症や寒冷害など、人間の健康に及ぼす気象の影響について講義し、農作業時の疾病防止策を学ぶ。また、講義全体のまとめを行う。	事前に熱中症の原因と病症について調べておくこと。事後には、体感温度の各種指標について確認すること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい気候学	仁科淳司	古今書院
	2	作物の生育と環境	西尾道徳、他	農山漁村文化協会
	3			
評価方法 (基準)	授業期間中の3回のレポートを平均することを原則とした100点満点で成績を評価する。			
学生への メッセージ	前半7回目までは天気予報等に用いられる一般的な気象学に関する講義、後半は農業気象学を中心とした応用気象学の講義を行います。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	森林生態学	科目名 (英文)	Forest Ecology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 弘明
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3006a0		

授業概要・目的	森林は世界の陸地の30%を占め、日本の国土の67%を覆う重要な陸域生態系です。森林は木材や紙など私たちにとって重要な資源を提供するとともに、水源涵養、土砂災害の防止などといった生活の基礎となる生態系機能を担っています。この講義では、森林生態系の植生およびその動態、構造と機能、保全と管理について学び、生物学、社会・経済学、環境科学の視点から森林について考えます。
到達目標	(1) 日本および世界の森林植生に関する基礎知識を学び、森林生態系の機能や物質循環について理解する (2) 森林と人間社会の関係について知ることで自然環境との関わり方を再考する (3) 森林を含む自然資源の循環利用型社会の構築に積極的に取り組む社会作りの一端を担える人材となる
授業方法と留意点	この授業では、講義を聞いているだけでは単位は得られません。講義・討論への積極的な参加（挙手、発言を記録します）および宿題・研究課題の提出が求められます。課題・宿題をするにあたっては教科書が必要ですので、必ず購入してください。毎回の授業の最初に確認テストを行います。問題は教科書（持込可）から出題します。演習および確認テストはPCを用いて行いますので、パソコンを持参してください
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	教科書・研究の紹介	復習：感想・考察を記入すること
2	炭素貯金のすすめ：温暖化と森林生態系	代表的な気候帯と森林植生について学ぶ	復習：教科書「はじめに」を読む
3	いろいろな森：世界・日本の森林植生	表的な気候帯と森林植生について学ぶ。	復習：教科書 1.1, 1.2 節を読み、発展課題に取り組む
4	演習：WI の計算と温暖化予測	気象庁データベースを用いたデータ解析演習（パソコン必携）	宿題：教科書 1章 発展課題（1）
5	炭素は貯まる：森林生態系の一次生産	森林生態系の物質生産と炭素循環について学ぶ	復習：教科書 3.1 節を読み発展課題に回答すること
6	演習課題：カーボンプライシング	カーボンプライシングおよびオフセットについて調査し、討論会の準備をする	復習：引き続きカーボンプライシングについて調査する
7	グループ討論	炭素オフセットってあり？	予習：討論課題について下調べをし、自分の意見を形成して臨むこと 復習：討論会の感想と考察を記入すること
8	窒素はリサイクル：森林土壌と分解系	分解系と森林土壌の形成、窒素循環について学ぶ	復習：教科書 第4.2 節および5.2 節を読み発展課題に回答すること。
9	水は流れる：公益的機能と保安林	森林の生態系サービスおよび森林管理・政策について学ぶ。	復習：教科書 5.1 節を読み発展課題に回答すること
10	演習課題：水源林調査・森林環境税	自分の地域の水源林について、その管理方法や財源について調べる。森林管理の財源としての森林環境税制について調べる。	宿題：教科書 6.1 節を読み発展課題に回答する。討論会の準備をする
11	グループ討論：森林環境税	森林環境税の現状と課題について議論する	予習：討論課題について下調べをし、自分の意見を形成して臨むこと 復習：討論会の感想と考察を記入すること
12	森は変化する：森林群落の攪乱と遷移	森林生態系の構造と動態について学ぶ。	復習：教科書 2.2 節を読み発展課題に回答すること。
13	森は再生する：樹木の繁殖と森林の更新	樹木の繁殖戦略について学ぶ。	復習：教科書 2.3 節をよみ発展課題に回答すること
14	演習課題：マस्टィング	種子生産の豊凶データの解析。エクセルを用いた変動係数の計算演習（パソコン必携）	宿題：計算結果をまとめ考察を行う
15	総括・テスト	教科書の復習	事前学習：教科書を復習する

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	森林生態学	石井弘明	朝倉書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業参加度、授業態度、発言頻度）：40%、宿題：30%、小テスト：30%で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	地球温暖化、森林破壊が危惧される今だからこそ、森林生態系の仕組みについて理解することが重要です。教科書は講義、宿題およびテスト（持込み可）で使用しますので、必ず購入してください。この授業は受動的な講義ではありませんので、興味を持って楽しく受講し、積極的に発言するようにしてください。
担当者の研究室等備考	神戸大学農学部・応用植物学コース・森林資源学研究室

科目名	農業知的財産	科目名 (英文)	Agricultural Intellectual Property
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中世古 裕之、犬飼 一博
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3007a0		

授業概要・目的	農林水産業は、生活の根幹を支える重要な産業でありながら、これまで十分な知的財産に関する法的支援が図られていなかった。そこで、農林水産業における知的財産の重要性を認識し、知的財産制度を有効に活用するために、農林水産業と密接に関連する知的財産の基礎的知識や各種制度の在り方、農林水産業における知的財産制度の活用方法の修得を目的とする。具体的には、農林水産分野における知的財産法制の概観、種苗法に基づく品種登録制度の概要 (海外での新品種の保護制度を含む。)、農林水産品の「地域ブランド」保護制度である地域団体商標制度及び地理的表示制度の内容、農林水産業における品質誤認表示規制等の概要、水際措置等について修得する。
到達目標	日本の農林水産業の競争力の維持・向上を図ると共に、農作物の持続的・安定的な供給を図ることを目的として、農林水産業における知的財産の重要性を認識する。そのために、農林水産業において活用可能な知的財産制度を十分に理解し、農林水産業の現場において実践的に活用できる知識を習得した人材を育成することを本授業の目標とする。
授業方法と留意点	授業方法は下記の授業計画に従い、主にレジュメ等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。講義を中心とした授業形式とする。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農林水産業と知的財産権	農林水産業における知的財産権の重要性、知的財産制度全体の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
2	商標制度	商標制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
3	地域団体商標制度	地域団体商標制度の概要、登録要件、その効果について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
4	地理的表示保護制度	地理的表示制度の概要、地域団体商標制度との違い、海外における地理的表示保護の対策 (TRIPS協定、各国のGI制度) について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
5	品種登録制度	品種登録制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
6	品種登録制度の要件・効果及び海外での育成者権の保護	品種登録の要件・効果、UPOV条約の概要、海外での育成者権の保護等について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
7	品種登録制度における訴訟	品種登録が要件を欠く場合の対抗手段について (裁判例解説) (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
8	農林水産業と不正競争防止法 (品質誤認)	不正競争防止法における品質誤認表示規制 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
9	農林水産業と不正競争防止法 (表示保護)	不正競争防止法における表示保護、商品形態保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
10	農林水産業と不正競争防止法 (営業秘密)	不正競争防止法における営業秘密の保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
11	水際措置	知的財産侵害物品の水際取締制度 (税関での輸入差止) の概要 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
12	その他の知的財産制度の活用 (特許・実用新案)	農林水産業における特許・実用新案の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
13	その他の知的財産制度の活用 (意匠・著作)	農林水産業における意匠・著作の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
14	訴訟制度概要	農林水産業における各種訴訟制度全体の紹介 (裁判例解説)、それに対する弁護士役割 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
15	和牛遺伝資源関連2法	和牛の遺伝子情報の流通の適正化、遺伝資源の保護に関する家畜改良増殖法、家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律の概要 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 攻めの農林水産業のための知財戦略～食の日本ブランドの確立に向けて～	農水知財基本テキスト編集委員会	経済産業調査会
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 100%で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	

科目名	生物学	科目名 (英文)	Fundamentals of Biology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1008a0		

授業概要・目的	栄養学と食品学は、生物学の知識を基に構築されている。栄養学と食品学を学ぶうえでの必要最小限の有機化学の知識を学修した後に、生物学の中の人体に関係する部分を網羅的に学修する。最後に、環境と生態、生物多様性、進化の基礎についても学修する。具体的には、細胞の構造、酵素、生体内での代謝、体内でのたんぱく質の働き、遺伝、血液、主要臓器である肝臓と腎臓の働き、体内環境の維持機構、生体防御機構、神経系、環境と生態、生物多様性、進化についての基礎的知識を学修する。
到達目標	① 生体を構成する分子について説明できる。 ② 細胞の構造と各種細胞内小器官の基本的働きについて説明できる。 ③ 酵素の基本的特徴について説明できる。 ④ 生体エネルギーとは何かについて説明できる。 ⑤ 光合成と窒素固定と栄養とのかかわりについて説明ができる。 ⑥ 生体内におけるたんぱく質の基礎的働きについて説明できる。 ⑦ 遺伝現象と生殖、発生の基礎について説明できる。 ⑧ 血液、肝臓、腎臓の基本的な働きについて説明できる。 ⑨ 体内環境の維持の基礎について説明できる。 ⑩ 免疫機構の基礎について説明できる。 ⑪ 神経伝達の基礎について説明できる。 ⑫ 環境と生態、生物多様性、進化の基礎について説明できる。
授業方法と留意点	授業方法は下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	生体を構成する元素	生体を構成する主な元素と基本的な原子団	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
2	生体を構成する物質	生体を構成する主な元素と分子(水、たんぱく質、脂質、糖質、核酸、無機質)	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
3	細胞の構造	細胞の構造と各種細胞内小器官	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
4	酵素	酵素とは何か、酵素反応の特徴	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
5	代謝①	エネルギー産生	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
6	代謝②	光合成と窒素固定	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
7	さまざまな生命活動にかかわるタンパク質	たんぱく質の立体構造と機能、各種たんぱく質の働き	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
8	遺伝子①	DNAの構造、遺伝子とゲノム、DNAの複製	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
9	遺伝子②	遺伝情報の発現	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
10	人体の器官①	消化管、心臓と血管	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
11	人体の器官②	骨、筋肉、脳、神経	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
12	体液の恒常性	血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
13	体内環境の維持	自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する

	14	環境応答	神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節	(2時間) 事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
	15	生体防御	免疫	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
関連科目	全ての専門コア科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食と栄養を学ぶための生物学	堀田久子・池晶子・塚元葉子	化学同人
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	専門科目の基礎となる生物学の知識を整理して、苦手意識を無くしましょう。			
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 324			
備考				

科目名	生物学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Biology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF1009a0		

授業概要・目的	本演習では、「生物学」の講義と連動し、栄養学と食品学を学ぶうえで重要な、ヒトを中心とした生物学の演習問題に取り組み、基礎的理解を深めるとともに応用能力、問題解決能力を養う。また同時に生物学の基礎に関する様々な問いかけに触れることで、背景となる周辺知識を学び、健康や環境にまつわる種々の問題について自分なりの考えを構築し、生物現象に関する理解を深めることを目的とする。
到達目標	生物学の基礎知識を組み合わせて、演習で扱う応用問題に解答することができる。 生物学の応用問題を解く上で鍵となった考え方、根拠について説明できる。
授業方法と留意点	「生物学」の講義と連動して、毎回配布するプリントの問題を各自解く。授業時間の後半において、解説と質疑応答を行い、不明点を解消する。
科目学習の効果 (資格)	「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	生物学の基礎演習問題を解き、自分の理解度を把握する。生物学で学ぶポイントを整理する。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
2	生体を構成する物質	生体を構成する主な元素と分子 (水、タンパク質、脂質、糖質、核酸、無機質) に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
3	細胞の構造	細胞の構造と各種細胞内小器官に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
4	酵素	酵素とは何か、酵素反応の特徴に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
5	代謝①	エネルギー通貨 ATP、呼吸とエネルギー産生に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
6	代謝②	光合成と窒素固定に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
7	さまざまな生命活動にかかわるタンパク質	タンパク質の立体構造と機能、各種タンパク質の働きに関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
8	遺伝子①	DNA の構造、遺伝子とゲノム、DNA の複製に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
9	遺伝子②	遺伝情報の発現に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
10	生殖・発生	生殖、発生のしくみに関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
11	体液の恒常性	血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働きに関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
12	体内環境の維持	自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
13	生体防御	免疫に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
14	環境応答	神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
15	地球環境と生物多様性	環境と生態、生物多様性、進化に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する

関連科目	生物学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食と栄養を学ぶための生物学	堀田久子・池晶子・塚元葉子	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (40%) と定期試験 (60%) により総合的に評価する。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	生物学の知識を定着させるためには、問題演習が不可欠です。自分でしっかりと考え、分からないところは質問・復習をして、着実に進んでいきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 324
------------	--------------

科目名	化学	科目名 (英文)	Fundamentals of Chemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1010a0		

授業概要・目的	化学的知識・思考は、食品学、食品衛生学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確かなものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学」では、物質の成り立ちから、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項を学修し、専門課程・卒業研究における化学的な課題に対処する能力を問題演習を通じて身につける。
到達目標	① 元素の電子配置について周期表や問題を通して理解して説明することができる。 ② 化学結合について問題を通して理解して説明することができる。 ③ 水溶液の濃度、pHなどの計算問題を解くことができる。 ④ 酸化還元反応について酸化数の問題を通して理解して説明することができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類・結合と性質について問題を通して理解して説明できる。 ⑥ 糖、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸の種類、機能について化学構造から理解して説明できる。
授業方法と留意点	本講義は対面授業方式により、受講者が主体的に例題を解くことによって化学の基礎知識を身につける。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、教員が概説したのちそれに沿った問題を受講者各自で解く。その後、教師がパワーポイントを用いて解答のポイントを解説することを繰り返して内容の理解を深める。各講義後にはその講義の内容について Moodle を用いて小テストの課題とその授業の振り返りシートを期限内に提出する。その他、必要に応じてレポートや追加の問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	本講義で化学の問題を自ら解くことにより、受講者は化学の基礎知識や学ぶ方法を主体的に身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	原子の構造と性質	原子の構造、原子番号、質量数、放射能と放射線などについて問題を通して学ぶ。	事前：第1回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第1回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する。
2	原子の電子構造	原子の原子殻、軌道の形、電子配置などについて問題を通して学ぶ。	事前：第2回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第2回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
3	周期表と元素	電子配置と周期表、典型元素と遷移元素、周期性などについて問題を通して学ぶ。	事前：第3回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第3回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
4	化学結合と分子①	化学結合と電気陰性度、イオン結合、金属結合、共有結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：第4回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第4回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
5	化学結合と分子②	共有結合、配位結合、金属結合、分子結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：第5回化学で学習する内容小テスト及び、ふりかえりシートを、教科書で予習しておく。 事後：第5回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
6	物質の量と状態 ①	原子量と分子量、パーセント濃度、溶液の調製法、モルについて問題を通して学ぶ。	事前：第6回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第6回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
7	物質の量と状態 ②	モル濃度、当量濃度について問題を通して学ぶ。	事前：第7回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第7回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
8	物質の量と状態 ③	溶液の希釈について問題を通して学ぶ。	事前：第8回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第8回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
9	物質の量と状態 ④	モル、モル濃度復習、溶液の希釈復習、重量の量る桁数、有効数字について問題をを通して学ぶ	事前：第1回～第8回の授業、理解度確認テストを復習する。 事後：第9回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodleに提出する
10	酸塩基平衡	水のイオン積、酸塩基の水溶液の pH に	事前：第10回化学で学習する内容を、教科書で予

			ついて問題を通して学ぶ	習しておく。 事後：第 10 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
11	酸化還元反応		酸化と還元、酸化還元反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：第 11 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 11 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
12	有機化合物の構造、異性体と立体化学		有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物、異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などについて問題を通して学ぶ。 事後：第 10 章有機化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する	事前：第 12 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 12 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、提出する。
13	有機化学反応		化学反応とエネルギー、反応速度、酸化還元反応、置換反応、付加反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：第 13 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 13 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する。
14	糖類と脂質		単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて問題を通して学ぶ。	事前：第 14 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 14 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりシートを実施し、moodle に提出する。
15	アミノ酸とタンパク質、核酸—DNA と RNA—		アミノ酸、たんぱく質、核酸の構造、遺伝子と RNA の構造、遺伝子、RNA の機能などについて問題を通して学ぶ。	事前：第 15 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 15 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりシートを実施し、moodle に提出する。

関連科目 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コ・メディカル化学(改訂版)	齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二	裳華房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中の配布資料		
2			
3			

評価方法 (基準) 各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ この授業は自らが主体的に学ぶ科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して進んでいきましょう。

担当者の研究室等 枚方キャンパス農学部 教員室 320

備考

科目名	化学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Chemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF1011a0		

授業概要・目的	化学的知識・思考は、食品学、食品衛生学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学演習」では、同時期開講する「化学」にて講義した物質の成り立ち、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項について、問題演習を通じて完全に理解し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置について問題を通して説明することができる。 ③ 化学結合について問題を通して説明することができる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算問題を解くことができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質について問題を通して説明できる。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド方式により、受講者の主体的な演習を通して化学の基礎知識を身につける。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、教師が概説したのちそれに沿った演習問題を受講者各自で解く。その後、教師が解答のポイントを解説することを繰り返して内容の理解を深める。各講義後にはその講義の内容について Moodle を用いて小テストの課題とその授業の振り返りシートを期限内に提出する。その他、必要に応じてレポートや追加の演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	本講義で化学演習の演習を自ら解くことにより、受講者は化学の基礎知識や学ぶ方法を主体的に身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子の構造と性質	原子の構造、原子番号、質量数、放射能と放射線などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第1回の授業内容を予習しておく。 事後：第1回の小テストを行う。
2	原子の電子構造	原子の原子殻、軌道の形、電子配置などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第2回の授業内容を予習しておく。 事後：第2回の小テストを行う。
3	周期表と元素	電子配置と周期表、典型元素と遷移元素、周期性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第3回の授業内容を予習しておく。 事後：第3回の小テストを行う。
4	化学結合と分子①	化学結合と電気陰性度、イオン結合、金属結合、共有結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第4回の授業内容を予習しておく。 事後：第4回の小テストを行う。
5	化学結合と分子②	共有結合、配位結合、金属結合、分子結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第5回の授業内容を予習しておく。 事後：第5回の小テストを行う。
6	物質の量と状態 ①	原子量と分子量、パーセント濃度、溶液の調製法、モルについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第6回の授業内容を予習しておく。 事後：第6回の小テストを行う。
7	物質の量と状態 ②	モル濃度、当量濃度について問題を通して学ぶ。	事前：化学の第7回の授業内容を予習しておく。 事後：第7回の小テストを行う。
8	物質の量と状態 ③	溶液の希釈について問題を通して学ぶ。	事前：化学の第8回の授業内容を予習しておく。 事後：第8回の小テストを行う。
9	物質の量と状態 ④	モル、モル濃度復習、溶液の希釈復習、重量の量る桁数、有効数字について問題を通して学ぶ。	事前：化学の第9回の授業内容を予習しておく。 事後：第9回の小テストを行う。
10	酸塩基平衡	水のイオン積、酸塩基の水溶液の pH について問題を通して学ぶ。	事前：化学の第10回の授業内容を予習しておく。 事後：第10回の小テストを行う。
11	酸化還元反応	酸化と還元、酸化還元反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第11回の授業内容を予習しておく。 事後：第11回の小テストを行う。
12	有機化合物の構造、異性体と立体化学	有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物、異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第12回の授業内容を予習しておく。 事後：第12回の小テストを行う。
13	有機化学反応	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化還元反応、置換反応、付加反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第13回の授業内容を予習しておく。 事後：第13回の小テストを行う。
14	糖類と脂質	単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第14回の授業内容を予習しておく。 事後：第14回の小テストを行う。
15	アミノ酸とタンパク質、核酸 -DNA と RNA-	アミノ酸、たんぱく質、核酸の構造、遺伝子と RNA の構造、遺伝子、RNA の機能などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第15回の授業内容を予習しておく。 事後：第15回の小テストを行う。

関連科目 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関するプリントを配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コ・メディカル化学(改訂版)	齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二	裳華房
2				
3				

評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	この授業は自らが主体的に演習を解く科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して、進んで行きましょう。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320
備考	

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2012a0		

授業概要・目的
 公衆衛生学とは、社会の組織的な取り組みを通じて疾病を予防し、寿命を延ばし、健康を増進する科学および技術である。本講義では、健康を維持・向上させるための保健、医療、福祉、環境など公衆衛生全般について学修するなかで、健康および公衆衛生の概念や保健・医療・福祉の制度、健康増進や疾病予防の考え方や取り組み、健康・疾病に関わる各種統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、健康情報の利用と管理、処理などについて理解する。具体的には、健康や公衆衛生の概念と歴史、わが国の健康の現状と医療保険制度を学修したうえで、食品保健、生活習慣病対策、感染症対策と母子保健、老人保健、環境保健など多岐にわたる公衆衛生分野の理解を深め、公衆衛生における栄養の関わりとともに、疫学の方法や手法についても学修する。

- 到達目標**
- ① 公衆衛生学の概略を理解し、個人及び集団における健康と疾病、社会と環境、栄養との関係の重要性について説明できる。
 - ② わが国における保健、医療、福祉及び介護の諸制度の内容について説明できる。
 - ③ わが国の健康増進や疾病予防の現状と問題点を理解し、説明できる。
 - ④ 主な健康指標や健康情報を理解し、それらの情報の利用や処理、管理ができるようになる。
 - ⑤ 疫学の基礎を理解し、疫学的手法について説明できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義では、クラス内での議論などを通じて理解をより深める。また各講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生学序論	健康と公衆衛生の概念や歴史を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	保健統計と医療資源	各種保健統計 (人口統計、平均余命、有訴者率、受療率等) と医療に必要な資源を解説し、健康情報の利用方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療制度	医療制度と医療システムについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	地域医療制度	わが国の医療制度における国、地方自治体の役割を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	母子保健と学校保健	母子保健と学校保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	高齢者保健と介護保険	高齢者に対する医療制度と法律、介護保険について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	産業保健と食品保健	産業保健と食品保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	環境保健	環境衛生と環境保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	生活習慣と生活習慣病	身体活動や食事、喫煙、飲酒、ストレスなど各種生活習慣と生活習慣病とその予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	国際保健	世界の保健問題を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	感染症	感染症の定義、分類、各種法律 (感染症法、予防接種法等) を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	健康指標	健康に関する各種の指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	疫学	疫学の概念について解説し、健康情報の処理の手法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	疫学的手法	疫学研究における各種手法とスクリーニングについて解説し、健康情報の管理の手法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	EBM と疫学研究	疫学研究の倫理と EBM、EBM に基づいた対策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目
 健康管理概論、医療福祉論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向・最新版		厚生労働統計協会
2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村明ら	医療情報科学研究所	
3				

評価方法 (基準)
 講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
 公衆衛生学の全般を理解します。非常に広い範囲をカバーしますので大変ですが、頑張ってください。

担当者の研究室等
 農学部 8 号館 2F 教員室 (222)

備考

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2012a0		

授業概要・目的
 公衆衛生学とは、社会の組織的な取り組みを通じて疾病を予防し、寿命を延ばし、健康を増進する科学および技術である。本講義では、健康を維持・向上させるための保健、医療、福祉、環境など公衆衛生全般について学修するなかで、健康および公衆衛生の概念や保健・医療・福祉の制度、健康増進や疾病予防の考え方や取り組み、健康・疾病に関わる各種統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、健康情報の利用と管理、処理などについて理解する。具体的には、健康や公衆衛生の概念と歴史、わが国の健康の現状と医療保険制度を学修したうえで、食品保健、生活習慣病対策、感染症対策と母子保健、老人保健、環境保健など多岐にわたる公衆衛生分野の理解を深め、公衆衛生における栄養の関わりとともに、疫学の方法についても学修する。

到達目標
 ① 公衆衛生学の概略を理解し、個人及び集団における健康と疾病、社会と環境、栄養との関係の重要性について説明できる。
 ② わが国における保健、医療、福祉及び介護の諸制度の内容について説明できる。
 ③ わが国の健康増進や疾病予防の現状と問題点を理解し、説明できる。
 ④ 主な健康指標や健康情報を理解し、それらの情報の利用や処理、管理ができるようになる。
 ⑤ 疫学の基礎を理解し、疫学的手法について説明できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義では、クラス内での議論などを通じて理解をより深める。また各講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生学序論	健康と公衆衛生の概念や歴史を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	保健統計と医療資源	各種保健統計 (人口統計、平均余命、有訴者率、受療率等) と医療に必要な資源を解説し、健康情報の利用方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療制度	医療制度と医療システムについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	地域医療制度	わが国の医療制度における国、地方自治体の役割を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	母子保健と学校保健	母子保健と学校保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	高齢者保健と介護保険	高齢者に対する医療制度と法律、介護保険について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	産業保健と食品保健	産業保健と食品保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	環境保健	環境衛生と環境保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	生活習慣と生活習慣病	身体活動や食事、喫煙、飲酒、ストレスなど各種生活習慣と生活習慣病とその予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	国際保健	世界の保健問題を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	感染症	感染症の定義、分類、各種法律 (感染症法、予防接種法等) を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	健康指標	健康に関する各種の指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	疫学	疫学の概念について解説し、健康情報の処理の手法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	疫学的手法	疫学研究における各種手法とスクリーニングについて解説し、健康情報の管理の手法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	EBM と疫学研究	疫学研究の倫理と EBM、EBM に基づいた対策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目
 健康管理概論、医療福祉論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定しない		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向・最新版		厚生労働統計協会
2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村明ら	医療情報科学研究所
3			

評価方法 (基準)
 講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
 公衆衛生学の全般を理解します。非常に広い範囲をカバーしますので大変ですが、頑張ってください。

担当者の研究室等
 農学部 8 号館 2F 教員室 (222)

備考

科目名	健康管理概論	科目名 (英文)	Introduction to Health Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2013a0		

授業概要・目的	健康管理概論は、管理栄養士が地域、職域、学校などで公衆栄養実践活動を営むための基礎科学である。本授業では、公衆栄養活動を科学的根拠に基づいて行うことに対する理解を深めるための知識や考え方を身につけることを目的とする。また、管理栄養士として理解が必要な疾患、特に生活習慣病の病態などを含め講義する。具体的には、健康について概観した上で各種健康づくりと健診・検診について学修する。さらに食事や運動などの生活習慣と生活習慣病との関連性を解説する。
到達目標	① 健康の定義と健康づくりのあり方を理解し説明できる。 ② わが国における健康づくり政策について、実施主体別に説明できる。 ③ 疾病予防の観点で各種健診や検診について理解し、説明できる。 ④ 生活習慣病の発症機序や予防について理解を深め、説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康の概念	健康の定義と社会・環境と健康について概要を理解する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	主な健康指標	主要な健康指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	健康づくり政策	国レベル、地方レベルで施行されている各種健康づくり政策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	生活習慣病 (1) 高血圧性疾患	主要な生活習慣病のうち高血圧性疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	生活習慣病 (2) 脳血管疾患	主要な生活習慣病のうち脳血管疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	生活習慣病 (3) 心疾患	主要な生活習慣病のうち心疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	生活習慣病 (4) がん	主要な生活習慣病のうちがんの概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	がん対策とがん検診	各種がん対策と市町村や職域で実施しているがん検診について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	メタボリックシンドロームと健康	肥満やメタボリックシンドロームと健康について解説し、特定健康診査、特定保健指導について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	健康づくりと保険者	健康診断の実態と、健康管理における保険者の役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	健康づくりと産業保健	企業における健康づくりについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	歯科保健と健康	歯科保健の実態と健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	生活習慣と健康 (1) 食生活と身体活動	生活習慣のうち、食生活と身体活動が健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	生活習慣と健康 (2) 喫煙、飲酒、睡眠、ストレス	喫煙や飲酒、睡眠、ストレスが健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	予防	一次予防、二次予防、三次予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学、医療福祉論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学・最新版	鈴木庄晃	南江堂
	2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	健康づくりと生活習慣病を中心とした各種疾病、さらには食習慣など生活習慣について詳しく学びます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------------	-----------------------

科目名	健康管理概論	科目名 (英文)	Introduction to Health Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2013a0		

授業概要・目的	健康管理概論は、管理栄養士が地域、職域、学校などで公衆栄養実践活動を営むための基礎科学である。本授業では、公衆栄養活動を科学的根拠に基づいて行うことに対する理解を深めるための知識や考え方を身につけることを目的とする。また、管理栄養士として理解が必要な疾患、特に生活習慣病の病態などを含め講義する。具体的には、健康について概観した上で各種健康づくりと健診・検診について学修する。さらに食事や運動などの生活習慣と生活習慣病との関連性を解説する。
到達目標	① 健康の定義と健康づくりのあり方を理解し説明できる。 ② わが国における健康づくり政策について、実施主体別に説明できる。 ③ 疾病予防の観点で各種健診や検診について理解し、説明できる。 ④ 生活習慣病の発症機序や予防について理解を深め、説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	健康の概念	健康の定義と社会・環境と健康について概要を理解する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	主な健康指標	主要な健康指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	健康づくり政策	国レベル、地方レベルで施行されている各種健康づくり政策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	生活習慣病 (1) 高血圧性疾患	主要な生活習慣病のうち高血圧性疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	生活習慣病 (2) 脳血管疾患	主要な生活習慣病のうち脳血管疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	生活習慣病 (3) 心疾患	主要な生活習慣病のうち心疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	生活習慣病 (4) がん	主要な生活習慣病のうちがんの概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	がん対策とがん検診	各種がん対策と市町村や職域で実施しているがん検診について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	メタボリックシンドロームと健康	肥満やメタボリックシンドロームと健康について解説し、特定健康診査、特定保健指導について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	健康づくりと保険者	健康診断の実態と、健康管理における保険者の役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	健康づくりと産業保健	企業における健康づくりについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	歯科保健と健康	歯科保健の実態と健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	生活習慣と健康 (1) 食生活と身体活動	生活習慣のうち、食生活と身体活動が健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	生活習慣と健康 (2) 喫煙、飲酒、睡眠、ストレス	喫煙や飲酒、睡眠、ストレスが健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	予防	一次予防、二次予防、三次予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学、医療福祉論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学・最新版	鈴木庄晃	南江堂
	2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	健康づくりと生活習慣病を中心とした各種疾病、さらには食習慣など生活習慣について詳しく学びます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------------	-----------------------

科目名	医療福祉論	科目名 (英文)	Health and Welfare
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF3014a0		

授業概要・目的	本講義は、わが国における医療福祉の現状と課題を理解することを目的とする。具体的には、医療福祉にかかる各種制度を理解した上で、その実態と課題について学修する。また、医療福祉サービスの提供主体や関係する専門職について理解するほか、諸外国の医療福祉の実態についても学修し、わが国の医療福祉の特徴と課題を説明できるように講義する。医療福祉の関係法令も踏まえながら、医療福祉施策がどのような目的で立案され、実施されているのかについても理解する。特に、管理栄養士・栄養士に関係する医療福祉制度について理解できるように、具体的事例等も提示しながら講義する。
到達目標	① 医療福祉の概念について理解し説明できる。 ② わが国における各種の医療福祉制度について理解する。 ③ 健康保険制度や各種医療福祉サービスについて体系的に理解し、説明できる。 ④ 欧米の医療福祉の実態について理解する。
授業方法と留意点	授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	現代社会と福祉	現代社会における医療福祉制度の意味や概念について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	2	医療福祉の法制度の変遷	歴史と社会的背景を踏まえ、医療福祉の法制度の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	3	医療福祉活動を推進する行政機能	わが国の医療福祉活動を推進する行政の仕組みと機能について、国と地方の機能について、具体例を交えて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	4	社会保障制度と医療保険制度	わが国の社会保障制度と医療保険制度について、諸外国の制度との比較も含め、その歴史の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	5	医療保険制度の仕組みと機能	医療保険制度の具体的な仕組みと機能 (保険者、被保険者、保険料、給付、保険外併用療養、傷病手当、出産育児一時金等) について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	6	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と医療福祉との関係性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	7	地域における健康増進	地域住民の健康増進のための様々な取り組みと具体的な施策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	8	医療ソーシャルワークの役割と機能	医療ソーシャルワークの概念、業務、機能、役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	9	高齢者への支援と制度	高齢者の生活実態を理解し、高齢者への支援について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	10	障害者福祉の理念	身体障害・知的障害・精神障害・発達障害など各種障害の定義とその特性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	11	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて、その概要と具体的な構造について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	12	在宅福祉サービスの制度	在宅福祉サービスのあり方から保健・医療・福祉の連携について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	13	健康危機管理	自然災害、感染症、食中毒等の健康危機管理とその対応について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	14	医療福祉制度の各国比較 (1) 英国と米国	諸外国の医療福祉制度の実態について、英国と米国について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	15	医療福祉制度の各国比較 (2) 北欧	諸外国の医療福祉制度の実態について、北欧について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学 健康管理概論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会福祉 (新・基礎からの社会福祉)	室田保夫、倉持史朗、蜂谷俊隆	ミネルヴァ書房
	2	国民の福祉と介護の動向・最新刊		厚生労働統計協会
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	医療・福祉全般について、特に医療・社会福祉の視点から理解します。
-----------	----------------------------------

担当者の	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------	-----------------------

研究室等	
備考	

科目名	医療福祉論	科目名 (英文)	Health and Welfare
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF3014a0		

授業概要・目的	本講義は、わが国における医療福祉の現状と課題を理解することを目的とする。具体的には、医療福祉にかかる各種制度を理解した上で、その実態と課題について学修する。また、医療福祉サービスの提供主体や関係する専門職について理解するほか、諸外国の医療福祉の実態についても学修し、わが国の医療福祉の特徴と課題を説明できるように講義する。医療福祉の関係法令も踏まえながら、医療福祉施策がどのような目的で立案され、実施されているかについても理解する。特に、管理栄養士・栄養士に関係する医療福祉制度について理解できるよう、具体的事例等も提示しながら講義する。
到達目標	① 医療福祉の概念について理解し説明できる。 ② わが国における各種の医療福祉制度について理解する。 ③ 健康保険制度や各種医療福祉サービスについて体系的に理解し、説明できる。 ④ 欧米の医療福祉の実態について理解する。
授業方法と留意点	授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	現代社会における医療福祉制度の意味や概念について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	医療福祉の法制度の変遷	歴史と社会的背景を踏まえ、医療福祉の法制度の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療福祉活動を推進する行政機能	わが国の医療福祉活動を推進する行政の仕組みと機能について、国と地方の機能について、具体例を交えて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	社会保障制度と医療保険制度	わが国の社会保障制度と医療保険制度について、諸外国の制度との比較も含め、その歴史の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	医療保険制度の仕組みと機能	医療保険制度の具体的な仕組みと機能 (保険者、被保険者、保険料、給付、保険外併用療養、傷病手当、出産育児一時金等) について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と医療福祉との関係性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	地域における健康増進	地域住民の健康増進のための様々な取り組みと具体的な施策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	医療ソーシャルワークの役割と機能	医療ソーシャルワークの概念、業務、機能、役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	高齢者への支援と制度	高齢者の生活実態を理解し、高齢者への支援について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	障害者福祉の理念	身体障害・知的障害・精神障害・発達障害など各種障害の定義とその特性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて、その概要と具体的な構造について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	在宅福祉サービスの制度	在宅福祉サービスのあり方から保健・医療・福祉の連携について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	健康危機管理	自然災害、感染症、食中毒等の健康危機管理とその対応について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	医療福祉制度の各国比較 (1) 英国と米国	諸外国の医療福祉制度の実態について、英国と米国について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	医療福祉制度の各国比較 (2) 北欧	諸外国の医療福祉制度の実態について、北欧について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学 健康管理概論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会福祉 (新・基礎からの社会福祉)	室田保夫、倉持史朗、蜂谷俊隆	ミネルヴァ書房
	2	国民の福祉と介護の動向・最新刊		厚生労働統計協会
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	医療・福祉全般について、特に医療・社会福祉の視点から理解します。
-----------	----------------------------------

担当者の	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------	-----------------------

研究室等	
備考	

科目名	解剖生理学	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③, DP4④		
科目ナンバリング	OAF1015a0		

授業概要・目的	本講義では、生体の構造（解剖学）および機能（生理学）を学修し、人体の精密かつ複雑な構造と機能の基本を、細胞、組織、臓器・器官、器官系及び個体のレベルで理解することを目的とする。個体の発生・成長・老化の過程や、臓器・器官の協調による生体の調節について理解を深め、生体の恒常性を維持する機構を学修する。授業担当者は大学病院および地域の基幹教育病院において内科診療に従事し、学生および臨床研修医の指導を行ってきた経験を有する。本講では栄養学を学ぶ基礎となる生命の仕組みを理解する能力を養うとともに、診療の現場に役立ち、管理栄養士国家試験にも対応できる、実践的な知識を修得することを目標としている。
到達目標	① 人体を構成する臓器・器官について列挙でき、その位置や構造や機能を説明できる。 ② 臓器・器官を構成する特徴的な組織・主な細胞の機能について説明できる。 ③ 細胞の基本構造と、それを構成する細胞内小器官について説明できる。 ④ 生体内情報伝達システム、細胞間情報伝達システムについて説明できる。 ⑤ 体内環境の恒常性維持機構（体液組成・血圧・呼吸・体温など）について説明できる。 ⑥ 生体防御機構について説明できる。 ⑦ 栄養素の消化吸収について説明できる。 ⑧ 人体に関する基礎知識を今後学修する栄養学、薬理学、臨床病態学等に活用できるよう修得する。
授業方法と留意点	対面方式の講義に、適宜 DVD など動画の供覧を加えた授業を実施する。事前に ICT ツール (Teams) を用いて、授業内容のパワーポイント (PPT) の主要な部分を事前に PDF データで提供する。授業時間には左記 PDF を印刷して資料として配布する。授業後は配布資料および教科書の該当部分を参照しながら復習し、ICT ツール (Moodle) を用いて出題した「まとめの小テスト」に所定の期限内に解答する。小テストの結果は期末成績に反映される。並行して関連した内容で実施する「解剖生理学実習」で知識の定着化を図る。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の出題基準項目「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に該当し、解剖生理学の系統的な知識と、これを基にした主要な疾患と病態に関する理解は、管理栄養士の資格取得に必須である。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 解剖生理学 (基礎医学) を学ぶための心得 細胞と組織	授業のすすめ方、 ICT ツールの使用法と注意点 評価の方法 細胞と組織の構造と機能	事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
2	骨格系・筋肉系	骨・筋肉の構造と機能 肉眼所見 (骨格模型・人体模型) と組織所見の対応	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
3	消化器系 1 消化管	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
4	消化器系 2 肝胆膵	肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
5	循環器系	心臓、主な動脈・静脈、リンパ系の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
6	呼吸器系	鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
7	泌尿器系 生殖器系・発生	腎臓・尿路系の構造と機能 女性生殖器・男性生殖器の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
8	《オンデマンド授業》 臨床医学入門 1	解剖生理学からみた「肥満」	事後学習：課題および感想文	
9	《オンデマンド授業》 臨床医学入門 2	解剖生理学からみた「がん」	事後学習：課題および感想文	
10	内分泌系	視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵臓 (内分泌) の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
11	中枢神経系 1	大脳、間脳、脳幹、小脳の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
12	中枢神経系 2 末梢神経 1	脊髄の構造と機能 脊髄神経・脳神経の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
13	末梢神経 2	自律神経系の構造と機能 神経伝達の仕組み	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
14	神経感覚器系 皮膚感覚器系	平衡聴覚器、視覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料 (PDF) および教科書で授業内容	

			温痛覚器・皮膚の構造と機能	の復習 Moodle まとめの小テスト																
	15	血液・造血器系 生体防御系	血球と血漿、脾臓・骨髄の構造と機能 免疫・アレルギー、生体防御機構	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容 の復習 Moodle まとめの小テスト																
関連科目	解剖生理学実習（前期） 臨床医学概論（後期） 臨床病態学（2年次前期）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体の構造と機能：解剖生理学</td> <td>荒木英爾、藤田守 他</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田守 他	建帛社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田守 他	建帛社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学</td> <td>志村二三夫、岡 純、山田和彦</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>健康・栄養科学シリーズ 臨床医学</td> <td>羽生大記/河手久弥</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社	2	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学	羽生大記/河手久弥	南江堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社																	
2	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学	羽生大記/河手久弥	南江堂																	
3																				
評価方法 (基準)	講義の学習確認、実習で修得した内容も含めた、まとめの小テストや課題を授業終了時に出题する。小テスト・課題は指定期間内に ICT ツール(Moodle)で解答する。小テストと課題(評価割合40%)、および期末試験(評価割合60%)により、合計60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	管理栄養士をめざす皆さんが、是非とも知っておくべき医学の基礎知識を興味をもって学んでもらいたいと思います。																			
担当者の 研究室等	臨床医学研究室 (224)																			
備考																				

科目名	臨床医学概論	科目名 (英文)	Introduction to Clinical Medicine
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF1016a0		

授業概要・目的	本講義では、管理栄養士として働くために必要な臨床医学の基礎知識を修得することを目的とする。1年次前期「解剖生理学」で学修した人体の構造と機能に関する知識を基に、疾患や病態について理解し、生体制御機構と疾患の関連、診断と治療の基本的な考え方を修得する。問診、症候から病歴聴取、臨床検査など疾患診断に至るプロセスを学ぶとともに、医療に従事する者としての基本的な心得として、診療情報の取り扱い、医の倫理や医療安全についても学修する。授業担当者は、総合内科専門医、内分泌代謝科専門医としての診療経験と、学生実習や臨床研修医の指導経験を有しており、臨床医の視点で、管理栄養士に求められる臨床医学に関する実践的な知識を修得することを目的としている。
到達目標	① 主要な症候から診断に至る過程を説明できる。 ② 主要な疾患の検査・診断及び治療法について説明できる。 ③ 診療録（カルテ）の意義や記載方法について説明できる。 ④ 医療倫理や医療安全の実態について理解する。
授業方法と留意点	対面方式の講義に、適宜DVDなど動画の供覧を加えた授業を実施する。授業前の予習用にICTツール（Teams）を用いて、授業内容のパワーポイント（PPT）の主要な部分を事前にPDFデータで提供する。授業時間には左記PDFを印刷して資料として配布する。授業後は配布資料および教科書の該当部分を参照しながら復習し、ICTツール（Moodle）を用いて出題した「まとめの小テスト」に所定の期限内に解答する。小テストの結果は期末成績に反映される。授業内容によって、別途、課題の提出を求める。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に該当し、主要な疾患と病態に関する知識は資格取得に必須である。管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 病気とは何か	授業のすすめ方 病気と疾患、疾患の種類、遺伝背景や環境因子との関連を学ぶ	事後学習：配布資料(PDF)、教科書の該当項目復習 Moodle まとめ的小テスト
2	症候と診察法	症状、症候についての問診（医療面接）から、視診、聴診、打診、神経診察など一連の診察法について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
3	臨床検査の意義	血液、尿、生化学検査、胸部X線、CT・MRI検査など画像診断、心電図など生理検査の意義と特殊検査の適応、鑑別診断について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
4	診療録の記載	診療録（カルテ）記載における基本的事項、個人情報の保護や診療情報の共有など留意すべき点を学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
5	神経系と生体制御	中枢神経、末梢神経、自律神経による生体制御システムと病態について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
6	内分泌と生体制御	内分泌系の生体調節、フィードバック機構と病態について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
7	免疫系と生体制御	免疫系のネットワークによる生体制御と病態について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
8	循環器系	循環動態を評価する検査法と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
9	消化器系	消化器系の機能検査、画像診断と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
10	呼吸器系	呼吸機能検査と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
11	腎・泌尿器系	腎機能の評価法と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
12	血液系	血液疾患の検査と病態について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
13	医の倫理	医療における倫理上の課題について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 課題提出
14	終末期医療と緩和ケア	終末期医療、アドバンスケアプランニング、緩和ケアの実践について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 課題提出

	15	医療安全	医療事故、インシデント報告、院内感染対策など、医療現場における安全管理体制について学ぶ	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 課題提出
関連科目	解剖生理学（前期） 解剖生理学実習（前期） 臨床病態学（2年次前期）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヴィジュアル栄養学テキスト 疾病の成り立ち	田中清	中山書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学	羽生大記/河手久弥	中山書店
	2	疾病の成り立ち：臨床医学 第4版	田中明/加藤昌彦	建帛社
	3			
評価方法 （基準）	学期末に、国家試験の出題形式に準じて期末試験を実施する。授業毎の小テストあるいは課題（評価割合40%）と学期末試験成績（評価割合60%）により、合計60%以上をもって合格の基準とする。			
学生への メッセージ	前期の「解剖生理学」で修得した基礎知識を基に、実際に病気の診断に至る過程を勉強します。			
担当者の 研究室等	臨床医学研究室			
備考				

科目名	生化学	科目名 (英文)	Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1017a0		

授業概要・目的
 生化学では、三大栄養素の糖質・脂質・タンパク質（アミノ酸）からどのようにエネルギーが生まれるのか、酵素はどのような働きをするのかを学びます。具体的には、細胞の構造と機能、遺伝子の発現、酵素反応の特徴、生体エネルギー論、糖質・脂質・タンパク質（アミノ酸）・核酸の構造・機能・代謝について学びます。
 国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応します。

到達目標
 ① 生体分子の構造的特徴についての基礎的事項が説明できる。
 ② 生体エネルギーについての基礎的事項が説明できる。
 ③ 糖質・脂質・たんぱく質（アミノ酸）・核酸の代謝とその関係性について説明できる。
 ④ 遺伝情報の発現についての基礎的事項が説明できる。
 ⑤ 酵素反応の基礎的事項が説明できる。

授業方法と留意点
 PowerPoint を用いて解説します。授業で使用した PowerPoint ファイルを PDF に変換して Teams 等にアップロードし、履修生が閲覧できるようにします。
 授業中に小テストを実施します。
 大学ノート（もしくはルーズリーフ）、ボールペン（もしくはサインペン）を持参してください。

科目学習の効果（資格）
 生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質・体内での機能・代謝に関する基礎知識が身に付きます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取得する上で、重要な基礎知識です。
 管理栄養士国家試験受験資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞の構造と機能 遺伝子発現	細胞の基本構造、生体膜 RNA・タンパク質の合成	教科書・配布資料の予習・復習
2	酵素①	酵素の特徴	教科書・配布資料の予習・復習
3	酵素②	酵素反応の速度論	教科書・配布資料の予習・復習
4	生体エネルギー	異化と同化、ATP の合成と分解	教科書・配布資料の予習・復習
5	糖質の構造と機能	単糖類、少糖類、多糖類	教科書・配布資料の予習・復習
6	糖質代謝①	解糖系、クエン酸回路 (TCA 回路)	教科書・配布資料の予習・復習
7	糖質代謝②	電子伝達系、酸化的リン酸化、グリコーゲンの合成と分解	教科書・配布資料の予習・復習
8	糖質代謝③	糖新生、ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路 (ウロン酸経路)、血糖値の調節	教科書・配布資料の予習・復習
9	脂質の構造と機能	脂肪酸、単純脂質、複合脂質、誘導脂質	教科書・配布資料の予習・復習
10	脂質代謝①	脂肪酸・トリグリセリドの代謝	教科書・配布資料の予習・復習
11	脂質代謝②	コレステロール・ステロイドの代謝	教科書・配布資料の予習・復習
12	タンパク質・アミノ酸の構造と機能	タンパク質・アミノ酸の構造と機能	教科書・配布資料の予習・復習
13	タンパク質・アミノ酸代謝①	窒素・炭素骨格の代謝	教科書・配布資料の予習・復習
14	タンパク質・アミノ酸代謝②	アミノ酸由来の生体分子代謝の相互関係	教科書・配布資料の予習・復習
15	核酸の構造と機能 核酸の代謝	DNA、RNA プリン、ピリミジンの合成と分解	教科書・配布資料の予習・復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	健康・栄養科学シリーズ 生化学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	石堂一巳、福渡努	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これだけ！生化学 第2版	生化学若い研究者の会	秀和システム
2			
3			

評価方法（基準）
 授業中に小テストおよび講義課題を行います。
 小テスト（評価割合 30%）、講義課題（評価割合 10%）、期末テスト（評価割合 60%）で評価し、60%以上で合格とします。

学生へのメッセージ
 生化学は自分の体で起きていることを詳しく知るための科目です。自ら学ぶ姿勢を持って授業に臨んでください。

担当者の研究室等
 農学部 8 号館 3 階教員室 (322)

備考

科目名	微生物学	科目名 (英文)	Microbiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③, DP4④		
科目ナンバリング	OAF1018a0		

授業概要・目的	様々な微生物 (細菌、真菌、ウイルス、寄生虫など) のうち、主に食中毒や食品介在性感染症の原因となる病原微生物の構造・増殖機構・汚染源・伝播機構などの基本的知識並びにそれらによる感染症の病態や予防、免疫による生体防御機構に関する知識を得ることを目的とします。また、栄養管理上問題となる感染性疾患 (肝炎、腎障害など) の概略についても学修します。
到達目標	① 微生物の基本的な構造や性質、病原微生物の特徴を説明できる。 ② 代表的な感染症における微生物の作用や発症メカニズムを説明できる。 ③ 食品の微生物管理や食品を介した感染症を予防するための実践的知識を身に付ける。 ④ 免疫による生体防御機構の基礎的事項を説明できる。
授業方法と留意点	PowerPoint を用いて解説します。授業で使用した PowerPoint ファイルを PDF に変換して Teams 等にアップロードし、履修生が閲覧できるようにします。 大学ノート (もしくはルーズリーフ)、ボールペン (もしくはサインペン) を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野に該当し、資格取得に活かせます。 食品・飲料の品質や安全性に影響する微生物の特徴と、それらの防除について、人体と微生物の関わりや感染症について理解するために必要な基礎的知識を身につけることができます。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	微生物の基礎	微生物とは何か? 微生物の発見と微生物学の歴史	事前: 教科書の第1章を読む 事後: 講義内容と第1回小テストの理解
2	微生物の分類	微生物分類の基礎として、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫の違い	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第2回小テストの理解
3	微生物の取扱い	微生物の検出、分離、培養 (細菌の生理と代謝)	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第3回小テストの理解
4	微生物制御と衛生管理	有用微生物を適切に利用し、有害微生物による被害を防ぐ理論と技術 (滅菌・消毒)	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第4回小テストの理解
5	病原微生物	感染症や食中毒を引き起こす微生物 (感染)	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第5回小テストの理解
6	生体防御機構①	生体防御に関わる器官、細胞、分子	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第6回小テストの理解
7	生体防御機構②	自然免疫と獲得免疫	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第7回小テストの理解
8	感染症の治療	感染症の治療	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第8回小テストの理解
9	感染症の予防	感染症の予防	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第9回小テストの理解
10	細菌の特徴	細菌の構造、分類、増殖の仕組み	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第10回小テストの理解
11	代表的な病原性細菌	代表的な細菌感染症	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第11回小テストの理解
12	ウイルスの特徴	ウイルスの構造、分類、増殖の仕組み	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第12回小テストの理解
13	代表的な病原性ウイルス	代表的なウイルス感染症 (食品由来を含む)	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第13回小テストの理解
14	真菌、原虫、寄生虫の特徴	真菌、原虫、寄生虫の構造、分類、増殖の仕組み	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第14回小テストの理解
15	代表的な病原性真菌、原虫、寄生虫	代表的な真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症	事前: 教科書の指示範囲を読む 事後: 講義内容と第15回小テストの理解

関連科目	微生物学実験、食品衛生学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養系微生物学	藤原永年、岩田建	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストでわかる微生物学超入門 : 病原微生物の感染のしくみ 改訂3版	齋藤光正	南山堂
2	微生物学 (系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進)	南嶋洋一 他	医学書院	
3	薬学生のための微生物学と感染症の薬物治療学	増澤俊幸	羊土社	

評価方法 (基準)	授業中に小テストおよび講義課題を行います。 小テスト (評価割合 30%)、講義課題 (評価割合 10%)、期末テスト (評価割合 60%) で評価し、60%以上で合格とします。
-----------	--

学生へのメッセージ	微生物学は生活に密着した学問です。日々の暮らしのなかで微生物の存在を意識しながら学習すると、楽しく学べます。
-----------	--

担当者の研究室等	農学部 8号館 3F 教員室 (322)
----------	----------------------

備考	
----	--

科目名	分子生物学	科目名 (英文)	Molecular Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2019a0		

授業概要・目的	遺伝子発現と栄養の関係を理解するための基本的知識として、遺伝子の構造、DNAの塩基配列、複製と修復、リボ核酸 (RNA) の合成 (転写)、たんぱく質の合成 (翻訳) と翻訳後修飾、分解などの一連の遺伝子情報の流れとその調節機構を理解することを目的とする。具体的には、がんや生活習慣病を含む様々な疾患と遺伝子多型の関連や、遺伝子形質と栄養の相互作用を学修する。また、遺伝子組み換え技術の原理を理解し、臨床医学や創薬・バイオテクノロジー産業への応用に関する基本的知識を修得する。
到達目標	① 分子生物学についての基礎的知識を身につける。 ② 疾患と遺伝子、遺伝子と栄養の関わりについて理解する。 ③ 遺伝子組み換え技術について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に対応するべく、生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになる。また、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本事項を理解できるようになる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞とその構成成分	生命の基本単位である細胞とその構成成分について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
2	ゲノムの構造と遺伝子	生物の遺伝情報を支配しているゲノムとゲノムの中にある遺伝子の成り立ちについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
3	遺伝情報の発現①転写	DNA から mRNA へ情報が写し取られるメカニズムについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
4	遺伝情報の発現②翻訳	mRNA の情報に基づきたんぱく質が合成されるメカニズムについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
5	遺伝情報の複製	遺伝情報がどのように複製され、維持されるかについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
6	遺伝子組換え	遺伝子組み換え技術の原理と応用について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
7	たんぱく質の構造と機能	生命機能に不可欠な分子であるたんぱく質の構造と特性について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
8	細胞のシグナル伝達	細胞内外のシグナルが伝達されるしくみについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
9	細胞周期	細胞が増殖するしくみについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
10	受精と発生	受精と発生のしくみについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
11	がんと老化	がんが発生するしくみ、細胞や個体が老化するしくみについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
12	免疫と神経	免疫や神経をつかさどる細胞間コミュニケーションのしくみについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
13	疾患と遺伝子	多因子疾患としての生活習慣病について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
14	遺伝子と栄養の関わり	食事による遺伝子発現の変化、遺伝子多型と栄養について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する (2 時間)
15	分子生物学的技術とその応用	基礎的な研究手法と応用技術について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する (2 時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する

				(2 時間)
関連科目	微生物学、微生物学実験、生化学、生化学実験			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	分子栄養学	加藤久典、藤原葉子編	羊土社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	好きになる分子生物学 (KS 好きになるシリーズ)	萩原清文 著、多田富雄 監修	講談社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	基本的な遺伝子のメカニズムから疾病と遺伝子、栄養素との関係を学んで、個人の体質に応じた栄養管理のできる管理栄養士を目指しましょう。			
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 324			
備考				

科目名	臨床病態学	科目名 (英文)	Clinical Pathophysiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2020a0		

授業概要・目的	医療施設において、管理栄養士は疾患に応じた食事療法を立案し、患者および家族への栄養指導を行うとともに、病棟ではNST（栄養サポートチーム）の主要なスタッフとして重要な役割を担っている。本講義では、1年次に学修した解剖生理学および臨床医学概論の知識をもとに、管理栄養士の関わりが大きい疾患である、栄養障害と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、運動器疾患、悪性腫瘍に重点をおいて、主要な疾患の成り立ち、診断に至るプロセスと最新の治療法、栄養管理や食事療法の基礎について学修する。
到達目標	① 主要疾患の病因、病態（臓器・組織の変化）について説明できる。 ② 主要疾患の病因・病態に基づいた検査・診断及び治療についての知識を総合的に理解する。 ③ 栄養管理、食事療法等が重要となる疾患の病態と治療について説明できる。 ④ 対象となる疾患、病態の診療で用いられる専門用語や略語の意味を学修する。
授業方法と留意点	対面方式の講義に、適宜DVDなど動画の供覧を加えた授業を実施する。ICTツール（Teams）を用いて、授業内容のパワーポイント（PPT）の主要な部分を事前にPDFデータで提供する。授業時間には左記PDFを印刷して資料として配布する。授業後は配布資料および教科書の該当部分を参照しながら復習し、ICTツール（Moodle）を用いて出題した「まとめの小テスト」に所定の期限内に解答する。小テストの結果は期末成績に反映される。
科目学習の効果（資格）	1年次に学修した解剖生理学、臨床医概論を含めると、管理栄養士国家試験の出題基準に該当する項目や疾患について網羅している。1年次、2年次を通して、国試対策に必要な知識を得ることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養障害	授業方法のガイダンス 栄養素の欠乏、過剰 生体の維持と栄養との関連 加齢と老化	事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
2	肥満と代謝疾患	肥満、メタボリックシンドローム 脂質異常症 高尿酸血症、痛風 先天性代謝異常症	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
3	糖尿病1	糖尿病の病態と診断 糖尿病の成因 病型分類 糖尿病合併症	事事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
4	糖尿病2	糖尿病の治療 自己管理 血糖自己測定 食事療法、運動療法 経口糖尿病治療薬 注射薬（インスリン、インクレチン）	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
5	消化器疾患1	消化管疾患の診断と治療 胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍 食道がん 胃がん 大腸がん 炎症性腸疾患、腸閉塞、 たんぱく漏出性胃腸症	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
6	消化器疾患2	肝胆膵疾患の診断と治療 肝炎、肝硬変、肝臓がん、脂肪肝 胆石症、胆のう炎 急性膵炎、慢性膵炎、膵がん	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
7	循環器疾患	主な循環器疾患の診断と治療 虚血性心疾患 不整脈 肺栓塞 高血圧	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
8	内分泌疾患	主な内分泌疾患の診断と治療 下垂体疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 クッシング病・症候群	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
9	呼吸器疾患	主な呼吸器疾患の診断と治療 COPD、気管支喘息 肺がん、呼吸器感染症 呼吸リハビリテーション	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
10	神経疾患	認知症の診断と治療 パーキンソン病・症候群 嚥下機能障害 脳血管障害	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
11	腎・泌尿器系	腎不全の治療 糖尿病性腎症 CKD(慢性腎臓病) 血液透析、腹膜透析 前立腺癌	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
12	産婦人科疾患	妊娠と分娩 妊娠合併症の管理 妊娠高血圧 妊娠糖尿病 女性生殖器疾患：乳癌、子宮癌	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
13	感染症	主な感染症の診断と治療	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習

			細菌感染症 ウイルス感染症 真菌感染症 寄生虫・原虫疾患	事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめの小テスト	
	14	血液・免疫アレルギー	白血病の分類と治療 自己免疫疾患・膠原病の診断と治療 免疫不全 アレルギー疾患の分類と治療	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
	15	運動器疾患	運動器(筋骨格)系疾患 骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節症、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：配布資料(PDF)および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
関連科目	解剖生理学 解剖生理学実習 臨床医学概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ヴィジュアル栄養学テキスト 疾病の成り立ち		田中清	中山書店
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学		羽生大記/河手久弥	南江堂
	2	疾病の成り立ち：臨床医学 第4版		田中明/加藤昌彦	建帛社
	3				
評価方法 (基準)	まとめのテスト(評価割合30%)および期末試験(評価割合70%)で評価し、60%以上で合格とする。				
学生への メッセージ	臨床の現場で役立つ病気についての最新の知識を学びます。				
担当者の 研究室等	臨床医学研究室(224)				
備考	国家試験対策を念頭に、1年次の解剖生理学、臨床医学概論の内容も加味した、期末試験を実施する。				

科目名	運動生理学	科目名 (英文)	Exercise Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③, DP4④		
科目ナンバリング	OAF2021a0		

授業概要・目的	運動は、栄養・休養と共に健康づくりの3本柱として位置付けられている。現代社会は利便性の向上により、エネルギー摂取量と身体活動量のバランスを崩し、肥満症等生活習慣病を惹起する人が急増した。一方で、食事を極端に制限する人も存在、痩せ問題も深刻化している。そのような背景のなか、管理栄養士養成課程で学ぶ学生には、運動に関する正しい知識を得ることが求められる。本授業では、筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化など基礎的事項から、健康増進のための運動や疾患の予防・改善のための運動方法まで広範囲の知識を修得することを目的とする。
到達目標	① 身体活動の効果について理解し、説明できる。 ② 身体運動と食事の関連性について理解し、説明できる。 ③ 健康の維持・増進や疾患の予防・改善、さらにはスポーツパフォーマンス向上のための運動について理解し、説明できる。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義を進める。講義方法として、講義および課題・小テスト・レポート等を組み合わせて多角的に行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野、「応用栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養学と運動生理学とのかわり	ガイドランス。 食事と身体運動との関わりについて解説する。	事前：教科書 p14～18 を読んでおく。 事後：復習課題
2	骨格筋の構造と筋収縮	骨格筋の構造、筋線維の種類、筋収縮の仕組みについて解説する。	事前：教科書 p19～30 を読んでおく。 事後：復習課題
3	神経系の役割	神経系の基本構造と分類、運動神経による骨格筋制御の仕組みについて解説する。	事前：教科書 p32～44 を読んでおく。 事後：復習課題
4	運動と循環・呼吸	心臓の機能と血液循環の仕組み、肺や末梢組織におけるガス交換の仕組み、酸素摂取量・消費量の基本について復習する。	事前：教科書 p46～56 を読んでおく。 事後：復習課題
5	酸素摂取量と運動時のエネルギー代謝	身体活動に伴う酸素摂取・消費量の変化と運動トレーニングによる適応について解説する。	事前：教科書 p57～63 を読んでおく。 事後：復習課題
6	運動とエネルギー源	ATPの再合成と3つのエネルギー供給系について復習し、運動強度による応答の違いについて解説する。	事前：教科書 p66～84 を読んでおく。 事後：復習課題
7	エネルギー消費量	安静時および運動によるエネルギー消費とその推定方法について解説する。	事前：教科書 p86～99 を読んでおく。 事後：復習課題
8	身体組成・体格	身体の構成成分と分類、測定方法や測定式について解説する。	事前：教科書 p101～112 を読んでおく。 事後：復習課題
9	筋肉づくりとタンパク質	タンパク質の代謝について復習し、年齢や運動量に見合ったタンパク質摂取方法について解説する。	事前：教科書 p114～129 を読んでおく。 事後：復習課題
10	骨づくりと栄養素・身体活動	骨の構造・機能について復習し、運動が骨形成に及ぼす影響について解説する。	事前：教科書 p131～142 を読んでおく。 事後：復習課題
11	体温調節と水分補給	熱産生と放散による体温調節、暑熱・寒冷順化や運動トレーニングによる変化について解説する。	事前：教科書 p144～152 を読んでおく。 事後：復習課題
12	加齢に伴う身体機能の変化	加齢に伴う身体機能の変化について復習し、運動の効果について解説する。	事前：教科書 p154～167 を読んでおく。 事後：復習課題
13	運動と健康	安全かつ効果的な運動支援の考え方、個人々に応じた至適運動強度の設定法について解説する。	事前：教科書 p169～187 を読んでおく。 事後：復習課題
14	身体活動と健康	身体活動が健康に及ぼす影響について解説する。「身体活動基準」「アクティブガイド」について解説する。	事前：教科書 p189～199 を読んでおく。 事後：復習課題
15	スポーツ選手の食事管理	スポーツ活動の目的に応じた食事の考え方、スポーツ貧血やスポーツ選手のコンディショニングに関わる栄養摂取について解説する。	事前：教科書 p201～214 を読んでおく。 事後：復習課題

関連科目 解剖生理学、解剖生理学実習、臨床医学概論、臨床病態学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	運動生理学	編著：麻見直美、川中健太郎	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	運動・スポーツ栄養学	編著：中村亜紀、ほか	講談社
2	解剖生理をおもしろく学ぶ	増田敦子	サイオ出版	
3				

評価方法 (基準)	定期試験 50% 小テスト 30%
-----------	----------------------

	レポート 20% 合計60点以上で単位認定する。
学生への メッセージ	本科目は、学生が主体的（当事者意識）で自律的に学ぶことを期待しています。 課題などは期限内に必ず提出してください。期限を遅れた提出は認めません（やむを得ない理由がある場合は、申し出てください）。
担当者の 研究室等	8号館3階 教員室323
備考	

科目名	薬理学	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2022a0		

授業概要・目的	近年、管理栄養士はチーム医療スタッフとして重要な役割を担っている。たとえば、栄養サポートチーム (NST: Nutrition Support Team) における栄養管理や生活習慣病などの栄養指導を進める上で、基本的な医薬品や薬物療法の理解は必要な知識のひとつである。「薬理学」では、医薬品の基本的な体内動態および薬効・薬理作用を解説し、主な疾病に対する薬物療法において使用する医薬品を概説し、臨床現場での実践に向けた管理栄養士に必要な薬物療法の基礎知識を身につける。 SDGs 3, 4
到達目標	① 薬物療法における管理栄養士の役割について概説できる。 ② 医薬品の作用する機構や体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について概説できる。 ③ 医薬品と食べ物との相互作用の例を挙げて説明できる。 ④ 自律神経系 (交感神経・副交感神経) に作用する医薬品を例あげて説明できる。 ⑤ 各種疾患に作用する医薬品について知識を身につける。
授業方法と留意点	本授業では受講者の主体的な学びを通して、専門科目に必要な薬理学の基礎知識を身につける。 事前学習: 受講者は Moodle にアクセスし、授業日に学習する内容の動画を配信しているので、事前に視聴し学習する。 授業の開始後、すぐに①理解度確認テスト I 行う。 ①理解度確認テスト I の実施 (講義前) 講義後、再度、moodle にアクセスして、理解度確認テスト II を行う。 ②理解度確認テスト II の実施 (講義後) なお、授業時間中に Moodle にアクセスして理解度確認テストを受験する際に、I
科目学習の効果 (資格)	食品衛生管理者及び食品衛生監視員 (任用資格) の資格取得に係る科目であり、管理栄養士に必要な医薬品の基礎知識を身につけることができる。また、管理栄養士国家試験、登録販売者試験等に出题される医薬品の知識も修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	薬理学の基礎	薬物の歴史、関係法規、受容体および薬物の吸収・代謝、食品との薬物の相互作用などを学ぶ。 ①理解度確認テスト I の実施 (講義前) 講義前に、Moodle にアクセスし理解度確認テスト I を行う。 ②理解度確認テスト II の実施 (講義後) 事後学習については、moodle にアクセスして、期日までに第 1 回薬理学の講義内容の復習と第 1 回薬理学ふりかえりレポートの作成および小テストを行う。	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 1 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 1 回薬理学の講義内容の復習とその薬理学ふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
2	交感神経作用薬・遮断薬	自律神経系の概説とアドレナリン受容体、交感神経作用薬および遮断薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 2 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 2 回薬理学の授業講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
3	副交感神経作用薬・遮断薬、	アセチルコリン受容体、副交感神経作動薬・コリンエステラーゼ阻害薬、抗コリン薬、筋弛緩薬、自律神経節遮断薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 3 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 3 回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
4	炎症に関する薬 I	オータコイドの理解、アラキドンカスケード、非ステロイド性抗炎症薬、および抗ヒスタミン薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 4 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 4 回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
5	炎症に関する薬 II	ステロイド性抗炎症薬および抗アレルギー薬	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 5 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 5 回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポートを作成及び小テストを行う。
6	循環器系に作用する薬 I	高血圧とその治療薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公

			開している第6回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第6回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポートを作成及び小テストを行う。
7	循環器系に作用する薬Ⅱ	狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全などの虚血性心疾患の治療薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第7回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第7回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
8	中枢神経系に作用する薬物Ⅰ	全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、パーキンソン症候群治療薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第8回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第8回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
9	中枢神経系に作用する薬物Ⅱ	抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、麻薬性鎮痛薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第9回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第9回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
10	呼吸器・消化器系に作用する薬	鎮咳薬・気管支喘息、胃・十二指腸潰瘍治療薬、クローン病、潰瘍性大腸炎とそれらの治療薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第10回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第10回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート及び小テストを行う。
11	代謝・内分泌の異常による疾患に作用する薬Ⅰ	高尿酸血症、骨粗しょう症、甲状腺疾患とそれらの治療薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第11回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第11回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
12	代謝・内分泌の異常による疾患に作用する薬Ⅱ	生殖器・泌尿器系に作用する薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第12回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第12回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
13	抗感染症薬Ⅰ	β-ラクタム系、アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、クロラムフェニコール系などの抗生物質など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第13回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第13回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
14	抗感染症薬Ⅱ	合成化学療法薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬、性感染症治療薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第14回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日まで、第14回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
15	がん作用する薬	代謝拮抗剤、アルキル化剤、抗がん性抗生物質、微小管作用薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第15回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：事後：期日まで、第15回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テ

					トを行う。
関連科目	栄養薬理学、臨床栄養学、臨床医療演習、臨床医療実勢演習、セルフメディケーション演習、など				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学〔第4版〕	中嶋利勝編	医歯薬出版	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	薬理学テキスト	佐藤 進 編	廣川書店	
	2	栄養薬理学	田中芳明・中村 強編	建帛社	
	3				
評価方法 (基準)	各授業の理解度確認テストⅠ(10%)、理解度確認テストⅡ(10%)、ふりかえりレポートの提出(10%)、小テスト(10%) および期末テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。なお、取り組み状況(受講態度、各授業でのテスト受験、課題提出など)が不良の場合は減点する。				
学生への メッセージ	ICT ツールはスマートフォン、タブレット、ノート型パソコンなどを使用します。十分充電し、受講してください。				
担当者の 研究室等					
備考					

科目名	解剖生理学実習	科目名 (英文)	Practice in Anatomy and Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹・織田 奈央子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF1023a0		

授業概要・目的	本実習は、解剖学および生理学の基礎知識を学修し、人体の構造と機能について理解することとする。具体的には、人体模型標本・骨格標本、実験動物（ラット）の解剖を通して生体の器官・臓器の位置を知り、組織標本を光学顕微鏡で観察することで、組織の構造と特徴を細胞レベルで学修する。生理学実習では、実際に診療で用いられる機器を用いて検査手技を体験し、人体の生理機能、生命活動および環境変化に対する適応機構について理解を深める。 並行して開講する解剖生理学の講義内容と関連させることで、知識の定着化を図っていく。 授業担当者は、教育病院で内科診療に従事し、学生の臨床実習や研修医の教育・指導経験を有しており、実際の診療現場における解剖生理学の意義や重要性を示しながら、実践的な知識を修得することを目的としている。
到達目標	① 生体の構造について器官・組織・細胞レベルで説明でき、それらの生理機能を説明できる。 ② 生理機能検査の意義・原理・方法を説明でき、検査を実施できる。 ③ 人体に関する知識を栄養学、薬理学、臨床病態学の学修に活用できる。 ④ 主体的に実習に取り組み、得られた結果に対して客観的な分析と考察ができる。
授業方法と留意点	A, B 2つのグループで隔週に実施。実習内容により3～5名の小グループに分かれて課題に取り組む。1回目は1.5時間（135分）、2回目以降は3時間（270分）の実習を1日で実施し、1.5時間×15回分の授業内容を8日間で修了する。スケッチ等の課題は実習中に作成し、事後学習で完成して期限内に提出する。最終回に顕微鏡を用いた組織の観察、ラット解剖の肉眼所見および生理検査について口頭試問を実施する。 並行して同時期に開講する「解剖生理学」においては、実習内容に関連した順序で系統講義を行い、毎回「まとめの小テスト」
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験の出題基準項目「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に該当し、解剖生理学の系統的な知識と、これを基にした主要な疾患や病態に関する知識は、管理栄養士の資格取得に必須である。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 顕微鏡の使用法 人体模型①	実習のすすめ方 ICT ツールの使用法 顕微鏡を用いた組織の観察法 人体模型の分解と組み立て	事後学習：顕微鏡観察について教科書復習
2	肉眼解剖1 交連骨格模型 人体模型②	交連骨格模型の観察 関節のスケッチ 人体模型の観察 骨格筋のスケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料（PDF など）予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
3	組織学実習1 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 骨組織、筋組織 消化管：食道・胃・小腸・大腸	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
4	肉眼解剖2 脈管模型 臓器模型	心臓・血管系の臓器模型の観察・スケッチ 肝臓、腎臓の臓器模型の観察・スケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
5	組織学実習2 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 心臓・血管系 肝臓、膵臓、腎臓	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
6	肉眼解剖3 臓器模型 生理学実習1 バイタルサイン 呼吸機能検査	上気道、肺の模型 観察・スケッチ 聴診器、血圧計の使い方 バイタルサイン(1) パルスオキシメーター 呼吸機能検査（スパイロメーター）	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
7	組織学実習3 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 気管・気管支、肺 内分泌系（下垂体、甲状腺、副腎）	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
8	ラットの解剖1	解剖の手技に関する事前講義 小グループ毎にラット雄雌1対を解剖する。 消化管・肝臓・膵臓・脾臓の解剖：観察とスケッチ	事前学習：解剖の手順について予習 事後学習：スケッチ内容を含めたレポート作成
9	ラットの解剖2	心臓・呼吸器系の解剖：観察とスケッチ 腎泌尿器系・内分泌系・生殖器系の解剖：観察とスケッチ	第8回に統合
10	生理学実習2 身体所見 循環器系 血液系	身体測定、バイタルサイン(2) quick SOFA スコア 心電図検査（安静時・運動負荷後） ヘモグロビン簡易測定器	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習
11	生理学実習3 尿検査 生化学検査	尿検査：テストテープの使い方 尿比重計 唾液アミラーゼ測定	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習
12	肉眼解剖4 生理学実習4 生化学検査 神経系	口腔内スケッチ：手鏡使用 血糖測定：自己血糖測定器 SMBG 対光反射、マリオット盲点 腱反射、棒反応 皮膚感覚：触覚、冷覚	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習
13	肉眼解剖5 神経系 組織学実習4 顕微鏡	神経系臓器模型の観察・スケッチ 脳神経起始部 組織標本の観察・スケッチ 脊髄、小脳	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習

	14	試問：肉眼解剖、組織学実習	小グループ毎に顕微鏡標本の観察、ラット解剖時の肉眼写真等の試問に解答する。	事前学習：提出したスケッチ課題の見直し、教科書、配布資料（PDF）の復習 口頭試問準備																
	15	試問；生理学実習	小グループ毎に生理検査機器についての試問に解答する。	事前学習：第14回と統合 事後学習：口頭試問復習																
関連科目	解剖生理学（前期） 臨床医学概論（後期） 臨床病態学（2年次前期）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養科学シリーズ NEXT「解剖生理学実習」</td> <td>森田規之、河田光博、松田賢一</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養科学シリーズ NEXT「解剖生理学実習」	森田規之、河田光博、松田賢一	講談社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	栄養科学シリーズ NEXT「解剖生理学実習」	森田規之、河田光博、松田賢一	講談社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体の構造と機能：解剖生理学</td> <td>荒木英爾、藤田 守 他</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学</td> <td>志村二三夫、 岡 純、山田和彦</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田 守 他	建帛社	2	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、 岡 純、山田和彦	羊土社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田 守 他	建帛社																	
2	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、 岡 純、山田和彦	羊土社																	
3																				
評価方法（基準）	<p>実習態度： 評価割合 30% 肉眼・組織標本スケッチ、生理学実習データなどの提出課題： 評価割合 30%</p> <p>口頭試問成績： 評価割合 40% 合計 60%で合格とする。</p> <p>合格点に達しない場合には、追加課題（レポート等）が課せられる。</p>																			
学生へのメッセージ	自分の眼でみて、手を動かし、五感を働かせて、生きた解剖生理学の知識を修得してください。																			
担当者の研究室等備考	臨床医学研究室（224）																			

科目名	生化学実験	科目名 (英文)	Experiments in Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 直木, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1024a0		

授業概要・目的
生命現象を化学的に理解する学問が生化学です。本科目では実験に加えて、プレゼンテーションおよびディスカッションを行うことで生化学の理解を深めることを目的とします。具体的には、pHと緩衝液、糖質の性質、タンパク質の立体構造、DNAの性質、PCR、酵素反応への温度・pH・時間・酵素濃度・基質濃度・阻害剤の影響、酵素反応の速度論的解析について学修します。

- 到達目標**
- ① pHと緩衝液について説明できる。
 - ② 糖質の定性反応について説明できる。
 - ③ タンパク質の立体構造について説明できる。
 - ④ DNAの性質について説明できる。
 - ⑤ PCRについて説明できる。
 - ⑥ 酵素反応への温度・pH・時間・酵素濃度・基質濃度・阻害剤の影響について説明できる。
 - ⑦ 酵素反応の速度論的解析ができる。

授業方法と留意点
・下記の授業計画に従い、実験を実施します。
・1回あたり1.5コマ(135分授業)[3時間]×15回=計45時間の授業とします。

科目学習の効果(資格)
生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学の知識と結びつけることで、医療の現場で活用することができます。栄養士・管理栄養士の資格を取得する上で、重要な基礎科目です。管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)の取得に係る科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・実験の目的・内容、スケジュール、成績評価方法、諸注意 ・PCRの原理	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
2	DNAの分析①	口腔粘膜細胞からのDNA抽出	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
3	DNAの分析①	抽出DNAのアガロースゲル電気泳動	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
4	DNAの分析②	PCRによるALDH2遺伝子の増幅	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
5	DNAの分析②	増幅DNAのアガロースゲル電気泳動	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
6	糖質の性質 タンパク質の構造	αアミラーゼ活性度の測定 αアミラーゼ立体構造の観察	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
7	pHと緩衝液	pHの測定 緩衝液の調製	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
8	酵素反応①	酵素活性に対する温度の影響	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
9	酵素反応①	酵素活性に対するpHの影響	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
10	酵素反応②	酵素活性に対する時間の影響	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
11	酵素反応②	酵素活性に対する酵素・基質濃度の影響	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
12	酵素反応③	酵素活性に対する阻害剤の影響①	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
13	酵素反応③	酵素活性に対する阻害剤の影響②	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
14	まとめ	実験結果(酵素反応)のプレゼンテーション	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する
15	まとめ	実験結果(酵素反応)に対するディスカッション	教科書や配布した資料を事前・事後に学習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生化学実験	田代 操 編著	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法(基準)
実験に取り組む姿勢(ループリック評価・評価割合40%)とレポート課題(評価割合60%)で評価し、60%以上で合格とします。

学生へのメッセージ
「生化学実験」では、「生化学」の授業で学んだ内容をより深く理解することを目的とするとともに、生体成分の分析・解析の基本として、分光光度計による定量分析により、酵素活性を分析します。これらを通じて実験の原理を理解し、基本操作を身につけてください。またレポート作成を通して、科学データの基本的な書き方も身につけて下さい。教科書をよく読んで、予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。

担当者の研究室等
8号館3階教員室(322)

備考

科目名	微生物学実験	科目名 (英文)	Experiments in Microbiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 直木、日比 裕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF2025a0		

授業概要・目的	人体と微生物の相互作用について、「微生物学実験」を通して学習することを目的とします。具体的には、無菌操作や滅菌、消毒方法、微生物の培養、顕微鏡観察やグラム染色等による分類など基本手技を修得します。また、環境や人体からの微生物の分離同定、抗菌薬の感受性試験を通して、感染症の原因となる微生物と人体との関係についての正しい考え方、知識を身につけます。
到達目標	① 微生物を安全に取り扱うために必要な設備、機器、器具などの種類を理解し、使用方法を修得する。 ② 各細菌ごとの適した培養方法を理解し、分離、培養に必要な基本手技を身につける。 ③ 生物学的・生化学的性状に基づく微生物の同定法を理解し、その実験に必要な技術を修得する。 ④ 抗菌薬の微生物に対する効果を理解する。 ⑤ 微生物を安全に取り扱うための洗浄や消毒、殺菌に関する方法を理解し、正しく行う。
授業方法と留意点	・実験 (配布するプリント教材に沿って行います) ・1回あたり1.5コマ (135分授業) [3時間] ×15回=計45時間の授業とします。
科目学習の効果 (資格)	・管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野に該当し、資格取得に活かれます。 ・微生物の分離同定や検査を行うのに必要な無菌操作などの実験技術を身につけることができます。 ・食品の衛生管理において必要な消毒や殺菌についての正しい知識を身につけることができます。 ・管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微生物学実験の概要	実験の概要	事前：シラバスの理解
2	微生物学実験の基本操作	滅菌法、殺菌法、消毒法 無菌操作 培地の調製	事前：実験内容の確認
3	細菌汚染検査①	手指の洗浄法、消毒法 手指の細菌の検出	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
4	細菌汚染検査②	環境・食品中の細菌の分離と同定、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
5	ヒトの常在菌	皮膚・粘膜からの細菌の採取と培養	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
6	ヒトの常在菌	画線培養法による細菌の分離	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
7	ヒトの常在菌	黄色ブドウ球菌・表皮ブドウ球菌の同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
8	細菌の観察と同定① (生化学的性状試験)	TSI 試験による細菌の同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
9	細菌の観察と同定② (グラム染色)	光学顕微鏡による細菌の形態観察と同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
10	細菌の増殖	大腸菌の液体培養	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
11	細菌の増殖	増殖曲線の作成	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
12	細菌の増殖	平板希釈法による生菌数の測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
13	細菌と抗菌薬	ディスク法による薬剤感受性試験	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
14	細菌と抗菌薬	細菌に有効な抗菌薬の判定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ
15	微生物学実験の総括	実験の総括、振り返り	事後：実験結果のまとめ、レポート作成

関連科目 微生物学、食品衛生学、分子生物学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養系微生物学	藤原永年、岩田建	南江堂
2	微生物実験マニュアル (第2版)	安藤昭一編著	技報堂出版	
3				

評価方法 (基準) 実験に取り組む姿勢 (ルーブリック評価・40%) とレポート課題 (60%) で評価し、60%以上で合格とします。

学生へのメッセージ 目には見えない「微生物」は私たちの生活と深い関わりがあります。微生物に関する正しい知識と取り扱い方法を習得しましょう！

担当者の研究室等 農学部 8号館 3F 教員室 (322)

備考

科目名	食品学総論	科目名 (英文)	General Food Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1026a0		

授業概要・目的
 栄養管理を行う際に必要であり、健康に欠かせない食品の成分や性質を学び食品の役割・機能を理解することを目的とする。具体的には、食品の一次機能を担うたんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質など生命維持に必要な食品成分の化学構造・性質、物性等や栄養特性を理解する。また、色素成分、呈味成分、におい成分などおいしさを感じさせる二次機能、及び人の健康の維持・増進に関わる三次機能を有する特定保健用食品等の成分と作用について学修する。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。

- 到達目標**
- ① 食品の一次、二次及び三次機能について説明することができる。
 - ② アミノ酸・ペプチド、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。
 - ③ 食品中の色、味、におい成分の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。
 - ④ 特定保健用食品の成分と作用について説明することができる。
 - ⑤ 食品の主観的評価（官能評価）の方法について説明することができる。

授業方法と留意点
 講義形式

科目学習の効果（資格）
 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	人間と食品	食品学とは、食物の歴史の変遷、食物連鎖、食料と環境問題	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
2	食品の一次機能たんぱく質①	食品の機能分類、たんぱく質とは、アミノ酸の種類と構造	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
3	たんぱく質②	たんぱく質の種類、性質、たんぱく質の変性	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
4	炭水化物①	炭水化物の定義と分類、食品成分としての炭水化物の役割	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
5	炭水化物②	単糖、オリゴ糖	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
6	炭水化物③	多糖、食物繊維	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
7	脂質①	脂質の定義、分類、脂肪酸	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
8	脂質②	油脂の性質、酸化、リン脂質	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
9	ビタミン①	ビタミンの定義、分類、脂溶性ビタミン	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
10	ビタミン②	水溶性ビタミンの機能	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
11	無機質	無機質の種類、性質、機能	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
12	食品の二次機能①	水分、水の構造と性質、色素成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
13	食品の二次機能②	呈味成分、香気・におい成分の種類、作用、テクスチャー	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
14	食品の三次機能	三次機能を持つ主な食品成分とその作用	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
15	食事設計	官能評価（官能検査）の種類と検査手法	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）

関連科目
 食品学各論、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学Ⅰ 食品成分とその機能を正しく理解するために	佐藤薫、中島肇 編	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説	管理栄養士国試対策研究会	中央法規出版

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の小テスト（評価割合 10%）および定期試験（評価割合 90%）で評価し、総点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	食品成分の本質的な理解を目指します。みなさんの今後の勉学の基礎となる内容です。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 研究室			
備考				

科目名	食品学各論	科目名 (英文)	Food Materials Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1027a0		

授業概要・目的
 一般に利用されている食品を植物性食品、動物性食品、油糧食品等に分類し、個々の食品についてその性状や含有成分（主要成分や微量成分）の理化学的性質を理解することを目的とする。具体的には、甘味料、調味料、香辛料などの食品添加物、調理加工品、バイオ食品の特性についても学修するとともに、食品の基本的性質を基にした利用法（加工と貯蔵への応用や微生物を利用した発酵食品を含む）についても学修する。「食品学総論」に引き続いて、健康で豊かな食生活を作り上げるための食品及び食品素材の特性に関する知識を高める。また、食品加工のための食品素材の物理的、化学的性質を理解し、「食品加工学実習」へと知識、理解をつなげる。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。

到達目標
 ① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。
 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。
 ③ 食品中の代表的含有成分、その性質について、説明できる。
 ④ 食品中成分の劣化について、物理的因子、化学的因子を説明できる。

授業方法と留意点
 講義形式

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食生活と健康	食習慣と生活習慣病	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
2	食品成分表	食品表示法の概要、保健機能食品	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
3	穀類	米、小麦、とうもろこし	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
4	いも類	いも類の特徴、じゃがいも、さつまいも等	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
5	野菜類	ビタミン類、クロロフィル、緑黄色野菜	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
6	きのこ、藻類	キノコ類の特徴、フレーバー、アルギン酸、ペクチン	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
7	植物性食品の栄養と加工 (1)	植物性食品の特徴と分類、野菜類の分類	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
8	植物性食品の栄養と加工 (2)	果実類の特徴	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
9	動物性食品の栄養と加工 (1)	食肉の種類、組織、構造、成分、食肉の加工	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、魚介類、水産食品の鮮度	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
11	油脂、調味料	植物性油脂、動物性油脂、加工油脂の特徴	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
12	微生物利用食品	アルコール飲料、みそ、しょうゆ、納豆	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
13	食品の保存と加工	食品保存における物理化学的因子	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
14	食品の保存と成分変化	たんぱく質の変性、でんぷんの老化、脂質の酸化	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
15	食品加工	食品加工の特質	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）

関連科目
 食品学総論、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ、食品加工学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学Ⅱ 食品の分類と特性・用途を正しく理解するために	佐藤薫、中島肇 編	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説	管理栄養士国家試験対策研究会	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題（評価割合 10%）および定期試験（評価割合 90%）で評価し、総点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1 年生前期で履修した食品学総論の知識が必須です。しっかり復習した後、講義にのぞんでください。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 教室			
備考				

科目名	食品衛生学	科目名 (英文)	Food Hygiene
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1028a0		

授業概要・目的
食品に起因する健康被害を未然に防ぎ、食品の安全を守るために、食品の生産・加工・保存・流通・調理段階で発生する食品衛生上の健康危害を理解し、対策・予防を行うための基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、食品衛生行政組織や食品関係法規を理解し、食中毒の原因となる病原微生物や残留農薬、動物性医薬品、食品添加物、食品汚染物質や食品・器具容器包装などに関する衛生を学修する。また、食品衛生管理、食品の表示制度について理解し、食品の安全性を守るためのエビデンスとなる基本知識を学修する。授業では、国の食品衛生行政の実務経験を活かして、食品衛生現場における具体的な事例に基づき食品衛生を生活に結びつけた身近なものとして学修する。

- 到達目標**
- 食品衛生に関する行政組織、食品衛生関連法規、リスク分析について説明することができる。
 - 食品の変質の分類と変質の防止方法について説明することができる。
 - 食中毒病原因物の分類、病原因物別の予防方法を説明できる。
 - 食品中の汚染物質について例を挙げて説明することができる。
 - 食品添加物の種類、使い方、安全性評価方法について説明できる。
 - 食品の衛生管理について説明することができる。
 - 食品表示の種類、役割、機能について説明することができる。

授業方法と留意点
本講義は、対面授業方式により食品衛生の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った解説や演習問題を行い、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説を行う。講義後には Moodle を用いて、その日の内容の小テストや振り返りなどをレポートとしてまとめて決められた期限までに提出する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。小テスト、授業終了時の振り返りレポートについても評定とする。また、その他課題がある場合はその提出も授業出席の根拠として含める。

科目学習の効果 (資格)
本講義は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) などの資格取得に活かせることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食品衛生と法規 ①	食品衛生の概要、わが国の法規、食品安全基本法と食品衛生法、食の安全を支える体系について学ぶ。	事前:教科書の第1回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第1回の小テストを行う。
2	食品衛生と法規 ②	リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションのリスク分析(リスクアナリシス)について学ぶ。	事前:教科書の第2回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第2回の小テストを行う。
3	食品衛生と法規 ③	食品衛生に関連する法規 食品衛生法(リスク管理) 日本の食品衛生行政組織(食品衛生を担う者) 食品衛生に関わる国際的組織及び委員会について学ぶ。	事前:教科書の第3回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第3回の小テストを行う。
4	食品の変質 ①	食品の変質とは、微生物による変質、化学的変質、酸敗の判定法、鮮度、腐敗度の判定法について学ぶ。	事前:教科書の第4回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第4回の小テストを行う。
5	食品の変質 ②	食品成分の変化によって生じる有害物質、食品の変質の防止法について学ぶ。	事前:教科書の第5回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第5回の小テストを行う。
6	食中毒 ① 食品と食中毒	食中毒とは、食中毒予防原則、食中毒の発生状況、微生物とは、微生物の食品への関与、微生物の制御について学ぶ。	事前:教科書の第6回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第6回の小テストを行う。
7	食中毒 ②	食中毒の分類、細菌性食中毒(感染型)について学ぶ。	事前:教科書の第7回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第7回の小テストを行う。
8	食中毒 ③	細菌性食中毒(毒素型)、ウイルス性食中毒、人獣(畜)共通感染症について学ぶ。	事前:教科書の第8回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第8回の小テストを行う。
9	食中毒 ④	寄生虫による食中毒、動物性自然毒について学ぶ。	事前:教科書の第9回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第9回の小テストを行う。
10	食中毒⑤ 食品中の汚染物質	植物性自然毒、食品中汚染物質(カビ毒、化学物質、有害元素、放射性物質)について学ぶ。	事前:教科書の第10回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第10回の小テストを行う。
11	異物、アレルゲン、残留農薬、動物用医薬品	異物、アレルゲン、残留農薬、動物用医薬品について学ぶ。	事前:教科書の第11回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第11回の小テストを行う。
12	器具・容器包装 遺伝子組み換え食品 食品添加物 ①	器具・容器包装、遺伝子組み換え食品とゲノム編集食品、食品添加物の指定、分類について学ぶ。	事前:教科書の第12回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第12回の小テストを行う。
13	食品添加物 ② 食品衛生管理	食品添加物の種類・用途・表示およびHACCP、ISO、集団給食施設等における衛生管理などについて学ぶ。	事前:教科書の第13回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第13回の小テストを行う。
14	食品表示制度①	食品表示法、食品表示基準、期限表示、栄養成分表示、アレルギ表示、遺伝子組み換え表示などについて学ぶ。	事前:教科書の第14回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後:第14回の小テストを行う。
15	食品表示制度② リスク分析に基づく食品の 安全性、リスクバランス	健康や栄養に関する表示、虚偽・誇大広告およびリスク分析に基づく食品の安全性、リスクバランスについて学ぶ。	事前:第1回~15回の内容の復習を行っておく。 事後:第15回の小テストを行う。

関連科目 食品衛生学実験、食品学各論、食品学実験II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養管理と生命科学シリーズ食品衛生学第2版	後藤政幸、熊田薫、熊谷優子他	理工図書

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食べ物と健康 食品衛生学	白尾美佳等	光生館
	2	食品安全の事典	日本食品衛生学会編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業では、食品衛生の現場における具体的な事例に基づき食品衛生を生活に結びつけた身近なものとして学びます。講義中での復習問題、事前・事後学習、小テストなどを通して理解していきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	枚方キャンパス農学部 教員室320			

科目名	食品加工学	科目名 (英文)	Food Processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF2029a0		

授業概要・目的	食品加工学は、食品に物理的、化学的処理を施して、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるための理論と方法を学ぶものです。本講義では、食品加工の意義を学ぶと同時に、食品の素材や加工特性、食品劣化の要因、食品の加工法、貯蔵法を学修します。本講義と「食品加工学実習」を学ぶことにより、栄養士・管理栄養士として勤務する上で食のエキスパートとして必要な食品の利用や判別能力を身につけることを目的とします。																																																																		
到達目標	① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。 ③ 食品の素材や加工特性、食品劣化の要因について、説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を、教科書とプリントを用いて、食品加工の基礎原理について講義します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品加工の目的</td> <td>食品加工の意義</td> <td>食習慣の変化と加工食品について復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品保存の原理</td> <td>水分活性と食品の劣化、たんぱく質の熱変性、澱粉の老化</td> <td>食品劣化の原因について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各種保存法</td> <td>浸透圧、殺菌、pH、冷凍</td> <td>水分の制御と食品の劣化について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>食品加工法の原理</td> <td>物理的操作、化学的操作</td> <td>乾燥、抽出について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>食品加工の生物的操作</td> <td>微生物による加工、遺伝子操作、細胞融合、乳酸菌</td> <td>酵素、アミラーゼ、レンニンについて予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>穀類の加工</td> <td>米、小麦 (たんぱく質、グルテン)、麵</td> <td>アミロースについて予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>豆類の加工</td> <td>大豆、豆腐、納豆</td> <td>たんぱく質の凝集について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>植物性食品の栄養と加工</td> <td>いも類、野菜類、果実、ジャム、飲料</td> <td>ペクチンについて予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>動物性食品の栄養と加工 (1)</td> <td>畜肉、ハム、燻製</td> <td>食肉加工品について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>動物性食品の栄養と加工 (2)</td> <td>卵、牛乳、水産物加工、魚の鮮度</td> <td>K 値、牛乳の殺菌法について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>油脂、調味料</td> <td>食用油脂の分類、油脂の改変、調味料</td> <td>甘味料、香辛料について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>微生物利用食品</td> <td>アルコール飲料、発酵、みそ、しょうゆ</td> <td>発酵について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>機能性食品</td> <td>食物繊維、魚油、乳酸菌</td> <td>化学構造について予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>包装</td> <td>食品包装材料、プラスチック、酸素の透過</td> <td>包装フィルムについて予習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>製品表示、賞味期限と消費期限</td> <td>品質の規格化、賞味期限、原材料、法律</td> <td>加工食品安全性について予習しておくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	食品加工の目的	食品加工の意義	食習慣の変化と加工食品について復習しておくこと	2	食品保存の原理	水分活性と食品の劣化、たんぱく質の熱変性、澱粉の老化	食品劣化の原因について予習しておくこと	3	各種保存法	浸透圧、殺菌、pH、冷凍	水分の制御と食品の劣化について予習しておくこと	4	食品加工法の原理	物理的操作、化学的操作	乾燥、抽出について予習しておくこと	5	食品加工の生物的操作	微生物による加工、遺伝子操作、細胞融合、乳酸菌	酵素、アミラーゼ、レンニンについて予習しておくこと	6	穀類の加工	米、小麦 (たんぱく質、グルテン)、麵	アミロースについて予習しておくこと	7	豆類の加工	大豆、豆腐、納豆	たんぱく質の凝集について予習しておくこと	8	植物性食品の栄養と加工	いも類、野菜類、果実、ジャム、飲料	ペクチンについて予習しておくこと	9	動物性食品の栄養と加工 (1)	畜肉、ハム、燻製	食肉加工品について予習しておくこと	10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、水産物加工、魚の鮮度	K 値、牛乳の殺菌法について予習しておくこと	11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料について予習しておくこと	12	微生物利用食品	アルコール飲料、発酵、みそ、しょうゆ	発酵について予習しておくこと	13	機能性食品	食物繊維、魚油、乳酸菌	化学構造について予習しておくこと	14	包装	食品包装材料、プラスチック、酸素の透過	包装フィルムについて予習しておくこと	15	製品表示、賞味期限と消費期限	品質の規格化、賞味期限、原材料、法律	加工食品安全性について予習しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	食品加工の目的	食品加工の意義	食習慣の変化と加工食品について復習しておくこと																																																																
2	食品保存の原理	水分活性と食品の劣化、たんぱく質の熱変性、澱粉の老化	食品劣化の原因について予習しておくこと																																																																
3	各種保存法	浸透圧、殺菌、pH、冷凍	水分の制御と食品の劣化について予習しておくこと																																																																
4	食品加工法の原理	物理的操作、化学的操作	乾燥、抽出について予習しておくこと																																																																
5	食品加工の生物的操作	微生物による加工、遺伝子操作、細胞融合、乳酸菌	酵素、アミラーゼ、レンニンについて予習しておくこと																																																																
6	穀類の加工	米、小麦 (たんぱく質、グルテン)、麵	アミロースについて予習しておくこと																																																																
7	豆類の加工	大豆、豆腐、納豆	たんぱく質の凝集について予習しておくこと																																																																
8	植物性食品の栄養と加工	いも類、野菜類、果実、ジャム、飲料	ペクチンについて予習しておくこと																																																																
9	動物性食品の栄養と加工 (1)	畜肉、ハム、燻製	食肉加工品について予習しておくこと																																																																
10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、水産物加工、魚の鮮度	K 値、牛乳の殺菌法について予習しておくこと																																																																
11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料について予習しておくこと																																																																
12	微生物利用食品	アルコール飲料、発酵、みそ、しょうゆ	発酵について予習しておくこと																																																																
13	機能性食品	食物繊維、魚油、乳酸菌	化学構造について予習しておくこと																																																																
14	包装	食品包装材料、プラスチック、酸素の透過	包装フィルムについて予習しておくこと																																																																
15	製品表示、賞味期限と消費期限	品質の規格化、賞味期限、原材料、法律	加工食品安全性について予習しておくこと																																																																
関連科目	食品加工学実習、食品学総論、食品学各論、調理学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい食品加工学</td> <td>高村仁知、森山達哉</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい食品加工学	高村仁知、森山達哉	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新しい食品加工学	高村仁知、森山達哉	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品加工学</td> <td>管理栄養士国家試験教科研究会</td> <td>中山書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品学各論</td> <td>津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修</td> <td>中山書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>食品加工・食品機能実験</td> <td>大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美</td> <td>東京教学社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品加工学	管理栄養士国家試験教科研究会	中山書店	2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店	3	食品加工・食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品加工学	管理栄養士国家試験教科研究会	中山書店																																																																
2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店																																																																
3	食品加工・食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社																																																																
評価方法 (基準)	授業中に実施する小テスト (50%)。 期末定期試験 (50%)。 ①小テスト+期末定期試験の総合点、②期末定期試験のいずれかの得点率が 60% を下回る場合は再試験となる。																																																																		
学生へのメッセージ	しっかり勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	8 号館 3F 教員室 325																																																																		
備考																																																																			

科目名	調理学	科目名 (英文)	Cookery Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1030a0		

授業概要・目的	調理とは、献立作成から始まり、食品選択・調理操作・供卓までの一連のプロセスを含んでいることを理解し、健全な食生活を送るための調理学の役割と、調理をより効果的に活用するために必要な理論と実際を学修することを目的とする。具体的には、エネルギー源、調理機器、調理操作について大量調理への応用展開も視野に入れて理解し、さらに各種食品の調理性を原理から理解して修得する。また、様々な対象や場面に応じて栄養・嗜好性に加えて経済性や効率性さらには食環境など食を取り巻く生活全体を捉えた食事設計の基礎を学修する。
到達目標	① 調理の意義を説明できる。 ② 各種の調理・調味操作の原理・要点について説明できる。 ③ 各食品の調理性について説明できる。 ④ 食事摂取基準を活用し、様々な対象や場面に応じた1食単位および1日単位の食事設計（献立作成・調理操作手順等）の方法を説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントを用いた講義をweb配信する。 必要に応じて資料はweb配信する。 各講義後に、講義の確認小テストをweb上で行う。 Web上のふりかえりシートにより質問を受け付ける。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-1. 食べ物と健康の関連の理解」および「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「調理学」のガイダンス	調理学で学ぶ内容の概説、調理の意義について	事前にシラバスを読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
2	おいしさの科学	食物の嗜好性(おいしさ)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
3	調理器具と非加熱調理操作	非加熱調理操作(計量・洗浄・浸漬・切断・成型・磨砕・粉砕・混合・攪拌・圧搾・濾過・冷却・冷凍・解凍など)における調理器具と調理操作について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
4	調理器具と加熱調理操作	加熱調理操作(エネルギー源・伝熱方法・湿式加熱・乾式加熱・誘電加熱・誘導加熱)における調理器具と調理操作および新調理システム(真空調理・クックチル・クックフリーズなど)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
5	食品成分表	食品成分表の理解と活用について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
6	植物性食品の調理性(米・小麦・芋類・豆類)	米・小麦・芋類・豆類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
7	植物性食品の調理性(野菜類・果物類・きのこ類・海藻類)	野菜類・果物類・きのこ類・海藻類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
8	動物性食品の調理性(肉類・魚介類)	肉類・魚介類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
9	動物性食品の調理性(卵類・乳類)	卵類・乳類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
10	成分抽出素材・その他	デンプン・ゲル化材料などの調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
11	調味料と調味操作	調味パーセントの理解と各種調味料の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
12	食事設計(食事摂取基準と食品構成)	食事摂取基準の理解と活用および食品構成の作成について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間)	

				る(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
	13	1食単位の食事設計	食事摂取基準を活用した1食単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
	14	1日単位の食事設計	食事摂取基準を活用した1日単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
	15	エコ・クッキング	エコ・クッキング(環境に配慮した調理)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(1.5時間) また、講義全体を通して目標に対する到達度を評価する(30分)
関連科目	食品学総論、食品学各論、食品加工学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂 健康・調理の科学	和田淑子・大越ひろ 編著	建帛社
	2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人
	3	八訂準拠ビジュアル食品成分表		大修館書店
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理と理論	山崎 清子・渋川 祥子・島田 キミエ・下村 道子 著	同文書院
	2	食べ物と健康、給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子/饗庭照美/松井元子/村元由佳利・編	講談社サイエンティフィク
	3	調理のためのベーシックデータ 第6版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部
評価方法(基準)	小テスト(評価割合30%)および筆記試験(評価割合70%)により、総合的に評価を行う。60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	講義で学んだことを毎日の食生活の中で常に反映させるよう意識して下さい。			
担当者の研究室等	8号館3階319研究室			
備考				

科目名	食品学実験 I	科目名 (英文)	Experiments in Food Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1031a0		

授業概要・目的
 実際の食品を用いて、食品成分表で用いられている手法に基づいて食品の基本的成分である水分、たんぱく質、脂質、炭水化物の分析を行い、重量分析、容量分析、比色分析など食品成分の分析に必要な分析原理や手法を学修し、食品の持つ性質、機能および役割を理解する。実験を通じて、共同実験者とのコミュニケーションをとり自ら実験操作を行う習慣を身につける。また、実験器具や薬品の取り扱い方など食品学実験に必要な基礎知識を修得する。さらに、実験値と食品成分表に記載されている文献値を比較して実験値の意味を理解し、管理栄養士として必携となる食品成分表に記載されている数値の意味の理解を深める。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。

到達目標
 ① 実験器具や試薬の取り扱いを理解し、安全に実験を行うことができる。
 ② 食品中の水分やたんぱく質を測定することができ、重量分析や改良ケルダール法の原理を説明することができる。
 ③ 食品中の脂質や炭水化物を測定することができ、ソックスレー抽出法や比色分析の原理を説明することができる。
 ④ 食品中のヨウ素価を測定することができ、脂質の変敗について説明することができる。
 ⑤ 実験値から食品成分表に記載されている数値の意味を説明することができる。
 ⑥ コミュニケーションを取り自ら実験操作を進めることができる。

授業方法と留意点
 ・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。
 ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
 ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。

科目学習の効果 (資格)
 ・管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 ・食品企業・公的機関の品質管理・分析業務に直結し、商品開発にも活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	食品学実習の目的、内容、実験上の基礎知識と諸注意	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
2	実験の基礎	実験器具、試薬の取り扱い、デシケータ準備	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
3	水分、灰分測定①	食品中の水分の定量 (常圧加熱乾燥法) 灰分 (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
4	水分、灰分測定②	灰分の定量 (乾式灰化法) (550℃法) (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
5	脂質の分析①	脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 抽出) (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
6	脂質の分析②	脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 秤量、恒量、粗脂肪計算)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
7	脂質の分析③	ヨウ素価測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
8	たんぱく質の分析① (改良ケルダール法)	シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の調製	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
9	たんぱく質の分析②	ケルダール分解装置の設置 試料分解準備	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
10	たんぱく質の分析③	ケルダール分解装置試料分解	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
11	たんぱく質の分析④	水酸化ナトリウム溶液の力価測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
12	たんぱく質の分析⑤	分解溶液の蒸留および滴定、窒素量計算	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
13	炭水化物の分析①	アンスロン・硫酸法 (比色分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
14	炭水化物の分析②	アンスロン・硫酸法 (検量線の作成、全糖量の算出)、差し引き法	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
15	まとめ	食品成分表との比較、ディスカッション、総評	事前に配布した資料を確認してお。終了後、レポートを作成する。

関連科目 食品学総論・各論など食品関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験プライマリーガイド	倉沢新一他	化学同人
2	食品学実験	中谷延二、菊崎泰枝 編著	光生館	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本食品標準成分表 2015 年版 (七訂) 分析マニュアル・解説	安井明美他編	建帛社
2				
3				

評価方法 (基準) 次回の実習までに、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載すること。レポート (80%)、実習中の内容 (ルーブリック評価・20%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 食品企業の食品管理・開発現場では日常業務ともいえる重要な分析手法を学びます。

担当者の研究室等 8号館3階 321教室

備考 1年前期に同時進行する食品学総論と関連付けながら進めていきます。

食品成分表を持ってきてください。

科目名	食品学実験Ⅱ	科目名 (英文)	Experiments in Food Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1032a0		

授業概要・目的	「食品学実験Ⅰ」における学修を踏まえて、実際の食品に微量含まれる無機質とビタミンの定量分析を行う。また、比色法によるビタミンC及び鉄の分析、原子吸光法によるマグネシウム、高速液体クロマトグラフィー法によるビタミンCの測定法をそれぞれ修得し、それらの測定原理を理解することを目的とする。具体的には、実験を通じて、食品の栄養特性に関する知識を高める。また、食品機能性の評価指標として抗酸化活性の測定を行い、機能性評価と消化酵素阻害活性における活性測定の意義を理解する。 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。
到達目標	① 食品学の基礎的知識を修得し、食品各成分の分析手法を実習により理解する。 ② 管理栄養士がもつべき分析にかかる基礎知識を修得し、食品成分含量や機能性評価のための基礎知識を養う。 ③ ビタミンの分析手法である比色法、および液体クロマトグラフィー法の原理を説明できる。
授業方法と留意点	・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。 ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。 ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 企業ニーズが高い食品の高度分析法を修得することで、あらゆる食品企業勤務に対応できる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実験ガイダンス	実験ノートの記述法の確認、薬品の安全な使用方法	ビベット、天秤の使用法について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
2	分析機器	分光光度計の使い方、各種分析機器の原理	ランバートベアの法則について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
3	鉄の分析	キレート法を用いた鉄の分析	キレートについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
4	鉄の分析	大豆の鉄の分析	検量線について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
5	カリウムの定量	原子吸光法	原子吸光について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
6	ポリフェノール含量の測定	お茶のポリフェノール含量の測定	ポリフェノールについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
7	ビタミンC 定量のための試薬調整	ビタミンCの定量の原理と薬品	ビタミンCについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
8	ビタミンCの定量	比色法を用いたビタミンCの定量	酸化と還元について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
9	ビタミンCの劣化	ビタミンCの酵素的劣化	ビタミンの劣化について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
10	ビタミンCのHPLCによる定量	液体クロマトグラフィー	カラムについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
11	抗酸化活性	DPPH ラジカル消去能	抗酸化活性について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
12	酵素的褐変	果実の色の変化	酵素的褐変について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
13	酵素反応	α -グリコシダーゼ酵素反応	酵素反応速度について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
14	カテキン	カテキンの酵素反応阻害	阻害について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
15	実験データの整理	エクセルを用いたデータ整理	表計算について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。

関連科目	食品学総論・各論など食品関連科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社
	2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、	東京教学社

			武曾歩、山本久美	
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習後に実習結果を、レポートにまとめる。また、実習中に与えた課題についても答える。レポートの提出は、1週間後の実習前までとする。レポート(80%)、実習中の内容(ルーブリック評価・20%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	健康志向など消費者ニーズの高まりは、食品分析の高度化を推し進めることになりました。 原子吸光分析や液体クロマトグラフィーなど先端機器を使用する高度な分析手法も取り扱います。			
担当者の 研究室等	8号館3階 321研究室			
備考				

科目名	食品衛生学実験	科目名 (英文)	Experiments in Food Hygiene
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2033a0		

授業概要・目的	「食品衛生学」の講義で学修した食品衛生の知識を基礎として、食品の危害の原因を解明し、飲食に起因する健康被害を未然に防ぐための技術を実験を通じて修得する。具体的には、手指や調理器具の細菌汚染状況や消毒効果を把握するための手法を修得する。また、市販の食品を用いて食品添加物や残留農薬の安全性を評価するために必要な科学的根拠 (エビデンス) を得るための実験手法、分析機器の原理を理解する。これらの得られた実験結果から講じるべき衛生管理について自ら考察できるリスク管理の力を養う。
到達目標	① 食品中の手指等の汚染状況を把握する細菌学的検査ができ、衛生管理手法について説明することができる。 ② 食品中の着色料 (酸性タール色素等) の抽出・同定ができ、薄層クロマトグラフィーの原理を説明できる。 ③ 食品中の発色剤 (亜硝酸ナトリウム等) の定量ができ、比色測定を説明できる。 ④ 食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸ナトリウム等) の定量ができ測定原理を説明できる。 ⑤ 残留農薬の抽出・同定ができ、抽出原理、GC/MS の測定原理が説明できる。
授業方法と留意点	実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実験レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
科目学習の効果 (資格)	本実験は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) などの資格取得に活かせることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食品添加物の分析	食品衛生学実験の目的、基礎知識と諸注意 食品中の発色剤 (亜硝酸ナトリウム) の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
2	食品添加物の分析①	食品中の発色剤 (亜硝酸ナトリウム) の抽出・測定 分光光度計の原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
3	食品添加物の分析①	食品中の発色剤 (亜硝酸ナトリウム) の抽出・測定 分光光度計の原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
4	細菌汚染検査 食品添加物の分析②	衛生管理のための試験 空中落下細菌、手指・調理器具の汚染状況、洗浄・消毒効果 (ATP ふき取り試験、スタンプ法) 食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸) の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
5	細菌汚染検査 食品添加物の分析②	衛生管理のための試験 空中落下細菌、手指・調理器具の汚染状況、洗浄・消毒効果 (ATP ふき取り試験、スタンプ法) 食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸) の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
6	食品添加物の分析③ 器具の操作法 細菌汚染検査	食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸) の抽出、HPLC 測定 ピペット操作法、溶液の希釈の理解 空中落下細菌の測定、スタンプ法結果判定、評価	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
7	食品添加物の分析③ 器具の操作法 細菌汚染検査	食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸) の抽出、HPLC 測定 ピペット操作法、溶液の希釈の理解 空中落下細菌の測定、スタンプ法結果判定、評価	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
8	食品添加物の分析④	食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸) の結果考察 HPLC 原理、クロマトグラフィーの原理、分液ロート操作法 食品中の着色料 (タール系色素) の解説、抽出	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
9	食品添加物の分析④	食品中の保存料 (ソルビン酸、安息香酸) の結果考察 HPLC 原理、クロマトグラフィーの原理、分液ロート操作法 食品中の着色料 (タール系色素) の解説、抽出	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
10	食品添加物の分析⑤ 残留農薬分析①	TLC を用いた食品中の着色料 (タール系色素) の測定 野菜、果実中の残留農薬試験の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
11	食品添加物の分析⑤ 残留農薬分析①	TLC を用いた食品中の着色料 (タール系色素) の測定 野菜、果実中の残留農薬試験の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
12	残留農薬分析②	野菜、果実中の残留農薬試験 (試料調製、抽出、測定)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
13	残留農薬分析②	野菜、果実中の残留農薬試験 (試料調製、抽出、測定)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
14	残留農薬分析③ 総括	野菜、果実中の残留農薬 (濃度計算、考察) ガスクロマトグラフ質量分析法 (GC-MS) の原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。

	15	残留農薬分析③ 総括	総括 野菜、果実中の残留農薬（濃度計算、考察） ガスクロマトグラフ質量分析法（GC-MS） 原理 総括	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。																
関連科目	食品衛生学、食品学各論、食品学実験Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布する実験書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布する実験書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	配布する実験書																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品衛生検査指針 2015</td> <td>厚生労働省監修</td> <td>日本食品衛生協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>衛生試験法・注解 2020</td> <td>日本薬学会</td> <td>金原出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品衛生検査指針 2015	厚生労働省監修	日本食品衛生協会	2	衛生試験法・注解 2020	日本薬学会	金原出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	食品衛生検査指針 2015	厚生労働省監修	日本食品衛生協会																	
2	衛生試験法・注解 2020	日本薬学会	金原出版																	
3																				
評価方法 (基準)	実験後、期限内に実験内容をまとめたレポートを提出する。実験内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載する。このレポート（60%）および実験中の取り組み（40%）より評価する。																			
学生への メッセージ	食品の安全性を守るために重要な科学的な根拠（エビデンス）を得るための手法を学びます。得られた結果は、食品衛生法における成分規格や基準などと比較して食品衛生上どのような意味があり、どのようなリスクの管理を行えば食品の安全が守れるのかについて考えていきましょう。																			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320																			
備考																				

科目名	食品加工学実習	科目名 (英文)	Practice in Food Processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広、日比 裕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2034a0		

授業概要・目的	<p>「食品加工学実習」は、実際に穀類、砂糖、野菜、果実等の加工食品を作る基礎技術を修得する。食パン、うどん、アイスクリーム、ヨーグルト、ジャム、カスタードクリーム、豆腐ほかの製造を実習しながら、食品素材の加工特性（食品成分の物理的、化学的変化）、食品製造原理や技術について学びます。さらに、製造後の製品評価を多角的視点で行う事により、日常生活での加工食品の選択がより安全・安心なものとなり、健やかな食生活基礎を作ることができるようになります。加えて、本実習を通して食への興味を広げ、食の原点を見つめなおし、真に豊かな食生活に貢献することを目的とします。特に、管理栄養士として加工食品の適切な取り扱いと食品開発に関わる基礎的技術の修得も目指します。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 食品の加工実習により、食品加工の原理を理解する。 ② 管理栄養士がもつべき食品加工にかかる基礎知識を実践的に修得し、加工食品の特質を理解する。 ③ 乳化、攪拌、加熱操作、酸化等加工に関わる技術単語を理解する。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各実習のはじめに Power Point およびプリントで実習内容を説明します。 実習は、各班 4-5 人として実習を実施します。 実習のはじめに、材料、操作を確認し、実習ノートに記載した後、実習を実施します。 1 回あたり 1.5 コマ (135 分授業) [3 時間] ×15 回=計 45 時間の授業とします。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせます。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実習ガイダンス</td> <td>食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法</td> <td>資料、参考書による予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>いも類加工食品の品質</td> <td>こんにゃくの硬さ</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>乳化食品の加工 (1)</td> <td>アイスクリームの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>豆類の加工</td> <td>豆腐の製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>穀類食品の加工</td> <td>バターロールパンの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>乳化食品の加工 (2)</td> <td>マヨネーズの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>穀類の加工 (1)</td> <td>食パンの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>乳化食品の加工 (3)</td> <td>カスタードクリームの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>穀類加工食品の品質評価</td> <td>スポンジケーキの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発酵食品の加工</td> <td>ヨーグルトの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>野菜類の加工</td> <td>ジャムの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>飲料の加工</td> <td>茶、紅茶の抽出操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜類の加工</td> <td>酵素による野菜の軟化操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>穀類の加工 (2)</td> <td>うどんの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>加工法のまとめ</td> <td>総括 発表</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実習ガイダンス	食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法	資料、参考書による予習	2	いも類加工食品の品質	こんにゃくの硬さ	資料、参考書による予習、復習	3	乳化食品の加工 (1)	アイスクリームの製造	資料、参考書による予習、復習	4	豆類の加工	豆腐の製造	資料、参考書による予習、復習	5	穀類食品の加工	バターロールパンの製造	資料、参考書による予習、復習	6	乳化食品の加工 (2)	マヨネーズの製造	資料、参考書による予習、復習	7	穀類の加工 (1)	食パンの製造	資料、参考書による予習、復習	8	乳化食品の加工 (3)	カスタードクリームの製造	資料、参考書による予習、復習	9	穀類加工食品の品質評価	スポンジケーキの製造	資料、参考書による予習、復習	10	発酵食品の加工	ヨーグルトの製造	資料、参考書による予習、復習	11	野菜類の加工	ジャムの製造	資料、参考書による予習、復習	12	飲料の加工	茶、紅茶の抽出操作	資料、参考書による予習、復習	13	野菜類の加工	酵素による野菜の軟化操作	資料、参考書による予習、復習	14	穀類の加工 (2)	うどんの製造	資料、参考書による予習、復習	15	加工法のまとめ	総括 発表	資料、参考書による予習、復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実習ガイダンス	食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法	資料、参考書による予習																																																																
2	いも類加工食品の品質	こんにゃくの硬さ	資料、参考書による予習、復習																																																																
3	乳化食品の加工 (1)	アイスクリームの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
4	豆類の加工	豆腐の製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
5	穀類食品の加工	バターロールパンの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
6	乳化食品の加工 (2)	マヨネーズの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
7	穀類の加工 (1)	食パンの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
8	乳化食品の加工 (3)	カスタードクリームの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
9	穀類加工食品の品質評価	スポンジケーキの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
10	発酵食品の加工	ヨーグルトの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
11	野菜類の加工	ジャムの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
12	飲料の加工	茶、紅茶の抽出操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
13	野菜類の加工	酵素による野菜の軟化操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
14	穀類の加工 (2)	うどんの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
15	加工法のまとめ	総括 発表	資料、参考書による予習、復習																																																																
関連科目	食品加工学、食品学総論、食品学各論、食品学実験Ⅰ～Ⅱ、調理学、調理学実習Ⅰ～Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実験プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	実験プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	実験プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品学実験書</td> <td>藤田修三、山田和彦/編著</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品加工、食品機能実験</td> <td>大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美</td> <td>東京教学社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社	2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社																																																																
2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の実習 2 週間後に、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、材料、操作、結果、参考文献を記載すること。このレポート (80%) および実習中の内容 (ルーブリック評価・20%) で評価し、60%以上で合格とします。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>食品加工の原理を理解し、食品製造プロセスについて調べてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	8 号館 3F 教員室 325																																																																		
備考																																																																			

科目名	調理学実習 I	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安藤 真美, 織田 奈央子, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF1035a0		

授業概要・目的	食品の調理性に関する実践的知識と基本的調理操作に関する基礎的能力を育成すること、および食の様々な場面において必要な基本的マナーと、安全・衛生面に関する正しい理解と認識を深めることを目的とする。具体的には、代表的な調理器具の扱い方と調理操作（ゆでる、煮る、蒸す、炒める、揚げる等）の基本を修得し、食品の特性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について学修する。また、調味%を理解することにより、調味の標準化に関する基礎的事項を修得する。さらに、栄養価計算をとおり、食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量および食品成分表の理解と活用能力を育成する。
到達目標	① 代表的な調理器具を使用し代表的な調理操作ができる。 ② 食品の調理性および味付けの基本をふまえ、調味割合として調味の標準化ができる。 ③ 食品の調理性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について説明できる。 ④ 食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量を理解し、食品成分表を使用して栄養価計算ができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、実習を行う。基本的な実習の流れは、教員による説明⇒実習⇒試食⇒後片付けとする。必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習 I」のガイダンス	「調理学実習 I」で学ぶ内容の概説および調理を伴う実習における衛生管理についての説明	事前にシラバスを読み全体内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する
2	レポートの書き方	レポートの書き方の説明（調味料の概量・調味パーセント・作業スケジュール・栄養価計算など）	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する
3	計量器具の扱い方と食品重量	計量スプーンの扱い方と食品重量に対する重量感覚に関する実習	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する
4	包丁の扱い方	包丁の種類や扱い方の基本に関する実習	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する
5	日本料理（ご飯の炊き方、煮干しのだしとり方、青菜のゆで方）	実習内容：ご飯、味噌汁、だし巻き卵、青菜のおひたし	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
6	西洋料理（ひき肉料理の基本、サラダの基本）	実習内容：Hamburg Steak, Salade de Legumes	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
7	中華料理（湯菜・炒菜・拌菜の基礎）	実習内容：黄花湯 青椒炒牛肉絲 香芹拌菜	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
8	日本料理（すし飯の作り方、乾物の扱い方、一番出しのとり方）	実習内容：ちらしずし、菊花豆腐の吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
9	西洋料理（ホワイトソースの作り方）	実習内容：Macaroni Gratin, Fruits Salad, lemonade	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
10	中華料理（点心の基礎）	実習内容：鍋貼餃子、酸辣菜、川粉条	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
11	日本料理（希釈卵液の熱凝固、吉野鶏について）	実習内容：ご飯、煮魚、茶碗蒸し、吉野鶏とみつばの吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
12	和菓子（寒天の扱い方、白玉粉の扱い方、煎茶の入れ方）	実習内容：白玉あんみつ、そばボーロ、煎茶	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
13	洋菓子（卵の熱凝固、紅茶の入れ方）	実習内容：Pudding, Cookie, Tea	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
14	中華菓子（卵の起泡性、中国茶の入れ方）	実習内容：鶏蛋?, 石花凍、中国茶	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
15	実技試験（切り方）	基本的な切り方の確認	事前に基本的な切り方の再確認して練習する 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する

関連科目 調理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食べ物と健康, 給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子, 饗庭照美, 松井元子, 村元由佳里 編	講談社
2	八訂準拠 ビジュアル食品成分表		大修館書店	
3	調理のためのベーシックデータ 第6版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人
	2	調理と理論	山崎 清子、渋川 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	3	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著	学際企画
評価方法 (基準)	レポートなどの提出物(評価割合 40%)、授業に取り組む姿勢(評価割合 30%)、小テストおよび実技試験(評価割合 30%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	事前の実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 日常的な調理経験が多いほど実習で学んだことが効果的に身に付くため、普段の生活においてできるだけ調理する機会をもつよう to してください。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 319 研究室			
備考	実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。			

科目名	調理学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安藤 真美, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1036a0		

授業概要・目的	「調理学実習Ⅰ」で修得した基礎的知識と技術をもとに、和・洋・中・その他の各様式の食事を題材とした実践的調理実習を通して、食品の調理性、様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について応用力・発展力を身につけることを目的とする。具体的には、立案した食事計画の実際を経験することにより、食事計画の「計画 (Plan)」「実践 (Do)」「評価 (Check)」「改善 (Action)」を行う。さらに、日本の食文化の継承を視野に入れた正月料理などの行事食やもてなしの食事、世界各国の食文化をふまえた各種料理を調理することにより、歴史的背景や伝統を考慮したうえで調理する力を養う。
到達目標	① 日常食の献立作成の基本、1食あたりの食品の使用量を考慮した1食単位および1日単位の食事設計と調理ができる。 ② 食品成分表を食事摂取のアセスメントと食事計画に活用できる。 ③ 日本の伝統的食文化の特性に応じた正月料理や日本料理等食文化をふまえた調理ができる。 ④ 世界各国の食文化・歴史的背景・伝統を考慮した調理ができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、実習を行う。基本的な実習の流れは「調理学実習Ⅰ」と同様であるが、日本および世界各国の食文化をふまえた内容を主とする。必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。さらに、グループワークとして様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について検討する。立案した食事計画を調理・試食することにより実践的な技術を学修する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習Ⅱ」のガイダンス	「調理学実習Ⅱ」で学ぶ内容の概説	事前にシラバスを読み全体内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する
2	献立作成 (日常食)	グループワークによる日常食の献立作成	事前に「調理学」で学んだ献立作成について復習する 事後は、グループ毎に献立を完成させる
3	日本料理 (もち米の調理、揚げ調理について)	実習内容: 赤飯、天ぷら、赤だし	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
4	西洋料理 (鱈の三枚おろし)	実習内容: 鱈のムニエル、フルーツサラダ、カボチャスープ	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
5	中華料理 (小麦粉の生物的膨化)	実習内容: 包子 (2種)、石花凍	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
6	献立実習 (日常食)	第2回で立案した日常食の献立実習	事前に実習準備をしておく 事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる
7	献立報告会 (日常食)	第2回および第6回をふまえたグループ毎による日常食の献立報告会	事前に報告準備をしておく 事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる
8	献立作成 (行事食)	グループワークによる行事食の献立作成	事前に行事食について調べておく 事後は、グループ毎に献立を完成させる
9	諸外国料理	実習内容: パエリア、生春巻き、杏仁豆腐	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
10	行事食 (正月料理)	実習内容: 雑煮、三祝肴	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
11	行事食 (クリスマス料理)	実習内容: Roast Chicken、Canape、Grape Punch	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
12	行事食 (節分料理)	実習内容: すし、梅そうめんの吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
13	献立実習 (行事食)	第8回で立案した行事食の献立実習	事前に実習準備をしておく 事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる
14	献立報告会 (行事食)	第8回および第13回をふまえたグループ毎による行事食の献立報告会	事前に報告準備をしておく 事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる
15	実技試験	試験内容を事前に提示し実施	事前に提示した実技試験の内容を確認し練習しておく 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する

関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食べ物と健康、給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子、饗庭照美、松井元子、村元由佳里 編	講談社
2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子	化学同人	
3	八訂準拠 ビジュアル食品成分表		大修館書店	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理のためのベーシックデータ 第6版	松本 仲子 監修	女子栄養大出版部
	2	調理と理論	山崎 清子、渋谷 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	3	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著	学際企画
評価方法 (基準)	レポート(評価割合 50%)、授業に取り組む姿勢(ルーブリック評価・評価割合 30%)、実技試験(評価割合 20%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	事前に実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 また、日常的な食経験の積み重ねが重要であるため、学んだ内容を意識して生活して下さい。			
担当者の 研究室等	8号館3階319研究室			
備考	実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。			

科目名	調理学実習Ⅲ	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美, 竹本 尚未, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2037a0		

授業概要・目的	「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」で修得した知識と技術をもとに、調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係について、より深く理解することを目的とする。具体的には、穀類、野菜類、卵類、肉類などの食材を用いて調理条件を変化させ、でんぷんの糊化と物性との関係、食品に含まれる色素成分の調理による変色と安定化、食品の調理性に対する調味料の影響、調理による成分の変化等について調理実習・調理科学実験を行う事により理解を深める。また、各種官能評価法により食品および調理品の評価を行い、おいしさの評価について学修する。
到達目標	① 調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化を理解した調理ができる。 ② 調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係に関して評価できる。 ③ 官能検査の手法を用いて、食品や調理・加工品の評価ができる。
授業方法と留意点	・下記の授業計画に従い、実習を行う。 ・前半は、各種官能評価法により食品および調理品の評価を行い、おいしさの評価について学修する。 ・後半は、各種食材の調理条件を変化させ、調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係に関して、調理学実習・実験を行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習Ⅲ」のガイダンス	「調理学実習Ⅲ」で学ぶ内容の概説	事前にシラバスを読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する
2	官能評価法の実際① (5味識別、順位法)	基本的な味の味質や強さの判定 順位法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
3	官能評価法の実際② (2点比較法、3点比較法)	2点比較法、3点比較法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
4	官能評価法の実際③ (評点法)	評点法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
5	だし汁の調理	だし汁の種類と味の相乗効果	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
6	米の調理性と嗜好性	炊飯に対する米の種類、水温、浸漬時間の影響	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
7	小麦粉の調理性と嗜好性	小麦粉の種類と性質、添加物の影響	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
8	豆類の調理性と嗜好性	豆の種類と加熱による変化	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
9	野菜の調理性と嗜好性	野菜の吸水と放水、色素の変化、酵素による褐変	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
10	卵の調理性と嗜好性	卵の鮮度鑑別、卵白の起泡性と泡の安定性、卵液の熱凝固性	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
11	肉類の調理性と嗜好性	肉の軟化方法	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
12	砂糖の調理性と嗜好性	砂糖の加熱による変化	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
13	ゲル化剤の調理性と嗜好性	各種ゲル化剤について扱い方の違いや特徴	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
14	油脂の調理性と嗜好性	油脂の種類、揚げ油の温度変化、油の吸着と食品の脱水	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
15	まとめ	「調理学実習Ⅲ」のふりかえり	事前に今までのレポートを見直す 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する

関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nブックス調理科学実験 (第2版)	長尾慶子、香西みどり 編	建帛社
2	食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表 2023		大修館書店	
3	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理と理論	山崎 清子、渋川 祥子、島田 キ	同文書院

			ミエ、下村 道子 著	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート 30%、授業に取り組む姿勢 (ルーブリック評価) 30%、小テスト (40%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館 3階 319 研究室			
備考				

科目名	基礎栄養学	科目名 (英文)	Basic Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③		
科目ナンバリング	OAF1038a0		

授業概要・目的	栄養学の基礎を学ぶ。始めに栄養とは何か、栄養と身体活動とのバランスの重要性を理解し、メタボリックシンドロームと栄養との関係、個々人の身体状況に応じた栄養（テーラーメイドの栄養管理）の大切さを学修する。次に、各栄養素の特徴と代謝の概要を含め、摂食行動、消化器系の特徴、各栄養素の消化・吸収と体内動態について学修し、たんぱく質、糖質、脂質、ビタミン、無機質（ミネラル）、水・電解質、食物繊維といった各栄養素の生体での役割について学びを深めていく。さらに、エネルギー代謝並びに遺伝と栄養についても学ぶ。
到達目標	① 食事の意義、栄養と健康・疾病との関係についての基礎的事項が説明できる。 ② 摂食行動についての基礎的事項が説明できる。 ③ 五大栄養素の栄養についての基礎的事項が説明できる。 ④ 食物繊維と難消化性オリゴ糖についての基礎的事項が説明できる。 ⑤ 水・電解質の役割についての基礎的事項が説明できる。 ⑥ エネルギー代謝についての基礎的事項が説明できる。 ⑦ 遺伝子発現と栄養についての説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養の概念	食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
2	摂食行動	摂食行動について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
3	消化と吸収①	各消化器の構造と特徴について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
4	消化と吸収②	各栄養素の消化と吸収について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
5	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
6	糖質の栄養	糖質の働きについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
7	食物繊維と難消化性オリゴ糖について	食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
8	脂質の栄養	各脂質成分の働きについて	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
9	ビタミンの栄養①	脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
10	ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①	水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
11	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
12	水・電解質の役割	水・電解質の役割と脱水について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
13	エネルギー代謝①	エネルギー代謝の概念について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)
14	エネルギー代謝②	エネルギー消費量の測定方法について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)

	15	遺伝子発現と栄養	遺伝子発現と栄養について	事前に教科書の該当部分を読み、全体的内容を把握する(2時間) 事後、教科書および配布プリントを使って復習する(2時間)	
関連科目	全ての専門コア科目				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学		小林謙一、山田徳広、岸本良美 他	理工図書株式会社
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	別途、指示する			
	2				
	3				
評価方法 (基準)	授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点60%以上で合格とする。				
学生への メッセージ	基礎栄養学はその名の通り、栄養学の基礎を学びます。しっかり理解して、土台を作りましょう。				
担当者の 研究室等	農学部8号館324				
備考					

科目名	基礎栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Basic Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岸本 良美, 中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1039a0		

授業概要・目的	栄養現象を、実験を通じて学修することを目的とする。試験管内の In vitro の実験系と、ヒトを使った In vivo 実験を用いる。具体的には、In vitro の実験系において唾液と小腸膜酵素を用いたときのでんぷんの消化性、生卵とゆで卵を用いてたんぱく質の加熱変性が消化性に及ぼす影響、食事が肝臓の脂質濃度に及ぼす影響などを学修する。ヒト試験においては、たんぱく質摂取量が尿中尿素排泄量に及ぼす影響と食後血糖の推移及びエネルギー代謝の測定方法などを学修する。
到達目標	①でんぷんの消化機構について説明できる。 ②糖質の結合様式の違いによる消化性の違いについて説明できる。 ③たんぱく質の変性が、たんぱく質の消化性に及ぼす影響について説明できる。 ④消化酵素の役割について説明できる。 ⑤グルコースの吸収機構について説明できる。 ⑥正常肝と脂肪肝の脂質組成の違いについて説明できる。 ⑦高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取の尿中尿素量の違いについて説明できる。 ⑧他の食品成分の血糖への影響について説明できる。 ⑨アミノ酸スコアの計算方法を習得する。 ⑩タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算方法を習得する。 ⑪間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定方法を習得する。
授業方法と留意点	・下記の授業計画に従い、実験と実習を実施する。 ・1回あたり 1.5 コマ (135 分授業) [3 時間] ×15 回=計 45 時間の授業とする。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実験授業を行うにあたって	実験授業を行うにあたっての基礎的事項 基本的な器具の使い方 (DVD 視聴)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	2	糖質の消化①	希釈による吸光度の変化 唾液と腸液によるでんぷんの消化	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	3	糖質の消化②	希釈による吸光度の変化 唾液と腸液によるでんぷんの消化	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	4	正常肝と脂肪肝からの脂質の抽出	正常食または高エネルギー食を摂取した鶏の肝臓から脂質成分の抽出	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	5	正常肝と脂肪肝の脂質成分	脂質成分の分析 (薄層クロマトグラフィー、総コレステロール、トリグリセリド測定)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	6	たんぱく質の消化性①	生卵とゆで卵の消化性の違い	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	7	たんぱく質の消化性②	ペプシンとトリプシンの違い	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	8	高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中尿素量の変化	高たんぱく質食または低たんぱく質食摂取時の尿中尿素濃度の測定	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	9	高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中クレアチニン量の変化とクレアチニン補正	高たんぱく質食または低たんぱく質食摂取時の尿中クレアチニン濃度の測定 尿中尿素濃度のクレアチニン補正	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	10	血糖曲線	糖質 (白飯) 摂取後の血糖曲線の推移	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	11	タンパク質の栄養価の求め方	アミノ酸スコアの計算	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	12	食品成分の血糖曲線への影響	野菜を糖質 (白飯) の前に摂取した際の血糖曲線の推移	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	13	タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算	タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	14	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定①	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定①	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
	15	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定②	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定②	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。

関連科目 全ての専門コア科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 実験に取り組む姿勢 (評価割合 50%) とレポート (評価割合 50%) で評価し、60% 以上で合格とする。

学生への 実習を通じて栄養現象の理解を深めましょう。

メッセージ	
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 324
備考	

科目名	応用栄養学 I	科目名 (英文)	Applied Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2040a0		

授業概要・目的	個人及び集団に応じた適切な栄養管理を行うためには、対象者や対象集団の身体状況や栄養状態を的確に把握し、問題点を明確にする必要がある。栄養管理の基本である栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養に関連する問題の抽出、栄養介入、栄養モニタリングと栄養管理の評価及びそのフィードバックについて理解することを目的とする。食事摂取基準の各指標の意義、エネルギーや各栄養素の策定の基礎、活用の基礎、栄養評価と栄養介入などを修得する。
到達目標	① 栄養状態の評価や判定の基本的な考え方を理解する。 ② 食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について理解する。
授業方法と留意点	教科書を中心に講義形式で授業を進める。ポイントまとめたスライド映写や、適宜プリントも配布する。各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。また、事前学習としてテキストおよびプリント学習を導入する。状況に応じて、Teams、Forms を使用した遠隔授業（双方型）に切り替える。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	栄養ケア・マネジメント①	応用栄養学で学ぶこと、栄養ケア・マネジメントの概念	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
2	栄養ケア・マネジメント②、小テスト	栄養アセスメントの意義と目的、栄養アセスメントの方法（臨床診査）	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
3	栄養ケア・マネジメント③、小テスト	アセスメントの方法（身体計測）	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
4	栄養ケア・マネジメント④、小テスト	アセスメントの方法（臨床検査）	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
5	栄養ケア・マネジメント⑤、小テスト	アセスメントの方法（食事調査）	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
6	栄養ケア・マネジメント⑥、小テスト	栄養ケア計画の実施、モニタリング、栄養ケアの評価、フィードバック	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
7	食事摂取基準の基礎的理解①、小テスト	食事摂取基準の意義	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
8	食事摂取基準の基礎的理解②、小テスト	食事摂取基準策定および活用の基礎理論	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
9	食事摂取基準の基礎的理解③、小テスト	エネルギーの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
10	食事摂取基準の基礎的理解④、小テスト	たんぱく質の食事摂取基準	毎関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(時間)
11	食事摂取基準の基礎的理解⑤、小テスト	脂質の食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
12	食事摂取基準の基礎的理解⑥、小テスト	炭水化物の食事摂取基準およびエネルギー産生栄養素バランスの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
13	食事摂取基準の基礎的理解⑦、小テスト	脂溶性および水溶性ビタミンの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
14	食事摂取基準の基礎的理解⑧、小テスト	多量および微量ミネラル（無機質）の食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
15	「応用栄養学 I」のまとめ	栄養ケア・マネジメントおよび食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)

関連科目	臨床栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、基礎栄養学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	応用栄養学	渡辺令子、伊藤節子、瀧本秀美 編集	南江堂
	2	日本人の食事摂取基準 2020 年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	4 日以上欠席で単位不認定とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。各講義前に前回の講義の学習確認小テストを行う。小テスト(評価割合 30%)および定期試験(評価割合 60%)、課題(評価割合 10%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業前に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかり行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。			
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 2 研究室 (220)			
備考				

科目名	応用栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2041a0		

授業概要・目的	<p>応用栄養学は、ライフステージとライフスタイルに応じた栄養管理について学びます。まず最初に、食事摂取基準がどのようなコンセプトで策定されたかについて学びます。次に食事摂取基準における各栄養素の重要事項について学びます。3番目に養アセスメントについて学びます。4番目に成長、発達、加齢について学びます。5番目に妊娠期の生理的変化と栄養管理について学びます。6番目に新生児期の生理的変化と栄養管理について学びます。7番目に母乳と母乳栄養について学びます。最後に離乳と離乳食について学びます。</p>																																																																		
到達目標	<p>①食事摂取基準の重要事項を理解する。 ②栄養アセスメントについての基本事項を理解する。 ③成長、発達、加齢についての基本事項を理解する。 ④妊娠期の生理的変化と栄養管理についての基本事項を理解する。 ⑤新生児期の生理的変化と栄養管理についての基本事項を理解する。 ⑥母乳と母乳栄養についての基本事項を理解する。 ⑦離乳と離乳食についての基本事項を理解する。</p>																																																																		
授業方法と留意点	主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「応用栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食事摂取基準①</td> <td>食事摂取基準 2020 がどのようなコンセプトによって策定されたか。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食事摂取基準②</td> <td>各指標について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>食事摂取基準③</td> <td>エネルギー・たんぱく質・脂質・炭水化物・エネルギー産生栄養素バランスの摂取基準について</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>食事摂取基準④</td> <td>ビタミン・ミネラルの摂取基準について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>食事摂取基準⑤</td> <td>妊婦・授乳婦の付加量について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栄養アセスメント①</td> <td>栄養アセスメントの概要について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>栄養アセスメント②</td> <td>各アセスメント方法について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>成長、発達、加齢①</td> <td>誕生から思春期までの変化について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>成長、発達、加齢②</td> <td>思春期から高齢期までの変化について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>妊娠期の生理的変化</td> <td>妊娠期の生理的変化について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>妊娠期の栄養管理</td> <td>妊娠期の栄養管理について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>新生児期の生理的変化</td> <td>新生児期の生理的変化について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>新生児期の栄養管理</td> <td>新生児期の栄養管理について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>母乳と母乳栄養</td> <td>母乳と母乳栄養について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>離乳と離乳食</td> <td>離乳と離乳食について。</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	食事摂取基準①	食事摂取基準 2020 がどのようなコンセプトによって策定されたか。	毎回の授業時に指示する	2	食事摂取基準②	各指標について。	毎回の授業時に指示する	3	食事摂取基準③	エネルギー・たんぱく質・脂質・炭水化物・エネルギー産生栄養素バランスの摂取基準について	毎回の授業時に指示する	4	食事摂取基準④	ビタミン・ミネラルの摂取基準について。	毎回の授業時に指示する	5	食事摂取基準⑤	妊婦・授乳婦の付加量について。	毎回の授業時に指示する	6	栄養アセスメント①	栄養アセスメントの概要について。	毎回の授業時に指示する	7	栄養アセスメント②	各アセスメント方法について。	毎回の授業時に指示する	8	成長、発達、加齢①	誕生から思春期までの変化について。	毎回の授業時に指示する	9	成長、発達、加齢②	思春期から高齢期までの変化について。	毎回の授業時に指示する	10	妊娠期の生理的変化	妊娠期の生理的変化について。	毎回の授業時に指示する	11	妊娠期の栄養管理	妊娠期の栄養管理について。	毎回の授業時に指示する	12	新生児期の生理的変化	新生児期の生理的変化について。	毎回の授業時に指示する	13	新生児期の栄養管理	新生児期の栄養管理について。	毎回の授業時に指示する	14	母乳と母乳栄養	母乳と母乳栄養について。	毎回の授業時に指示する	15	離乳と離乳食	離乳と離乳食について。	毎回の授業時に指示する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	食事摂取基準①	食事摂取基準 2020 がどのようなコンセプトによって策定されたか。	毎回の授業時に指示する																																																																
2	食事摂取基準②	各指標について。	毎回の授業時に指示する																																																																
3	食事摂取基準③	エネルギー・たんぱく質・脂質・炭水化物・エネルギー産生栄養素バランスの摂取基準について	毎回の授業時に指示する																																																																
4	食事摂取基準④	ビタミン・ミネラルの摂取基準について。	毎回の授業時に指示する																																																																
5	食事摂取基準⑤	妊婦・授乳婦の付加量について。	毎回の授業時に指示する																																																																
6	栄養アセスメント①	栄養アセスメントの概要について。	毎回の授業時に指示する																																																																
7	栄養アセスメント②	各アセスメント方法について。	毎回の授業時に指示する																																																																
8	成長、発達、加齢①	誕生から思春期までの変化について。	毎回の授業時に指示する																																																																
9	成長、発達、加齢②	思春期から高齢期までの変化について。	毎回の授業時に指示する																																																																
10	妊娠期の生理的変化	妊娠期の生理的変化について。	毎回の授業時に指示する																																																																
11	妊娠期の栄養管理	妊娠期の栄養管理について。	毎回の授業時に指示する																																																																
12	新生児期の生理的変化	新生児期の生理的変化について。	毎回の授業時に指示する																																																																
13	新生児期の栄養管理	新生児期の栄養管理について。	毎回の授業時に指示する																																																																
14	母乳と母乳栄養	母乳と母乳栄養について。	毎回の授業時に指示する																																																																
15	離乳と離乳食	離乳と離乳食について。	毎回の授業時に指示する																																																																
関連科目	全ての専門コア科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定 第7版</td> <td>渡邊令子 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定 第7版	渡邊令子 編集	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定 第7版	渡邊令子 編集	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>授業中に実施する小テスト (50%)。 期末定期試験 (50%)。 ①小テスト+期末定期試験の総合点、②期末定期試験のいずれかの得点率が60%を下回る場合は再試験となります。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	一生懸命勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	8号館3階 教員室325																																																																		
備考																																																																			

科目名	応用栄養学Ⅲ	科目名 (英文)	Applied Nutrition III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3042a0		

授業概要・目的
 応用栄養学は、ライフステージとライフスタイルに応じた栄養管理について学びます。応用栄養学Ⅲでは、最初に学童期の生理的特徴と栄養管理について学びます。次に思春期の生理的特徴と栄養管理について学びます。3番目に成人期の生理的特徴と栄養管理について学びます。4番目に高齢期の生理的特徴と栄養管理について学びます。5番目に運動時の生理的変化と栄養管理について学びます。6番目にストレス時、高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境などの特殊環境下における生理変化と栄養管理について学びます。最後に、応用栄養学の総括をします。

- 到達目標
- ①学童期の生理的特徴と栄養管理について理解する。
 - ②思春期の生理的特徴と栄養管理について理解する。
 - ③成人期の生理的特徴と栄養管理について理解する。
 - ④高齢期の生理的特徴と栄養管理について理解する。
 - ⑤運動時の生理的変化と栄養管理について理解する。
 - ⑥特殊環境下における生理変化と栄養管理について理解する。
 - ⑦応用栄養学の全内容を総括的に理解し、説明できる。

授業方法と留意点
 主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学童期と思春期の生理的変化と栄養管理	学童期と思春期の生理的変化と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
2	成人期の生理的変化と栄養管理①	更年期の生理的変化と疾患について。	毎回の授業時に指示する
3	成人期の生理的変化と栄養管理②	更年期の栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
4	成人期の生理的変化と栄養管理③	成人期に発症しやすい生活習慣病と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
5	高齢期の生理的変化と栄養管理①	高齢期の生理的変化について。	毎回の授業時に指示する
6	高齢期の生理的変化と栄養管理②	高齢期に罹患しやすい疾患と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
7	高齢期の生理的変化と栄養管理③	フレイルとサルコペニアの特徴と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
8	運動と栄養①	筋肉の特徴と、運動による筋肉・呼吸器の応答について。	毎回の授業時に指示する
9	運動と栄養②	運動時における水分補給について。	毎回の授業時に指示する
10	運動・スポーツと栄養③	運動時における栄養補給について。	毎回の授業時に指示する
11	特殊環境と栄養①	ストレス時における生理的変化と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
12	特殊環境と栄養②	高温・低温環境下における生理的変化と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
13	特殊環境と栄養③	高圧・低圧環境下における生理的変化と栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
14	環境と栄養③	無重力環境下における生理的変化と栄養管理について。 災害時における栄養管理について。	毎回の授業時に指示する
15	応用栄養学Ⅲの総括	応用栄養学Ⅰ～Ⅲのまとめ。	毎回の授業時に指示する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定 第7版	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編集	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 授業中に実施する小テスト (50%)。期末定期試験 (50%)。
 ①小テスト+期末定期試験の総合点、②期末定期試験のいずれかの得点率が60%を下回る場合は再試験となる。

学生へのメッセージ
 一生懸命勉強してください。

担当者の研究室等
 8号館3階 教員室325

備考

科目名	応用栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Applied Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美, 織田 奈央子, 森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3043a0		

授業概要・目的	栄養管理の基礎となる考え方を理解し、一連の栄養管理プロセスを学ぶことにより、個人及び集団の栄養管理に必要な基本的技能を修得することを目的とする。応用栄養学で学んだライフステージごとの栄養管理を事例を用いて演習し、栄養管理プロセスの活用技術だけでなく、食品構成から献立作成などを含む一連の栄養管理プロセスの理解を深める。また、運動時の栄養管理では、運動時のエネルギー消費量の推定や運動処方について理解し、栄養処方技術の修得を目指す。																																																																		
到達目標	各ライフステージにおける栄養管理のあり方と、食事摂取基準に基づいた栄養管理の基本を修得する。																																																																		
授業方法と留意点	応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの教科書と配布プリントに基づき、実習を行う。項目ごとにレポート提出を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>応用栄養学実習の意義と進め方について</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新生児期・乳児期の栄養管理①</td> <td>調乳の実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新生児期・乳児期の栄養管理②</td> <td>離乳食の調理実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幼児期の栄養管理①</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>幼児期の栄養管理②</td> <td>食物アレルギー除去食の調理実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学童期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>思春期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>成人期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>妊娠期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>授乳期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>運動時の栄養管理①</td> <td>事例を基にした栄養管理演習、スポーツ競技者の食事の献立作成</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>運動時の栄養管理②</td> <td>スポーツ競技者の食事の調理実習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>高齢期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習、嚥下調整食の実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>災害時の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習、調理実習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括とディスカッション</td> <td>全体のまとめ</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	応用栄養学実習の意義と進め方について	毎回の授業時に指示する	2	新生児期・乳児期の栄養管理①	調乳の実習とその評価	毎回の授業時に指示する	3	新生児期・乳児期の栄養管理②	離乳食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する	4	幼児期の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	5	幼児期の栄養管理②	食物アレルギー除去食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する	6	学童期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	7	思春期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	8	成人期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	9	妊娠期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	10	授乳期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	11	運動時の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習、スポーツ競技者の食事の献立作成	毎回の授業時に指示する	12	運動時の栄養管理②	スポーツ競技者の食事の調理実習	毎回の授業時に指示する	13	高齢期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習、嚥下調整食の実習とその評価	毎回の授業時に指示する	14	災害時の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習、調理実習	毎回の授業時に指示する	15	総括とディスカッション	全体のまとめ	毎回の授業時に指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	応用栄養学実習の意義と進め方について	毎回の授業時に指示する																																																																
2	新生児期・乳児期の栄養管理①	調乳の実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
3	新生児期・乳児期の栄養管理②	離乳食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
4	幼児期の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
5	幼児期の栄養管理②	食物アレルギー除去食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
6	学童期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
7	思春期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
8	成人期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
9	妊娠期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
10	授乳期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
11	運動時の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習、スポーツ競技者の食事の献立作成	毎回の授業時に指示する																																																																
12	運動時の栄養管理②	スポーツ競技者の食事の調理実習	毎回の授業時に指示する																																																																
13	高齢期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習、嚥下調整食の実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
14	災害時の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習、調理実習	毎回の授業時に指示する																																																																
15	総括とディスカッション	全体のまとめ	毎回の授業時に指示する																																																																
関連科目	基礎栄養学、応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	配布プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>応用栄養学 改訂第7版 (健康・栄養科学シリーズ)</td> <td>渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>改定スタディ応用栄養学</td> <td>東条仁美 編著</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人の食事摂取基準 2020年版</td> <td>伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修</td> <td>第一出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	応用栄養学 改訂第7版 (健康・栄養科学シリーズ)	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編	南江堂	2	改定スタディ応用栄養学	東条仁美 編著	建帛社	3	日本人の食事摂取基準 2020年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	応用栄養学 改訂第7版 (健康・栄養科学シリーズ)	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編	南江堂																																																																
2	改定スタディ応用栄養学	東条仁美 編著	建帛社																																																																
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版																																																																
評価方法 (基準)	実習への取り組み (評価割合 50%) とレポート (評価割合 50%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	岸本 良美 (8号館 324) 森 美奈子 (8号館 225)																																																																		
備考																																																																			

科目名	栄養教育論 I	科目名 (英文)	Nutrition Education I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2044a0		

授業概要・目的	栄養教育の意義と栄養教育に必要な基礎知識と理論を学修することを目的とする。栄養士・管理栄養士が、我が国における栄養教育の進展、並びに国民の健康管理・増進に果たしてきた役割を学ぶとともに、現代人が抱えている食行動・食生活・食環境に関わる様々な課題を食行動変容の関りの面から理解する。これらの食の現状を踏まえ、栄養教育の意義、行動科学を中心とする理論、栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を習得する。また、栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感や職業倫理についても理解する。
到達目標	① 栄養教育の意義・特性について説明できる。 ② 栄養士の職務、職域、職業使命、職業倫理について説明できる。 ③ 人の食行動・食生活・食環境について理解している。 ④ 栄養状態の改善と食行動変容の関りについて説明できる。 ⑤ 行動変容の基礎となる行動科学の学習理論を説明できる。 ⑥ 栄養教育に活用する基礎知識が習得できている。 ⑦ 栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を理解している。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義中心に進めるが、グループワークやグループ討議、プレゼンテーション等のアクティブラーニング形式を取り入れる。指定されたテキストのページや配布資料を予習する。毎回、授業内容の理解を深める小テストや復習課題を課す。質疑応答の時間を授業内に設ける。授業時には、指定されたテキストを持参する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	栄養教育の概念 (1)	授業オリエンテーション、栄養教育の定義と目的について、国民の健康課題の現状を理解をする。(講義・グループワーク)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる
2	栄養教育の概念 (2)	栄養教育の対象と機会について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
3	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理について理解する。(講義・DVDの視聴・課題の復習)	事前：事前配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
4	栄養教育に必要な関係法規	栄養教育に必要な関係法規について法的知識を習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
5	行動科学理論と栄養教育 (1) ①～③	行動科学の定義と行動変容について理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習・小テスト)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
6	行動科学理論と栄養教育 (2) ④～⑥	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
7	行動科学理論と栄養教育 (3) ⑦～⑩	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
8	行動科学理論と栄養教育 (4) ⑪～⑭	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
9	行動科学理論と栄養教育 (5)	行動科学理論に基づく健康支援のプロセスを理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
10	栄養教育に活用する基礎知識 (1)	日本人の食事摂取基準の栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・小テスト・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
11	栄養教育に活用する基礎知識 (2)	食生活指針と食事バランスガイドの栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
12	栄養教育に活用する基礎知識	健康的な食生活管理に活用する知識を	事前：テキストの指定ページを読み、	

		識 (3)	習得する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる	
	13	栄養教育マネジメント (1)	栄養教育マネジメントの枠組み・アセス メントについて理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分から ない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)	
	14	栄養教育マネジメント (2)	健康・食物摂取状況のアセスメントの調 査方法について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる	
	15	栄養教育マネジメント (3)	個人要因や環境要因のアセスメントや 優先課題の特定について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・小テスト)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる	
関連科目	栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版		武見ゆかり他	南江堂
	2	改定フローチャートで学ぶ栄養教育論実習 (第2版)		橘ゆかり・森美奈子	建帛社
	3	日本人の食事摂取基準 2020年版		佐々木敏	第一出版
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	2024年版 栄養士実力認定試験過去問題集		一般社団法人 全国栄養士養成施 設協会	建帛社
	2	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022		医療情報科学研究所	メディックメディア
	3				
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、小テスト (10%) 定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。				
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、人々の健康づくりを支援するために、徹底的に対象者の方の立場になって考え、貢献できる人となることが求められます。この授業を通じて学んだことを日々の生活や今後の人生にも役立てて欲しいと思っています。楽しく前向きな気持ちで、授業に取り組みましょう！				
担当者の 研究室等 備考	8号館2階				

科目名	栄養教育論Ⅱ	科目名 (英文)	Nutrition Education II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF3045a0		

授業概要・目的	個人・集団のライフステージ特性を踏まえ、適正な食生活支援を行う方法論を学修することを目的とする。具体的には、個人対象には栄養カウンセリングやコーチング技法により食行動を把握・評価し、行動目標設定・実践・習慣化を支援し食行動の変容に導くための行動療法の理論を学修する。また、集団対象では共通課題解決に向け、プログラム立案・実施・評価の後、汎用性のあるプログラムの活用法を学修する。ライフステージ別に人々の食行動・食環境の解析、適切な栄養評価・診断を行い、対象者の自覚を促しつつ個人要因の行動変容、食環境整備へと繋ぐ栄養教育の方法論を修得する。
到達目標	① ライフステージとライフスタイル別の栄養教育の特性を説明できる。 ② 対象者の課題解決のための手法を推論できる。 ③ 対象者の課題解決のための栄養教育を栄養ケアマネジメントに適用できる。 ④ 栄養教育に必要なコミュニケーション力を獲得する。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義を進めるが、質疑応答、グループ討議などの時間を設ける。毎回、予復習プリントを配布するので、指定されたテキストのページを予習し、授業内容の概要を復習する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養カウンセリングⅠ	カウンセリングの基本 (授業オリエンテーション・講義・グループワーク)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
2	栄養カウンセリングⅡ	栄養カウンセリングの特徴と基本姿勢 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
3	栄養カウンセリングⅢ	栄養カウンセリングの実際 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
4	栄養教育に必要なスキル	栄養教育に必要なスキル コミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキル (講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
5	集団を対象とした栄養教育	集団を対象とした栄養マネジメントサイクル (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
6	情報へのアクセスと栄養教育	ソーシャルマーケティングを活用した栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
7	ライフステージ別栄養教育Ⅰ	妊娠・授乳期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
8	ライフステージ別栄養教育Ⅱ	乳幼児期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
9	ライフステージ別栄養教育Ⅲ	学童期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
10	ライフステージ別栄養教育Ⅳ	思春期の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
11	ライフステージ別栄養教育Ⅴ	成人期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
12	ライフステージ別栄養教育Ⅵ	高齢期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
13	ライフステージ別栄養教育Ⅶ	傷病者の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
14	ライフステージ別栄養教育Ⅷ	障がい者の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
15	ライフステージ別栄養教育Ⅸ	アスリートの栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる

関連科目 栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社	
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版	

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2	栄養カウンセリング論	赤松利恵	化学同人
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、復習テスト (10%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位修得条件です。			
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、対象者の健康支援者として、縁の下の力持ち的な役割を担っています。対象者への理解を深めるためには、日頃の学生生活でも周囲の人とコミュニケーションを良く図り、お互いに助け合う精神を培いましょう。専門職業人としての心構えを授業や生活を通して学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	8号館2階			

科目名	栄養教育論Ⅱ	科目名 (英文)	Nutrition Education II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF3045a0		

授業概要・目的	個人・集団のライフステージ特性を踏まえ、適正な食生活支援を行う方法論を学修することを目的とする。具体的には、個人対象には栄養カウンセリングやコーチング技法により食行動を把握・評価し、行動目標設定・実践・習慣化を支援し食行動の変容に導くための行動療法の理論を学修する。また、集団対象では共通課題解決に向け、プログラム立案・実施・評価の後、汎用性のあるプログラムの活用法を学修する。ライフステージ別に人々の食行動・食環境の解析、適切な栄養評価・診断を行い、対象者の自覚を促しつつ個人要因の行動変容、食環境整備へと繋ぐ栄養教育の方法論を修得する。
到達目標	① ライフステージとライフスタイル別の栄養教育の特性を説明できる。 ② 対象者の課題解決のための手法を推論できる。 ③ 対象者の課題解決のための栄養教育を栄養ケアマネジメントに適用できる。 ④ 栄養教育に必要なコミュニケーション力を獲得する。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義を進めるが、質疑応答、グループ討議などの時間を設ける。毎回、予復習プリントを配布するので、指定されたテキストのページを予習し、授業内容の概要を復習する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養カウンセリングⅠ	カウンセリングの基本 (授業オリエンテーション・講義・グループワーク)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
2	栄養カウンセリングⅡ	栄養カウンセリングの特徴と基本姿勢 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
3	栄養カウンセリングⅢ	栄養カウンセリングの実際 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
4	栄養教育に必要なスキル	栄養教育に必要なスキル コミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキル (講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
5	集団を対象とした栄養教育	集団を対象とした栄養マネジメントサイクル (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
6	情報へのアクセスと栄養教育	ソーシャルマーケティングを活用した栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
7	ライフステージ別栄養教育Ⅰ	妊娠・授乳期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
8	ライフステージ別栄養教育Ⅱ	乳幼児期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
9	ライフステージ別栄養教育Ⅲ	学童期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
10	ライフステージ別栄養教育Ⅳ	思春期の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
11	ライフステージ別栄養教育Ⅴ	成人期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
12	ライフステージ別栄養教育Ⅵ	高齢期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
13	ライフステージ別栄養教育Ⅶ	傷病者の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
14	ライフステージ別栄養教育Ⅷ	障がい者の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
15	ライフステージ別栄養教育Ⅸ	アスリートの栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる

関連科目 栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社	
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版	

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2	栄養カウンセリング論	赤松利恵	化学同人
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、復習テスト (10%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位修得条件です。			
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、対象者の健康支援者として、縁の下の力持ち的な役割を担っています。対象者への理解を深めるためには、日頃の学生生活でも周囲の人とコミュニケーションを良く図り、お互いに助け合う精神を培いましょう。専門職業人としての心構えを授業や生活を通して学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	8号館2階			

科目名	栄養教育論Ⅲ	科目名 (英文)	Nutrition Education III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3046a0		

授業概要・目的	PDCA マネジメントを活用した栄養教育マネジメントと情報解析の修得を目的とする。具体的には、栄養教育実施にむけて健常学生を対象者のモデルとして、日常生活の食物摂取・生活活動・身体活動状況等の基礎情報を収集して評価判定を実施し、データ解析をする。これらの解析にあたり、データ入力・統計処理に関する方法を学ぶことにより、食生活を含む生活診断・評価を行い、科学的根拠に基づく課題解決を促す個別の栄養教育マネジメントを身につける。
到達目標	① 個人を対象とした栄養教育マネジメントの手法を理解する。 ② 栄養教育に必要な情報収集の手法を修得する。 ③ 収集した情報のデータ解析ができる。 ④ 科学的根拠に基づいた個人の栄養教育が立案できる。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義を進めるが、演習プリントも配布し、質疑応答、グループ討議などの時間を設ける。毎回、予復習プリントを配布するので指定されたテキストのページを予習し、授業内容の概要を復習する。パソコンを多く用いる。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格の取得に係る科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	栄養スクリーニングの方法	主観的栄養アセスメントの方法 (授業オリエンテーション・グループワーク・グループ討議)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
2	栄養アセスメントの方法Ⅰ	客観的栄養アセスメントと情報収集方法 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
3	栄養アセスメントの方法Ⅱ	データ解析食事調査 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
4	栄養アセスメントの方法Ⅲ	データ解析：生活活動調査 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
5	栄養アセスメントの方法Ⅲ	データ解析：身体状況調査 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
6	栄養アセスメントの方法Ⅳ	食事摂取基準を用いた評価：推定と統計 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
7	栄養アセスメントの方法Ⅴ	男女差や BMI 区分による差の検定 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
8	栄養アセスメントの方法Ⅵ	エネルギー摂取量と各栄養素摂取量の関係 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
9	栄養アセスメントの方法Ⅶ	調査結果の比較：要因係数データの検定 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
10	栄養教育の目標設定	優先課題の特定と目標設定 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
11	栄養教育の計画立案	個人の課題解決のための栄養教育計画立案 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
12	栄養教育の実施	個人を対象とした栄養教育の実施と情報の整理・共有 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
13	栄養教育の結果評価	教育前後の変化 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
14	栄養教育マネジメントの評価Ⅰ	経過評価・影響評価 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
15	栄養教育マネジメントの評価Ⅱ	総合評価・経済評価 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む

関連科目	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論実習
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
	2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社
	3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (50%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位修得条件です。			
学生への メッセージ	管理栄養士は、専門職業人として、エビデンスのある栄養教育の知識や技術が求められます。正しい情報を入力し、評価し、分析することは、とても重要です。この科目の学びで、専門職業人としての自覚をもって歩んでいく契機になるように努めましょう。			
担当者の 研究室等	8号館2階			
備考				

科目名	栄養教育論実習	科目名 (英文)	Practice in Nutrition Education
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子・新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3047a0		

授業概要・目的
 管理栄養士の主要職務となる対象者を支援するための個別・集団栄養教育の方法を行動科学やカウンセリングなどの理論と応用のスキルを実習を通して修得することを目的とする。具体的には、個別栄養教育では、対象者の食生活実態を把握し、課題抽出・解決にむけての栄養教育計画を立案し、対象者自らの行動修正・変容へ導くために栄養カウンセリングやコーチングの技術を用いてロールプレイングをする。集団栄養教育では、グループ実習により対象集団の食生活をアンケート調査、データ解析 (統計処理) を経て実態把握のもと優先課題を抽出し、プライマリヘルスケアに向けての栄養教育プログラムを作成する。さらに、各ライフステージに応じた栄養教育を効果的に行うための指導媒体の作成やプレゼンテーションを行い、管理栄養士に求められる総合マネジメントの能力を身につけることを目標とする。

- 到達目標**
- ① 対象者の課題解決にむけての栄養教育計画の立案ができる。
 - ② カウンセリングとコーチングの技術を用いてロールプレイングができる。
 - ③ アンケート調査の分析と統計処理ができる。
 - ④ ライフステージごとの指導媒体の作成と効果的な栄養教育のプレゼンテーションができる。
 - ⑤ 栄養教育の PDCA マネジメントの基礎スキルを習得している。

授業方法と留意点
 ・毎回の授業を PDCA マネジメントに沿って実施する。
 ・アクティブラーニング形式の授業で、グループごとの演習、討議、発表、相互評価なども行なう。
 ・パソコンを多く使用する。

科目学習の効果 (資格)
 栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養教育とアセスメント	授業オリエンテーション 個人のアセスメントの実施と身体活動状況の把握	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
2	個人面接法	カウンセリングとコーチング技法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
3	ロールプレイング実習	ロールプレイングと面接記録方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
4	集団面接方法	集団面接技法の修得 インタビューガイドの作成とインタビューの実施、記録の作成と分析	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
5	情報の収集と利用	栄養教育の情報リテラシーとエビデンスの検索	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
6	アンケート調査	アンケート票の作成と実施、データ解析	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
7	優先課題の特定と目標設定	優先課題の特定方法と目標設定の技法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
8	栄養教育プログラムの作成	栄養教育プログラム案の作成と企画評価	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
9	栄養教育教材の選択と作成	栄養教育教材作成案の作成と教材作成	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
10	栄養教育プレゼンテーション	栄養教育教材を用いたプレゼンテーションのトレーニング	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
11	集団栄養教育	集団栄養教育技法のトレーニング	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
12	行動変容技法	行動変容技法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
13	栄養教育評価と見直し	栄養教育評価方法の種類とフィードバック方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
14	小児期の栄養教育	小児期の栄養教育方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
15	成人期・高齢期の栄養教育	成人期・高齢期の栄養教育方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる

関連科目 栄養教育論 I・II・III

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 課題提出 (80%)、プレゼンテーション等実習技能・態度 (20%)
 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位習得条件です。

学生へのメッセージ
 栄養教育論実習では、自分自身やクラスメートを対象者のモデルとして、実践的な栄養教育のトレーニングをします。栄養士・管理栄養士としての職業使命感や倫理観も身につけていただきます。個人情報の守秘義務や倫理上のルールをしっかりと守って授業に参加してください。

担当者の研究室等
 8号館 2F

備考

科目名	臨床栄養学 I	科目名 (英文)	Clinical Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2048a0		

授業概要・目的	臨床栄養学の意義と目的、及び臨床現場における管理栄養士の業務内容、栄養管理の方法などを通して、臨床栄養学の概念の修得を目的とする。具体的には、チーム医療、NST (栄養サポートチーム) における管理栄養士業務と多職種連携の概要、対象者の栄養状態を評価・判定する栄養評価法、栄養介入計画の立案・実施、モニタリング、再評価の PDCA に沿った栄養管理法である栄養管理プロセスの流れを理解する。また、外来や入院患者に対する栄養教育の方法や、栄養ケア記録 (PES)、問題志向型システム (POS) を用いた栄養カルテの記載方法について修得する。さらに、医療制度及び介護保険制度について学修する。
到達目標	① 臨床における栄養ケアプロセスの意義と目的を理解し、説明できる。 ② 栄養ケアプロセスの手法である、栄養状態の把握 (アセスメント)、問題点の発見、問題解決するためのケアプランの作成 (栄養補給計画、栄養教育計画、他職種との連携など)、実践と経過観察 (ケア記録の作成) など、それぞれの項目について知識と技術を理解し、説明できる。 ③ 医療・介護保険制度について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布する。予習を重要視した授業形式とし、復習確認として、小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	臨床栄養学の概念	臨床栄養学の概念、意義と目的について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
2	医療と臨床栄養	医療での管理栄養士の役割と職業倫理、クリニカルパスと栄養ケア、チーム医療について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
3	小テスト、医療制度の概念	医療制度の基本と診療報酬制度について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
4	介護保険制度の概念	介護制度の基本と介護報酬制度について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
5	小テスト、栄養スクリーニングとアセスメント (臨床診査)	スクリーニングとアセスメントの種類、臨床診査項目について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
6	栄養アセスメント (身体計測)	アセスメントを行うための身体計測、食事調査の種類と評価法について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
7	小テスト、栄養アセスメント (臨床検査)	臨床検査値の概略について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
8	栄養ケアプラン (必要量決定法)	栄養ケアプランを立てるための必要量の決め方について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
9	栄養ケアプラン (必要量決定の実際)	栄養ケアプランを立てるための必要量決定の実際について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
10	栄養補給法 (経口栄養)	病院給食について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
11	栄養補給法 (経腸栄養)	経腸栄養法の考え方と適応について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
12	栄養補給法 (経静脈栄養)	経静脈栄養法の考え方と適応について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
13	小テスト、栄養療法による合併症および副作用について	経腸栄養療法、静脈栄養療法による合併症とその予防について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
14	栄養障害傷病者・要介護者への栄養教育	過栄養傷病者および要介護者への栄養教育について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
15	小テスト、栄養ケアの記録	栄養ケア記録の意義、問題志向型システム (POS) について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)

関連科目	基礎栄養学、臨床医学概論、臨床病態学、応用栄養学等 栄養系科目全般
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カレント 臨床栄養学 第4版	明渡 陽子ほか	建帛社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践 臨床栄養	東口 高志	医学書院
2				

	3		
評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	これまでに学んできた代謝や人体で営まれる正常な機能と結び付けて理解する必要があります。暗記だけでなく、理解するように心がけてください。		
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 1 研究室 (百木、219)、第 2 研究室 (畦西、220)		
備考	小テスト等で電卓が必要です。		

科目名	臨床栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2049a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学Ⅰ」で修得した栄養管理プロセスの基礎知識を基に、各器官系の代表的な疾患に対する栄養学的な病態の理解、及び栄養評価・栄養に関連する問題の抽出、栄養介入計画（栄養補給法を考慮した栄養学的治療法と栄養教育法を含む）の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理法の修得を目的とする。 代謝系疾患を中心に栄養学的に病態を理解し、疾患に基づいた栄養管理プロセスの修得を目的とする。具体的には、栄養障害、肥満・代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患、筋・骨格系疾患、小児・妊産婦疾患の病態に対応する適切な栄養管理のための知識とその方法を修得する。
到達目標	① 疾患毎の病態および食事療法の理論について説明することができる。 ② 疾患の予防治療のための栄養管理および栄養教育方法を考えることができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿って講義を行い、必要に応じて資料を配布する。予習を重要視した授業形式とし、復習確認として、講義前に小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、栄養障害	たんぱく質エネルギー栄養障害 (PEM) について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
2	肥満	肥満症、メタボリックシンドロームについて	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
3	糖尿病	糖尿病の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
4	脂質異常症	脂質異常症の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
5	小テスト、高尿酸血症・尿路結石	高尿酸血症、痛風の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
6	内分泌疾患	甲状腺疾患等の内分泌疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
7	循環器疾患 (虚血性心疾患)	動脈硬化症、虚血性心疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
8	循環器疾患 (うっ血性心不全)	うっ血性心不全の食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
9	小テスト、腎疾患 (糸球体腎炎・ネフローゼ症候群)	腎疾患の概略と糸球体腎炎、ネフローゼの食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
10	腎疾患 (糖尿病性腎症・CKD)	糖尿病性腎症、CKDの概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
11	腎疾患 (透析)・呼吸器疾患	透析療法の概略と食事療法について COPD、喘息等の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
12	小テスト、筋・骨格系疾患	筋・骨格系疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
13	血液系疾患	貧血、出血性疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
14	乳幼児疾患	乳幼児特有の疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
15	妊産婦疾患	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)

関連科目	臨床医学概論、臨床病態学、基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学1、3、4
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カレント 臨床栄養学 第4版	明渡 陽子ほか	建帛社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	これまでに学んできた代謝や人体で営まれる正常な機能と結び付けて理解する必要があります。 暗記だけでなく、理解するように心がけてください。 臨床栄養学分野はガイドライン等の改訂が頻繁に行われますので、教科書は必ず最新のものをご購入してください。
担当者の 研究室等 備考	8 号館 2 階 臨床栄養学第 1 研究室

科目名	臨床栄養学Ⅲ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3050a0		

授業概要・目的	各器官系の代表的な疾患に対する栄養学的な病態の理解ならびに栄養管理プロセスの理解を深め、栄養評価・栄養に関連する問題の抽出、栄養介入計画（栄養補給法を考慮した栄養学的治療法と栄養教育法を含む）の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理法の修得を目的とする。消化器系疾患を中心に栄養学的に病態を理解し、疾患に基づいた栄養管理プロセスの修得を目的とする。具体的には、胃・十二指腸潰瘍および炎症性腸疾患などの胃腸疾患、肝炎および肝硬変などの消化器疾患、咀嚼・嚥下機能低下を伴う口腔疾患、悪性腫瘍、術前・術後周術期の病態に対応する適切な栄養管理のための知識とその方法を修得する。
到達目標	① 低栄養に陥る消化器疾患、癌、高齢期疾患などの栄養学的な病態および食事療法の理論を理解できる。 ② 総括的な栄養管理プロセスについて理解ができ、栄養教育（栄養指導）に結びつけることができる。 ③ 各疾患の栄養評価、栄養管理計画および栄養介入（栄養補給法）の知識を修得する。 ④ 各疾患の栄養モニタリングと栄養管理の評価について、理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布します。予習を重要視した授業形式とし、事前学習としてオンデマンドによる講義およびテキスト学習を行う。また、復習確認として、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。状況に応じて、Teams、Formsを使用した遠隔授業（双方型）に切り替える。
科目学習の効果（資格）	臨床栄養学Ⅲは管理栄養士国家試験において広範囲から出題されている。また、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱの発展的な内容が多いことから、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱの復習を兼ねて授業を進めていく。今後の病院臨床実習に必要な病態と栄養に関する知識や技術を修得するために重要科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養診断と栄養介入	栄養アセスメントに基づいた栄養状態の判定と栄養療法介入後の再評価	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
2	低栄養と原因疾患 小テスト	低栄養に関わる摂食・嚥下障害、認知症、サルコペニア、褥瘡、癌、肝硬変、短腸症候群、熱傷などの病態栄養と栄養管理	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
3	摂食障害 小テスト	神経性食欲不振症、神経性大食症の病態栄養、栄養管理および食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
4	褥瘡 小テスト	褥瘡の定義および病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
5	フレイルティ（虚弱）・サルコペニアおよび認知症 小テスト	フレイルティ（虚弱）、サルコペニア、認知症の定義および病態栄養、および食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
6	摂食・嚥下障害 小テスト	摂食・嚥下障害の定義および病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
7	消化器疾患 胃・十二指腸潰瘍、下痢、便秘 小テスト	胃・十二指腸潰瘍、下痢、便秘の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
8	消化器疾患 炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎） 小テスト	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
9	消化器疾患 肝炎、脂肪肝 小テスト	肝炎、脂肪肝の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
10	消化器疾患 肝硬変 小テスト	肝硬変の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
11	消化器疾患 急性膵炎、慢性膵炎、胆石症、胆嚢炎 小テスト	急性膵炎、慢性膵炎、胆石症、胆嚢炎の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
12	手術、周術期 食道癌・胃癌の術前、術後 小テスト	食道癌および胃癌の術前、術後の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
13	クリティカルケア 外傷、熱傷など 小テスト	クリティカルケア（外傷、熱傷など）の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
14	癌治療（化学療法・放射線治療）および癌緩和ケア・終末期ケア 小テスト	化学療法・放射線治療および癌緩和ケア・終末期ケアの病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)

	15	「臨床栄養学Ⅲ」のまとめ	各疾患・病態の栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
関連科目	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅰ、基礎栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、臨床病態学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブックス新訂臨床栄養学〔第5版〕	田中明、加藤昌彦 編著	建帛社
	2	カレント臨床栄養学〔第4版〕	明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治 編著	建帛社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	4日以上欠席で単位不認定とする。また、遅刻または早退した場合は、3回につき欠席1回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業後に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかりと行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。			
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室 (220)			
備考				

科目名	臨床栄養学Ⅳ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition Ⅳ
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3051a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で修得した栄養管理法の基礎知識を基に、臨床現場における管理栄養士の業務内容の実際を修得することを目的とする。疾患に対して、栄養管理に必要な情報収集、栄養評価、栄養診断、栄養介入、モニタリング・再評価といった栄養ケアマネジメントを修得する。また、症例検討により、メタボリックシンドローム、2型糖尿病、糖尿病性腎症、脂質異常症、虚血性心疾患、高血圧、CKD、非代償期肝硬変、食道癌術後、胃癌術後、脳卒中、褥瘡などの病態に対する適切な栄養ケアマネジメントについて修得する。
到達目標	① 各疾患における病態や栄養生理および代謝と栄養管理について理解できる。 ② 各疾患における病態に応じた適切な栄養療法について理解できる。 ③ 傷病者・介護者の栄養管理や経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈について理解できる。 ④ 症例に基づいた各疾患における食事療法および栄養管理を計画・実施できる能力を身につける。 ⑤ NSTにおける管理栄養士の役割について理解し、臨床栄養の知識を修得する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布します。予習を重要視した授業形式とし、事前学習としてオンデマンドによる講義およびテキスト学習を行う。また、復習確認として、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	臨床栄養学Ⅳは管理栄養士国家試験において広範囲から出題されている。また、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの発展的な内容が多いことから、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習を兼ねて授業を進めていく。今後の病院臨床実習に必要な病態と栄養に関する知識や技術を修得するために重要科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	メタボリックシンドロームの栄養ケアマネジメント	メタボリックシンドロームの症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
2	2型糖尿病の栄養ケアマネジメント、小テスト、小テスト	2型糖尿病の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
3	糖尿病性腎症の栄養ケアマネジメント、小テスト	糖尿病性腎症の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
4	脂質異常症の栄養ケアマネジメント、小テスト	脂質異常症の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
5	虚血性心疾患の栄養ケアマネジメント、小テスト	虚血性心疾患の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
6	高血圧の栄養ケアマネジメント、小テスト	高血圧の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
7	慢性糸球体腎炎の栄養マネジメント、小テスト	慢性糸球体腎炎の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
8	末期腎不全の栄養ケアマネジメント、小テスト	末期腎不全の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
9	肝硬変・肝不全の栄養ケアマネジメント、小テスト	肝硬変・肝不全の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
10	潰瘍性大腸炎・クローン病の栄養ケアマネジメント、小テスト	潰瘍性大腸炎・クローン病の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
11	食道癌の栄養ケアマネジメント、小テスト	食道癌の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
12	胃癌の栄養ケアマネジメント、小テスト	胃癌の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
13	脳卒中の栄養ケアマネジメント、小テスト	脳卒中の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
14	褥瘡の栄養ケアマネジメント、小テスト	褥瘡の症例に基づいた栄養管理と栄養食事指導	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
15	「臨床栄養学Ⅳ」のまとめ	各疾患・病態の栄養ケアマネジメント	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(1時間)

				学修した内容をノートにまとめて整理する。(1時間)
関連科目	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、応用栄養学Ⅰ、基礎栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、臨床病態学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	臨床栄養教育トレーニングテキスト 症例から学ぶ栄養ケア	本田佳子 編者	医歯薬出版株式会社
	2	ブックス新版臨床栄養学〔第5版〕	田中明、加藤昌彦 編著	建帛社
	3	カレント臨床栄養学〔第4版〕	明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治 編著	建帛社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	4日以上の欠席で単位不認定とする。また、遅刻または早退した場合は、3回につき欠席1回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業後に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかりと行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。			
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室 (220)			
備考				

科目名	栄養薬理学	科目名 (英文)	Nutritional Pharmacology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3052a0		

授業概要・目的	「栄養薬理学」は、管理栄養士として医療現場で汎用される医薬品や経腸経腸栄養に必要な経腸及び経静脈栄養剤について学修する。たとえば、NST (栄養サポートチーム) の一員として実施する栄養管理や栄養指導などにおいて、薬物療法に使用される基本的な医薬品の薬理作用や、経腸・経静脈栄養剤に関する薬剤情報は必要な基礎知識である。本講義では、特に生活習慣病の薬物療法に使用されている医薬品、並びに経腸経腸栄養法に使用される主な経腸・経静脈栄養剤の適正使用に関する知識、栄養管理に必要な食品と薬物との相互作用についての情報などを修得することを目的とする。
到達目標	① NSTにおける管理栄養士の役割について概説できる。 ② 生活習慣病における食事・運動の修正項目について概説できる。 ③ 医薬品と食べ物との相互作用の例を挙げて説明できる。 ④ 経腸・経静脈栄養法の知識を身につける。 ⑤ 生活習慣病の薬物療法に汎用される医薬品についての知識を身につける。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行い、必要に応じてDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。各講義前に、事前学習で閲読した教科書の内容についての理解度確認テスト (15%) 及び、授業後に授業内容の理解度確認テスト (15%) を moodle で実施する。事後学習では、授業のふりかえりレポート (10%) を moodle に提出する。定期試験を実施する。 ※moodleを使用するため、各自のスマートフォンなどのデバイスを十分充電してきてください。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格に必要な科目の一つです。 臨床栄養学での経腸栄養や経静脈栄養に関係する科目であり、生活習慣病の薬物治療も学べます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1章 薬理学の基礎知識	・ガイダンス、薬理学の基礎知識 ・理解度確認テスト I (授業前) 及び II (授業後) の実施 (moodle)	・事前学習: 教科書 (教) p1~41 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出 (moodle)
2	第2章 食べ物と医薬品の相互作用	・薬物代謝酵素と各種食材、納豆類や高カリウム含有食材とワルファリンの薬効変化などを学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p42~56 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
3	第3章 さまざまな疾患に利用される治療薬	・抗炎症薬、狭心症などの治療薬について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p57~71 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
4	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療①	・1型糖尿病について、インスリン療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p72~81 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
5	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療②	・2型糖尿病について、経口血糖降下薬およびインスリン療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p72~81 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
6	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療③	・脂質異常症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p82~88 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
7	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療④	・高血圧症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p88~99 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
8	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療⑤	・高尿酸血症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p100~107 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
9	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療⑥	・骨粗しょう症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p107~116 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
10	・食事・運動などの生活習慣修正項目について	・各種生活習慣病の食事・運動などの生活習慣における修正項目について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 指定された資料を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
11	第5章経腸栄養剤 ・経腸栄養法及び経静脈栄養について I	・経腸栄養法について学ぶ。 ・経腸栄養ルートとそれらの特徴 ・中心静脈栄養法と末梢静脈栄養法の各特徴について ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p117~123 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
12	第5章経腸栄養剤 ・経腸栄養法について II	・経腸輸液 (栄養剤) と濃厚流動食などの種類、特徴及び投与方法を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p123~147 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
13	第5章経腸栄養剤 ・経静脈栄養について III	・病態別栄養剤について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p148~163 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
14	第6章経静脈栄養の基礎輸液に関する基本的知識 I	・輸液の目的、輸液成分、浸透圧、身体の構成成分及び電解質の役割について学ぶ。 ・中心静脈栄養法と末梢静脈栄養法の各特徴について ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p164~180 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
15	第6章経静脈栄養の基礎輸液に関する基本的知識 II	・栄養輸液の背景と実際 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 指定された資料を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出

関連科目	臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、薬理学、管理栄養士総合演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養薬理学	田中芳明・中村 強 編	建帛社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学〔第3版〕	中嶋敏勝 編	医歯薬出版
	2	薬理学テキスト	佐藤 進 編	廣川書店
	3			
評価方法 (基準)	各講義前に、①事前学習で閲読した教科書の内容についての理解度確認テスト(15%)、授業後に授業内容の理解度確認テスト(15%)を実施する。事後学習ではふりかえりレポート(10%)を提出する。毎回実施するこれらの評価点(15回：合計評価割合40%)および定期試験(評価割合60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	毎回の授業では、事前学習、事後学習を実行することで、管理栄養士が必要な薬物に関する知識が身につけてきます。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	臨床栄養学実習 I	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	百木 和, 中田 恵理子, 日比 裕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2053a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学 I・II」の講義で修得した治療食や疾患別栄養管理の考え方を基に、臨床現場における治療食の実際について修得することを目的とする。臨床栄養管理における栄養補給法や食品構成に基づく献立作成、発注、調理を行い、成分栄養別治療食の食事療法の実際を学修する。具体的には、展開食の基本を理解した上で、常食から軟菜食・エネルギーコントロール食・たんぱく質コントロール食への展開および食物アレルギー食、嚥下調整食の実際について学修する。さらに、治療食の食事療法に用いられる特別治療用食品の実際についても学修する。
到達目標	① 成分栄養別治療食の食事療法を理解する。 ② 食品構成、指示栄養素量に基づく治療食の献立作成を行うことができる。
授業方法と留意点	・個別あるいはグループワークでの取り組みを主体とする実習および講義（ビデオ、スライド含む）により行う。 ・1回あたり1.5コマ（135分授業）[3時間]×15回=計45時間の授業とする。授業内容により、3コマ[6時間]で実施する回がある。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実習の進め方、確認テスト 治療食の概要	実習のオリエンテーション、治療食の概要	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
2	一般治療食の概要	一般治療食の概要と展開食献立作成の際の注意点	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
3	展開食の献立作成	展開食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
4	栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
5	軟菜食調理	全粥、軟菜食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
6	小テスト、エネルギーコントロール食（EC食）の概要	成分栄養別治療食の概要と糖尿病食品交換表	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
7	EC食の献立作成	エネルギーコントロール食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
8	EC食の栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
9	EC食の調理	エネルギーコントロール食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
10	小テスト、たんぱく質コントロール食（PC食）の概要	たんぱく質コントロール食の概要と腎臓病食品交換表	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
11	PC食の献立作成	たんぱく質コントロール食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
12	PC食の栄養価調整	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
13	PC食の栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
14	PC食の調理	たんぱく質コントロール食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
15	食物アレルギー対応食、嚥下調整食の実際と調理	食物アレルギーの概要と対応食、嚥下調整食の実際	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う

関連科目	調理学、給食経営管理論、臨床栄養学1、2、3、4
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本食品成分表 2021 八訂		医歯薬出版
2	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版		日本糖尿病学会	
3	腎臓病食品交換表 第9版	黒川 清監修、中尾 俊之他 編	医歯薬出版	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。 遅刻3回で1日欠席とする。5日以上欠席で単位不認定とする。 課題60%、小テスト20%、授業への取り組み(ルーブリック評価)20%により評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	治療食の献立作成、調理は、疾患ごとに使える食材に制限があり、通常の調理とは異なる点が多々あります。 臨床栄養学の講義で学んだ内容を復習して臨んでください。
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第1研究室(219)
備考	食品成分表は、改訂に伴って成分値の変更があるため、調理学実習で購入しているものや中古のもので兼用せずに購入してください。 電卓が必須です。調理のためのベーシックデータ(調理学実習で購入済)を持参してください。

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	百木 和, 中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3054a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の講義で修得した栄養管理プロセスや疾患別栄養管理の考え方を基に、臨床現場における管理栄養士の業務内容や栄養管理手法の実践について修得することを目的とする。臨床栄養管理における栄養管理プロセスに用いられる手法である臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査法、必要栄養量の算定方法、栄養補給法の検討や疾患に応じた栄養指導など、それぞれの実習を通して、臨床現場において管理栄養士が身につけるべき技術の実践について学修する。
到達目標	栄養ケアプロセスに必要な技術を理解し、活用できる。
授業方法と留意点	個別あるいはグループワークでの取り組みを主体とする実習および講義（ビデオ、スライド含む）により行う。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実習の進め方 栄養スクリーニングの実践	実習のオリエンテーション、栄養スクリーニング (SGA, MNA) の実践	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
2	栄養アセスメントの実践	栄養アセスメント (ODA) の実践	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
3	身体計測の実践	身体計測の手法と評価法	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
4	食事調査法の実践	食事調査法の概要と自身の食事記録からの栄養価計算	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
5	食事結果からの評価法	栄養価計算結果を基にした対象者の評価	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
6	臨床検査、必要量の算出方法	症例を用いた臨床検査値の評価、必要栄養量の考え方	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
7	輸液、栄養剤の考え方	静脈栄養、経腸栄養の考え方と使われる製剤の種類	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
8	栄養管理計画作成①	脂質異常症症例の栄養管理計画作成	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
9	栄養管理計画作成②と発表	脂質異常症症例の栄養管理計画作成および発表	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
10	症例提示、検討①	ロールプレイに向けて症例提示 (代謝、内分泌、消化器、循環器疾患)、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
11	指導媒体作成	媒体作成、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
12	模擬栄養指導①	個別栄養指導のロールプレイ①	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
13	症例提示、検討②	ロールプレイに向けて症例提示 (糖尿病、脂質異常症、腎、呼吸器疾患)、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
14	指導媒体作成②	媒体作成、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
15	模擬栄養指導②	個別栄養指導のロールプレイ② (患者役と栄養士役入れ替え)	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。

関連科目 基礎栄養学、臨床医学概論、臨床病態学、応用栄養学等 栄養系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践 臨床栄養	東口 高志	医学書院
2	カレント 臨床栄養学	明渡 陽子ほか	建帛社	
3				

評価方法 (基準)	各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。 遅刻 3回で1日欠席とする。5日以上の欠席で単位不認定とする。 課題 60%、小テスト 20%、授業への取り組み (ループリック評価) 20%により評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	2年次前期 臨床栄養学Ⅰの講義で学習した内容を実践する内容です。 しっかり復習をして、臨んでください。
担当者の研究室等	8号館2階 219研究室
備考	

科目名	臨床栄養学実習Ⅲ	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畦西 克己, 織田 奈央子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3055a0		

授業概要・目的	臨床栄養学Ⅱ～Ⅳで修得した病態や栄養状態に基づいた栄養管理法を修得することを目的とする。臨床栄養学実習Ⅱで修得した栄養評価手法を用いて、栄養アセスメントと栄養診断、栄養介入の技術を学修する。各種栄養療法（経口栄養・経腸栄養・静脈栄養）の特徴と実施方法、栄養状態の評価・判定、栄養介入計画の立案・実施、モニタリングや再評価という一連の栄養管理プロセスおよび各種疾患における栄養管理法を修得する。具体的には、食道癌術後、胃癌術後、非代償期肝硬変、クローン病再燃といった消化管疾患などのエネルギーたんぱく質欠乏障害などの症例に対する栄養評価・判定、栄養介入計画の立案・実施、モニタリング、再評価について学修する。また、糖尿病、CKD、脂質異常症、肝疾患、妊産婦、食物アレルギー患者の個人および集団栄養指導における媒体を作成し、ロールプレイングを通して、対象者に分かりやすい栄養食事指導について学修する。さらに嚥下機能低下に応じた嚥下訓練食および嚥下調整食について学び、それをを用いた食事介助について看護学部の学生と共に学修する。
到達目標	①栄養スクリーニング・栄養アセスメントの方法および手技・技法を身につける。 ②栄養管理計画が立案できる。 ③疾患に応じた栄養管理の概要について説明できる。 ④栄養管理プロセスの概要について説明できる。 ⑤疾患に応じた栄養療法および食事療法の概要が説明できる。 ⑥疾患に応じた個人および集団食事栄養指導が実践できる。 ⑦嚥下機能に応じた嚥下訓練食および嚥下調整食を理解し、それをを用いた食事介助ができる。
授業方法と留意点	授業方法は下記の授業計画に従い、本実習はグループワークを通して、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する。必要に応じてテキストの使用や資料を配布する。実践形式を重要視した授業とし、レポートおよび課題の提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	今後の病院臨床実習に必要な病態と栄養に関する知識や技術を修得するために重要科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	各種疾患における症例検討①	グループワークによる食道癌術後、胃癌術後、非代償期肝硬変、クローン病再燃、放射線化学療法施行の症例検討 (栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画の作成)	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
2	各種疾患における症例検討②	グループワークによる食道癌術後、胃癌術後、非代償期肝硬変、クローン病再燃、放射線化学療法施行の症例検討 (栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画の作成)	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
3	各種疾患における症例検討③	ロールプレイングによる食道癌術後、胃癌術後、非代償期肝硬変、クローン病再燃、放射線化学療法施行症例における栄養食事指導の発表	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
4	各種疾患における症例検討④	ロールプレイングによる食道癌術後、胃癌術後、非代償期肝硬変、クローン病再燃、放射線化学療法施行症例における栄養食事指導の発表	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
5	各種疾患における集団栄養指導 (栄養教室) の実際①	グループワークによる糖尿病、CKD、脂質異常症、肝疾患、妊産婦、食物アレルギー患者の集団栄養指導における媒体作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
6	各種疾患における集団栄養指導 (栄養教室) の実際②	グループワークによる糖尿病、CKD、脂質異常症、肝疾患、妊産婦、食物アレルギー患者の集団栄養指導における媒体作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
7	各種疾患における集団栄養指導 (栄養教室) の実際③	ロールプレイングによる集団栄養指導における糖尿病、CKD、脂質異常症、肝疾患、妊産婦、食物アレルギー患者への発表	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
8	各種疾患における集団栄養指導 (栄養教室) の実際④	ロールプレイングによる集団栄養指導における糖尿病、CKD、脂質異常症、肝疾患、妊産婦、食物アレルギー患者への発表	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
9	摂食嚥下障害と食事介助①	嚥下機能に応じた嚥下訓練食および嚥下調整食の献立作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
10	摂食嚥下障害と食事介助② 看護学部学生との連携授業	嚥下機能に応じた嚥下訓練食および嚥下調整食の調理	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
11	摂食嚥下障害と食事介助③ 看護学部学生との連携授業	嚥下訓練食および嚥下調整食を用いた食事介助の実際	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
12	各種疾患における個人栄養指導の実際①	糖尿病、CKD、脂質異常症、高血圧患者の症例に基づいたグループワークによる個人栄養指導における媒体作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
13	各種疾患における個人栄養指導の実際②	糖尿病、CKD、脂質異常症、高血圧患者の症例に基づいたグループワークによる個人栄養指導における媒体作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
14	各種疾患における個人栄養指導の実際③	ロールプレイングによる糖尿病、CKD、脂質異常症、高血圧患者の症例に基づいた個人栄養指導の発表	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成
15	各種疾患における個人栄養指導の実際④	ロールプレイングによる糖尿病、CKD、脂質異常症、高血圧患者の症例に基づいた個人栄養指導の発表	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。課題作成

関連科目	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	臨床栄養学トレーニングテキスト症例から学ぶ栄養ケア	本田佳子 編者	医歯薬出版
	2	ブックス新版臨床栄養学〔第5版〕	田中明、加藤昌彦 編著	建帛社
	3	カレント臨床栄養学〔第3版〕	明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治 編著	建帛社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと（出席を重視）。遅刻3回で1日欠席とする。4日以上欠席で単位不認定とする。レポートおよび課題80%、出席状況を含め授業態度20%により評価する。その他、課題への取り組み状況により評価を行う。			
学生への メッセージ	病態別の栄養管理プロセスおよび栄養ケア・マネジメント、栄養指導、食事療法の考え方や方法を修得するための実習です。今まで学修してきた臨床栄養学Ⅰ～Ⅲをしっかりと復習しておいてください。			
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室(220)			
備考				

科目名	公衆栄養学 I	科目名 (英文)	Public Health Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2056a0		

授業概要・目的	我が国や諸外国の健康・栄養問題と主要な健康・栄養施策、栄養に関する各種統計を理解するとともに、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。																																																																		
到達目標	① 健康の考え方について説明できる。 ② プライマリ・ヘルスケアについて説明できる。 ③ 疾病の一次、二次、三次予防について説明できる。 ④ 我が国や諸外国における健康・栄養に関する現状や問題について理解する。 ⑤ 地域や集団の健康を維持・増進するのに必要な栄養政策について理解する。																																																																		
授業方法と留意点	主にパワーポイントを用いて講義を行う。また、必要に応じてクリッカーを用いて理解度を確認しながら授業を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆栄養学の概念</td> <td>公衆栄養学の意義や目的について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>公衆栄養活動の沿革</td> <td>集団の健康の維持・増進と疾病の予防を図る公衆栄養活動の沿革について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会環境と健康・栄養問題</td> <td>我が国の人口問題・長寿社会や食糧問題について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>食健康状態と食事の変化</td> <td>エネルギー・栄養素摂取量の変化、食生活の変化について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>食料需給表、食料自給率</td> <td>我が国の食料自給率・食品生産・流通について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>国民健康・栄養調査の目的・方法</td> <td>国民健康・栄養調査の目的・方法について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国民健康・栄養調査結果の概要</td> <td>最新の国民健康・栄養調査結果の概要について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>公衆栄養活動と管理栄養士</td> <td>公衆栄養活動と管理栄養士・栄養士制度について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、健康栄養政策</td> <td>諸外国の健康・栄養問題の現状と課題および健康栄養政策について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>法規 (地域保健法)</td> <td>地域保健法について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>法規 (健康増進法)</td> <td>健康増進法について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>健康日本 21</td> <td>健康日本 21・健康増進計画について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>公衆栄養施策 (健康・栄養関連の指針・ガイドライン)</td> <td>食生活指針・運動指針について</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>公衆栄養施策 (健康・栄養関連の教育ツール)</td> <td>食事バランスガイドについて</td> <td>事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業内容についての再確認</td> <td>事前・事後に教科書を読み、用語調べを行う</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の意義や目的について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	2	公衆栄養活動の沿革	集団の健康の維持・増進と疾病の予防を図る公衆栄養活動の沿革について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	3	社会環境と健康・栄養問題	我が国の人口問題・長寿社会や食糧問題について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	4	食健康状態と食事の変化	エネルギー・栄養素摂取量の変化、食生活の変化について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	5	食料需給表、食料自給率	我が国の食料自給率・食品生産・流通について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	6	国民健康・栄養調査の目的・方法	国民健康・栄養調査の目的・方法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	7	国民健康・栄養調査結果の概要	最新の国民健康・栄養調査結果の概要について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	8	公衆栄養活動と管理栄養士	公衆栄養活動と管理栄養士・栄養士制度について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	9	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、健康栄養政策	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題および健康栄養政策について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	10	法規 (地域保健法)	地域保健法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	11	法規 (健康増進法)	健康増進法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	12	健康日本 21	健康日本 21・健康増進計画について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	13	公衆栄養施策 (健康・栄養関連の指針・ガイドライン)	食生活指針・運動指針について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	14	公衆栄養施策 (健康・栄養関連の教育ツール)	食事バランスガイドについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う	15	まとめ	これまでの授業内容についての再確認	事前・事後に教科書を読み、用語調べを行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の意義や目的について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
2	公衆栄養活動の沿革	集団の健康の維持・増進と疾病の予防を図る公衆栄養活動の沿革について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
3	社会環境と健康・栄養問題	我が国の人口問題・長寿社会や食糧問題について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
4	食健康状態と食事の変化	エネルギー・栄養素摂取量の変化、食生活の変化について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
5	食料需給表、食料自給率	我が国の食料自給率・食品生産・流通について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
6	国民健康・栄養調査の目的・方法	国民健康・栄養調査の目的・方法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
7	国民健康・栄養調査結果の概要	最新の国民健康・栄養調査結果の概要について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
8	公衆栄養活動と管理栄養士	公衆栄養活動と管理栄養士・栄養士制度について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
9	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、健康栄養政策	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題および健康栄養政策について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
10	法規 (地域保健法)	地域保健法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
11	法規 (健康増進法)	健康増進法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
12	健康日本 21	健康日本 21・健康増進計画について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
13	公衆栄養施策 (健康・栄養関連の指針・ガイドライン)	食生活指針・運動指針について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
14	公衆栄養施策 (健康・栄養関連の教育ツール)	食事バランスガイドについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う																																																																
15	まとめ	これまでの授業内容についての再確認	事前・事後に教科書を読み、用語調べを行う																																																																
関連科目	公衆衛生学・臨床栄養学・応用栄養学・栄養教育学・給食経営管理論と関連しています																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版</td> <td>吉池信男、林宏一 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版	吉池信男、林宏一 編集	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版	吉池信男、林宏一 編集	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 (最新版)</td> <td></td> <td>(財)厚生統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民健康・栄養調査報告 (最新版)</td> <td>健康栄養情報研究会 編</td> <td>第一出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人の食事摂取基準 (最新版)</td> <td>厚生労働省</td> <td>第一出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 (最新版)		(財)厚生統計協会	2	国民健康・栄養調査報告 (最新版)	健康栄養情報研究会 編	第一出版	3	日本人の食事摂取基準 (最新版)	厚生労働省	第一出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国民衛生の動向 (最新版)		(財)厚生統計協会																																																																
2	国民健康・栄養調査報告 (最新版)	健康栄養情報研究会 編	第一出版																																																																
3	日本人の食事摂取基準 (最新版)	厚生労働省	第一出版																																																																
評価方法 (基準)	各回提出の確認テスト 30%、定期試験 70%																																																																		
学生へのメッセージ	公衆栄養学 I では、主に公衆栄養学に関する知識を扱います。																																																																		
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室 (221)																																																																		
備考																																																																			

科目名	公衆栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3057a0		

授業概要・目的	我主に我が国の健康・栄養問題と主要な健康・栄養施策を理解するとともに地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、集団の健康・栄養問題について、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。
到達目標	地域集団の健康問題の現状認識と生活習慣の改善に向けた計画や政策および制度について、現在取り組まれている政策や社会制度を具体的な計画やプログラムを理解している。 ①国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互の関係について概説できる。 ②現在の国民医療・福祉制度について概説できる。 ③栄養疫学、食事調査の基本的な考え方を理解している。 ④公衆栄養マネジメントを説明できる。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを用いて講義を行う。また、必要に応じてクリッカーを用いて理解度を確認しながら授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	健康増進基本指針と地方計画	健康増進基本指針、健康増進地方計画、食育推進計画について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	2	公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの概念とプロセス、プリシード・プロシードモデルについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	3	公衆栄養アセスメント	公衆栄養アセスメントの目的と枠組み、その方法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	4	公衆栄養プログラムの目標	公衆栄養プログラムの目標設定、計画、実施について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	5	公衆栄養プログラムの実施・評価	過程・影響・結果評価とフィードバックについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	6	公衆栄養プログラムの展開 (地域)	地域特性に対応した公衆栄養プログラムについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	7	公衆栄養プログラムの展開 (食環境・特性別)	食環境づくりや地域集団の特性別に対応した公衆栄養プログラムについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	8	栄養疫学の概要	疫学の概要、歴史、取り扱う分野について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	9	栄養疫学の指標	疾病頻度、曝露効果の測定について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	10	栄養疫学の方法	観察研究と介入研究	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	11	栄養疫学のための食事調査法	食品と栄養素	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	12	食事摂取量の測定方法	食事調査の種類と特徴	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	13	食事摂取量と食事摂取基準	日本人の食事摂取基準を用いた評価	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	14	食事摂取基準の評価方法	エネルギー調整栄養素摂取量、データの処理と解析について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	15	まとめ	これまでの授業内容についての再確認	事前・事後に教科書を読み、用語調べを行う

関連科目 公衆衛生学・臨床栄養学・応用栄養学・栄養教育学・給食経営管理論と関連しています

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版	吉池信男、林宏一 編集	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 (最新版)		(財)厚生統計協会
	2	国民健康・栄養調査報告 (最新版)	健康栄養情報研究会 編	第一出版
	3	日本人の食事摂取基準 (最新版)	厚生労働省	第一出版

評価方法 (基準)	各回提出の確認テスト 30%、定期試験 70%
学生へのメッセージ	公衆栄養学Ⅱでは、主に公衆栄養学に関する実務的技能を扱います。
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室 (221)
備考	

科目名	公衆栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Public Health Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒川 通典, 中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3058a0		

授業概要・目的	地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を、具体的な数値を用いた演習により養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な実践的手法を修得する。
到達目標	① 「公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を基本に具体的実践事例をとりあげることにより、より深く理解する。 ② 健康栄養の課題に関する情報収集や解決に向けてのプロセスを理解する。 ③ 確率論的なものの見方を理解し、統計学的推測（推定と検定）の原理と方法を説明できる。 ④ 調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための、適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。 ⑤ 調査や測定により得られた結果を適切に考察し、図表等で表現できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義、およびコンピュータを使った演習を行う。また、必要に応じてグループワークを行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	健康増進計画、食育推進計画の実態把握	地方自治体が作成する健康増進計画、食育推進計画を調査する	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
3	健康増進計画、食育推進計画の評価	地方自治体が作成する健康増進計画、食育推進計画を評価し、プレゼンテーションを行う	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
4	公衆栄養プログラムの目標設定 (優先課題の検討)	地方自治体の健康課題について、科学的根拠に基づき優先順位付けを行う	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
5	公衆栄養プログラムの目標設定 (行動目標の作成)	設定した健康課題について、KJ法を用いて行動目標を設定する	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
6	公衆栄養プログラムの作成	設定した行動目標を達成するための公衆栄養プログラム (事業計画) を作成する	自治体の公衆栄養プログラムを把握しておく
7	公衆栄養プログラムの立案 (プリシード・プロシードモデルの作成)	公衆栄養プログラムを効果的に実施するためのプリシード・プロシードモデルを作成し、プレゼンテーションを行う	プレゼンの練習を行っておく
8	地域診断	作成した公衆栄養プログラムのアセスメントのための質問票調査の企画と設計を行う	社会調査について調べておく
9	食事記録調査	24時間食事記録調査の栄養計算を行う	事前に食事記録調査を実施しておく
10	食事記録調査の分析	食事記録調査の集計を行う	統計用語について、理解しておく
11	食事記録調査と食事摂取基準	食事記録調査の結果を日本人の食事摂取基準を用いて個人と集団の評価を行う	日本人の食事摂取基準を把握しておく
12	食物摂取頻度調査法	食物摂取頻度調査による食事調査を行い、栄養計算する	食物摂取頻度調査法の注意点を把握しておく
13	食物摂取頻度調査の分析	食物摂取頻度調査の結果を日本人の食事摂取基準を用いて個人と集団の評価を行う	日本人の食事摂取基準を把握しておく
14	食事調査の評価	これまで行った質問票調査データ、栄養計算データをもとに分析を行う	検定方法を確認しておく
15	報告書の作成	食事調査と質問票調査の結果を用いて報告書を作成する	統計手法について、理解しておく

関連科目 公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆栄養学実習	鈴木三枝・中谷弥栄子	第一出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の提出物 (75%)、プレゼンテーション (25%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室

科目名	給食経営管理論 I	科目名 (英文)	Food Service Business Management Theory I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2059a0		

授業概要・目的	給食施設における管理栄養士の業務を理解するため、給食運営や経営の方法を修得することを目的とする。具体的には、関連法規、栄養食事管理、情報管理、食材料管理、原価管理、品質管理など、管理栄養士が給食におけるマネジメントを行うために必要な知識と技能を修得するため、特定給食施設において特定多人数に対する食事提供の適切な運営方法について理解する。また、栄養アセスメントの結果に基づき、大量調理の特性を理解した食事計画、安全な食事の提供のための衛生管理、それに対する評価・改善などを学修する。
到達目標	給食運営に関する食事計画面、栄養面、安全面のマネジメントについて理解する。
授業方法と留意点	・毎回テーマに沿って授業を進め、最後の10分でその日の授業内容に関する小テストを実施し理解度をチェックする。 ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業終了時に実施する小テストで未回答だった項目は各自のノートにまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	給食業務を行うために必要な栄養管理、献立作成などの食事の計画や作業を効率的かつ安全に運営するためのシステムの把握及び給食が生活習慣病予防の観点から果たす役割や栄養・衛生・品質・生産 (調理) の管理について学修する。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	給食について	給食の概念	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	給食経営管理	給食経営管理の概念	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	栄養管理	栄養・食事管理 I (栄養・食事管理の概要、栄養・食事アセスメント)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	食事管理	栄養・食事管理 II (栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	品質管理	給食の品質 (給食の品質の標準化)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	生産 (原価)	給食の生産 I (原価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	生産 (調理) と提供	給食の生産 II (食材、生産 (調理) と提供)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	安全・衛生 (食品)	給食の安全・衛生 I (安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	安全・衛生 (災害)	給食の安全・衛生 II (事故・災害時対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	施設・設備管理	施設・設備管理 (生産 (調理) 施設・設備設計、食事環境の設計と設備)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	人事・事務	給食の人事・事務 (人事・労務管理、事務管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	給食施設 I	施設別給食経営管理 I (病院、高齢者・介護保険施設)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	給食施設 II	施設別給食経営管理 II (児童福祉施設、障害者福祉施設)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	給食施設 III	施設別給食経営管理 III (学校給食、事業所給食、外食・中食・配食)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	まとめ	今期授業の確認・質疑応答	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目	「給食経営管理論 II」 「給食経営管理実習」「給食運営実習 (校外)」
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養管理と生命科学シリーズ給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、授業への取り組み (30%)、小テスト (20%) で評価し、60%以上で合格とする。 ・給食運営に関する実務面、栄養面、安全面のマネジメントについて説明することができるか。 ・関係法規の内容について理解しているか。
-----------	---

学生へのメッセージ	給食運営に関する実務面、栄養面、安全面などのマネジメントについて理解する。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	農学部 8 号館 2F 教員室 223
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	給食経営管理論Ⅱ	科目名 (英文)	Food Service Business Management Theory II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2060a0		

授業概要・目的	「給食経営管理論Ⅰ」で学修した内容を十分に理解した上で、給食運営管理における基本的マーケティングや組織を管理する際のマネジメントの考え方や方法を学ぶことを目的とする。具体的には、給食部門管理者として効率的かつ安全に運営するための組織管理・人事管理・それにかかる経費やマーケティングに関する基本的知識を学修し、そのシステム構築やマネジメントの知識と技能を修得し、経営管理能力を養う。また、危機管理の対応や、医療施設における給食運営についての実践例について学修し、実践的な解決能力を養う。																																																																		
到達目標	① 経営管理の意義と機能について説明できる。 ② 給食とマーケティングについて説明できる。 ③ 給食の衛生管理について説明できる。 ④ 給食の原価構成について説明できる。 ⑤ 給食運営の人員配置について説明できる。 ⑥ 各種大量調理技術について説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	・各班に分かれてテーマに沿って課題解決に取り組む。 ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業時の板書や資料に基づいて各自のノートにまとめておくこと。 ・小テストを適宜実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理 (組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等) について関連の資源 (食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費) との関係を経営的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法について述べる。また各種給食施設の特徴についても学修する。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理</td> <td>給食経営管理の概要</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>管理栄養士</td> <td>管理栄養士の役割</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>給食経営と組織</td> <td>経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>給食経営管理の評価</td> <td>経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>栄養・食事管理</td> <td>経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>品質の標準化</td> <td>経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化：大量調理の技術特性)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>マーケティングの原理</td> <td>マーケティングⅠ (マーケティングの原理)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マーケティングの活用</td> <td>マーケティングⅡ (マーケティングの活用)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>HACCP システム</td> <td>衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>危機管理対策</td> <td>衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>雇用形態</td> <td>給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>教育・訓練</td> <td>給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>原価計算</td> <td>給食の原価構成Ⅰ (原価計算)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>財務諸表</td> <td>給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>財務管理、その他</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	給食経営管理	給食経営管理の概要	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	2	管理栄養士	管理栄養士の役割	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	3	給食経営と組織	経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	4	給食経営管理の評価	経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	5	栄養・食事管理	経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	6	品質の標準化	経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化：大量調理の技術特性)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	7	マーケティングの原理	マーケティングⅠ (マーケティングの原理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	8	マーケティングの活用	マーケティングⅡ (マーケティングの活用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	9	HACCP システム	衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	10	危機管理対策	衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	11	雇用形態	給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	12	教育・訓練	給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	13	原価計算	給食の原価構成Ⅰ (原価計算)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	14	財務諸表	給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	15	まとめ	財務管理、その他	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	給食経営管理	給食経営管理の概要	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
2	管理栄養士	管理栄養士の役割	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
3	給食経営と組織	経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
4	給食経営管理の評価	経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
5	栄養・食事管理	経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
6	品質の標準化	経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化：大量調理の技術特性)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
7	マーケティングの原理	マーケティングⅠ (マーケティングの原理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
8	マーケティングの活用	マーケティングⅡ (マーケティングの活用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
9	HACCP システム	衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
10	危機管理対策	衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
11	雇用形態	給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
12	教育・訓練	給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
13	原価計算	給食の原価構成Ⅰ (原価計算)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
14	財務諸表	給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
15	まとめ	財務管理、その他	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
関連科目	「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理実習」「給食運営実習 (校外)」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学</td> <td>井川聡子、松月弘恵</td> <td>理工図書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書																																																																
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、授業への取り組み (30%)、小テスト (20%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	給食運営に関する実務面、栄養面、安全面などのマネジメントについて理解する。																																																																		
担当者の研究室等	農学部 8 号館 2F 教員室 223																																																																		
備考																																																																			

科目名	給食経営管理実習	科目名 (英文)	Practice in Food Service Business Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦, 今城 安喜子, 日比 裕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2061a0		

授業概要・目的	特定給食施設での給食業務について、「給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を活かし、大量調理実習を体験し喫食者に適した食事の提供について栄養面、衛生面、経営面、施設・設備管理など、様々な側面から総合的に考え、自主的に計画・運営できる力を修得することを目的とする。具体的には、特定多数の喫食者に対し、適切な栄養・食事管理を行い、実際に食材の購入・準備から大量調理、食事と栄養情報の提供、提供後の評価・分析を行い、実践に即した能力を修得する。
到達目標	① 栄養士として業務全体のマネジメントが理解できる。 ② 各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成できる。 ③ 給食における栄養管理、帳票類が理解できる。 ④ 原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解できる。
授業方法と留意点	・班に分かれて各テーマに沿って課題解決に取り組む。 ・試作段階での疑問点をまとめておき、シミュレーション（模擬実習）で解消しておくこと。 ・また早期に各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等を完成させ、教員へ提出すること。 ・1回あたり2コマ（180分授業）[4時間]×15回=計60時間の授業とする。
科目学習の効果（資格）	栄養士として業務全体のマネジメントが理解出来る。各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成出来る。給食における栄養管理、帳票類が理解出来る。原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解出来る。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション（授業の進め方、グループ構成、課題説明等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	献立作成	実習計画1（給与栄養目標量の設定、食品構成表の作成、献立の立て方等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	実習室、機器類	実習計画2（実習室案内及び機器類の説明、清掃、試作のための発注業務等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	大量調理	大量調理（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	大量調理と事務処理①	大量調理と事務処理①（試作、改善点の検討、評価・改善のための調査法、実習の全体評価等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	大量調理と事務処理②	大量調理と事務処理②（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、検食と保存食について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	大量調理と事務処理③	大量調理と事務処理③（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）、作成作業工程について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	温冷配膳車運用方法	従来の提供方法と温冷配膳車提供方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	大量調理と事務処理④	大量調理と事務処理④（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、栄養教育媒体の作成	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	大量調理と事務処理⑤	大量調理と事務処理⑤（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、アンケート用紙の作成	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	大量調理と事務処理⑥	大量調理と事務処理⑥（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、提供管理について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	大量調理と事務処理⑦	大量調理と事務処理⑦（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、配膳作業について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	大量調理と事務処理⑧	大量調理と事務処理⑧（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、下膳と食器洗浄について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	大量調理と事務処理⑨	大量調理と事務処理⑨（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）、清掃と点検について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	原価計算、損益分岐点分析	原価計算の演習、加重平均栄養成分表作成、損益分岐点分析の演習、小テスト	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目 「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食運営実習（校外）」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	実習記録ノート及び演習(40%)、実習への取り組み(30%)、定期試験(20%)、小テスト(10%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	給食業務に必要な対応能力及び統率力を養える。			
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 2F 教員室 223			
備考				

科目名	臨地実習指導（演習）	科目名（英文）	Guidance to Field Practice(Seminar)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	黒川 通典, 畦西 克己, 樽井 雅彦, 百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3062a0		

授業概要・目的	「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の事前・事後に行う演習科目。事前学習として、実習の意義、目的を理解して、実習に臨む姿勢、知識・技術について横断的かつ、総合的な理解を涵養することにより、様々な状況に対応した研究課題を設定して実習に取り組む姿勢を修得する。事後学習として、「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」終了後に、各実習において設定した課題についての発表・討議で学修効果を高め、管理栄養士の職域において、連携が必要となる関連職種が兼ね備える基本的な知識や技術を理解し、各職域で連携協働するために必要な能力を修得する。
到達目標	① 管理栄養士の使命と役割を説明することができる。さらに、関連職種と協働関係を構築するための知識および技術について、説明することができる。 ② 臨地実習に取り組むにあたり、専門基礎分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康に関連する科目）、専門分野（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論に関連する科目）で修得した知識および技術について、管理栄養士の実践活動の場でどのように応用されるのか、説明することができる。 ③ 管理栄養士の実践活動の場（臨地実習）を通して学修した、適切な栄養ケアプロセスのための課題発見および解決方法について、各実践活動の場の視点から、さらには専門分野を横断した視点から討議することができる。 ④ 上記の目標を達成するために必要な基礎的学力として、管理栄養士に関連する専門科目の知識・判断力問題に適切に回答することができる。
授業方法と留意点	・臨地実習に取り組むにあたり、「給食経営管理論」「公衆栄養学」「臨床栄養学」の各実践活動の場に応用するという視点から、課題の発見および解決を通して、PDCAサイクルに基づく適切な栄養ケアプロセスができるよう、事前学習を行う。 ・臨地実習終了後、実習を通して発見した課題およびその解決方法について、報告および討議を行う。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	臨床栄養学臨地実習報告会	4年次生が行う臨床栄養学臨地実習報告会（前半）に参加し、実習概要を把握する	教科書の熟読
	2	臨床栄養学臨地実習報告会	4年次生が行う臨床栄養学臨地実習報告会（後半）に参加し、実習概要を把握する	教科書の熟読
	3	給食経営管理論臨地実習報告	前年度の給食経営管理論実習報告会の録画を用い、実習概要を把握する。	教科書の熟読
	4	公衆栄養学臨地実習報告	前年度の公衆栄養学実習報告会の録画を用い、実習概要を把握する。	実習書の再確認
	5	臨地実習の意義と概要	臨地実習の目的・意義、各施設・関係機関の概要と特徴について理解する	実習書の再確認
	6	臨地実習の諸注意	臨地実習を受けるための注意点の確認、実習関係書類の作成を行う	実習書の再確認
	7	実習課題について	臨地実習を受けるための注意点の確認、実習関係書類の作成を行う	実習書の再確認
	8	実習後の自己評価	給食経営管理実習、公衆栄養学臨地実習の実習後に各人が得た気づきをもとにグループワークを行ない、実習概要を整理する	実習書の再確認
	9	給食経営管理論臨地実習報告会	給食経営管理論臨地実習の内容について、グループごとに報告を行う	報告要旨の再確認
	10	公衆栄養学臨地実習報告会	公衆栄養学臨地実習の内容について、グループごとに報告を行う	報告要旨の再確認
	11	臨床栄養学実習に際して	各病院・医療センターの役割・概要について理解する	教科書の熟読
	12	実習の諸注意 実習課題	医療機関における実習上特に配慮すべき点の確認、患者との接し方、実習課題への取り組み方について理解する	教科書の熟読
	13	実習のまとめ	実習後に各人が得た気づきをもとにグループワークを行う	実習書の再確認
	14	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（前半）	報告要旨の再確認
	15	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（後半）	報告要旨の再確認

関連科目 臨地実習Ⅰ、臨地実習Ⅱ、臨地実習Ⅲ、臨地実習Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆栄養学臨地実習レポート Book	矢澤彩香・大西智美	南山堂
	2			
	3			

評価方法（基準） 実習に対する理解度(60%)、報告会におけるプレゼンテーション(40%)を基準に評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	樽井 雅彦 (223)、黒川 通典 (221)、百木 和 (219)、畦西 克己 (220)
備考	

科目名	臨地実習指導（演習）	科目名（英文）	Guidance to Field Practice(Seminar)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	黒川 通典, 畦西 克己, 樽井 雅彦, 百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3062a0		

授業概要・目的	「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の事前・事後に行う演習科目。事前学習として、実習の意義、目的を理解して、実習に臨む姿勢、知識・技術について横断的かつ、総合的な理解を涵養することにより、様々な状況に対応した研究課題を設定して実習に取り組む姿勢を修得する。事後学習として、「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」終了後に、各実習において設定した課題についての発表・討議で学修効果を高め、管理栄養士の職域において、連携が必要となる関連職種が兼ね備える基本的な知識や技術を理解し、各職域で連携協働するために必要な能力を修得する。
到達目標	① 管理栄養士の使命と役割を説明することができる。さらに、関連職種と協働関係を構築するための知識および技術について、説明することができる。 ② 臨地実習に取り組むにあたり、専門基礎分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康に関連する科目）、専門分野（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論に関連する科目）で修得した知識および技術について、管理栄養士の実践活動の場でどのように応用されるのか、説明することができる。 ③ 管理栄養士の実践活動の場（臨地実習）を通して学修した、適切な栄養ケアプロセスのための課題発見および解決方法について、各実践活動の場の視点から、さらには専門分野を横断した視点から討議することができる。 ④ 上記の目標を達成するために必要な基礎的学力として、管理栄養士に関連する専門科目の知識・判断力問題に適切に回答することができる。
授業方法と留意点	・臨地実習に取り組むにあたり、「給食経営管理論」「公衆栄養学」「臨床栄養学」の各実践活動の場に応用するという視点から、課題の発見および解決を通して、PDCAサイクルに基づく適切な栄養ケアプロセスができるよう、事前学習を行う。 ・臨地実習終了後、実習を通して発見した課題およびその解決方法について、報告および討議を行う。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	臨床栄養学臨地実習報告会	4年次生が行う臨床栄養学臨地実習報告会（前半）に参加し、実習概要を把握する	教科書の熟読
	2	臨床栄養学臨地実習報告会	4年次生が行う臨床栄養学臨地実習報告会（後半）に参加し、実習概要を把握する	教科書の熟読
	3	給食経営管理論臨地実習報告	前年度の給食経営管理論実習報告会の録画を用い、実習概要を把握する。	教科書の熟読
	4	公衆栄養学臨地実習報告	前年度の公衆栄養学実習報告会の録画を用い、実習概要を把握する。	実習書の再確認
	5	臨地実習の意義と概要	臨地実習の目的・意義、各施設・関係機関の概要と特徴について理解する	実習書の再確認
	6	臨地実習の諸注意	臨地実習を受けるための注意点の確認、実習関係書類の作成を行う	実習書の再確認
	7	実習課題について	臨地実習を受けるための注意点の確認、実習関係書類の作成を行う	実習書の再確認
	8	実習後の自己評価	給食経営管理実習、公衆栄養学臨地実習の実習後に各人が得た気づきをもとにグループワークを行ない、実習概要を整理する	実習書の再確認
	9	給食経営管理論臨地実習報告会	給食経営管理論臨地実習の内容について、グループごとに報告を行う	報告要旨の再確認
	10	公衆栄養学臨地実習報告会	公衆栄養学臨地実習の内容について、グループごとに報告を行う	報告要旨の再確認
	11	臨床栄養学実習に際して	各病院・医療センターの役割・概要について理解する	教科書の熟読
	12	実習の諸注意 実習課題	医療機関における実習上特に配慮すべき点の確認、患者との接し方、実習課題への取り組み方について理解する	教科書の熟読
	13	実習のまとめ	実習後に各人が得た気づきをもとにグループワークを行う	実習書の再確認
	14	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（前半）	報告要旨の再確認
	15	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（後半）	報告要旨の再確認

関連科目 臨地実習Ⅰ、臨地実習Ⅱ、臨地実習Ⅲ、臨地実習Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆栄養学臨地実習レポート Book	矢澤彩香・大西智美	南山堂
	2			
	3			

評価方法（基準） 実習に対する理解度(60%)、報告会におけるプレゼンテーション(40%)を基準に評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	樽井 雅彦 (223)、黒川 通典 (221)、百木 和 (219)、畦西 克己 (220)
備考	

科目名	管理栄養士総合演習	科目名 (英文)	Practice in Integrated Nutrition for Registered Dietitians
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	百木 和, 森 美奈子, 畦西 克己, 岸本 良美, 黒川 通典, 坂根 貞樹, 樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF4063a0		

授業概要・目的
 これまで修得してきた専門分野及び専門基礎分野等の知識や技能・態度を相互に関連させることにより、管理栄養士業務を円滑に遂行するために必要な総合力を修得することを目的とする。さらに、管理栄養士の職務内容に対応する専門分野を横断的に理解することによって、どのような知識、技能・態度が必要か総合的に学修する。具体的には、基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学・栄養教育論・公衆栄養学・給食経営管理論を総合して、栄養状態の評価・栄養管理、課題把握・解決に至る栄養ケアプロセス総合的な能力を養う。

到達目標
 ① 管理栄養士の業務に係る専門的知識、技能・態度に必要な総合力を身につける。
 ② 施設ごとの給食管理、栄養管理、栄養教育及び栄養指導を実践できる。
 ③ 傷病者の病態に対応した栄養アセスメントを行い、病態を把握した栄養ケアプランの作成、実施、モニタリング等の企画、立案ができる。

授業方法と留意点
 ① 学生が主体性を持ったアクティブラーニング形式の授業法を実施する。
 ② QFT (Question Formulation Technique) による質問づくりによるグループ学習を実施する。
 ③ 各演習において、学習課題を設け、まとめ、発表、討論し、レポートとしてその内容を提出する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	QFT (Question Formulation Technique) による質問づくりによるグループ学習方法を学ぶ (担当: 全員)	管理栄養士の社会的使命について調べる
2	給食の生産	給食における調理工程・提供管理システムについて学修する (担当: 樽井)	各種オペレーションを調査する
3	食品業界	生産と流通、加工食品、販売チャネル、市場と課題について学修する (担当: 樽井)	食品産業の特色について調べる
4	災害時における公衆栄養活動	自然災害発生時における行政栄養士の役割を、実例をもとに考える (担当: 黒川)	これまでの災害や被災地の状況について調べる。配付資料を整理する
5	健康づくりボランティア	食生活改善推進員など、住民の健康増進に寄与する活動を行っているボランティア団体について学修する (担当: 黒川)	健康づくりボランティアの活動について調べる・配付資料を整理する
6	栄養部門の位置づけ	病院における栄養部の位置づけ・役割・診療報酬について課題をまとめる (担当: 百木)	臨地実習先、他病院の状況について調べる
7	栄養指導	病院における個人栄養指導・集団栄養指導について課題をまとめる (担当: 百木)	臨地実習先、他病院の状況について調べる
8	災害時における医療施設の対応	災害時の医療における栄養ケアについて、実例をもとに考える (担当: 畦西)	災害時の対応や病院での備蓄状況について調べる
9	チーム医療について	医療施設におけるチーム医療について、現状の問題点と今後のあり方を考える (担当: 畦西)	臨地実習先、他病院、海外の状況について調べる
10	栄養教育のための行動科学と理論の応用	栄養教育の行動科学と理論の応用について課題をまとめる (担当: 森)	配布課題に取り組む
11	栄養教育のマネジメント	栄養教育マネジメントを実例を踏まえて課題をまとめる (担当: 森)	配布課題に取り組む
12	栄養素の働きと代謝	エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義について、理解を深める (担当: 岸本)	配布課題に取り組む
13	食事摂取基準	食事摂取基準を活用するために、各栄養素の策定根拠について、理解を深める (担当: 岸本)	配布課題に取り組む
14	生活習慣病の診断	生活習慣病の診断プロセスについて学修する (担当: 坂根)	生活習慣病の診断に用いられる検査項目についてまとめる
15	生活習慣病の治療	高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、肥満症など主な生活習慣病の食事療法や薬物治療について学修する (担当: 坂根)	生活習慣病における薬物治療の特徴について調べる

関連科目
 管理栄養士国家試験受験資格関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各指導教員が指定するテキスト		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する。		
	2	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2023-24	医療情報科学研究所	メディックメディア
	3			
評価方法 (基準)	課題、定期試験ともに60%以上で合格とする。評価割合は課題(20%)、定期試験(80%)とする。			
学生への メッセージ	本科目における、課題レポート、小テスト、講義資料等については、各担当教員からの指示に従ってください。			
担当者の 研究室等	樽井雅彦(農学部8号館2F223) 森 美奈子(農学部8号館2F225) 黒川通典(農学部8号館2F221) 岸本良美(農学部8号館3F324) 哇西克己(農学部8号館2F220) 坂根貞樹(農学部8号館2F224) 百木 和(農学部8号館2F219)			
備考				

科目名	園芸の技術	科目名 (英文)	Horticultural Technique
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 祐人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1069a0		

授業概要・目的	我が国の果樹、野菜、花卉などの園芸作物生産は、限られた土地を有効活用し、なおかつ消費者のニーズに合った高品質な商品を生産するため、種々の特殊な技術を用いて行われている。この「園芸の技術」では、実際の園芸作物における生産流通現場で応用されている興味深い「技」に焦点を当てて紹介する。植物生理学的な背景に基づく各技術の概要と、それらの技術を用いることで得られる生産性の向上や市場における付加価値および経済効果について論じる。なお、授業担当者は地方自治体の試験場での実務経験を持ち、生産現場の実情なども交えて講義を行う。
到達目標	①園芸作物の生産現場で用いられている各技術の手法を説明できる。 ②各技術における対象作物、生産・流通上の効果、利用上の留意点などについて概説できる。
授業方法と留意点	授業は主にパワーポイントと配布資料による講義形式で行う。なるべく基礎的な解説は避け、栽培現場での実用例を多く取り上げて紹介する。授業後、理解を深めるためのミニレポートを定期的に提出させ、翌回の授業でその内容について議論する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	野菜・花卉の接ぎ木	野菜・花卉の接ぎ木法と効果 (耐病性、低温伸長性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
2	果樹の接ぎ木	果樹の接ぎ木法と効果 (耐病性、わい性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
3	果樹の整枝せん定	新梢の誘引、捻枝 (ブドウ)、摘心 (ウメ)、樹形改造	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
4	野菜の無核栽培	果菜類 (トマト、スイカなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
5	果樹の無核栽培	果樹 (ブドウなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
6	野菜の花芽分化誘導	温度 (春化) 処理、窒素制限による花芽分化 (イチゴ)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
7	被覆資材利用	被覆資材による除草、保温、病虫害防除	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
8	植物ホルモン利用	植物成長調整剤 (ホルモン剤) による発芽促進、休眠打破など	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
9	果樹の高糖度栽培	果樹 (カンキツなど) の高糖度化技術	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
10	野菜・花卉の養液栽培	養液栽培によるイチゴ、トマト、花卉類の安定生産	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
11	被覆種子の利用	被覆種子による殺菌、播種の効率化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
12	鮮度保持	鮮度保持剤、冷蔵、CA 貯蔵による果実、切り花の鮮度保持	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
13	野菜の軟白栽培	アスパラガス、ニラなどの軟白栽培による高付加価値化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
14	果実の追熟	エチレンによる果実の追熟処理、カキの脱渋	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
15	病害虫の防除・スマート農業機器	主な病害虫とその防除法、ドローン等の利用	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農業技術体系 野菜編・果樹編・花卉編		農文協
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業後に提出を求める課題およびミニレポート内容 (50%) と期末レポート (50%) により総合的に評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	園芸作物の栽培について、知っていると日常生活でも野菜や果物を見る目が少し変わるような知見を紹介したいと思います。ぜひ興味を持った項目は自分でも調べながら受講してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	8号館2階 園芸科学研究室
------------	---------------

科目名	植物の病気	科目名 (英文)	Plant Disease
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	飯田 祐一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1070a0		

授業概要・目的	<p>ヒトや動物が病気になるように植物も病気にかかる。様々な防除法が開発されているにも関わらず、いまだに約15%の作物は病原菌による被害を受け、毎年約8億人分の食料が損失している。地球上にはこれ以上、農業に適した土地がないとされ、病気や害虫から作物を保護することは人類の生存において欠かすことができない課題である。</p> <p>本講義では、有機栽培、化学合成農薬、薬剤耐性菌、ポストハーベスト問題など、現代社会において一般にも身近な問題について、各学科でこれまでに学修した農作物の持続的・安定的な供給、食品の安全・安心、国際的な食料の流通や消費などの知識をベースに幅広い視点で議論するアクティブラーニング型の講義である。</p>
到達目標	<p>① なぜ生物は病気になるのか、病原菌による感染の仕組みを概説できる。</p> <p>② どのように病気を防ぐのか、病害から植物を保護する方法について概説できる。</p> <p>③ 有機農業、耐性菌などの植物病に関するキーワードを説明できる。</p> <p>④ 農薬とはなにか、安全性や関連するシステムについて説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>反転講義、グループディスカッション、プレゼン、ロールプレイ、ジグソー法などアクティブラーニングを軸とした講義形式で、学生間の相互評価も取り入れる。</p> <p>第2回以降は与えられたテーマについて事前に学習し、グループディスカッションに備える。</p> <p>スマホ、タブレット、PCなどのデバイスは必携。</p> <p>時事問題や学生からの意見など授業計画にはないテーマも積極的に取り入れる。</p>

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	本講義のテーマや進め方、ルール、成績評価について説明	事前：シラバスの理解
2	なぜ病気になる？	ヒトも植物もなぜ病気になるのか？病気に強い品種、弱い品種は何で決まる？ また植物病のパンデミックについて考える。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
3	どうやって抑える？	どうやって植物の病気を防ぐのか？ヒトとは違い植物の治療は難しいことから予防（防除）が重要となる。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
4	どうやって病気になる？	微生物とは何か？病原菌はどこにいるのか？ どのように植物に感染するのか？ 微生物の違いや病原菌の感染について学ぶ。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
5	農薬は危険か？	なぜヒトが飲む医薬は安全で、農薬は危険と思われるのか？ 農薬の登録システムや歴史、安全性について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
6	耐性菌とは？	ヒトでも植物でも薬の効かない病原菌が問題となっている。その問題点と対策を議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
7	生物農薬	生物農薬とは何か？ また化学農薬と生物農薬のメリットとデメリットについて議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
8	有機栽培	有機栽培・特別栽培とは？ 2050年までに農業全体の1/4を有機農業にするという農水省の方針は実現可能か？	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
9	植物の病気と輸出入	食料自給率が40%を切る我が国は、多く農産物や肥料を輸入している。輸出入に関わるポストハーベスト病害、植物検疫、残留農薬基準について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
10	遺伝子組換え・ゲノム編集による病害防除	遺伝子組換えとゲノム編集技術の違い、従来の育種技術と比べたメリットとデメリットについて学修し、議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
11	植物疾病と貧困	化学農薬の散布にはコストがかかり、また植物病害の発生は経済的な損失となり貧困に直結する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
12	植物疾病と環境保全	近代農業は化学農薬の合成やビニール製の防除資材など石油産業への依存度が高いことから、地球環境への負荷の少ない植物病害の防除について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
13	総括	これまでの講義内容を総括し、議論する。	事前：中間テストの学習 事後：ミニッツレポートの提出	
14	中間テスト	これまでの講義内容から「植物の病気」に関する中間テストとその解説を実施する。	事前：プレゼンテーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
15	あらためて考える今後の農薬	農薬とはなにか、安全性や関連する法律・検査システムなど、学生自身の意見を基に今後の農薬の在り方について説明・プレゼンする。	事前：プレゼンの準備 事後：授業アンケート、ミニッツレポートの提出	

関連科目	生命倫理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	植物病理学 第2版	眞山滋志 / 土佐幸雄	文永堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義での学生間相互評価 (30%)、教員評価 (40%)、中間テスト (20%)、小テスト (10%) から 60%以上で合格とする。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	農業生産学科 植物病理学研究室 飯田祐一郎			
備考				

科目名	植物の改良	科目名 (英文)	Plant Improvement
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛島 智一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1071a0		

授業概要・目的	人は植物を食料として利用するだけでなく、家畜の飼料や観賞用、工業用原料、医薬品用原料などさまざまに利用している。そして、人は品種を作るという概念を持つ前から収穫量が多いものや病気に強いものなど、自然に存在する有用な形質を示す植物を選んできた。しかし、メンデルが遺伝の法則を発見したことにより、体系的に植物を改良することが可能となった。本講義では、改良の対象となる植物の形質について概説するとともに、従来おこなわれている植物改良の手法から、今日、注目を集めている遺伝子工学の技術を利用したゲノム編集までを解説し、植物の改良に必要な基礎的な知識を身につける。
到達目標	① 植物の特性を理解し、改良目的を探す力を身につける。 ② 植物改良の方法について説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、問題を提起し、議論することで理解を深める。また、講義後のミニレポートの提出と定期的な小テストまたは小レポートを課す。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	植物の改良とは	植物と人との関わり、形質、遺伝などについて解説する	事前:シラバスの理解	事後:事後学習課題の提出
2	改良の標的とは	改良の標的になる形質について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
3	塩基配列と表現型	DNAの塩基配列の違いが形質に反映される過程について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
4	植物の改良と遺伝	メンデル遺伝や減数分裂について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
5	自殖性と他殖性	自殖性と他殖性の違いについて、それぞれに代表的な作物を取り上げながら解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
6	細胞質雄性不稔性の利用	細胞質雄性不稔性のメカニズムとその利用について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
7	遺伝資源の利用	遺伝資源とその利用について解説する 小レポートの提出期限	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
8	新たな遺伝資源の作出	植物の改良を行うための新たな遺伝資源の作出方法について紹介する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
9	栄養繁殖	栄養繁殖する果樹や花卉などの改良について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
10	分子マーカーの利用	分子マーカーを利用した選抜方法について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
11	バイオテクノロジーを利用した改良	遺伝子のクローニングや形質転換、ゲノム編集などの技術について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
12	有用遺伝子の探索	有用な遺伝子を探すための遺伝子機能解析手法について解説する レポート課題の提出期限	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
13	植物の改良と法律	種苗法やカルタヘナ法について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
14	必要とされる作物とは	レポート課題の発表と議論を行う	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出
15	量的形質の改良	量的形質の解析と改良について解説する	事前:事前学習課題の提出	事後:事後学習課題の提出

関連科目 生物学、ゲノム分子生物学、植物遺伝子工学、ゲノムと生命など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンシャル植物育種学	編著 國武久登/執行正義/平野智也 他著者	講談社
2	図解でよくわかる品種・育種のきほん	西尾剛 編	誠文堂新光社	
3	エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学	ダニエル・L・ハートル/中村千春・岡田清孝 監訳	化学同人	

評価方法 (基準) 各授業の事前学習課題 (15%)、小テストまたは小レポート (30%)、事後課題 (15%)、レポート (40%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ わからないときは遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等 8号館2階 植物遺伝育種学研究室

備考 事前事後学習に要する総時間の目安は30時間

科目名	昆虫とくらし	科目名 (英文)	Insects and Human life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 毅
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1072a0		

授業概要・目的	昆虫の祖先は約4億年前に地球上に現れ、今や地球上の全生物種の70%を超える種数を占めると言われている。この繁栄に成功した理由として、脊椎動物にはないムシが持つ昆虫独特の環境への適応能力が指摘されており、我々ヒトは、ある時はムシと作物を争い、ある時はムシの特性を学び応用することで生活をより豊かなものへと変えていくことに成功した。「昆虫とくらし」では、害虫と益虫というヒトの視点を通じたムシの二面性について紹介し、ムシを通じて生態を中立的に見る目を身につける。
到達目標	①昆虫の環境への適応戦略が、ヒトに代表される哺乳動物と似ている点と異なる点を理解できる。 ②身近にいる昆虫の存在を実感し、特にヒトの暮らしと関わり合いの深い、ゴキブリに代表される害虫やカイコに代表される益虫の生活史の実体が分かる。 ③害虫や益虫はヒトの価値観に基づく呼称であることを知り、自然の中の生物を中立的な視点で見つめられるようになる。
授業方法と留意点	・パワーポイントによるスライドを用いた講義形式とする。 ・9回目と15回目はグループワーク形式の授業となる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 神話に出てくるムシ	「昆虫とくらし」の紹介、古今東西神話に現れるムシの紹介と概説	事前：シラバスの理解 事後：今回の講義内容の課題
2	ムシのからだ	ムシと哺乳類の体の大きさや構造の違い～循環器と呼吸器を中心に～	事後：今回の講義内容の課題
3	地球史の中のムシ	ムシの発生と激変する環境への適応～古生代、中生代、新生代のムシ～	事後：今回の講義内容の課題
4	害虫と言われるムシ ゴキブリ	ゴキブリの生態、ヒトはなぜゴキブリをきらうのか？	事後：今回の講義内容の課題
5	害虫と言われるムシ イナゴ	イナゴの生態、イナゴと農作物	事後：今回の講義内容の課題
6	害虫と言われるムシ カ	カの生態、病気を媒介するカとその実例	事後：今回の講義内容の課題
7	害虫と言われるムシ ダニ	ダニの生態、指標生物としてのダニ	事後：今回の講義内容の課題
8	侵入害虫	日本に入ってくる昆虫の実例の紹介と生態系のかく乱	事後：今回の講義内容の課題
9	害虫とどう向き合うか	害虫とは何か？ 害虫を根絶するということ	事後：今回の講義内容の課題
10	モデル昆虫	生物学と関わり合いの深いムシたち	事後：今回の講義内容の課題
11	ハチとハチミツ	ハチの生態、ハチミツの起源	事後：今回の講義内容の課題
12	カイコと繊維利用	カイコとヒトの歴史、カイコの有用性	事後：今回の講義内容の課題
13	カイコとロボット	センサーとしてのカイコ	事後：今回の講義内容の課題
14	インセクトセラピー	好かれるムシ、嫌われるムシ	事後：今回の講義内容の課題
15	未来のヒトの暮らしとムシ	我々ヒトはこれからムシとどう付き合っていくべきか？	事後：今回の講義内容の課題

関連科目	生物学 (1年生前期)・多様性生物学(3年生前期)
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	徹底図解 昆虫の世界	岡島秀治	新星出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席点(各回の提示される課題への回答)90%、受講態度10%で評価する。定期考査は行なわない。
-----------	---

学生へのメッセージ	身近なのに意外と知らない虫のこと、多いのではないのでしょうか？ ムシが好きな人も嫌いな人も、一緒にムシの世界を覗いてみませんか？ 連絡は Teams で行ないますので、受講者は必ず本科目の Teams に登録してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	応用昆虫学研究室
------------	----------

科目名	作物とエネルギー生産	科目名 (英文)	Crops and Energy Production
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川崎 通夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1073a0		

授業概要・目的	作物は、人類が利用するエネルギーの重要な供給源の一つとなっている。「作物とエネルギー生産」では、(1)バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状および課題、(2)人類へエネルギーを供給する作物における種類、生態・形態・生理的形質、栽培および利用、(3)バイオ燃料の種類、製造法および利用などについて概説する。作物とエネルギー生産との係わり合いやエネルギー作物に関する現状、重要性と課題を理解し、それらを説明する上で必要な基礎知識を身につける。
到達目標	①作物と人類が利用するエネルギーとの関係性を理解する。 ②バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状について説明できる。 ③主要なエネルギー作物における種類、植物学的形質、栽培、利用、展望と課題について理解する。 ④バイオ燃料の種類、製造法および利用について説明できる。
授業方法と留意点	配布する講義資料とパワーポイントを用い、且つ、板書を適宜行い講義を行う。講義の後にはラーニングポートフォリオを行う。また、小テストを適宜実施する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの生産と利用の現状	事前：シラバスの理解 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
2	作物とエネルギー	食用作物、油料作物、糖料作物、デンプン料作物	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
3	エネルギー作物	エネルギー作物とは？ エネルギー作物の要件	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
4	糖質系エネルギー作物：サトウキビ	糖質系エネルギー作物(サトウキビ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
5	糖質系エネルギー作物：テンサイ等	糖質系エネルギー作物(テンサイ、スイートソルガム等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
6	澱粉系エネルギー作物：トウモロコシ等	デンプン系エネルギー作物(トウモロコシ、コムギ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (約 2 時間)
7	澱粉系エネルギー作物：イモ類	デンプン系エネルギー作物(キャッサバ等のイモ類等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
8	セルロース系エネルギー作物：サトウキビ等	セルロース系エネルギー作物(サトウキビ、トウモロコシ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
9	セルロース系エネルギー作物：エリアンサス等	セルロース系エネルギー作物(エリアンサス、ネビアグラス等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
10	エネルギー作物：イネ	エネルギー作物としてのイネの現状	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
11	バイオ燃料：バイオエタノール	バイオエタノールの製造と利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
12	バイオ燃料：バイオディーゼル等	バイオディーゼルとバイオジェット燃料の製造と利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
13	バイオ燃料：バイオペレット等	バイオペレットおよびバイオガスの製造と利用、バイオマス発電	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
14	エネルギー作物の生産システム	エネルギー作物における栽培とポストハーベスト	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
15	エネルギー作物の展望、総括	エネルギー作物における展望と課題	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ (60 分間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>エネルギー作物学</td> <td>森田茂紀</td> <td>朝倉書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作物学の基礎Ⅱ 資源作物・飼料作物</td> <td>中村 聡、後藤 雄佐、新田 洋司</td> <td>農文協</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	エネルギー作物学	森田茂紀	朝倉書	2	作物学の基礎Ⅱ 資源作物・飼料作物	中村 聡、後藤 雄佐、新田 洋司	農文協	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	エネルギー作物学	森田茂紀	朝倉書													
	2	作物学の基礎Ⅱ 資源作物・飼料作物	中村 聡、後藤 雄佐、新田 洋司	農文協													
3																	

評価方法 (基準)	小テスト (50%)、および、ラーニングポートフォリオ (50%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	作物は食料として重要ですが、人類のエネルギー資源としても私たちの生活に欠かせないものとなっています。本授業を通じて、エネルギー作物の現状、重要性および課題などについて理解を深め、農学生としての素養を更に身に付けられるよう頑張ってください。
担当者の 研究室等	担当教員は作物科学研究室に所属しています。もし質問や相談などありましたら、枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟) 2 階の作物科学研究室 (208 号室) まで遠慮なくお尋ね下さい。
備考	

科目名	生きている土壌	科目名 (英文)	Living Soil
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐野 修司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1074a0		

授業概要・目的	作物の生産基盤として、土壌の役割は重要である。土壌中には微生物を含めて多くの生物が息しており、物質循環をはじめとした機能面で役割を担っているほか、土壌自身も外部からの影響により変化しており、まさに土壌は生きているといえる。また、作物などの植物生育と関連していることから、他の生物の生命活動にも影響をおよぼしているほか、周辺環境のかかわりも深い。本講義では、上記の観点から、土壌自身の生物性、特性の変化、作物生育や周辺環境とのかかわりなど、幅広い観点から土壌の役割について講義する。																																																																		
到達目標	① 作物の生産基盤としての土壌の重要性を概説できる。 ② 土壌の生物性について概説できる。 ③ 土壌も人為的な管理や環境の変化により変化することを概説できる。 ④ 土壌と作物生育や周辺環境とのかかわりについて概説できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、DVDなどによる映像の上映や、プリントを配布し理解を深める。また原則毎回、事前学習として次回の講義内容に関するミニレポートの提出を求めるほか、事後学習の効果を高めるために前回講義した内容に関する振り返りシートの記入を実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生産基盤としての土壌</td> <td>講義の目的、生態系での土壌の役割など</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>土壌の生物性</td> <td>土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土壌微生物</td> <td>土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>土壌動物</td> <td>土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>土壌病害</td> <td>土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>土壌生成</td> <td>土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>土壌劣化</td> <td>土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人為と土壌</td> <td>人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>土づくり</td> <td>土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>土壌と植物生育</td> <td>植物生育における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>土壌と食糧生産</td> <td>食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>有機農業</td> <td>有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>土壌と地域環境</td> <td>地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>土壌と地球環境</td> <td>地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最新の事例紹介</td> <td>講義に関連した最新の研究事例、実践例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入	2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入																																																																
2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 土壌学の基礎</td> <td>松中照夫</td> <td>農文協</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	ミニレポート (25%)、振り返りシート (25%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	農業生産だけでなく環境面でも基盤となる土壌について、普段じっくりと目を向ける機会がないと思いますが、この講義を通じて土壌そのものへの理解のみならず農業生産性や周辺環境そして人の暮らしとのかかわりについても理解が深まることを目指します。																																																																		
担当者の研究室等	農業生産学科 生産生態基盤学研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	分子からみた植物の働き	科目名 (英文)	Molecular World of the Plants
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1075a0		

授業概要・目的
植物と動物は異なる生物である。形も、生活も全く違っている。しかし、どこが、どう違うのか？本講義では、植物の不思議な生き方を、様々な視点から紹介し、植物の本質の理解を目指す。花や葉の形、環境ストレスへの適応、さらに光合成のメカニズムと、取り扱うトピックは多彩だ。一方、人間は植物を利用し、改良して生きてきた。本講義では、その歴史にも触れる。また、持続型社会の構築のためには、植物の能力をさらに高め、利用していくことも重要になる。植物バイオテクノロジーの現状を紹介し、社会受容との関係についても考える。
生物学の履修を前提とせず、わかりやすく解説する。

- 到達目標
- ① 植物の環境感知とストレス適応機構を理解する
 - ② 植物の形作りの基礎を理解する
 - ③ 光合成の分子基盤の概要を理解する
 - ④ 植物バイオテクノロジーの概要を理解する

授業方法と留意点
教科書とプリント資料を使い講義を行う。授業に先立って教科書の指定部分を読んでおくこと。また、講義内容の理解は、Moodle で行う毎回の講義の「振り返り」と定期試験で評価する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	植物と動物の違い	植物と動物何が違う？光合成をする植物が採用した特異な生存戦略について考える。	事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認
2	野菜と作物の起源	野菜や作物の原種は、現在の品種と似ても似つかない姿をしているものが多い。野菜や作物のルーツを調べ、各国の食文化の歴史を探る。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
3	変な植物 (食虫植物、歩く植物、子を産む植物、白い植物など)	食虫植物、歩く植物、子を産む植物、白い植物など変わった植物を解説し、植物の多様な世界を知る。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
4	魅力的な花作り	八重咲などの複雑な花ができる仕組み、花が一斉に咲く仕組みなど、花にまつわる不思議を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
5	植物の動きと環境応答	じっとしている植物も、高速度撮影をすると常に動いているのがわかる。屈性を中心に植物が環境情報を感知し応答する仕組みを解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
6	植物と光	目を持たない植物がどのように光を感知し、どう利用しているかを解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
7	植物と水	水を求めて移動できない植物が、どのように水を吸収し、乾燥に耐えているかについて、根と気孔を中心に解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
8	光合成の仕組み	光合成は地球の生命を支えている。光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
9	植物からの贈り物	紙、香料、天然ゴム、抗がん剤など、植物は人間生活に欠かせないさまざまな物質を作り出す。物質生産工場としての植物の仕組みを解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
10	分化全能性	挿木や接木は、植物の分化全能性を利用している。細胞培養やホルモンによる分化制御について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
11	農業と植物ホルモン	農業では、植物ホルモンをうまく利用している。その実際を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
12	植物バイオテクノロジー	遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
13	植物バイオテクノロジーと社会	植物バイオテクノロジーの社会実装について、安全性審査や食品表示を例に考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
14	植物と地球環境	地球環境における植物の役割についてのトピックスを紹介する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
15	好きな植物をデザインしよう	グループワークで、新しいユニークな植物をデザインする。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	植物の体の中では何が起きているのか	嶋田幸久、萱原正嗣	ベレ出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、討議活動(10%)、定期試験 (50%)
学生への メッセージ	授業では、植物の不思議な話題や、きれいな画像をできるだけたくさん紹介したいと思います。
担当者の 研究室等	8号館3階教員室303
備考	

科目名	ゲノムと生命	科目名 (英文)	Genome and Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1076a0		

授業概要・目的
現代の農学・生命科学は、ゲノムの知識抜きでは理解できない。ゲノムは世界の見方を変え、新しい技術を生み出し、新しいビジネスチャンスを生み出す。ところが、ゲノム学は初心者にとって敷居が高い。この講義では、高校の生物基礎程度の内容から始めて、DNAの性質やPCRなどの応用技術、ゲノムの科学史、風変わりなゲノムを持つ生物、ゲノムに関わるユニークな現象などを紹介しながら、ゲノムとは何かを考え、ゲノム研究がこれからの人々や社会にどのような影響を与えていくのかを、自然観や生命観に対する影響も含めて、考察したい。AC科やAF科の学生にはこれまで学んだ専門科目の根拠からの復習とその発展として、AE科の学生には生物学の基礎からの学びとなるように講義します。

- 到達目標**
- DNAの基本的な性質や働きを説明できる。
 - PCR法について、その原理や用途を説明できる。
 - ゲノムの塩基配列を解説することの意味を説明できる。
 - ゲノム進化がもたらした生物の多様性について、例をあげて説明できる。
 - ゲノム編集などのゲノム操作技術が社会に与える影響について説明できる。
 - ゲノムの研究が人々の生命観や社会観に与える影響について説明できる。

授業方法と留意点
授業は板書とパワーポイントを併用して進めます。パワーポイントの資料は印刷・配布はしませんが、pdf版をTeamsの各授業回のチャンネルにアップロードしますので、各自、パソコン、タブレット、スマートフォンなどで確認し、必要に応じてダウンロードしてください。また、勉強の方法ですが、予習よりも復習を重視してください。高校で生物学を選ばなかった学生でも理解できるように生物基礎のレベルから説明しますが、その中で、DNAの構造や働き、酵素などについて最低限の理解をしてもらうことは必要です。理解をより促すため、事後

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	擬態と進化	遺伝情報 表現形質 進化	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	化学物質としてのDNA	生体分子の認識、DNAのはたらき、遺伝情報	事後：ミニレポートの提出
3	DNAはどう増えるか	DNAの変性、DNAの複製、DNAポリメラーゼ	事前：事前学修課題の学修
4	PCRの発明	PCRの原理と応用	事後：ミニレポートの提出
5	PCRが開いた新しい世界	PCRの産業利用、環境DNA	事後：ミニレポートの提出
6	PCRと科学で使う数字の話	感染は本当にふえていたのか？ 数字で人を騙す方法	事後：ミニレポートの提出
7	ゲノムの誕生	遺伝子、ゲノム、社会	事後：ミニレポートの提出
8	利他行動とゲノム進化	社会性昆虫、社会性動物、利己的DNA	事後：ミニレポートの提出
9	助け合うゲノム	海藻の生育と環境	事後：ミニレポートの提出
10	光を食べる動物たち	光合成をする動物、光合成ウミウシ、生物間相互作用	事後：ミニレポートの提出
11	光を食べる植物たち	光合成生物の誕生と進化、植物の環境適応	事前：事前学修課題の学修
12	ゲノムの混ぜ合わせが生み出す進化	ウイルスとその仲間達	事後：ミニレポートの提出
13	ゲノムの解読法	21世紀の生物学	事前：事前学修課題の学修
14	ゲノム情報と生物の改良	ゲノムデータベース、ゲノム編集、ゲノム育種	事後：ミニレポートの提出
15	ゲノムの教え、ゲノムの未来	ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する	事前：事前学修課題の学修

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会編	化学同人
2	エッセンシャルキャンベル生物学	池内、伊藤、著本 監訳	丸善出版
3			

評価方法 (基準)
授業中の小テストなど (10%)、授業の事後小テスト (30%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	生物の多様性と進化	科目名 (英文)	Biodiversity and Evolution
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 亮, 椎名 隆, 谷村 文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1077a0		

授業概要・目的
地球が誕生したのは今から46億年前だが、40億年前の地層からは早くも生命の痕跡が検出されている。その頃の単純な生命体はやがて原核細胞や真核細胞に進化し、さらに進化や分岐を繰り返して地球上の様々な環境に進出し、多様な体制や増殖の仕組みをもつ様々な生物群が出現した。本講義では、生物の系統進化や分類群を縦糸に、それらの生物群が示す体制や生活史等を横糸にして、地球上に棲息する生物たちの多様な世界を具体的に学ぶ。これらの生物の多様性は、産業、文化、農学、応用生命科学、などの基礎ともなっており、この講義ではそれらの関係についても学ぶ。

- 到達目標**
- ① 細胞内共生進化について概説できる。
 - ② 藻類の主な系統と陸上植物について、それらの生活史と進化を概説できる。
 - ③ 古細菌、原核微生物、真核微生物の違いについて理解し、概説できる。
 - ④ 微生物と人間の関わり、産業利用について概略を理解して説明できる。
 - ⑤ 陸上動物の分類が概説できる。
 - ⑥ 産業動物の品種改良について概説できる。
 - ⑦ 主要な水産生物の分類体系について概説できる。

授業方法と留意点
この講義で扱う生物群は、大きく分けて、植物系、微生物系、動物系、海洋生物系、の4つのグループにまたがっており、この4分野を専門とする4名の教員によるリレー方式で講義を進める。また、各回の講義内容に応じて、事前学習や事後学習の課題を提示し、それらを通じて受講生の理解を深める。

科目学習の効果 (資格)
教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の歴史と生命の誕生	地球の歴史、生命の誕生から真核生物の出現まで (担当: 椎名 隆)	事前: シラバスの理解 事後: ミニレポートの提出
2	藻類が生み出した多様な世界	藻類の多様な体制や生活史とその進化 (担当: 椎名 隆)	事後: ミニレポートの提出
3	陸に上がった植物と生活史	陸上植物の主な系統と生活史など (担当: 椎名 隆)	事前: 事前学習課題の学習
4	植物の環境適応と進化	陸上植物の環境への適応と多様化 (担当: 椎名 隆)	事後: ミニレポートの提出
5	原核微生物	古細菌、真性細菌の細胞構造や特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
6	真核微生物	真核微生物である酵母やカビの特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
7	菌類と産業との関わり	さまざまな菌類と人間生活との関わり、産業利用について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
8	動物、特に脊椎動物の食性の多様化	脊椎動物の分類や多様性について、特に食性に焦点をあてる (担当: 井上 亮)	事後: ミニレポートの提出
9	免疫系からみた脊椎動物の進化	免疫系の多様性から脊椎動物の起源・進化を考える (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
10	産業動物 (ウシ) の系統	くらしに関わる動物、特にウシの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習
11	産業動物 (ブタ・ニワトリ) の系統	くらしに関わる動物、特にブタとニワトリの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
12	水産生物の世界: 海綿と刺胞動物	カイメン、クラゲ、サンゴ、イソギンチャクなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
13	水産生物の世界: 冠輪動物	貝類、イカ・タコ、ゴカイなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習
14	水産生物の世界: 脱皮動物と新口動物	エビ・カニなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
15	水産生物の世界: 魚類、両生類、爬虫類、哺乳類	魚類、カエル、ウミガメ、ワニ、クジラなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon, Dickey, Hogan, Reece (池内、伊藤、箸本 監訳)	丸善出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内、伊藤、箸本、道上 監訳)	丸善出版
2				
3				

評価方法 (基準)
各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、最終試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生への

メッセージ	
担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室（椎名 隆）、応用微生物学研究室（和田）、動物機能科学研究室（井上）、
備考	

科目名	動物とくらし	科目名 (英文)	Animals and Human Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1078a0		

授業概要・目的	我々のくらしは様々な動物と関係して成り立っている。例えば、日々の食事は家畜や家禽などの産業動物によって支えられており、犬や猫などのペット（コンパニオン・アニマル）は日々の安寧な暮らしの重要なサポート役となっている。「動物とくらし」では、我々のくらしに、産業動物やコンパニオン・アニマルがどのように関わっているのかを学ぶとともに、それぞれの動物の生態や生理について説明し、くらしで関わる動物に関する基本的な知識を身につける。
到達目標	① 産業動物とコンパニオン・アニマルの違いを概説できる。 ② 産業動物とコンパニオン・アニマルの暮らしとの関わり方を概説できる。 ③ 動物種毎の食性や消化管の違いを理解することができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、獣医師などの外部講師による講義を取り入れ理解を深める。また、各講義後に、その日の講義内容に関する小テスト（事後課題）を実施する。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	産業動物について	くらしに関わる動物について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	三大畜種のライフサイクル	三大畜種のライフサイクルについて	事前：事前学習課題の学習
3	家畜の消化管生理（ウシ）	ウシの消化管生理について	事前：事前学習課題の学習
4	家畜の消化管生理（ブタ・ニワトリ）	ブタとニワトリの消化管生理について	事前：事前学習課題の学習
5	家畜の飼料（基礎）	家畜の飼料について（基礎編）	事前：事前学習課題の学習
6	家畜の飼料（応用）	家畜の飼料について（応用編）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
7	家畜の病気（基礎）	家畜の病気について（基礎編）	事前：事前学習課題の学習
8	家畜の病気（応用）	家畜の病気について（応用編）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
9	三大畜種の乳	三大畜種の乳について	事前：事前学習課題の学習
10	異種動物間移植	異種動物間（産業動物→ヒト）の移植について	事前：事前学習課題の学習
11	動物福祉	動物福祉について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
12	伴侶動物	伴侶動物動物について	事前：事前学習課題の学習
13	動物園動物	動物園動物について	事前：事前学習課題の学習
14	動物の行動と栄養	動物の行動と栄養について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
15	腸内細菌	腸内細菌について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	講義内容に関するプリントを配布		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各授業の事前学習課題（40%）、授業中の講義の学習確認小テスト（事後課題：60%）で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	微生物とくらし	科目名 (英文)	Microorganisms and Human Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1079a0		

授業概要・目的
農学部の応用生物科学科以外に所属する学生に対して、有用微生物およびその利用に関して講義を行う。微生物には「バイ菌」という言葉に代表されるように、ネガティブなイメージがあるが、本講義では人類に役立つ微生物バイオテクノロジーについて広く述べる。具体的には、1)各種発酵食品製造における微生物の役割、2)有用物質生産の実例として微生物を用いたアミノ酸、核酸等の発酵生産および、抗生物質の発酵生産について、3)ニューバイオテクノロジーによる微生物機能の有効利用の事例として、遺伝子工学の利用によるタンパク質の生産、代謝工学等について、4)環境修復のためのバイオテクノロジーについて、などである。また、それらを自らが展開していくために必要な考え、今後の発展の方向などについて講義する。

- 到達目標**
- ① 人間が利用する微生物の種類について、理解して概説できる。
 - ② 微生物を利用するための代謝に関する知識、微生物の育種の方法について理解し、概説できる。
 - ③ 各種発酵食品製造における微生物の役割について、理解し、概説できる。
 - ④ 代謝制御発酵によるアミノ酸、核酸等の発酵生産に関する理論と工業化の実際について、理解し、概説できる。
 - ⑤ 腸内フローラ、プレバイオティクスについて理解し、概説できる。
 - ⑥ 我々が微生物をどのように生活の中で利用しているのか、説明する際に修得内容を活用できる。

授業方法と留意点
パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画視聴を行う場合がある。各講義後に、その日に講義した内容に関する小テストを実施する。また、応用微生物学に関わる実務に携わる外部の専門家にゲストスピーカーをお願いする場合がある。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微生物とくらし	イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史	事後:小テストの復習
2	細菌とその利用	くらしに役立つ細菌類について	事後:小テストの復習
3	真菌とその利用	くらしに役立つ真菌類 (酵母、カビ) について	事後:小テストの復習
4	微生物の利用	微生物による物質生産の概説。発酵、酵素などの概念	事後:小テストの復習
5	微生物の代謝 I	微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど	事後:小テストの復習
6	微生物の代謝 II	微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連	事後:小テストの復習
7	発酵食品 I	食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など	事後:小テストの復習
8	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など	事後:小テストの復習
9	微生物の改良 I	古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など	事後:小テストの復習
10	微生物の改良 II	遺伝子組換え法による微生物の品種改良	事後:小テストの復習
11	発酵生産 I	アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など	事後:小テストの復習
12	発酵生産 II	抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など	事後:小テストの復習
13	健康と微生物	プレバイオティクス、プロバイオティクスなど	事後:小テストの復習
14	農業と微生物	微生物農薬、植物共生菌など	事後:小テストの復習
15	低炭素社会と微生物	バイオエタノール、バイオプラスチックなど	事後:小テストの復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学	青木健次	化学同人
2	バイオテクノロジーの教科書上	ラインハート・レンネバーグ	講談社
3	バイオテクノロジーの教科書下	ラインハート・レンネバーグ	講談社

評価方法 (基準)
授業中の毎回の学修確認小テスト (20%、15回を各講義の中間と最後に実施。Formsなどを利用)、定期試験 (60%) で評価し、合計60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
応用微生物学は微生物の機能を人に役立たせるための学問です。微生物の利用は古代から行われており、人間の生活と密接に関連しています。高校までの生物では「微生物は病気を引き起こす」「微生物は生態系では分解者」というイメージが強いですが、応用微生物学で微生物に対する新しい見方を修得して欲しいと思います。

担当者の研究室等
応用生物科学科応用微生物学研究室 (8号館3階307教員室)

備考

科目名	海洋生物とくらし	科目名 (英文)	Marine Organisms and Human Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1080a0		

授業概要・目的	海洋は地球の表面積の約7割を占め、更に深海など人類にとって未踏の領域も含むフロンティアである。このように広大かつ深遠な領域に住む海洋生物は独自の世界を形成し、直接的或いは間接的に我々の暮らしと関わっている。「海洋生物とくらし」では、水圏の成り立ちから海洋生物の分類、生理、生態について概説し、特に我々の暮らしとの関わりが深い「魚介類」に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	海洋生物について、それを取り巻く環境、生態系から我々の食卓を彩る水産物としての側面について幅広く学び、理解すること。 海洋生物を含む、生物の分類の基礎について理解する。 身近な食品である水産物について、その分類上の位置と姿、形、味を結びつける。
授業方法と留意点	授業方法は、主としてパワーポイント、板書を用いる。海洋生物にまつわる興味深い事柄を紹介しつつ、日本人の食卓に欠かせない水産物についてその背景を含めた理解を深める。本講義は海洋、水圏の生物学に関する入門講座であるとの位置づけから、各回の講義内容を暗記することは求めない。ただし、授業の開始時に、受講者数名にその回のテーマについて受講前の印象を発表してもらう。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	水圏の成り立ち	水圏の形成とその変遷、現在の分布、我々の生活と水生生物	どんなことでも良いので、自分と水の生き物に関わる思い出、印象を整理する。
2	海洋の元素、化学物質	水圏の化学的背景。どのような元素がどのくらい存在するか。「塩」を考える。	事前：海の元素、塩に対する印象をプレゼン
3	水圏の物質循環	窒素、リン、その他の無機質に着目した海洋での物質循環と一次生産	環境とリン、窒素化合物について
4	海洋生物の基礎	水圏に棲む生物の大要と進化、分類。陸上生物との関係	好きな魚介類について考え、その分類上の位置について調べる。
5	水圏生物の分類	水圏生物の分類、市場の魚の素性を知る。明石魚の棚市場、黒門市場に見る季節の魚、貝、など	季節と魚介類に関する印象、好きな旬の魚介類は？
6	水圏の生態	水圏生物の生態系、物質循環との関わり。	講義内容に関する所感、印象の発表
7	水圏の生物資源	日本と世界の漁業生産、日本と世界のお魚事情について。	講義内容に関する所感、印象の発表
8	水産資源	日本と世界の水産資源、その分布と変動	講義内容に関する所感、印象の発表
9	食品としての水産物	日本と世界の水産物と食卓。水産食品色々。	講義内容に関する所感、印象の発表
10	水産食品の化学的背景	水産物の化学的背景とその利用。水産食品の今昔。	講義内容に関する所感、印象の発表
11	水産食品の味、匂い、色をもたらす成分	五感で感じる水産物。水産物の味、匂い、色について。	講義内容に関する所感、印象の発表
12	水産食品の主な成分	水産食品の成分。タンパク質、脂質、ビタミン、無機質など。	講義内容に関する所感、印象の発表
13	水産食品の加工と保存	水産物の加工・食品の劣化、食中毒	講義内容に関する所感、印象の発表
14	水圏生物由来の化学物質	水圏生物由来の化学物質・生理活性物質。毒と薬と	講義内容に関する所感、印象の発表
15	水圏生物と社会の関わり	まとめ。日本と世界の水産業が抱える諸問題と将来。	講義内容に関する所感、印象の発表

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	水圏生物科学入門	会田勝美	恒星社厚生閣
2				
3				

評価方法 (基準) 試験 (レポート) 60%、出席 (プレゼンテーションの担当) 40% とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等備考

科目名	食と農の倫理を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food and Agricultural Ethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	種市 豊・谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇		
科目ナンバリング	OAF1081a0		

授業概要・目的	食と農をめぐる様々な問題が存在するなかで、その解決に向けた行動規範として、食と農の倫理がある。これは、食（消費者）と農（生産者・供給者）の双方の倫理的な行動によって、問題の解決につなげようとするものである。本講義では、食と農をめぐる諸問題の所在を理解したうえで、食と農の倫理の思想と理念への認識を深めるとともに、その視点から課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることが目的とする。
到達目標	① 食と農を取り巻く諸問題を理解することができる。 ② 食と農を取り巻く諸問題に対する倫理と思想を理解することができる。 ③ 課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリント等を配布するので、事前学習を行うこと。講義の理解度をはかるために小テストを実施する。授業のなかで、グループ・ディスカッション等を実施することがある。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食と農の倫理	食と農の倫理をめぐる諸問題を概観する。(担当：種市豊・谷口葉子)	事前：シラバスの理解
2	SDGs と倫理的消費	SDGs と倫理的消費の考え方を学ぶ。(担当：種市豊)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
3	食料分配の不均衡と食への権利	世界的な食料分配の不均衡について食料安全保障の観点より理解し、食への権利という考え方を学ぶ。(担当：種市豊)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
4	食料アクセス問題	食料への社会的・経済的なアクセス問題とその解消方法について理解する。(担当：種市豊)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
5	食品ロスの削減	食品ロスをめぐる状況と削減に向けた取り組みを理解し、私たちができていることを考える。(担当：種市豊)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
6	サーキュラーエコノミー	循環型経済・環境負荷の軽減を学ぶ。(担当：種市豊)	事前：配布プリントの予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
7	企業の倫理とコンプライアンス	企業のCSR活動や、食品表示などの食にまつわる法規制へのコンプライアンス向上に向けた取り組みを理解する。(担当：種市豊)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
8	ソーシャルビジネスとCSV	社会的課題の解決を目的とする事業のあり方について理解する。(担当：種市豊)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
9	寄付文化と応援消費	寄付行動の動向と災害時の応援消費を始めるためのエシカル消費について学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
10	ローカルフードシステム	食品流通の広域性にまつわる諸問題とローカルフードの取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
11	スローフード	食文化と食の多様性の保全について学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
12	食と持続可能性	近代的な食料生産システムがもたらしてきた環境面への影響やその緩和を目指した取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
13	アニマルウェルフェア	肉食の是非をめぐる議論や動物の福祉を守るための取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
14	公正と社会正義	農家や労働者の福祉の改善を目指したフェアトレードの取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
15	食のオルタナティブ運動	近代的な農業・食料システムに代わる新しい食のあり方について総括する。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農と食の新しい倫理	秋津元輝、佐藤洋一郎、竹之内裕文	昭和堂
2	シビック・アグリカルチャー ～食と農を地域に取り戻す～	トーマス・ライソン	農林統計出版	

	3	食の人権	伊藤恭彦編	リベルタス出版
評価方法 (基準)	各回の授業で実施する学習確認小テスト・小レポート(40%)と、期末試験または期末レポート(60%)で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(種市)、持続型フードシステム研究室(谷口)			
備考				

科目名	食と農の経済を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food and Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1082a0		

授業概要・目的	食料は人間が生きていく上で必要不可欠であるが、個人の消費能力には限界がある。このような食料の必需性と飽和性、さらには自然条件に左右されやすいという農業生産の不安定性等から、農業や食料関連産業は、一般の商工業とは異なる特徴を有している。本講義では、このような食料・農業の特殊性を踏まえながら、食料消費の動向、農業及び食料関連産業の現状と問題点・課題等について、経済学的な考え方にに基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 食料・農業経済学で用いられる基本概念と経済理論を理解する。 ② 食料・農業経済の活動を生産から消費までのフードシステムとしてとらえて理解する。 ③ 経済学に基づく分析には、理論的な定量的な分析とデータを用いた定量的な分析の両方が必要であることを理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業経済学に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。教科書や配付資料等により、予習・復習を行うこと。 ふりかえりシート (毎回) のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	他産業と比較した農業の特徴について、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	食料需要の経済理論	ミクロ経済学を用いて、食料需要の決定メカニズムや食料の特性について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	価格弾力性とエンゲル係数	食料需要の価格弾力性とエンゲル係数について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	食料消費構造の変化と要因	食の外部化、簡便化等の食料消費構造の変化とその要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	人口・世帯構成と食料消費	人口構成・世帯構成の違いや変化が食料消費に及ぼす影響について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	食料供給の経済理論	ミクロ経済学を用いて、完全競争市場と独占市場における生産量の決定メカニズムについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	食品製造業の現状と特徴	食品製造業の産業としての特徴について、製造業一般と比較しながら、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	生鮮食料品の流通と市場	生鮮食料品の流通における市場の役割と食品流通業の産業として特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	外食産業と中食産業	外食産業と中食産業の現状と特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	世界食料需給と食料自給率	世界の人口・食料生産・食料消費と各国の食料自給率の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	米の生産と流通・消費	米の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	野菜・畜産の生産と流通・消費	野菜・畜産の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	農林水産物・食品の貿易	農林水産物・食品の輸入及び輸出の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	食品の安全性と表示	食品の安全性と表示に関する規制について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	食品ロスと環境問題	食品ロスと廃棄物のリサイクルについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ, 荏開津 典生, 中嶋 康博
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	食料・農業・農村白書 (各年度版)	農林水産省編
	2	その他、必要に応じて紹介する		
	3			

評価方法 (基準)	①定期試験または期末レポート 50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート 50%で評価し、①と②を合計して 60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	食料・農業政策学研究室 (農学部 2階 214)
----------	--------------------------

備考	
----	--

科目名	食と農の共生を考える	科目名 (英文)	Study to Symbiosis of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1083a0		

授業概要・目的
近年、さまざまな側面から「食と農の距離の拡大」(食と農の乖離)の問題が指摘されている。私たちが真に豊かな食を実現し、日本の農業を守り発展させていくためには、食と農の距離を少しでも短くすること、すなわち食と農を結び両者が「共生」していく道筋を考えていかなければならない。本講義は、食農共生・循環型農業論系の概論として「食と農の距離」の問題を考えながら、農業と食料問題の特性を理解したうえで、生産者と消費者、農村(むら)と都市(まち)、産地と食卓を結ぶ食農共生の課題や方向性について考える。

到達目標
① 近年の「食と農の距離の拡大」の状況について理解する。
② 食と農の距離を短くする、食と農を結ぶためのさまざまな取り組みの現状を知る。
③ ①②を通じて、農業・農村の発展や食料問題に解決のためには、食と農を結ぶこと(食農共生)の考え方が重要であることを理解し、食と農の共生の方向性について考えることができるようになる。

授業方法と留意点
・授業形式: 完全オンデマンド授業。授業教材、講義レジュメ・資料などを配信して進める。
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用する。
・質問等がある場合、研究室への来室、電子メールやICTツール等を利用すること。
・事前の予習と復習(講義後の所感)を重視する。そのために、毎回、リアクションペーパーの提出を課す。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス、農学、食農ビジネス学における食農共生問題	農学、食農ビジネス学を学ぶ上での食農共生問題の位置づけ、重要性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
2	日本の食料・農業政策と食農共生	農業基本法および食料・農業・農村基本法を比較しながら、政策における食農共生問題に位置を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
3	経済発展と農業・食料問題、食農共生	経済発展に伴って、農業や食料問題の相対的な位置がどのように変化するかを知り、その中の食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
4	農業・食料生産の特質と食農共生	農業・食料生産(供給)の特質を知り、その中の食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
5	農産物・食料需要の特質と食農共生	農産物・食料の消費(需要)の特質を知り、その中の食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
6	農産物・食料の価格変動と食農共生①	農産物・食料の価格変動の特質を知り、その中の食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
7	農産物・食料の価格変動と食農共生②	農産物・食料の価格変動の特質を踏まえた市場経済のメカニズムの特性と限界を知り、その中の食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
8	中間まとめ	これまでの授業のふり返りを行い、食農共生の取り組みが果たす役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
9	食と農の距離の拡大(時間的・地理的距離の拡大①)	食料自給率の問題を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
10	食と農の距離の拡大(時間的・地理的距離の拡大②)	輸入農産物の問題を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
11	食と農の距離の拡大(段階的距離の拡大①)	農産物・食料の流通・加工過程を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
12	食と農の距離の拡大(段階的距離の拡大②)	農産物直売所や産直・産消提携の理念と内容を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
13	食と農の距離の拡大(心理(意識)的距離の拡大①)	食育の理念と内容を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
14	食と農の距離の拡大(心理(意識)的距離の拡大②)	農村都市交流・グリーンツーリズムやCSAについて理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。
15	授業全体のまとめ	授業全体の復習を行うとともに、私たちにとって食農共生を進めていくための課題と方向性について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(1時間)・事後(1時間)に学習する。

関連科目 農学概論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食と農を学ぶ人のために	祖田修/杉村和彦編	世界思想社
2	地域産業の発展と主体形成-食と農、資源を活かす-	北川 太一	放送大学教育振興会
3			

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回のリアクションペーパー、期間中に出题するレポート課題など (50%程度) ②期末レポートもしくは定期試験 (50%程度)
学生への メッセージ	日々の食卓から農業の生産現場に、枚方キャンパスから自然豊かな農山漁村に思いを馳せることの大切さを実感しましょう！
担当者の 研究室等	農学部 3 階 318 研究室
備考	

科目名	フードシステムを学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food System
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1084a0		

授業概要・目的	米や野菜、魚など農水産物は、農漁業生産(一次産業)を起点に加工・卸売業や小売・外食業等の過程/担い手を経て我々の食卓に届く。こうした生産から消費に至るプロセスを一つのシステム“フードシステム”と捉えるが、その姿や問題は食料消費を含む社会構造の変化等と呼び複雑化している。この授業では、食料消費を含むフードシステムの変化や特徴を、各種統計を用いつつ社会・経済的な側面、特にそれを構成する川上、川中、川下、みずうみ各段階の現勢や相互の連関(担い手と社会的分業)とその変化に注目して総合的に学ぶ。
到達目標	①「食」「農水産業」を巡る昨今の変化や問題を解く上でフードシステムという概念や視座が重要となることが理解できる。 ②家計消費含むフードシステムの各段階の動向・変化とその社会的背景が理解できる。 ③フードシステムの基本的枠組みや構造(川上、川下、川中、みずうみの担い手や業務、相互の関わり等)を理解できる。 ④フードシステムの構造変化やその特徴を、④の観点から説明するための知識を得ることができる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いて進め、必要に応じ資料を配布する(対面又はTeams上)。板書は適宜行うが、それに限らず、話を聞きながら自ら主体的に内容・要点をメモし、オリジナルノートをつくるよう習慣付けて欲しい。授業内容の理解を促すため、授業中に履修生に意見を問う、グループ討議を求める、こともある。なお、授業の終了前に、当該単元の内容に関連する課題(ミニレポート又はクイズ、感想・意見整理等)を課すのでそれに対応する(1時間)とともに、その内容をもとに学生同士で討議を行うこと(1時間)、また次回授業で扱う内容も
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション・食料経済の発展段階を知る	授業の狙い・構成・成績評価方法等、及び食料経済の発展段階を理解する。	事前：シラバスの理解	事後：学習課題の学習
2	フードシステムとは？：その概念・視座と経済規模、対象財の特徴	フードシステムの問題やその視座の重要性、食品の財としての特徴等を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
3	食料経済の基礎①：消費者の商品選択について考える	フードシステムの最終段階を担う消費者の商品選択理論の要点を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
4	食料経済の基礎②：需要曲線の傾きと弾力性	需要曲線の傾きや代替財・補完財の意味等を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
5	食料消費構造の変化と特徴①：“食”の性格/位置づけの変化	食料消費と経済の豊かさとの関係、食の性格や位置づけの変化について理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
6	食料消費構造の変化と特徴②：食の外部化とその背景	国内の家計消費に見られる変化と特徴、その社会的な背景を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
7	川下の構造変化と特徴①：伝統的小売の特徴とチェーン組織の躍進	小売業の役割・諸類型、国内食品小売の構造変化(特にチェーン組織の躍進、その業務の特徴)を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
8	川下の構造変化と特徴②：SMの生鮮食品販売を考える	スーパーマーケット(SM)のオペレーション上の情報技術の重要性、計画仕入・販売のあり方やその含意を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
9	川下の構造変化と特徴③：外食・中食産業の登場と市場拡大	外食・中食産業(及び小売)の境界と担い手、食の外部化・簡便化に対応するミール・ソリューション概念等を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：レポートの提出
10	生鮮食料品の流通体系と変化①：流通制度化の背景と意義	生鮮食料品流通において公的介入(法制度化)が進んだ背景・含意など日本型流通(政策)の特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
11	生鮮食料品の流通体系と変化②：市場流通の変化と特徴	商業機関の介在意義や流通の多段階性について考え、市場流通(制度)の変化やその含意を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
12	国内農水産業の動向と問題①：農水産業の位置と特徴	担い手の減少や高齢化はじめ日本の農水産業の現状やそれに付随する問題を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
13	国内農水産業の動向と問題②：問われる資源・環境保全の取組	気候変動が農水産業に及ぼす影響、自然資本の重要性、環境認証の取組み等を理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
14	複雑化する食料問題：飢餓と飽食の併存	人口と食料問題、食品ロス、飢餓と飽食の併存など現代の食料問題の複雑さを理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習
15	フードシステムの今日の姿(全体のまとめと補足)	上記の構成各段階の変化・特徴を相互に関連付けてフードシステムの全体構造や今日の姿を概括的に理解する。	事前：学習範囲の予習	事後：学習課題の学習

関連科目	食品産業論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学	時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博	医歯薬出版
2	食料経済(第6版) フードシステムから見た食料問題	高橋正郎・清水みゆき	オーム社	
3				

評価方法 (基準)	授業後の小課題*(50%), 期末試験又は期末レポート(50%)から総合的に評価し, 60%以上の得点で合格とする。 *各回の授業内容に関わるミニレポート又はクイズ, 感想・意見整理等。
学生への メッセージ	フードシステムは農漁業生産にも我々の消費にも密接に関わるほか, ある段階/担い手の技術革新や対応行動変化が他の段階/担い手, ひいては当該システムの全体構造に影響することもあります。今日のフードシステムの姿を, 生産, 流通, そして私たち消費者の態様など, 多様な角度から学習しましょう。
担当者の 研究室等	8号館2階 食品産業研究室(217)
備考	

科目名	農業の多様性を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Agricultural Diversity
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1085a0		

授業概要・目的	さまざまな気候、生態環境、歴史、文化、社会・経済状況などを反映し、世界各地や日本で多様な農業（農耕、牧畜、狩猟採集、林業、漁労などを幅広く含む生業）が営まれている。本講義では、多様性をキーワードに、これらの農業の成り立ちや特徴を理解し、科学・技術的な視点に加え文化的な文脈からの農業観の形成を試みる。また、私たちが直面している地域・地球環境問題（例えば、貧困問題、環境荒廃、過疎化など）の実態やその解決に向けた村落開発や生態系保全のアイデアと取り組みについて考える。
到達目標	① 世界各地や日本におけるさまざまな農業の成り立ちや特徴を理解する。 ② 農業の多様性を環境問題の解決や地域活性化に活かすアイデアや取り組みを知る。 ③ 総合討論を通じて、知識を共有し理解を深める。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を行う。授業中は、幾つかの疑問を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の講義後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。後半の総合討論では、リアクションペーパーなどから関心の高い話題や理解度の足りない事項を抽出し、それらについての補足説明や意見交換を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「農」とは何か	「農」の概念、風土、農業生態系、多様性の捉え方を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパー
2	世界の農業地理 (1)	アフリカ・中東・ヨーロッパの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
3	世界の農業地理 (2)	南アジアの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
4	世界の農業地理 (3)	東南アジア・オセアニアの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
5	世界の農業地理 (4)	東アジア・中央アジアの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
6	世界の農業地理 (5)	北米・中南米の気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
7	日本の農業地理 (1)	北海道、東北、関東、甲信越の地域性と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
8	日本の農業地理 (2)	近畿、四国、中国の地域性と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
9	日本の農業地理 (3)	九州、沖縄（島嶼地域）の地域性と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
10	地域・地球環境問題と農業	人口流動（総人口の増加、都市集中、地域の過疎化）や気候変動のもとでの地域・地球環境問題とその解決に向けての農業の役割を知る。	事後：リアクションペーパー
11	農業の多様性と生態系保全	アフリカやアジアを事例に、農業の多様化が荒廃環境の修復、生物多様性や生態系の保全に果たす可能性を考える。	事後：リアクションペーパー
12	農業の多様性と貧困削減	アフリカやアジアを事例に、農業の多様化が貧困削減、自然災害や紛争からの復興、暮らしの安全の向上に果たす可能性を考える。	事後：リアクションペーパー
13	農業の多様性と地域活性化	少子高齢化が進む日本の地域社会の活性化に向けたさまざまなアイデアや取り組みを知る。	事後：リアクションペーパー
14	総合討論 (1)	授業の振り返りと意見交換	事後：総合レポートの作成
15	総合討論 (2)	授業の振り返りと意見交換	事後：総合レポートの作成

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド (著)、永田俊樹・佐藤洋一郎 (監訳)	京都大学学術出版会
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (70%) と期末レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	(1) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。事前にアボを取ってくれば適宜雑談や意見交換の機会をつくれます。 (2) 国際協力 (特に青年海外協力隊やNPO/NGO) に関心のある方へのアドバイザーもできます。
-----------	---

担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213号室)
----------	------------------------------------

備考	
----	--

科目名	食と農の歴史を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food and Agricultural History
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 芳宏
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1086a0		

授業概要・目的	<p>本講義は食と農の社会的ありようという観点から、主として19世紀後半から20世紀の欧州と日本・東アジアを対象に、現代の食と農をめぐる問題がどのように形成されてきたのか、さらには日本と欧米の比較を通じて、東アジア農業がどのような特徴をもっているのかについて講述することを目的とする。</p> <p>講義は4部より構成される。</p> <p>第1部は、とくに現代の食を特徴づける砂糖（甘味料）と肉食をとりあげる。欧米に関しては18世紀のカリブ海の砂糖プランテーションの形成と19世紀後半の欧州における甜菜糖の拡大を、日本・東アジアに関しては20世紀初頭の帝国日本における沖縄と台湾の砂糖きび栽培と製糖業の発展を取り上げる。肉食に関しては欧米との比較を念頭におきつつ、明治以降の日本の肉食の普及を、屠畜をめぐる問題との関わりを含めて考えてみたい。</p> <p>第2部では近代化の過程における農業技術革新を、欧米に関してはイギリス農業革命を、日本については明治農法と称される明治期の稲作農業の技術革新をとりあげる。それをふまえてどのような形で化学肥料の多投に至る現代農業が形成されたかに関して、欧米における窒素肥料の歴史を、また日本における人糞尿の歴史を振り返ることで考えてみたい。</p> <p>20世紀前半の食と農を考えると世界恐慌と世界大戦の影響は決定的であった。第3部では恐慌・戦争と食糧・農業の関わりを考えたい。トピックとしては、大戦を通しての大豆栽培の世界化、帝国日本の満洲農業移民、ナチス・ドイツの農業・食糧政策を、また農学と政治の関わりを考える素材として旧ソ連時代のルイセンコ農学をとりあげたい。</p> <p>最後に第4部として新たな農業・農村を目指す試みとして、日本の戦後開拓地の酪農建設、および日欧における有機農業運動の形成過程をとりあげたい。</p>
---------	--

到達目標	<p>①資本集約型農業を志向する近代農業の基本的特質と、それが農村社会のありようをいかに変化させたかを理解する。また近代史における出来事が、私たちの身近な食や農業の歴史と無関係ではないことを理解する。</p> <p>②20世紀の世界と日本の農業・食糧のありようが、一国単位の単系的な発展ではなく、グローバルな人と物の交流の中で生み出されてきたことを理解する。</p> <p>③欧米と日本の比較史の観点から、とくに日本の食と農の特徴がどこにあるかについても理解する。</p>
------	--

授業方法と留意点	・対面の講義形式で行う。毎回授業資料をその場で配布する。WebFolderでも資料ファイルを事前にUPする予定。また講義中、毎回何人かの学生には、配布資料のうち文献等からの引用箇所について音読してもらう形で、講義への協力をお願いする。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義概要	講義の目的と全体の構成、および15回の各講義の要点を述べる。	事前：シラバスの理解 事後：授業内容に関する小レポートの作成
2	砂糖と南北問題の起源—食と貧困—	イギリスにおける砂糖消費の増大と、その前提となるイギリスの植民地カリブ海における砂糖プランテーションの形成の概要をのべ、「南」の植民地の農業が宗主国の主導によって作りかえられたことを述べる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
3	帝国日本と糖業の展開—沖縄と台湾を中心に—	19世紀末から20世紀初頭にかけての沖縄と台湾における製糖業の展開を、東アジア全体の動向を踏まえながらその概略をのべる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
4	甜菜糖（ビート）と外国人労働者—19世紀ドイツのポーランド人	19世紀末から20世紀初頭のドイツにおける甜菜（ビート）糖業の発達、ポーランド人などの外国人農業労働者の導入を引き起こしたことについてのべる。時間があれば補足的に北海道の甜菜糖についても補足的に触れる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
5	肉食と屠畜の日本史—食と差別—	明治維新期における牛肉食の普及過程について、農業（畜力）との関わりも含めて論じる。あわせて屠畜についても触れて、屠畜をめぐる差別や動物福祉の問題についても考える。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
6	イギリス農業革命—近代農業の起源を求めて—	現代の欧米の資本集約的農業の起源となったイギリス農業革命について、農法的側面の変化を中心にその内容を述べる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
7	窒素をめぐる近代史—ハイファーマーミングのイギリス農業—	農業革命後の19世紀半ば以降における欧州農業の肥料の歴史をたどることで、肥料多投的な農業が化学肥料の発明に帰結していく過程をのべる。あわせてリービッチ農学の特徴についても触れる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
8	近代農学と老農技術—明治農法の形成—	明治期の稲作農業の技術革新により明治農法がいかなる形で形成されたかをみる。あわせて西欧とは異なる、日本の小農的で労働集約的な稲作技術革新の特徴を明らかにする。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
9	「下肥」の比較環境史—都市尿尿問題と近郊農業—	日本の農業が、とくに野菜作を中心とする都市近郊農業の発達において「下肥」がいかなる役割を果たしたか、化学肥料の登場により人糞尿が「下肥」から「廃棄物」となっていく過程を明らかにする。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
10	世界戦争と食資源開発—大豆にみる20世紀食料戦—	東アジアに限定されていた大豆作と大豆の食文化が、満洲開発を通して、油糧原料や飼料となり、さらには第二次大戦を通じてアメリカで爆発的に拡大して	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成

			いくこと、またその過程で大豆が単なる食材から多様な用途に使われる生物資源とされていくことを指摘する。	
11	帝国日本の「満洲」農業移民政策―「満蒙開拓」という経験		戦前日本では食糧政策は植民地のみならず傀儡国家「満洲」を含む日本勢力圏において構想されていた。その一環としてあった満洲移民政策について、その背景や開拓民の送付プロセス、および満洲での入植の実態、終戦後の苛酷な引揚げの実態について講述する。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
12	ナチス・ドイツの農業・食糧政策―市場統制・食糧自給政策・占領地の資源収奪―		ナチス・ドイツは第一次大戦時の反省から、戦争準備の段階から入念な食糧自給政策を実施する。ここでは戦時のナチス・ドイツの食糧・農業政策がどのような特徴をもっていたかを日本との比較を交えつつ講述する。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
13	ルイセンコ事件とソ連農学―20世紀農学の「負」の歴史―		応用科学である農学は、ときとして政治的な影響のもとにおかれる。黎明期の遺伝学をめぐる論争に関わって、「獲得形質が遺伝する」とした戦前期のソ連のルイセンコ学説をとりあげ、それがいかなる背景で登場し、どのような影響を与えたかを論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
14	戦後開拓と酪農の日本史―西欧型の草地酪農を求めて―		近代日本の酪農は主として都市近郊の酪農として誕生するが、本格的な草地酪農は、主として戦後開拓地において開始される。日本の伝統になかった草地酪農が戦後日本においてどのような経緯で作られていくのかを論じることで西欧型農業の移植の実態を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成
15	有機農業運動の歴史―土壌と家畜と健康―		近代の資本集約型農業に代わる農業としての有機農業運動はいかなる背景の中でどのようにして誕生してきたのか。既に20世紀初頭に勃興する英独の有機農業運動がどのようなものだったのか、その概略について知る。あわせて、1970年代の日本の有機農業運動の勃興の経緯についても触れることで、両者の違いについても考えたい。	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小レポートの作成

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の農業 150年	暉峻衆三	有斐閣
2	農の世界史	マーク・B・タウガー	ミネルヴァ書房
3	未来を語る日本農業史	野田公夫	昭和堂

評価方法
(基準)

出席点 (10%)、中間小レポート (45%)、定期試験 (45%) で評価する

学生への
メッセージ

担当者の
研究室等

備考

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前：管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前：管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前：食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前：学業について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前：学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。																
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。																
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。	

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
	6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
	10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。	

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前：管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前：管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前：食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前：学業について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前：学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前：管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前：管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前：食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前：学業について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前：学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章 大学の学びのながれを知ろう 第3章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章 大学の学びを深めるために 第5章 快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章 今までの自分を自分で分析しよう 第7章 キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	自分自身を知ろう	GPS-Academic	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	管理栄養士の職場を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の働く環境を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	管理栄養士の業務を知る	給食センターを見学し、管理栄養士の仕事を知る。	事前: 管理栄養士の仕事についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	カリキュラムと研究	4年間のカリキュラムと各教員の担当する授業・研究内容を知る。	事前: 食品栄養学科のホームページを調べておく。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士の仕事の総括	外部講師により管理栄養士の仕事の意義や内容を知る。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	学年間交流により学業を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学業を知る。	事前: 学業について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	学年間交流により学生生活を知る	上級生とのレクリエーション活動を通じて4年間の学生生活を知る。	事前: 学生生活について調べる。

				事後：授業のまとめを行う。 事前：配布された資料のわからない語句を調べる。
	12	授業や課外活動について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより講義、実験実習、部活、サークル、学祭について知る。	事後：授業のまとめを行う。
	13	国家試験対策、資格取得について知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークにより国家試験対策や各種資格について知る。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	キャリアプランニングについて知るワークショップ	上級生を加えたワークショップ、グループワークによりキャリアプランニングについて考える。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	これまでのまとめ	14回目までの基礎ゼミを踏まえて、授業への取り組み、国試、就職に向けてグループワークを行い、大学生活の目標等を発表する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物 (40%)、レポート (60%) により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。 学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p>
到達目標	<p>1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。</p> <p>2) ABDによる読書法を身につけている。</p> <p>3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。</p> <p>4) SDGs (Sustainable Development Goals) について基本的な知識を身につけている。</p> <p>5) 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。</p> <p>6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。アクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。 本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、学生が積極的に参加することが大切である。 1限目では、受講者は事前学習で指定された教科書の箇所を読書したり、不明な用語など調べた内容につ
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月6日 (9:20~10:50)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月6日 (11:00~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	「星の王子さま」① 4月13日 (9:20~10:50)	アイスブレイク、授業のガイダンス 「星の王子さま」の指定箇所について読み、要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」についての調べ学習 (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
4	「星の王子さま」① 4月13日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」① (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
5	「星の王子さま」② 4月20日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」② (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
6	「星の王子さま」② 4月20日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」② (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
7	「星の王子さま」③ 4月27日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」③ (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
8	「星の王子さま」③ 4月27日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」③ (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
9	「未来の年表」① 5月11日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所 (人口減少カレンダー2033~2065 年前半) について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「未来の年表」① (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
10	「未来の年表」①	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふり	事後: 「未来の年表」① (約30分)

	5月11日 (11:00~12:30)	かえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考えなどをメモする。																
11	「未来の年表」② 5月18日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065年後半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」②(約1時間) (1)著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2)不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト(moodle)として実施する。																
12	「未来の年表」② 5月18日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」②(約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考えなどをメモする。																
13	3~12回の総括 5月25日 (11:00~12:30)	3~12回の総括 筆記試験に関するアナウンス	事前:授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。(約1時間) (1)著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2)不明な語句などを調べる。																
14	「SDGs(持続可能な開発目標)のゲームの実践」 5月25日 (13:20~14:50)	「SDGs(持続可能な開発目標)のゲームの実践」 講義担当;認定ファシリテーター大塚正人	事前:「SDGs」(約1時間) (1)「SDGs」について読むべき資料をTeamsへアップする。各自通して読む。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト(moodle)として実施する。																
15	SDGsにかかる最新事情 5月25日 (15:00~16:30)	サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出 講義担当;認定ファシリテーター大塚正人	事後:「SDGs」(約30分) 授業で学修した箇所を、再度学習する。自分が気になった箇所や、考えなどをメモする。																
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫																
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	サマリーシート(10%)、ふりかえりシート(10%)、理解度確認テスト(前10%:事前学習の評価、後10%:ABD実施による読書内容の理解度評価)、グループワーク取り組み姿勢の評価(20%:グループワークでの討論を踏まえた共同作業・成果を含む)、期末テスト(40%)以上の評価点の合計で60%以上を合格する。原則全ての授業に出席していること。																		
学生へのメッセージ	大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																		
担当者の研究室等	山居 輝美(看護学部7号館 研究室3) 北村 敦子(看護学部7号館 共同研究室3) 大塚 正人(薬学部1号館5F 331)																		
備考	事前学習課題(各時間約1時間)・事後学習課題(各時間約30分)																		

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	<p>文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。</p> <p>大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。</p> <p>考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。</p>																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。文章表現の基本を再確認し、身につけた上で文章作成を行う。</p> <p>2回の課題を提出し、最後にレポートを提出する。</p> <p>ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。</p> <p>自作の文章について他者からフィードバックをもらうことがある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入 文章の書き方1</td> <td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方2</td> <td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事実と意見</td> <td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題1】説明文</td> <td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フィードバック</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>授業終了後、フィードバックした内容を課題1に反映し見直しをすること(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>引用の復習 意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>【課題2】論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方1・2</td> <td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>フィードバック</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>授業終了後、フィードバックした内容を課題2に反映し見直しをすること(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>【レポート】</td> <td>レポートを提出する</td> <td>指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポートの講評 小テストの復習</td> <td>レポートについて講評する 小テストの復習テスト</td> <td>授業終了後、フィードバックした内容をレポートに反映し見直しをすること(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	7	フィードバック	課題1のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題1に反映し見直しをすること(1時間)	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)	13	フィードバック	課題2のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題2に反映し見直しをすること(1時間)	14	【レポート】	レポートを提出する	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと(1時間)	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	授業終了後、フィードバックした内容をレポートに反映し見直しをすること(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
7	フィードバック	課題1のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題1に反映し見直しをすること(1時間)																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)																																																																
13	フィードバック	課題2のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題2に反映し見直しをすること(1時間)																																																																
14	【レポート】	レポートを提出する	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと(1時間)																																																																
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	授業終了後、フィードバックした内容をレポートに反映し見直しをすること(1時間)																																																																
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業態度(呼应状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。</p> <p>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>(なお課題およびレポートについては、授業内で自身のパソコン持ち込みの上、作成することを求められることがある)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>文章作成は大学の授業はもとより、社会に出てからも必要なことです。この授業で学ぶ文章作成は「誰が読んでもわかる文章」です。そこにはやっつけてはいけない、あるいはやらなければならない「ルール」があります。そのルールを使いこなし、ご自身の伝えたいことが効果的に表現できるように、真面目に取り組んでいきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	1階非常勤講師室																																																																		
備考	<p>事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。</p> <p>提出課題については、授業中にフィードバックをします。</p>																																																																		

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三次 亜紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見直すこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
13	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見直すこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。			
担当者の 研究室等	8号館 1階 (非常勤講師室)			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>入学おめでとう。これからの4年間、どんなことをやりたいですか。ひとりで外国を旅してくるのはどうでしょう。若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません</p>			
担当者の 研究室等 備考	1号館2階非常勤講師室			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 寿美
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>いただいたご縁を大切に、共に学んで行きたいと思います。 声を出して頑張ってください。 よろしくお願ひします。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでおくこと (0.5 時間) 事後学習: テキストの指示 p. 139 に従い StreamLine にアクセスする (0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 1 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 1 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 2 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 2 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 3 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 3 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 4 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 4 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 5 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 5 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 6 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 6 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	(1) 授業課題の締め切り日を厳守すること (2) テキスト持参必須 (3) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用			
担当者の 研究室等	8号館 1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: テキストの指示 p. 139 に従い StreamLine にアクセスする (0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	予習、復習、課題、テストの準備を必ずしてください。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	後期の授業では、よりアウトプット（書く・話す）を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識（単語・文法など）は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができるようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。			
担当者の 研究室等 備考	1号館2階非常勤講師室			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 寿美
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>いただいたご縁を大切に、共に学んで行きたいと思います。 声を出して頑張ってください。 よろしくお祈りします。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること (0.5 時間)
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	(1) 授業課題の締め切り日を厳守すること (2) テキスト持参必須 (3) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること (0.5 時間)
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	予習、復習、課題、テストの準備を必ずしてください。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池名 友
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法の確認	アンケートに答える Writing およびペアとの Speaking など	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Performance	ダイアログを覚えて発表する (ペア) Memory, Pronunciation, Emotion に気を付けて発表をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Review & TEST	Unit1~6の復習 まとめテストを受ける	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	プリンクス カサリン
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	<p>This course will introduce students to communicating in English through basic essay writing and presentations, using the textbook "Presenting About." The textbook contains listening, speaking, and writing activities designed to help students organize their thoughts and construct a presentation in English at the end of each class. We will have three tests that contain both written and spoken components throughout the course. At the end of the course, there will be a final exam on all the material we cover throughout the semester.</p> <p>このコースでは、Presenting About というテキストを使い、基本的なエッセイの書き方やプレゼンテーションを通して、英語でのコミュニケーションを学びます。テキストには、リスニング、スピーキング、ライティングのアクティビティが含まれており、生徒が自分の考えを整理し、毎回の授業の終わりに英語でプレゼンテーションを構成できるようにデザインされています。コース期間中、筆記とスピーキングの両方を含むテストを3回実施する。コースの最後には、学期を通して学習した内容に関する期末テストを行います。</p>
到達目標	<p>The aim of this course is to help students effectively organize and present their ideas in both written and spoken English. At the end of each class, students will write and deliver a brief presentation on different topics, such as their hobbies, health, and university life. By the end of the course, students will be equipped with the skills needed to effectively communicate their ideas in both written essays and spoken presentations in English, using various techniques such as comparison and contrast, cause and effect analysis, and evaluating pros and cons.</p> <p>このコースの目的は、生徒が自分の考えを効果的にまとめ、書き言葉と話し言葉の両方で発表できるようにすることです。各授業の最後には、趣味、健康、大学生活など、さまざまなトピックについて簡単なプレゼンテーションを書き、発表します。コース終了時には、比較対照、原因と結果の分析、長所と短所の評価など、さまざまなテクニックを駆使して、自分の考えを英語でエッセイとプレゼンテーションの両方で効果的に伝えるために必要なスキルを身につけます。</p>

授業方法と留意点	In this course, students will complete listening and speaking activities to learn to effectively and naturally communicate their ideas. In addition, they will complete writing tasks that enable them to construct and deliver presentations, complete with an
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	Course Introduction Classroom English	Explanation of the course and expectations. Introduction of classroom English that can help students navigate the course	N/A	
2	Chapter 1: How Mr. Mutti Spends His Holidays	Introduction to essay formatting Language for talking about what you do in your free time	N/A	
3	Chapter 2: The Causes of Poor Health	Using cause and effect in a presentation Language for talking about health	N/A	
4	Chapter 3: ABC University Is Popular	Using cause and effect in a presentation Language for discussing universities and campus life	Homework assigned in class: Preparation for next week's test	
5	Chapters 1-3 Test (Writing & Speaking)	Written test on the vocabulary and essay formatting studied in Chapters 1-3 Speaking test requiring students to give a presentation on one of the topics in Chapters 1-3	Pre-assignment: come to class prepared for the test	
6	Chapter 5: The Advantages and Disadvantages of Face Masks	Using pros and cons to discuss a topic in a presentation Language for discussing public health	N/A	
7	Chapter 6: The Advantages and Disadvantage of Ear Phones	Using pros and cons to discuss a topic in a presentation Language for expressing opinions and discussing technology	N/A	
8	Chapter 8: Two Sisters	Using comparison and contrast in presentations Language for describing people	N/A	
9	Chapter 9: Tablets (e-books) and Paper books	Using comparison and contrast in presentations Language for discussing preferences and hobbies	Homework assigned in class: Preparation for next week's test	
10	Chapters 5, 6, 8, 9 Test (Writing & Speaking)	Written test on the vocabulary and essay formatting studied in Chapters 5, 6, 8, and 9 Speaking test requiring students to give a presentation on one of the topics in Chapters 5, 6, 8, and 9	Pre-assignment: come to class prepared for the test	
11	Chapter 11: How to Make Instant Ramen	Using instructional language in presentations and writing process essays Language for discussing food and recipes	N/A	
12	Chapter 13: How to Improve Your English Conversation	Using instructional language in presentations and writing process	N/A	

		Skills	essays Language for talking about studying	
	13	Chapter 14: Ways to Cook Eggs	How to write classification essays and present them Language around cooking and food	Homework assigned in class: Preparation for next week's test
	14	Chapters 11, 13, and 14 Test (Writing & Speaking)	Written test on the vocabulary and essay formatting studied in Chapters 11, 13, and 14 Speaking test requiring students to give a presentation on one of the topics in Chapters 11, 13, and 14	Pre-assignment: come to class prepared for the test Homework assigned in class: Preparation for the final exam
	15	Unit 6 Quiz Final Exam	Written exam on the content covered in this semester Spoken exam on any of the topics covered this semester	Pre-assignment: come to class prepared for the final exam
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Presenting About	藤田淳一 / 岡隼人 / Julia Gadd / Brian Bachman	毘沙門書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	10% Participation 30% Presentations 30% Chapter Tests 30% Final Exam			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池名 友
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 12 Describing Locations Preparation for Presentation	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Original Dialogue の作成 (ペア)	Original Dialogue の作成 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 14 Making a Phone Call Preparation for Presentation	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Original Dialogue の練習	Original Dialogue の練習 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Presentation	Original Dialogue の発表を行う (ペア) *Memory, Pronunciation, Emotion, Content などが評価基準となる	ダイアログの音読練習をして発表できるようにしておく。
15	復習テスト Reflections	まとめテストを受ける 振り返りを行う	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2																
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	プリンクス カサリン
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	<p>This course will introduce students to natural English communication using the textbook, "Talking About." The textbook contains listening speaking, and reading activities in each unit. This course covers Chapters 1-11. There will be speaking assessments performed at the end of each lesson. We will also have three tests that contain both written and spoken components throughout the course. At the end of the course, there will be a final exam on all the material we cover throughout the semester.</p> <p>テキスト "Talking About "を使い、自然な英語でのコミュニケーションを学びます。テキストには各ユニットにリスニング・スピーキング・リーディングのアクティビティが含まれています。このコースでは第1章から第11章までを扱います。各レッスンの最後にはスピーキングテストを行います。また、コース全体を通して、筆記とスピーキングの両方の要素を含むテストを3回行います。コースの最後には、学期を通して学習した内容に関する期末テストがあります。</p>																																																																		
到達目標	<p>The aim of this course is to help students effectively and naturally communicate in English. At the end of each class, students will be able to participate in 10-minute conversations on a variety of topics, such as their musical interests, their house and neighborhood, and their daily routines. By the end of the course, students should be able to accurately respond to basic questions in English about their lives, as well as keep a conversation going smoothly.</p> <p>このコースの目的は、生徒が効果的かつ自然に英語でコミュニケーションできるようになることです。毎回の授業の最後には、自分の音楽の趣味、家や近所、日常生活など、様々なトピックについて10分間の会話に参加できるようになります。コース終了時には、自分の生活に関する基本的な質問に英語で正確に答えられるようになり、会話をスムーズに続けられるようになります。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>In this course, students will complete listening, speaking, and writing activities to learn to effectively and naturally communicate with a partner.</p> <p>このコースでは、リスニング、スピーキング、ライティングのアクティビティを行い、効果的かつ自然に相手とコミュニケーションをとることを学びます。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course Introduction Classroom English Reminder Chapter 1: Talking about Music</td> <td>Explanation of the course and expectations. Reminder of classroom English Language to facilitate a conversation about music</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Chapter 2: Talking about Sports</td> <td>Language to facilitate a conversation about sports</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Chapter 3: Talking about Cafes</td> <td>language to facilitate a conversation about cafes</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Chapter 4: Talking about Time</td> <td>Language to facilitate a conversation about daily routines</td> <td>Homework assigned in class: Preparation for next week's test</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Chapters 1-4 Test</td> <td>Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 1-4 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 1-4</td> <td>Pre-assignment: come to class prepared for the test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Chapters 5: Talking about Ramen</td> <td>Language to facilitate a conversation about ramen and food</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Chapter 6: Talking about Convenience Stores</td> <td>Language to facilitate a conversation about convenience stores and person preferences</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Chapter 7: Talking about Your House and Neighborhood</td> <td>Language to facilitate a conversation about your house and neighborhood</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Chapter 8: Talking about School</td> <td>Language to facilitate a conversation about school</td> <td>Homework assigned in class: Preparation for next week's test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Chapters 5-8 Test</td> <td>Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 5-8 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 5-8</td> <td>Pre-assignment: come to class prepared for the test</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Chapters 9: Talking about Tapioca</td> <td>Language to facilitate a conversation about trends</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Chapter 10: Talking about Amusement Parks</td> <td>Language to facilitate a conversation about day trips</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Chapter 11: Talking about Mangas</td> <td>Language to facilitate a conversation about manga and reading</td> <td>Homework assigned in class: Preparation for next week's test</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Chapters 9-11 Test</td> <td>Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 9-11 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 9-11</td> <td>Pre-assignment: come to class prepared for the test Homework assigned in class: Preparation for the final exam</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Final Exam (Chapters 1-11)</td> <td>Written exam on the content covered in this semester Speaking exam on any of the topics covered this semester</td> <td>Pre-assignment: come to class prepared for the final exam</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course Introduction Classroom English Reminder Chapter 1: Talking about Music	Explanation of the course and expectations. Reminder of classroom English Language to facilitate a conversation about music	N/A	2	Chapter 2: Talking about Sports	Language to facilitate a conversation about sports	N/A	3	Chapter 3: Talking about Cafes	language to facilitate a conversation about cafes	N/A	4	Chapter 4: Talking about Time	Language to facilitate a conversation about daily routines	Homework assigned in class: Preparation for next week's test	5	Chapters 1-4 Test	Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 1-4 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 1-4	Pre-assignment: come to class prepared for the test	6	Chapters 5: Talking about Ramen	Language to facilitate a conversation about ramen and food	N/A	7	Chapter 6: Talking about Convenience Stores	Language to facilitate a conversation about convenience stores and person preferences	N/A	8	Chapter 7: Talking about Your House and Neighborhood	Language to facilitate a conversation about your house and neighborhood	N/A	9	Chapter 8: Talking about School	Language to facilitate a conversation about school	Homework assigned in class: Preparation for next week's test	10	Chapters 5-8 Test	Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 5-8 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 5-8	Pre-assignment: come to class prepared for the test	11	Chapters 9: Talking about Tapioca	Language to facilitate a conversation about trends	N/A	12	Chapter 10: Talking about Amusement Parks	Language to facilitate a conversation about day trips	N/A	13	Chapter 11: Talking about Mangas	Language to facilitate a conversation about manga and reading	Homework assigned in class: Preparation for next week's test	14	Chapters 9-11 Test	Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 9-11 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 9-11	Pre-assignment: come to class prepared for the test Homework assigned in class: Preparation for the final exam	15	Final Exam (Chapters 1-11)	Written exam on the content covered in this semester Speaking exam on any of the topics covered this semester	Pre-assignment: come to class prepared for the final exam
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course Introduction Classroom English Reminder Chapter 1: Talking about Music	Explanation of the course and expectations. Reminder of classroom English Language to facilitate a conversation about music	N/A																																																																
2	Chapter 2: Talking about Sports	Language to facilitate a conversation about sports	N/A																																																																
3	Chapter 3: Talking about Cafes	language to facilitate a conversation about cafes	N/A																																																																
4	Chapter 4: Talking about Time	Language to facilitate a conversation about daily routines	Homework assigned in class: Preparation for next week's test																																																																
5	Chapters 1-4 Test	Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 1-4 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 1-4	Pre-assignment: come to class prepared for the test																																																																
6	Chapters 5: Talking about Ramen	Language to facilitate a conversation about ramen and food	N/A																																																																
7	Chapter 6: Talking about Convenience Stores	Language to facilitate a conversation about convenience stores and person preferences	N/A																																																																
8	Chapter 7: Talking about Your House and Neighborhood	Language to facilitate a conversation about your house and neighborhood	N/A																																																																
9	Chapter 8: Talking about School	Language to facilitate a conversation about school	Homework assigned in class: Preparation for next week's test																																																																
10	Chapters 5-8 Test	Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 5-8 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 5-8	Pre-assignment: come to class prepared for the test																																																																
11	Chapters 9: Talking about Tapioca	Language to facilitate a conversation about trends	N/A																																																																
12	Chapter 10: Talking about Amusement Parks	Language to facilitate a conversation about day trips	N/A																																																																
13	Chapter 11: Talking about Mangas	Language to facilitate a conversation about manga and reading	Homework assigned in class: Preparation for next week's test																																																																
14	Chapters 9-11 Test	Written test on the vocabulary and grammar studied in Chapters 9-11 Speaking test requiring students to have short conversations on the topics covered in Chapters 9-11	Pre-assignment: come to class prepared for the test Homework assigned in class: Preparation for the final exam																																																																
15	Final Exam (Chapters 1-11)	Written exam on the content covered in this semester Speaking exam on any of the topics covered this semester	Pre-assignment: come to class prepared for the final exam																																																																

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking About	藤田淳一 / 岡隼人 / Bernard MacMugen / Brian Bachman	毘沙門書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	10% Participation 30% In-class Mini Speaking Tests 30% Chapter Tests 30% Final Exam			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常生活やビジネスの場面において意思疎通を図る力を育むことを目的とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話で使う基本的語彙、文法の知識を習得する。 ・学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、話したり聞き取りができるようになる。
授業方法と留意点	<p>[授業方法] TOEIC 形式の問題を解きながら語彙、表現、文法を学び、会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。</p> <p>[留意点] 辞書を携帯すること。 5 回以上欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻 2 回で 1 回欠席、30 分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の必要と認めた場合を除いての使用、私語など授業の円滑な進行を妨げる行いは減点の対象となります。 授業を欠席した際のフォロー（宿題や課題）</p>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 1 注文した商品の確認、旅行代理店からの留守番電話	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
3	Unit 1 注文した商品の確認、旅行代理店からの留守番電話 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
4	Unit 2 会議の延期、輸入税の規制	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
5	Unit 2 会議の延期、輸入税の規制 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
6	Unit 3 自転車の購入、銀行の音声ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
7	Unit 3 自転車の購入、銀行の音声ガイダンス (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 1-Unit 3 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 4 旅行についての会話、ツアーのガイド	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
10	Unit 4 旅行についての会話、ツアーのガイド (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
11	Unit 5 職業についての悩み、会社のコストに関するグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
12	Unit 5 職業についての悩み、会社のコストに関するグラフ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
13	Unit 6 ミーティングの日時、退職者の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
14	Unit 6 ミーティングの日時、退職者の挨拶 (2) / 後半学習の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ ・Unit 4-Unit 6 の内容について理解を深め、到達度を確認する 	指定の範囲を学習する。 既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
15	学習内容の確認と総括	補足、総復習	既習の学習内容を整理し、復習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC L&R TEST リスニング&ヴォキャブラリー徹底演習	古家 聡 / 藤岡美香子 / Geoffrey Tozer	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト : 40%		
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 質問等は授業前後に教室で受け付けます。		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 会話の想定場面は、自分に関わること (例. 自己紹介や専攻分野の紹介など) や英語をコミュニケーション手段としたキャンパス内での会話を中心とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの聞き取り・発話練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表も行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 予習課題を全 9 回予定しています。小テストは全 10 回予定しています。予習課題で基本的なフレーズの聞き取りをし、授業内でそのフレーズや関連する文法事項を強化していきます。さらに、翌週の小テストによって定着を目指します。予習→授業→小テストと良い
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ペア・グループ等で自己紹介活動を行う。 リアクション・ペーパーを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> Teams に登録する。 テキストの音声ダウンロードする。 予習課題 1 (Unit 1)
	2	Unit 1 Meeting people	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 1 (Unit 1) に向けて学習 予習課題 2 (Unit 2)
	3	Unit 2 Getting to know your classmates	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 1 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 2 (Unit 2) に向けて学習 予習課題 3 (Unit 3)
	4	Unit 3 Talking about classes	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 2 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 3 (Unit 3) に向けて学習 予習課題 4 (Unit 4)
	5	Unit 4 Talking about your daily life	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 3 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 4 (Unit 4) に向けて学習 予習課題 5 (Unit 5)
	6	Unit 5 Talking about people: personality	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 4 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 5 (Unit 5) に向けて学習
	7	Unit 1~Unit 5 復習と強化	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 5 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 文法事項の復習と強化 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	Unit 1~Unit 5 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト①に備える。
	8	達成度テスト①	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1~Unit 5 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 予習課題 6 (Unit 7)
	9	Unit 7 Talking about last weekend	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 6 (Unit 7) に向けて学習 予習課題 7 (Unit 9)
	10	Unit 9 Talking about going out on the town	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 6 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 7 (Unit 9) に向けて学習 予習課題 8 (Unit 11)
	11	Unit 11 Talking about travel	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 7 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 8 (Unit 11) に向けて学習 予習課題 9 (Unit 12)
	12	Unit 12 Talking about hometowns	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 8 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 9 (Unit 12) に向けて学習
13	Unit 7, 9, 11, 12 復習と強化	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 9 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 	Unit 7, 9, 11, 12 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト②に備える。	

			<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項の復習と強化 ・ペア、グループワークで発話練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	
	14	達成度テスト② Unit 14 Talking about future plans	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7, 9, 11, 12 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 ・Unit 14 の基本フレーズ・聞き取り練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	・小テスト10 (Unit 14) に向けて学習
	15	講義全体の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト10 ・学生による授業評価アンケート ・リアクション・ペーパーを基に自分の学習を振り返る。 	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Time to Communicate	Eric Bray	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (リスニング演習の解答、ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答など)、予習課題、リアクション・ペーパー・・・ 40% ・小テスト・・・ 20% ・達成度テスト① (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% ・達成度テスト② (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んだ学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	農学部 非常勤講師控え室			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常生活やビジネスの場面において意思疎通を図る力を育むことを目的とします。
到達目標	・会話で使う基本的語彙、文法の知識を習得する。 ・学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、話したり聞き取りができるようになる。
授業方法と留意点	[授業方法] TOEIC 形式の問題を解きながら語彙、表現、文法を学び、会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。 [留意点] 辞書を携帯すること。 5 回以上欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻 2 回で 1 回欠席、30 分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の必要と認めた場合を除いての使用、私語など授業の円滑な進行を妨げる行いは減点の対象となります。 授業を欠席した際のフォロー（宿題や課題）
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 7 券売機の使い方の説明, オススメのコーヒー	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
3	Unit 7 券売機の使い方の説明, オススメのコーヒー (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
4	Unit 8 会議室の場所の変更, ネット広告の宣伝	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
5	Unit 8 会議室の場所の変更, ネット広告の宣伝 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
6	Unit 9 会社の合併吸収, 雇用契約の延長	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
7	Unit 9 会社の合併吸収, 雇用契約の延長 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 7-Unit 9 の内容について理解を深め、到達度を確認する	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 10 フライトチケットの間違い, 会社の規模縮小	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
10	Unit 10 フライトチケットの間違い, 会社の規模縮小 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
11	Unit 11 製品の国別売上, 電車の遅延と回避ルートの案内	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
12	Unit 11 製品の国別売上, 電車の遅延と回避ルートの案内 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
13	Unit 12 契約の見直し, 大手企業破産のニュース	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
14	Unit 12 契約の見直し, 大手企業破産のニュース (2) / 後半学習の確認	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ Unit 10-Unit 12 の内容について理解を深め、到達度を確認する	指定の範囲を学習する。 既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
15	学習内容の確認と総括	補足、総復習	既習の学習内容を整理し、復習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC L&R TEST リスニング&ヴォキャブラー徹底演習	古家 聡 / 藤岡美香子 / Geoffrey Tozer	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト : 40%		
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 質問等は授業前後に教室で受け付けます。		

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 会話はビジネス場面を想定する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの聞き取り・発話練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表も行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 予習課題を全 11 回予定しています。小テストは全 10 回予定しています。予習課題で基本的なフレーズの聞き取りをし、授業内でそのフレーズや関連する文法事項を強化していきます。さらに、翌週の小テストによって定着を目指します。予習→授業→小テストと良
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ペア・グループ等で自己紹介活動を行う。 リアクション・ペーパーを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> Teams に登録する。 テキストの音声ダウンロードする。 予習課題 1 (Unit 1)
2	Unit 1 Welcome to the office	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 1 (Unit 1) に向けて学習 予習課題 2 (Unit 2)
3	Unit 2 What time do you close?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 1 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 2 (Unit 2) に向けて学習 予習課題 3 (Unit 3)
4	Unit 3 I'd like to change an order	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 2 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 3 (Unit 3) に向けて学習 予習課題 4 (Unit 4)
5	Unit 4 May I take a message?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 3 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 4 (Unit 4) に向けて学習 予習課題 5 (Unit 5)
6	Unit 5 Shall I ring that up for you?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 4 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 5 (Unit 5) に向けて学習 予習課題 6 (Unit 6)
7	Unit 6 This way, please	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 5 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 文法事項の復習と強化 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	Unit 1～Unit 6 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト①に備える。
8	達成度テスト①	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1～Unit 6 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 リアクション・ペーパーの記入 	予習課題 7 (Unit 7)
9	Unit 7 I'd like to make a complaint	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 6 (Unit 7) に向けて学習 予習課題 8 (Unit 8)
10	Unit 8 Could you fill out this form?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 6 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 7 (Unit 8) に向けて学習 予習課題 9 (Unit 9)
11	Unit 9 Welcome to Japan!	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 7 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 8 (Unit 9) に向けて学習 予習課題 10 (Unit 10)
12	Unit 10 What's your background?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 8 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 9 (Unit 10) に向けて学習 予習課題 11 (Unit 11)
13	Unit 11 Here's your schedule	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 9 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 文法事項の復習と強化 	Unit 7～Unit 11 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト②に備える。

			<ul style="list-style-type: none"> ・ペア、グループワークで発話練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	
	14	達成度テスト② Unit 12 I'll see you tomorrow	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7, 9, 11, 12 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 ・Unit 14 の基本フレーズ・聞き取り練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	・小テスト10 (Unit 12) に向けて学習
	15	講義全体の振り返り	※小テスト10 ・学生による授業評価アンケート ・リアクション・ペーパーを基に自分の学習を振り返る。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Encounters	Michael P. Critchley	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (リスニング演習の解答、ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答など)、予習課題、リアクション・ペーパー・・・ 40% ・小テスト・・・ 20% ・達成度テスト① (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% ・達成度テスト② (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んだ学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	農学部 非常勤講師控え室			
備考				

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	基礎を固めながら、コミュニケーション能力を高めることに重点を置く。ピンインの発音から初級の文法を学び、学習しているうちに自然に中国語が身につきます。
到達目標	日本にいながらにして、中国語を使って交流する機会が増えている状況を踏まえて、さまざまな場面に応じる会話を練習を重ねることで、基本的な日常会話ができる達成感を得る。また、さまざまな側面から、日中文化の違いについて現代中国について理解する。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 1 ※ピンイン正しく発音できる	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・声調 ・単母音 ・複母音	自己学習：p6～p10の録音を聞いて、発音を練習をすること。 p8・p10の練習を解答すること。
2	発音編 2 簡単な挨拶言葉 ※ピンイン正しく発音できる	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音 ・鼻母音 ・発音の規則 ・中国語の音節構造 ・簡単な挨拶言葉 ・ピンイン編到達テスト ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p11～p18の録音を聞いて、発音を練習をすること。 p12・p14の練習を解答すること。
3	第1課 はじめまして ※中国語の語順の確認 ※正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・一般疑問文 ・名前の言い方	自己学習：p20～p24の録音を聞いて、発音を練習をし、ドリル2を解答すること。
4	第1課 復習+ドリル 第2課 とても美味しいです ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・動詞述語文	自己学習：p26～p30の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。
5	第2課 復習+ドリル 第3課 うどんを食べたことがありますか ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・副詞「也」の使い方 ・喜歓+動詞句	自己学習：p32～p36の録音を聞いて、ドリル2を解答すること。
6	第3課 復習+ドリル 第4課 彼女は今年20歳です ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・「的」の省略 ・名詞述語文 ・数字の言い方	自己学習：p38～p42の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ・ドリル2を解答すること。
7	第4課 復習+ドリル 第5課 お子さんは何人いますか ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。 ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・所有・存在を表す動詞「有」の使い方 ・疑問詞疑問文 ・量詞 (助数詞)	自己学習：p44～p48の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。
8	第1課～第4課の総合復習 ※到達確認テスト (第1課～第4課) 第5課 復習+ドリル 第6課 うちの駅の近くに あります ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 第1課～第5課の総合復習 到達確認テスト (第1課～第4課) ・前置詞「離」 ・所在を表す「在」の使い方 ・推量を表す助詞の使い方	自己学習：p20～p42録音を聞いて、発音を練習をして復習すること。
9	第6課 復習+ドリル 第7課 お茶をどうぞ ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を復習する。 ・動詞+一下 ・反復疑問文 ・請+動詞 (動詞句)	自己学習：p～p51の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ・ドリル2を解答すること。
10	第7課 復習+ドリル 第8課 そのうちに一緒に 食べに行きましょう	文法、単語、会話を学ぶ。 ・連動文 ・前置詞の「在」	自己学習：p56～p59の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。

		※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。																		
	11	第8課 復習+ドリル 第9課 浅草寺に行ってみ たいです ※到達確認テスト(第5課～ 8課) ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・動詞の重ね型 ・手段を表す疑問詞	自己学習:p62～p65の録音を聞いて、発音を練習を すること。練習問題(p66)を解答すること。																
	12	第9課 復習+ドリル 第10課 どこで買ったので すっか ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・完了を表す「了」 ・「是～的」 ・前置詞の「比」	自己学習:p74～p72の録音を聞いて、発音を練習を すること。 ドリル2を解答すること。																
	13	第10課 復習+ドリル 第11課 電車にしますかそ れとも地下鉄にしますか ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「要」 ・選択疑問文 ・時刻・時点と時間の幅	自己学習:p74～p78の録音を聞いて、発音を練習を すること。 ドリル2を解答すること。																
	14	第11課 復習+ドリル 第8課～第11課の総合復習 ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 第8課～第11課の総合復習	自己学習:p80～p84の録音を聞いて、発音を練習を すること。 ドリル2を解答すること。																
	15	到達確認テスト(第8-11課) ※第1課～第11課の復習を することで、習ったものを身 に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 復習(第1～12課) 到達確認テスト(第8-11課)	自己学習:p20～p84の録音を聞いて、発音を練習を すること。 第8-11課の復習をすること。																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語で伝えよう!</td> <td>楊凱榮 張麗群</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語で伝えよう!	楊凱榮 張麗群	朝日出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中国語で伝えよう!	楊凱榮 張麗群	朝日出版社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎週の課題(40%)と到達確認テスト(60%)で評価する。 100点満点中60点以上で合格。																			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。																			
担当者の 研究室等	非常勤講師室																			
備考	*「質問等はTeams Chatにて対応する」 *講義前の予習(テキストを読む。1時間x15回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x15回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。) *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。																			

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうにより、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音編 2 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・複母音	自己学習：p9~p10 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p8) を解答すること。
3	発音編 3 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音① ・子音②	自己学習：p11~p12 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p10) を解答すること。
4	発音編 4 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・鼻母音 ・発音の規則	自己学習：p13~p16 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p12) を解答すること。
5	発音編 5 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・中国語の音節構造 ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p17~p19 の録音を聞いて、発音を練習をすること。
6	第 1 課 はじめまして *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・疑問文 ・名前の言い方 ・会話 (はじめまして)	自己学習：p20~p24 の録音を聞いて、発音を練習をすること。
7	第 1 課 復習 第 2 課 とてもおいしいです *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 1 課練習問題 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・副詞「也」 ・動詞述語文 ・会話 (とてもおいしいです)	自己学習：p25~p27 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p24) を解答すること。
8	第 2 課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (とてもおいしいです) ・第 2 課練習問題	自己学習：p25~p27 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p28) を解答すること。
9	・中間テスト *発音編~第 2 課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・発音編~第 2 課の復習 ・練習問題	自己学習：発音編~第 2 課の復習をすること。 中間試験の準備をすること。
10	第 3 課 彼女は今年 20 歳です *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・「的」の省略 ・数字、日にち、曜日、年齢の言い方 ・名詞述語文 ・会話 (彼女は今年 20 歳です)	自己学習：p29~p32 の録音を聞いて、発音を練習をすること。
11	第 3 課 復習 第 4 課 お子さんは何人いらっしゃいますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 3 課練習問題 ・所有・所在を表す「有」 ・量数 (助数詞) ・疑問詞疑問文 ・比較を表す前置詞「比」	自己学習：p33~p36 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p32) を解答すること。
12	第 4 課 復習 第 5 課 おうちは駅から遠いですか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 4 課練習問題 ・隔たりを表す前置詞「離」 ・所在を表す動詞「在」 ・推量を表す助詞 ・反復疑問文 ・会話 (おうちは駅から遠いですか)	自己学習：p37~p40 録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p36) を解答すること。
13	第 5 課 復習 第 6 課 お茶をどうぞ *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 5 課練習問題 ・動詞+「一下」 ・文末助詞「了」 ・動詞の重ね型 ・動詞の連体修飾 ・会話 (お茶をどうぞ)	自己学習：p41~p44 録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p40) を解答すること。
14	第 6 課 復習	習った文法、単語、会話を復習する。	自己学習：発音編~第 6 課の復習をすること。期末

		*発音編`第6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	・発音編`第6課の復習	試験の準備をすること。 練習問題（p44）を解答すること。
	15	・期末課題 ・期末テスト	習った文法、単語、会話を復習する。 ・期末課題の解説 ・期末テスト	自己学習：発音編`第6課の復習をすること。 期末試験の準備をすること。 期末課題の準備をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん楽ショウ！初級中国語 入門編	陳淑梅	朝日出版社
	2	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	3			
評価方法 (基準)	期末に毎週課題（50%）と中間テスト（25%）と期末試験（25%）で評価する。100点満点中60点以上で合格。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）			

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうに、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	復習 *発音編~第6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・発音編~第6課の復習 ・練習問題	自己学習：発音編~第6課の復習をすること。
2	第7課 そのうちに一緒に食べに行きましょう*単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・句型「太~了」 ・主述述語文 ・場所を表す前置詞「在」 ・連動文	自己学習：p45~p48の録音を聞いて、発音を練習をすること。
3	第7課 復習 第8課 電車で行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第7課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・意志・勧誘を表す助動詞 ・手段を尋ねる表現 ・許可を表す助動詞「可以」 ・会話(電車で行きましょう)	自己学習：p49~p52の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p48) を解答すること。
4	第8課 復習 第9課 どこで買ったのですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	・第8課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・様態補語 ・句型「~极了」 ・完了を表す助動詞「了」 ・句型「是~的」 ・会話(どこで買ったのですか)	自己学習：p53~p56の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p52) を解答すること。
5	第9課 復習 第10課 少し話せます *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第9課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・時刻、時点と時間の幅 ・前置詞「從」 ・名詞+「口+尼」 ・助動詞「会」 ・動詞+「一点兒」	自己学習：p57~p60の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p56) を解答すること。
6	第10課 復習 第11課 一足いくらですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	・第10課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「能」 ・助動詞「得」 ・副詞「有点儿」 ・選択疑問文 ・貨幣の言い方 ・会話(一足いくらですか)	自己学習：p61~p64の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p60) を解答すること。
7	第11課 復習 第12課 何をしていますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第11課練習問題 ・進行を表す副詞「在」 ・「有」+名詞+動詞 ・「多」+形容詞 ・「覺得」 ・二重目的語を取る動詞	自己学習：p65~p68の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p68) を解答すること。
8	第12課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話(何をしていますか) ・第12課練習問題	自己学習：p65~p68の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p68) を解答すること。 会話文 (p65) を暗唱すること。
9	・復習 ・中間テスト *第7-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第7~12課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習：第7-12課の復習をすること。中間テストの準備をすること。
10	第13課 ちょっと見せてください *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・方向補語 ・方位詞 ・持続を表す助動詞「口+尼」 ・前置詞「給」 ・会話(ちょっと見せてください)	自己学習：p69~p72の録音を聞いて、発音を練習をすること。
11	第13課 復習 第14課 足はどうされましたか	・第13課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・結果補語	自己学習：p73~p76の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p72) を解答すること。

		*単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・受身を表す「被」 ・副詞「就」 ・使役を表す「讓/叫」 	
12	第14課 復習 第15課 どこに行くか決まりましたか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・第14課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・原因を尋ねる言い方 ・文型「一点兒都不/没～」 ・疑問詞+「都」 ・副詞「再」 ・会話（どこに行くか決まりましたか） 		自己学習：p77～p80の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題（p76）を解答すること。
13	第15課 復習 第16課 一緒に写真を撮りましょう *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・第15課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・可能補語 ・「把」構文 ・存現文 ・持続を表す「着」 ・可能性を表す助動詞「会」 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） 		自己学習：p81～p84の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題（p80）を解答すること。
14	第16課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文を覚える。 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） ・第16課練習問題 		自己学習：p81～p84の録音を聞いて、発音を練習をすること。 会話文（p81）を暗唱すること。 練習問題（p84）を解答すること。
15	・期末テスト *第7-16課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 習った文法、単語、会話を復習する。 ・第7～16課の復習 ・練習問題 		自己学習：第7-16課の復習をすること。 期末試験の準備をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん楽ショウ！初級中国語 入門編	陳淑梅	朝日出版社
	2	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	3			

評価方法 (基準)	<p>期末に 毎週の宿題 (50%) と 中間テスト (25%) と 期末試験 (25%) で 評価する。 100 点満点中 60 点以上で合格。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)</p>
--------------	---

学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。
---------------	--------------------

担当者の 研究室等	非常勤講師室
--------------	--------

備考	<p>*「質問等は Teams Chat にて対応する」 *講義前の予習（テキストを読む。1 時間 x13 回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5 時間 X13 回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。） *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。</p>
----	--

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうにより、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果(資格)	中国語検定の初中級レベル準4級・4級にチャレンジしてみよう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の復習 第12課 私は福建から来たんです。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 前置詞: 从 省略疑問文 動詞+一点儿	自己学習:p86~p90の音声聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
2	第12課 復習+ドリル 第13課 ちょうどお腹がすいていたところ ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 文末助詞 了 勧誘・推測を表す文末助詞 助動詞「得」	自己学習:p92~p96の録音聞いて、発音を練習すること。ドリル2を解答すること。
3	第13課 復習+ドリル 第14課 一足いっくらですか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 許可を表す助動詞 程度を表す副詞 お金の言い方	自己学習:p98~p102の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
4	第14課 復習+ドリル 第15課 体調が悪いのですか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 主述述語文 方位詞 副詞の「就」	自己学習:p104~p108の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
5	第15課 復習+ドリル 第16課 何をしていますか ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 進行を表す「在」 多+形容詞 「覺得」の使い方	自己学習:p110~p114の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
6	第16課 復習+ドリル 第17課 中国語を少し教えていただけますか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 助動詞の「能」と「会」 二重目的語	自己学習:p116~p120の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
7	第17課 復習+ドリル 第18課 私にも一冊買ってください。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 方向補語 持続を表す助詞 前置詞「給」	自己学習:第11-17課の復習すること。 中間テストの準備すること。
8	第18課 復習+ドリル 第19課 鶴を折るのがうまいですね ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	中間テスト(第11-17課) 文法の学習: 様態補語 結果補語 副詞の「再」	自己学習:p122~p126の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
9	第19課 復習+ドリル 第20課 箱根はすごくきれいだそうです ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 疑問詞+都 太~了 ~極了	自己学習:p128~p132の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
10	第20課 復習+ドリル 第21課 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 可能補語 禁止を表す副詞「別」	自己学習:p134~p138の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
11	第21課 復習+ドリル 第22課 雨が降るのでしょうか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 存現文 動詞+給 可能性を表す「会」	自己学習:p140~p144の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。

		※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。																		
	12	第22課 復習+ドリル 第23課 お医者さんが家で数日休むように言った ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 原因を尋ねる疑問詞 受け身の文 使役の文	自己学習:p146～p150の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。																
	13	第23課 復習+ドリル 第24課 明日はもう皆さんとお別れです。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。書ける。	文法の学習: 要～了 持続を表す「着」 有+名詞+動詞	自己学習:p152～p158の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。																
	14	第24課 復習+ドリル 第12課～第24課の総合復習 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	第12課～第24課の総合復習	自己学習:p122～p160の録音を聞いて、発音を練習をすること。																
	15	第12課～第24課 総合復習 ※期末テスト ※第12-24課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 期末(第12課～第24課) 期末テスト	自己学習:第12-24課の復習をすること。 期末テストの準備をすること。																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語で伝えよう!</td> <td>楊凱栄 張麗群</td> <td>朝日出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語で伝えよう!	楊凱栄 張麗群	朝日出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中国語で伝えよう!	楊凱栄 張麗群	朝日出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	平常点(課題、レポート)40% 中間テスト(30%) 期末試験(30%)																			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。																			
担当者の 研究室等	カーティス講師室(2号館2階)																			
備考																				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (30 分) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
	2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
	7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
	15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	初めて PC を使う方は少し大変かもしれませんが、今後必ず必要となるスキルですので頑張ってください。			
担当者の 研究室等	非常勤控室			
備考	質問等は、Teams のチャットまたはメールでお答えします。なるべく早く返信するつもりですが 1-2 日の余裕を見ていただけるとありがたいです。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法やAIに必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AIの基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です。毎週の課題は計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について 本講義の受講方法, 注意点など データサイエンス, AI とは 	事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業の国際競争力低下 情報通信メディアの普及 DX (デジタル・トランスフォーメーション) 演習「Excelの基本的な操作(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会の提言 Society5.0 演習「Excelの基本的な操作(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの種類 1次データ, 2次データ, メタデータ オープンデータ 演習「時系列データの可視化(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> 構造化データ, 非構造化データ テキストデータ, 画像・音声データ アノテーション 演習「時系列データの可視化(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
6	データ・AIの活用領域	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの活用事例 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 演習「平均の算出とその可視化」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
7	データ・AI利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの一次分析と可視化 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について 演習「標準偏差の算出とその可視化」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
8	データ・AI利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> データ解析 (予測, グループングパターン発見, 最適化) 特化型AIと汎用AI 自動機械学習 演習「大量のデータを扱う方法(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
9	データ・AI利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのサイクル 製造業のデータ・AI活用 演習「大量のデータを扱う方法(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
10	データ・AI利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> 小売業のデータ・AI活用 サービス業のデータ・AI活用 公共・インフラのデータ・AI活用 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
11	データ・AI利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI活用による新しいビジネス領域 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
12	データ・AI利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> AIなどを活用した新しいビジネス AI最新技術の活用例 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
13	データ・AIを扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> ELSIとは何か データの倫理 個人情報とプライバシー 演習「散布図の作成と相関係数の算出」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
14	データ・AIを扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> バイアス 社会的合意の形成に向けて 演習「定性データの扱い方とクロス集計」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティとは 情報セキュリティ脅威に関する事例 データの守り方 演習「総合演習」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシーI			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポートの提出：40% 演習課題の提出：40% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)			
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになる。
授業方法及び留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。 教員免許取得上、必要。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・履修上の注意	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
	5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
	6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括	

関連科目 解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ 授業1回目 (ガイダンス) は、教室 (教室名は事前に連絡します) に集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 8号館3階 教員室323

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	<p>本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs- 3, 4, 5</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになる。(DP1)</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>実技形式で行う。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) <p>※1 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。</p> <p>※2 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p> <p>教員免許取得上、必要。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・ガイダンス (履修上の注意)</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る	3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り	4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る																																																																
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り																																																																
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括																																																																
関連科目	解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業1回目 (ガイダンス) は、教室 (教室名は事前に連絡します) に集合してください。(更衣不要)</p> <p>実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p>																																																																		
担当者の	8号館3階 教員室323																																																																		

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立本 千寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 生命を有する数多くの生物の中でも、人間は「心」を有する生き物である。心理学の基礎的な理論を理解することは、自らが生きることへの貢献があるだけでなく、対人援助においても有益である。 本授業では、これまでの知見を通して心理学の世界を概観し、理論と実践の融合によって人間に貢献する心理学についての基本的な理解を深めることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①心理学の基礎的な知見を理解すること。 ②人間の発達と心理学の関連性について理解すること。 ③対人援助としての臨床心理学の貢献性について理解すること。</p>
授業方法と留意点	授業方法が、オンデマンドと対面の双方があるため、情報に気をつけて、柔軟に対応し、受講すること。
科目学習の効果 (資格)	本授業の学びを通して、自己理解・他者理解の模索の入り口を知り、多様な人間理解に繋がることを期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要・目的・到達目標・授業方法と留意点について説明する。	これまでの自分自身の心について、改めて考え直してみてください。
2	感覚と知覚	心理学の基礎的な理論として、感覚と知覚に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
3	記憶と学習	心理学の基礎的な理論として、記憶と学習に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
4	心の発達 I	胎児期から青年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
5	心の発達 II	青年期から老年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
6	原動力となる心の動きについて	生活するうえで生きるうえでの原動力である動機付けなどについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
7	心と多様性	多様性のある人間と心の関連性について、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
8	心の健康とは何か	「生理・心理・社会モデル」などを取り上げ、人間の心の健康に心理学がどのように貢献するかについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
9	「聴くこと」とは何か	私たちの日常生活や対人援助において、「聴くこと」がどのような意義があるのかについて、心理学的に概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
10	心理療法について	臨床心理学的なアプローチにおける様々な療法について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
11	心理学研究法について	量的研究・質的研究の心理学の研究法の基礎について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
12	心理学の社会への貢献性 I	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、社会的認知の観点などから概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
13	心理学の社会への貢献性 II	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、対人関係などの観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
14	心理学の社会への貢献性 III	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、臨床心理学の観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
15	まとめ	これまで学んだことの要点を振り返り、総合的なまとめを行う。	テキストを精読し、知見を深めてください。

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる心理学	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学スタンダード	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明編著	ミネルヴァ書房
2	発達障害の子の気持ちのコントロール	辻井正次・明詠光宜・飯田愛・小倉正義	合同出版
3	母子関係の理論	J・Bowlby (著)・黒田実朗他 (訳)	岩崎学術出版社

評価方法 (基準)	<p>【授業における取り組み・課題】 40% 【レポート課題】 60%</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>「心理学」ときいて、皆さんはどのようなイメージを持つでしょうか？ 私は、大学時代、心理学とは異なる専門を専攻していましたが、恩師の授業をきいて、ある方々に会って、臨床心理学に強く惹かれ志しました。 皆さんが、心理学の世界に少しでも興味を持ち、それぞれの専門の中に活かしていただけるようなきっかけ</p>
-----------	--

	になれば幸いです。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	本授業は、15回の授業中で、オンデマンド12回、対面3回の授業で構成されています。 スケジュールに気を付けて受講してください。

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的
「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと
したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではない
かと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差
別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を
自覚し、再検討することが目的です。

到達目標
授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等)
について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論
を参考に、倫理的な視点を身に着ける。

授業方法と留意点
Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に
関する小問題に答えてもらいます。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、道德と はどのようなことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習: なし 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
2	道德とはどのようなことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、 回復の見込みのない乳児の権利	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持 つのか、文化的相対主義を本気で受け止 めるとどうなるか、文化的相対主義から 何を学ぶことができるか	2 に同じ
4	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、 キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
5	心理学的利己主義 (第 5 章)、 倫理的利己主義 (第 6 章)	人間は非利己的であることはできるか、 「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か 飢餓救済に寄付する義務はあるのか、 「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2 に同じ
6	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権 利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
7	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
8	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
9	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理 論における応報主義	2 に同じ
10	社会契約の思想 (第 11 章)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
11	社会契約の思想 (第 11 章) (2)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
12	フェミニズムと気づかひの 倫理 (第 12 章)、徳の倫理 (第 13 章)	コールバーグ、ギリガン、女と男は倫理 についての考えが違うか アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
13	AI は人間に代わることがで きるか (1)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
14	AI は人間に代わることがで きるか (2)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
15	満足のいく道德説とはいか なるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い 上がりのない道德、道德共同体、正義と公 正	2 に同じ

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書
2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
3			

評価方法 (基準)	定期的な小テスト：100% (Google Form によって提出)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在することを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ (DP1)
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
3	「知る」とは何か？	プラトンの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
4	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
5	物事を「経験」するとはどういうことか？	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
6	世界は本当に「存在」するの か？	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
7	実は「私」しか存在してい ないのではないか？	独我論を学ぶ	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
8	「理性」はどこまで考えられ るのか？	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
10	存在しないものに「感情」を 抱くか？	フィクションについての考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
11	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか？	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
12	「言葉」は「意味」を伝える ためだけのものか？	サールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
13	「他者」とはどういうもの か？	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
14	「客観性」とはどのようなこ とか？	正しさの多様性について考える	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考え る	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業内課題80%、毎回の授業コメント20%の割合で評価する。																

学生へのメッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。

授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
----------	------------------

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イヌイット：「極北の狩猟民」のいま	岸上伸啓	中央公論新社
	2	おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実<増補版>	辻村英之	太田出版
	3	アンデス自然学	水野一晴編	古今書院

評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。
-----------	--

学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	8号館1階 (非常勤講師室)。
------------	-----------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 晴澄
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	この授業では、人間の活動によって生じた現象に関して、地図を通して広がり方や地域的差異を理解することが目的です。例えば、都市が立地した諸条件や人口分布、農地が都市化した歴史的過程などを取り上げ、地理学の視点で考察します。
到達目標	地名などを覚えるのではなく、まずは地図の読み方を理解します。そして、地図に彩色しながら考察する地理学的な捉え方を身に着けます。さらに、明らかにすべき目的に応じた地図の選択、人間の活動に対する地理学的な理解ができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行い、資料は毎回配布します。授業中に配布した地図を彩色しながら読図する機会を多く設けています。そのため、赤・緑・青・茶の4色（なければ各近似色）の色鉛筆またはペンを持参してください。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	地理学の各分野および地理学で用いる主な地図を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
2	地図の種類と読図方法	研究に限らず、日常生活でも利用する機会が多い「地図」について、その種類と着眼点について解説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
3	地図の情報と正確性	地図上に表示されている情報の精度や基準について、実際に地図を読図しながら彩色作業を通して理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
4	地理情報システム (GIS) の理論	紙媒体の地図とデジタル地図の違い、地理情報システムの仕組みや特徴を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
5	地理情報システム (GIS) の応用	近年、急速に普及している地理情報システムについて、農業や衛生問題を中心に概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
6	地図を用いた地域の把握	地図の読図を通して、大学周辺を事例に、人文地理学の視点で現状を把握・理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
7	地図を用いた地域の把握、前半のまとめ	6回目の続きと補足および後半に向けて前半のまとめを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
8	農村・漁村の立地条件	地形や気候などを踏まえて、農村や漁村が立地する条件について、実際に読図しながら理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
9	都市の立地条件	都市の立地について、地形や交通などの立地条件による成立要因を理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
10	農村・漁村の都市化要因と政策	農村・漁村が無計画に都市化する要因と、政策によって計画的につくられる都市の違いを、地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
11	都市構造と都市計画	都市を構成するインフラなどの要素や、都市内の立地計画といえる都市計画について概説します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
12	都市構造の変化と地域差	都市の拡大や諸問題の発生する要因と地域差を読図によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
13	時空間の変遷	数年から数百年という期間での地域の変化について、時間と空間の変化を新旧地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
14	地域の時空間的変遷	6 回目授業で扱う大学周辺地域について、新旧地図の比較による時空間の変化という視点で理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
15	全体のまとめ、フィードバック	全体の補足やまとめ、フィードバックを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で課す小課題:50%、期末レポート課題:50%			
学生への メッセージ	地理学の視点で、生活空間を理解することが目的です。地図に興味を持つことは重要ですが、地図を読むことの得意・不得意は気にせず受講してください。高校「地理」科目の知識、大学でのほかの地理学関連科目の履修歴も問いません。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします) 参考書は、毎回の内容にあったものを授業中に紹介します。			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	日本の古典文学の中には、異能、異形、異類、異界 (異郷)、異国など、「異」と表象される存在が登場する。その「異」とは、自らと違うことを示す語である。それでは、それらの存在は、どのような点で、「異」とされているのだろうか。本講義では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学 (鎌倉時代の説話文学を中心に取り上げる) を支える価値観や思想を知ったうえで、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。
到達目標	本講義の到達目標である、以下の3点の理解度に応じて、成績を評価する。 1、日本の古典文学を通して、物語を支える同時代の価値観、思想を理解できる。 2、物語の比較を通して、共通点や相違点など、文学作品を解釈できる視点を持つ。 3、同時代の資料などを用いて、物語を多角的に考察する視点を持つ。
授業方法と留意点	毎回の授業の最後にコメントペーパーに、講義内での自らの気づきを書いてもらう。 大学の出席回数の規定に従い、成績評価を行う。欠席が多い場合は、単位を不可とする。 講義に際し、資料プリントを配布する。参考文献は、講義内で紹介する。
科目学習の効果 (資格)	物語世界を通して、物事を多角的に考える視点を持つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入・講義の目的 日本文学史の基礎知識	日本文学史の知識をおさえる	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める
	2	物語に見える異能 1	小野篁に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	3	物語に見える異能 2	安倍晴明に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	4	物語に見える異形 1	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	5	物語に見える異形 2	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	6	物語に見える異形 3	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	7	物語に見える異類 1	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	8	物語に見える異類 2	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	9	物語に見える異類 3	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	10	物語に見える異界、異郷 1	異界、異郷に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	11	物語に見える異界、異郷 2	異界、異郷に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	12	物語に見える異界、異郷 3	異界、異教に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	13	物語に見える異界、異郷 4	異界、異教に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	14	物語に見える異国	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	15	物語に見える異国	異国に関する物語を読む	レポートを書く

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート70%。コメントペーパー30%。コメントペーパーは、15回分の総合的な内容により、点数を配分する。 出席回数が大学の規定に達していない場合は、レポート提出を認めない。
-----------	--

学生へのメッセージ	本講義では、日本の古典文学作品を扱いますが、文法の知識を必要とする「古文」の読解ではなく、「物語」を読むことに重点をおきます。現代語訳なども使い、講義を進めていきます。 ただし、知識を問う暗記科目ではなく、論理的な思考力や文学的想像力を用いて文学作品を読む事が必要であることに留意してください。中学・高校時代に利用した国語便覧があれば、講義の参考になります。
-----------	--

担当者の研究室等備考	非常勤講師室
------------	--------

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかの理解。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れの理解。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とはどのような学問か?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
2	人類学の誕生 (1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
3	人類学の誕生 (2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
4	機能主義人類学 (1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
5	機能主義人類学 (2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ボアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義 (1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	100%定期試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（特に授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。		
学生への メッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。 各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室		
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。		

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を採るレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	労働と社会 (3)	歴史的な視点でジェンダーと労働、法制度に関して学び考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人たちには〈やりがい〉〈思い出づくり〉あるいは〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動について考える上で基本となることばを学修します。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	<p>事前学習: シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	<p>事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>	
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>	
4	支え合いによって成り立つ社会—市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>	
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はど	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞	

			のようなものなのか学修します。	にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 秀芳
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

授業概要・目的	・本講義では、経済や経済学を初めて学ぶ人あるいは経済学の基礎知識を身に付けたいという人を対象として、経済や経済学の基本から、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論の基礎までを取り上げて、経済や経済学に関する基本的知識を修得します。
到達目標	受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。
授業方法と留意点	・授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていきます。 ・Moodle (授業支援システム) を利用して資料の配布・課題提出等を行います。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス及び経済学と経済について	15回の講義で何を学ぶかを概説します。また、経済学と経済について解説します。	
2	需要の理論と消費者行動の理論	消費者の消費行動、需要曲線、消費者余剰などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
3	供給の理論と需要曲線と弾力性	供給者 (生産者) 行動、供給曲線、利潤最大化、生産者余剰などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
4	市場の理論	市場の効率性、完成競争、社会的余剰、市場の失敗などについて解説します	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
5	市場の失敗	外部効果、公共財、情報の非対称性、独占市場などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
6	中間まとめ及び GDP (国内総生産)	・中間まとめ (ミクロ経済学の総まとめ及び小テスト) ・GDP の概念、実質 DGP と名目 GDP、GDP 統計などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
7	消費と貯蓄、投資	消費関数、消費性向、投資関数、投資の限界効率などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
8	政府の支出及び総需要の経済学	資源配分の改善、所得の再分配、総需要均衡所得 乗数効果などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
9	金融市場の分析	貨幣の定義、貨幣の役割、貨幣創造、貨幣需要関数 金融政策の基本などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
10	IS-LM モデル	IS 曲線と LM 曲線の導出、IS 曲線と LM 曲線のシフト、財政・金融政策などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
11	IS-LM モデルを使った分析	失業、有効需要、財政・金融政策、グラウディング・アウト、流動性の罫などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
12	物価の分析	貨幣数量説、総需要曲線、総供給曲線、サプライショックなどについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
13	国際経済 (開放マクロ経済)	輸出と輸入、比較優位と貿易利益、国際分業と産業構造の変化などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。

	14	国際版 IS-LM 分析 (開放マクロ経済学)	為替相場制度、輸出入、国際資本移動及びマンデル＝フレミング・モデルについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
	15	講義全体の総括及び確認テスト	・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容の総まとめ ・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容に関する確認テスト	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
関連科目	食料・農業経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学の基礎	小川光／家森信善	中央経済社
	2	マクロ経済学の基礎	家森信善	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	・授業内課題 50%、小テスト及び確認テスト 50% ただし再受験の学生はレポート 100%で評価します。			
学生へのメッセージ	講義では出来る限り平易に解説していきます。講義を毎回受講し、熱心に学ぶ姿勢をもったやる気のある受講生を望みます。			
担当者の研究室等				
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。 それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「【前期金曜1限・農学部&看護学部】日本の政治 (担当: 森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について 日本の政治制度の基本原則について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく 日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と土族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目 政治学、政治史関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店
	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣

<p>評価方法 (基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、「公欠を除く欠席が5回以下」の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> ○平常点20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） ○期末試験80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 ・期末試験において持ち込みは認めません。
<p>学生への メッセージ</p>	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>寝屋川キャンパス11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）</p>
<p>備考</p>	

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正, 本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。 ・第1回～第3回を本多、第4回～第15回まで小野が担当する。
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の講義は対面で行い、第2回目から第15回目までをオンデマンド動画配信講義にて行う。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsおよびformsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義またはteamsを通じて行う。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本法の体系 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> ・法の段階構造 ・私法／公法による法の分類 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
3	法的三段論法 法の解釈 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> ・裸の価値判断と法的三段論法 ・法の解釈—簡単なケースと難解なケース 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
4	労働法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラック企業問題と労働者保護 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
5	刑事法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
6	刑事法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
7	労働法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
8	民法法② (家族法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の範囲 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
9	民法法③ (家族法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族法の基本原則 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻 (結婚) の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
10	民法法④ (家族法③) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚の法的効果 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
11	民法法⑤ (家族法④) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚の手続き・親子関係と親権 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
12	民法法⑥ (不法行為法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
13	民法法⑦ (財産法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
14	民法法⑧ (財産法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災と住宅ローン減免の可否 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨ (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドメスティック・バイオレンス (DV) とデートDV 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)

関連科目	日本国憲法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	寝屋川校地 11号館10階 小野教授室 11号館09階 本多准教授室			
備考	本講義は、第2回目よりオンデマンド動画配信による授業を行います。			

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	<p>この講義では、市場や事業創造の担い手である、Entrepreneur (起業家・企業家) に関する戦略と組織について、様々な考え方を示していく。その過程で、経営学の基本について、全体を網羅して講義を行う。教科書や講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深める。</p> <p>どのようにすれば、新たな市場や事業を創造して成功を導くことができるのか。それは特に日本企業の経営にとって、きわめて実践的な課題であるといえる。こと事業創造によって事業構造の再構築を上手に進めることは、日本社会における個人と企業との関わり方を変えるとともに、既存の産業における構造的な転換と新産業の創出を可能にし、ひいては日本経済の活力を生み出すカギになると考えられる。</p> <p>Entrepreneur (起業家・企業家) は、発掘されるべきものであり、育成されるものではないという当たり前の目線がある。Entrepreneurship は、生まれつきの性格や能力に依存するところが多いと考えられてきたからだ。</p> <p>この講義は、この当たり前の目線に挑戦したい。Entrepreneur の行動原則は、思考や実践を通した熟達によって獲得されることを学ぶ。不確実性や曖昧性の高い状況であっても、行動を起こす自信と勇気を得ることができる Entrepreneur の思考や行動原則を、この講義では身につけます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事につながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<p>市場や事業を創造する上で、自分たちが儲かりさえすれば良いという発想ではなく、公益の追求が必要であることを体得する。「自分たちにとって」だけでなく、社会にとって善であるかを熟慮して、判断する能力を磨く。</p> <p>ベンチャーにしる、中小や大手企業にしる、経営は、より高次の目的にかなうものでなければならない。そのような目的を設定し、実現に邁進する。さすれば組織は、社会に永続的な恩恵をもたらすという使命を帯びた存在であるという自覚を持てるようになる。ひいては、人類の現状を改善するということに貢献できる。</p> <p>...そのようなことを意識し、実践し続ける Entrepreneur の思考や行動原則を身につけることを、目標とする。</p> <p>「日本は、_____することに適している。」 この_____という空欄に、何を埋めるか?...この講義を終わる頃に、皆さんなりの答えが、なんとなくでも見出せれば幸いである。</p>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	アントレプレナーシップの基礎理論	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価についても、説明します	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
2	アントレプレナーシップの社会的意義	企業経営を中心に、講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	アントレプレナーシップの倫理教育	アントレプレナーに必要な要素と、経営教育との関わりについて学びます	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	独立アントレプレナー	経営資源の獲得と、事業創造について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	ファミリー・アントレプレナー	事業承継と革新について、学びます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	コーポレート・アントレプレナー	既存企業における新規事業開発と、社内企業家について、学びます	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	アカデミック・アントレプレナー	大学の研究の現場から、アントレプレナーは生まれるのか、議論します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	ソーシャル・アントレプレナー	社会的な問題に対して、経営学の考え方で解決する可能性について、議論します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	誕生・成長初期のアントレプレナーシップ	ビジネスモデル、事業の仕組みについて、学びます	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	成長期のアントレプレナーシップと外部資源	M & Aについて、学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	成長期のアントレプレナーシップと内部資源	経営資源と学習について、学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	長寿企業とアントレプレナーシップ	技能の継承について、学びます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ	経営資源を獲得するネットワークについて、学びます	事前：教科書の第13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	グローバル・アントレプレナーシップ	企業が国境を越える理由について、考えます	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	アントレプレナーシップとエコシステム	なぜアメリカのシリコンバレーは、アントレプレナーを輩出し続けるのか、議論します	事前：教科書の第15章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からのアントレプレナーシップ (第2版)	山田 幸三・江島 由裕 (編著)	碩学舎
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
	2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社
	3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社
評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日（講義の中でお知らせします）までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」 「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」</p>			
学生への メッセージ	<p>受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当者は、非常勤講師です。</p>			
備考				

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活に貢献しています。また訪日外国人旅行の増大は、地域経済活性化の切り札ともなっています。授業を通して、観光の歴史、人々の観光行動、観光産業や観光庁の政策など、観光学の基礎を学び、獲得した知識を社会に役立てることを目的とします。近年の旅行市場の動向や地域観光の現状と課題を踏まえ、これからの持続可能な観光について考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 観光に関する文献や資料を理解する力を身につける。 観光の役割と現代観光の特徴について説明することができる。 観光資源について調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を中心に授業を進めます。 グループワークも取り入れます。積極的に参加してください。 教科書は使いません。毎回、プリントを配布します。 授業時に事前・事後学習の内容を提示します。確認し取組んでください。
科目学習の効果 (資格)	観光に関わる基礎知識を修得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 観光と観光学	授業の進め方や課題の調査レポートについて確認し、観光の基礎用語を学ぶ。観光とは何か、観光の役割とは何かについて考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
2	観光の歴史	観光の視点で歴史を読み直す。主に日本の江戸時代の旅について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
3	戦後の観光と観光政策	国の観光政策の流れを確認しながら、観光が大衆化する背景について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
4	日本の旅行市場	『観光白書』等を用いて、国内外の旅行者数の推移や旅行消費額等、旅行市場の全体像を掴む。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
5	観光産業と観光統計	観光産業の定義や観光統計の概要を学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
6	観光産業 I 旅行業と運輸業	旅行業および運輸業の特性や現状と課題を学び、特に利用者が増加しているLCCについて理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
7	観光産業 II 宿泊業	宿泊業の特性や現状と課題、宿泊施設の多様化や民泊サービスの拡大等、近年の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
8	温泉と温泉地	温泉の定義、効能等、温泉の基本を学び、戦後、観光地として発展した温泉地の現状と課題を理解する	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
9	事例研究 I 星野リゾート	破綻したリゾートの再生で注目された「星野リゾート」の特徴的な組織体制や経営方針を学ぶ。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
10	事例研究 II TDR と USJ	遊園地・テーマパークの概要を掴み、TDR (東京ディズニーリゾート) と USJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) に分かれて、成功要因を考える。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
11	文化遺産と観光	ユネスコの「世界遺産」や文化庁認定の「日本遺産」を学び、文化財のデジタル化や観光活用について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
12	地域観光と観光まちづくり	観光庁の主な観光地域づくり政策と地域資源を活かした観光まちづくりの動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間) 課題レポートの作成 (5時間)
13	MICE と IR	ビジネスイベントの総称である MICE (マイス) と、MICE 誘致に関わる IR (統合型リゾート) 推進の現状について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
14	観光資源調査研究	個人で作成したレポートをもとに少人数でのグループワークを行う。グループ内で様々な観光資源の現状と課題を学び、ワークシートに整理する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
15	持続可能な観光に向けて	グループワークと授業を振り返り、これからの持続可能な観光について考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 観光学 [改訂版]	竹内正人・竹内利江・山田浩之	ミネルヴァ書房
	2	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治	ナカニシヤ出版

	3	1からの観光事業論	高橋一夫・柏木千春	碩学舎
評価方法 (基準)	小テスト 45%	授業内で2回実施。学修した知識の理解を問う。		
	レポート 40%	内容の妥当性と論理的構成について評価する。 グループワークで作成するワークシートも含む。		
	課題 15%	記述内容の妥当性を評価する。		
学生への メッセージ	観光にとって「食」と「農」は欠かせない存在です。フードツーリズムやグリーンツーリズムなど、食事や農業体験を楽しむ観光が積極的に行われるようになっていきます。日頃から様々な観光地の情報を収集し、その魅力について考えてみてください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。授業では、学習した内容の復習と知識の定着のために小テスト (小レポート) などの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造 (統治の基礎と人権の基礎) を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題 (夫婦別姓、同性婚の問題など) を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及び その他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、 授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及び その他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、 授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を 読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の 全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、 自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法・第2版（最新版）	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（最新版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%と、定期試験（筆記試験）70%によって、総合的に評価します。 授業内課題等の詳細は、第1回授業のなかで説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	参考文献等は、授業の中で、随時紹介します。			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodleに毎回の講義資料・小テスト問題をアップする。講義までに資料に目を通しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
6	指数関数と対数関数	・グラフ	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
10	不定積分	・基礎的な公式	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
14	定積分	・表面積と回転体の体積	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信

関連科目 物理・化学・数学を使う専門科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝燕子	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 40%、期末試験 60%で判定し評価する
学生への メッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の 研究室等	
備考	・事前課題、事後課題には1コマあたり1.5時間ほどかかることを前提に設定していますので、計画的に取り組んで下さい。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
 - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的な理解を深める。
 - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
 - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
 - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

授業方法と留意点
 授業は、教員による講義とグループワークなどを取り混ぜて行う。また、グループワークの都合上、学生はそれぞれ決められた席に着席する。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	医療資源の配分 インフォームド・コンセント	医療資源の配分とインフォームド・コンセントの具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
3	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
4	安楽死と尊厳死	安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
5	ゲストスピーカー講義	・ゲストスピーカーとともに命について考える。 ・通常の時間割と異なる時限に邂逅する可能性があるため、事前の連絡に注意すること。	事後学習：事後レポート
6	環境倫理 (1)	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について学ぶ。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
7	環境倫理 (2)	環境倫理の具体的課題についてグループワークで考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
8	食の倫理 (1)	・フードシステムについて知る。 ・保健機能食品やフードファディズムについて学ぶ。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食の倫理 (2)	食べ物と健康について様々な倫理的な観点から考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
10	ペットや産業動物の命	・動物の生命と愛護について考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
11	ヒトゲノムとクローン技術 (1)	・ヒトのゲノム情報に関連する課題について知る学ぶ。 ・クローン技術に関連する課題について学ぶ。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
12	ヒトゲノムとクローン技術 (2)	ヒトのゲノム情報やクローン技術に関わる具体的課題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
13	13 遺伝子組換え食品とゲノム編集食品 (1)	遺伝子組換え技術やゲノム編集技術の基本と社会との関係について学ぶ。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
14	遺伝子組換え食品とゲノム編集食品 (2)	食に関わる新しいバイオテクノロジーの社会受容に関わる具体的課題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
15	食品汚染と公害	食品汚染物質と食品公害について学び、考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学・生活科学を学ぶ学生のための 新しい生命倫理	権名隆ほか著	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を40点に換算し、授業内の成果物などを10点、事後レポートなどを50点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	椎名 隆 応用生物科学科 8号館3階:303号室 岩崎 綾乃 薬学部薬学科 1号館1階:岩崎講師室 喜多 大三 食品栄養学科			
備考				

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	我々人類を含む生物と環境を取り巻く状況は、悪化の一途をたどっている。経済優先の人間活動による温室効果ガスの排出は地球温暖化を引き起こし、それに伴い環境破壊や水不足、食糧危機等の様々な社会問題が世界各地で顕在化している。そんな中、2030年を期限とした世界共通の目標—いわゆるSDGs—が2015年に国連（国際連合）で採択され、現在世界の約190の国と地域で、この目標達成に向けた活動が加速している。本講義では、このSDGsにある「17の目標」の学習を通じて、ヒトを含む生物と環境の関わりについて理解を深めることを目的とする。
到達目標	・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明することができる。 ・人間活動に起因する世界の環境問題を理解し、自ら説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	SDGs とは何か 目標 1. 貧困をなくそう (No Poverty)	内容: SDGs とは何か 内容: SDGs 目標 1 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
2	目標 2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)	内容: SDGs 目標 2 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
3	目標 3. 人々に保健と福祉を (Good Health and Well-Being)	内容: SDGs 目標 3 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
4	目標 4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)	内容: SDGs 目標 4 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
5	目標 5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)	内容: SDGs 目標 5 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
6	目標 6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)	内容: SDGs 目標 6 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
7	目標 7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)	内容: SDGs 目標 7 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
8	目標 8. 働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)	内容: SDGs 目標 8 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
9	目標 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう (Industry, Innovation and Infrastructure)	内容: SDGs 目標 9 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
10	目標 10. 人や国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)	内容: SDGs 目標 10 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
11	目標 11. 住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)	内容: SDGs 目標 11 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
12	目標 12. つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)	内容: SDGs 目標 12 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
13	目標 13. 気候変動に具体的な対策を (Climate Action)	内容: SDGs 目標 13 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
14	目標 14. 海の豊かさを守ろう (Life Below Water) 目標 15. 陸の豊かさを守ろう (Life on Land)	内容: SDGs 目標 14 及び目標 15 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
15	目標 16. 平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions)	内容: SDGs 目標 16 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一番わかりやすい!SDGs のざっくり知識	国際時事アナリスト編	河出書房新社

	2	SDGs 時代の社会貢献活動	前林 清和・中村 浩也（編集）	昭和堂
	3	データでわかる 2030 年地球のすがた	夫馬賢治	日経 BP 日本経済新聞出版本部
評価方法 (基準)	第 1-14 回終了後の小レポート（4 点×14 回=56 点）と第 15 回終了後の期末レポート（44 点）の合計点が 60 点以上（100 点満点）で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1 号館 2 階 伊藤講師室（薬学部）			
備考				

科目名	地学	科目名 (英文)	Earth and Space Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1〇		
科目ナンバリング	ONA1436a2		

授業概要・目的	地学の大きな柱である固体地球、岩石鉱物、地質・地史、大気・海洋、天文の諸分野に関して、実際のデータや写真など、具体的な資料を用いて、我々の住む地球や我々を取り巻く宇宙に関する知見を深め、我々が経験する自然現象がいろいろな法則や原理によって説明できることを学ぶ。扱う範囲は広いが、単に広く浅い知識を習得するのではなく、自らの手で資料を検討することによって少し深い知見も得られるよう進める。また今まに行われている研究についても紹介する。
到達目標	本授業を通して、様々な観点から我々の住む地球や宇宙に関する知見を深め、我々を取り巻く環境の変化が、いろいろな法則や原理によって説明できることを理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式で、教科書を中心に進めます。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習して授業に臨むとともに、特に毎回授業の最初に行う小テストに備えて復習を行うこと。小テストは、採点して次の回に返却し、答え合わせをします。
科目学習の効果 (資格)	高等学校で地学を履修していない人が、地学の基礎学力を持つようになることによって、教員免許状を取得する一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	プレートテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクスについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
3	地震・地殻変動	地震の発生、地震の分布、地震・火山活動に伴う地殻変動、長期的な変化について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
4	火山と火成活動	火山活動、火山噴出物、火成岩のでき方とその種類、造岩鉱物の性質、マグマの発生と分化について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
5	地表の変化と地層	風化・侵食、地形・地層の形成、堆積物と堆積層、地質調査と地質図、変成作用と変成岩について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
6	地球の歴史	示準化石・放射性元素の崩壊、地球史、造山運動について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
7	日本列島の歴史	プレートテクトニクスと日本列島、日本列島形成の歴史について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
8	大気圏の構造	大気・大気圏の構造、オゾン層、気象観測、天気図、大気中の水分、地球の熱収支について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
9	大気の運動	大気に働く力、地衡風・傾度風、大気の大循環、世界の気候帯、台風、偏西風波動、温帯低気圧について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
10	日本でみられる季節の気象	日本における各季節の気候の特徴、日本付近の気団について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
11	海水の性質とその運動	海洋の構造、波、環流と西岸強化、潮汐、エルニーニョについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
12	太陽系の天体	太陽系の形成、太陽系の構造、惑星、彗星・流星・隕石、太陽の構造、太陽活動とその影響について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
13	恒星・惑星の運動	天球の座標、地球の自転、地球の公転、均時差、惑星の視運動と位置関係、ケプラーの法則について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
14	恒星の性質と進化	恒星の明るさ、恒星までの距離、恒星の表面温度、HR 図と恒星の進化、食連星について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
15	恒星・銀河系・宇宙	星団と星間雲、銀河、宇宙の構造、ビッグバンについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。

関連科目 地学実験
教科書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地学	磯崎行雄	啓林館
	2	新地学図表	浜島書店編集部	浜島書店
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回小テストまたはレポート課題を課し、それらと期末試験の成績によって評価する。 小テストまたはレポート課題（30%）、期末試験（70%）の割合である。 なお原則として提出率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 提出は、小テストの場合は授業中に、レポートの場合はWebFolderで行ってください。</p>			
学生への メッセージ	<p>高校で地学を履修していなかった受講生にも理解できるように授業を進めたいと考えています。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習・復習を行ってください。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	<p>オンライン授業を行う場合は、ZoomのミーティングID: パスコードをお知らせします。</p>			

科目名	地学実験	科目名 (英文)	Experiments in Earth Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門 正博
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1437a2		

授業概要・目的	地学実験では、地球物理学・天文学・地質鉱物学における基本的事項について修得する。地質鉱物学分野では、直接生の岩石や堆積物、化石などに触れることによって地球の歴史や各自の生活の基盤になっている大地の生い立ちを考察できるようになることを目的とする。また、天文学分野では、天文に関する知識を実地の観測結果と結びつけて考察できるようにし、観測者である自分の空間位置を太陽系と恒星の世界の中で把握できるようにすることを目的とする。
到達目標	観測・実験を通して、我々の住むこの地球と宇宙についての理解がどのように進められたのかが認識できる。 観測・実験に必要な機器の操作ができるようになる。
授業方法と留意点	地質鉱物学分野では、実物の標本を手にして観察したり、実際に歩いてみるなど体験的に地質学の方法論や考え方を学ぶ内容となっている。天文学分野では、実際に天体望遠鏡を用いて天体の観測を行い、基本的な操作や記録の方法について知るとともに得られたデータのコンピュータ解析も行なう。気象分野では、大気の特徴を観測・実験などを通して調べ、大規模な気象との関連について天気図上で考察できるようにする。教科書は使わず、資料プリントを配布する。
科目学習の効果 (資格)	地球ならびに惑星科学についての幅広い教養を身につけることが出来るほか、環境科学の分野にも寄与する内容である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	天体観測の基礎	天体情報は、光をはじめとする電磁波によって得られる。天体からの微弱な光を集め観測する天体望遠鏡の仕組みと観測機器の基本を理解し、基本操作を学ぶ。	「光」の特徴や「レンズ」の特性・種類について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
2	太陽、月と惑星 (観測の実際)	太陽や月、金星などの明るい惑星を対象にして、望遠鏡で観測をおこなう。実際に、天体を視野内に導入してみる。	望遠鏡の操作マニュアルを確認しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
3	太陽データの解析	太陽黒点を主にして太陽表面の状態を観測データから明らかにする。恒星の代表としての太陽を知る。	太陽の基本的な諸量、特徴について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
4	恒星データの解析	星団中の恒星の測光データをもとに HR 図を作成し、星団までの距離や恒星の進化について考察する。	HR 図、恒星の進化について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
5	銀河データの解析	距離のわかっている銀河のスペクトルデータからハッブルの法則を確認し、宇宙の膨張速度であるハッブル定数を決定する。	スペクトル、ドップラー効果について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
6	気象要素と天気図	温度、湿度、気圧、風などの測定結果から、天気図を作成する。	天気記号や気象用語について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
7	天気図とひまわり画像	作成した天気図から実際の雲などの配置を予想する。また、大気の大循環について理解する。	天気図とひまわり画像をもとにこの1週間の天気の変化をまとめる (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
8	地球の大きさを測る	歩測を使い学内の特定ルートを歩き、GPS を用いて緯度確認を行い、計算によって地球の大きさを測る。	地球についてその大きさや特徴を事前に理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
9	地形図の読み方と水系図の作成	1/25000 地形図を使い、水系図と地形断面図を作成する。 地形図から私たちの身近な大地の特徴を理解する。特に地形断面をつくり、その断面の特徴から地形形成の歴史を推察する。また、水系図を描き、その大地の特徴ならびに流れる水の特徴について考える。	典型的な地形 (カルデラ、扇状地、段丘、構造盆地、...) についてその特徴などを理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
10	地層の特徴を学ぶ	地質図を理解するうえで必要な、地層の走向と傾斜についてモデルを用いて考察する。	あなたの住む地域の地質図 (産業技術総合研究所地質調査総合センター) を調べ、その分布の特徴を理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
11	地震	複数の観測所 (3 か所以上) の地震計の記録から初期微動継続時間を読み取り、震源を特定する。	プレートテクトニクスの考え方や、それによってどのように地震が起こるのかを調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
12	岩石の肉眼鑑定	主要な岩石 (火成岩と堆積岩) の肉眼での鑑定を行う。高等学校教科書等で一般に扱われる 14 種類の岩石を取り上げて、それらがどのようにつくられたのかを理解する。	火成岩と堆積岩について事前にどのようなものであるかを理解しておく。また実際に観察を通して身近な岩石の特徴を理解して、一つでも多くの岩石が分かるようにしておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
13	岩石薄片の観察	偏光顕微鏡を用いて、岩石薄片を観察し、顕微鏡スケッチを実施する。観察方法ならびに偏光顕微鏡についてその基本を学ぶ。観察を通して構成鉱物の違いならびに組織の特徴について理解する。	偏光板の特徴や偏光顕微鏡の仕組みについて調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
14	地球の歴史	地球カレンダーを作成し、化石に関する知識など地質時代の特徴とその長さを理解する。	大型化石や微化石についてどのようなものがあるかを事前に調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
15	まとめ	地学実験を通して、グループでの総合的発表の時間とする。	発表用の資料 (パワーポイント) を作成する (300 分)。

関連科目 地理学ならびに地球惑星に関する科目。
教科書

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>すべての回の実験に出席することを前提に、以下の割合で評価をおこなう。</p> <p>各回の実験レポート・・・60%</p> <p>事前・事後の課題・・・30%</p> <p>最終回の発表・・・10%</p>																
学生への メッセージ	<p>日頃より理科や科学に関する内容に興味・関心をもち、新聞、ニュース、科学雑誌等に取り上げられる事柄に目をくばるように心がけることが大切である。</p> <p>地学を受講していることが望ましい。</p>																
担当者の 研究室等																	
備考																	

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口 有芸
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。</p> <p>課題については授業内にフィードバックする。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと(事前：0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	坂口有芸 (寝屋川キャンパス7号館5階)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法 (Moodle、Teams、Web フォルダー等) は教員の指示に従うこと。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前: 1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと (事後: 0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている人にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと (事後: 2 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後: 0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること (事前: 0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前: 1 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後: 1 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後: 0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前: 1 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと (事前: 1 時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前: 0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>授業では、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験 (総合適性検査 SPI・公務員試験等) の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>①「まずは問題を自力で解く (取り組む)」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。</p> <p>授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習 (1時間)
2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
7	総復習①	計数問題復習	・第6回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
8	中間テスト	中間テスト	・第7回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)

関連科目: キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2				
3				

評価方法 (基準): 「小テスト 40%」+ 「中間テスト・最終テスト 50%」+ 「Smart SPI 10%」

学生へのメッセージ: 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等: ラーニングセンター (寝屋川キャンパス 2 号館 2 階)

備考: 『厳選! 数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。

科目名	臨床医療演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	畦西 克己, 松本 葉子, 青野 美里, 稲垣 範子, 長沢 美和子, 百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3442a2		

授業概要・目的	<p>[授業概要] これまでの学修した臨床栄養学、応用栄養学の内容を用いて、対象患者のニーズを把握し、栄養ケアを実践する上で必要となる専門的知識や技術を学習する。さらに、医療チームの一員としての倫理観やチームワーク等の実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>[目的] 1. 対象者カルテ (事例) から栄養アセスメントに関する必要な情報を収集することができる。 2. 収集した対象患者の情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、栄養管理ができる。 3. 対象患者に対する必要な栄養ケア・マネジメントの知識・技術について習得する。 4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし合えるよう、管理栄養士の役割を説明できる。 5. 模擬患者への管理栄養士実践・患者役の体験・他者との意見交換を通して、実践上の課題に気づき、自己研鑽できる。 6. グループワークからチーム医療について学習し、コミュニケーション力を習得する。</p>			
到達目標	1. 対象者のニーズ把握のために必要な観察、コミュニケーションができる。 2. 対象者のニーズについて、収集した情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、栄養ケア計画を考案することができる。 3. 対象者のニーズに合わせた栄養管理を習得する。 4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし、管理栄養士の役割を説明できる。 5. エンド・オブ・ライフにおける意志決定の意義と意思決定の支援の在り方について理解できる。 6. ターミナル期にある対象者とその家族に求められる援助を理解し、食事面からの支援を考案することができる。 7. 医療職としてのお互いの立場を尊重し、協同しながら意見交換や演習を行うことができる。 8. 模擬患者への実践、他者との意見交換を通して、実践上の課題に気づき、自己研鑽できる。			
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は学内演習を中心とする。			
科目学習の効果 (資格)	医療現場における実習や他職種との連携に際し、活用できる能力を習得できる。管理栄養士国家試験の内容にも関連する。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	専門的知識の活用①	【講義・演習】 ・摂食嚥下障害、栄養管理の基本的な考え方について学習する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	2	専門的知識の活用②	【講義・演習】 ・事例患者に生じている摂食嚥下障害、栄養障害を理解し、必要なケアについて学習する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	3	専門的知識の活用③	【講義・演習】 ・収集した情報から根拠に基づきアセスメントし、事例患者のニーズを把握し、優先すべき問題を明確にする。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	4	退院後に向けた目標設定	【演習】 ・退院後の生活に向けた患者のニーズ、生活上の問題を明確にする。 ・退院に向けた医療チームの関わりについて学習する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	5	ケア計画立案①	【演習】 ・事例患者のニーズを満たすために必要な計画についてグループで検討し、根拠に基づく具体的なケア計画を立案する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	6	ケア計画立案②	【演習】 ・立案したケア計画をグループごとに発表し、質疑応答を踏まえて、ケア計画を修正する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	7	援助の実施①	【演習】 ・模擬患者とコミュニケーションを図りながら、ケアを実施する。 ・実践及び患者体験により、実践上の課題について振り返り、改善策を検討する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	8	援助の実施②	【演習】 ・各グループの実践内容、振り返り、改善策について、グループごとに発表し、学びを共有する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	9	エンド・オブ・ライフの意思決定	【講義・演習】 エンド・オブ・ライフの概念と意思決定支援について学習する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	10	エンド・オブ・ライフの意思決定	【講義】 エンド・オブ・ライフ・ケアにおける意志決定支援の実践について学習する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	11	模擬人生会議①	【講義・演習】 人生の終末を想定し、グループメンバーで模擬人生会議を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	12	模擬人生会議②	【演習】 人生の終末を想定し、グループメンバーで模擬人生会議を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	13	意思決定支援に関する事例演習①	【演習】 人生の終末における食に関する意思決	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる

			定支援について事例をもとに検討する。	事後課題：課題提出
	14	意思決定支援に関する事例演習②	【演習】 人生の終末における食に関する意思決定支援について事例をもとに検討する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	15	エンド・オブ・ライフの意思決定	【講義・演習】 模擬人生会議と事例演習の成果について、発表およびディスカッションを行い、エンド・オブ・ライフの意思決定について考察する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
関連科目	臨床栄養学科目全般、応用栄養学科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題(レポート等)の達成状況 80%、演習態度(取り組み姿勢等)20%により総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本演習は、これまでに学んできた内容を基に、看護学部と合同で実施します。既履修科目の復習をしっかりと行って臨んでください。スケジュールは初回に具体的に説明します。レポートや課題等は、必要に応じて、授業中もしくは授業後にフィードバックを行います。			
担当者の 研究室等	哇西克己(臨床栄養学第2研究室)			
備考				

科目名	臨床医療実践演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Practice
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	畦西 克己, 山本 十三代, 小川 宣子
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3443a2		

授業概要・目的	<p>チーム医療を推進するために、多職種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、看護師、管理栄養士および薬剤師との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。</p> <p>ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティ活動に場を広げ、健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、協働したチーム医療活動することについて、より発展的な学習を目指す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> 他者と基本的な信頼関係を構築できる態度を獲得する。 自己の専門性および他職種の役割を認識し、地域におけるチーム医療の重要性を理解する。 地域で暮らす人々と対話する能力を獲得する。 地域医療におけるパートナーシップのあり方について自己の意見がもてる。 他者との間で双方向コミュニケーションを実践する。 <ol style="list-style-type: none"> 基本的なコミュニケーション技能を身につける。 情報収集・提供の多様な技能の基本を身につけ、状況に応じて適切に使うことができる。 能動的な学習態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> 小グループでの学習を通じて、チームメンバーと協調しながら自己の意見を述べるができる。 課題に対して関心をもち、能動的に学ぶプロセスを体験する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。6年前から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、看護職者や管理栄養士の役割の広がりやを体感することとなり、看護や栄養士の機能・役割を再認識することに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーションと概要説明 アクティブエイジングとヘルスプロモーション、健康学習の理論と方法 栄養改善に向けた具体的な取り組み例の紹介	講義形式 左記の概念についてレディネスを想起する	事前:左記の概念についてまとめる(0.5時間) 事後:講義の内容を理解し、事前学習のものに追加する(0.5時間)
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(0.5時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(0.5時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(1時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的媒体作成について学習しておく(0.5時間) ②既存の健康だよりの資料を集めておく(0.5時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
9	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジ	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく。 ②企画案に必要な項目を学習する(0.5時間)

		チェック- 企画(1)	グ健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事後:グループ課題を行う(0.5時間)																
	10	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事後:グループ課題を行う(1時間)																
	11	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(3)	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生との打ち合わせに参加する アンケートの作成	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを指定期日までに作成する(1時間)																
	12	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(0.5時間)																
	13	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(0.5時間)																
	14	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(0.5時間)																
	15	アクティブエイジング健康チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善などから健康チェックの意義・改善点について提言する	事後:レポートを期日までに作成し提出する(1時間)																
関連科目	各領域別看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生学、公衆栄養学、臨床栄養学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Karen Glanz 編 曾根智史訳</td> <td>健康行動と健康教育-理論、研究、実践-</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著</td> <td>健康教育論</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>厚生統計協会(最新号)</td> <td>国民衛生の動向</td> <td>厚生統計協会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院	2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社	3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院																	
2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社																	
3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会																	
評価方法(基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートについて60%、地域活動の実践状況について40%の評価を行う。																			
学生へのメッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々や検討していきたいと考えています。実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。地域での健康増進活動に関心のある方はぜひ受講ください。住民の方々の思いを聴きこれからの実践に活かせるよう共に考えていきたいと思ひます。																			
担当者の研究室等備考	山本十三代 7号館研究室5 小川宣子 7号館研究室10																			

科目名	セルフメディケーション演習	科目名 (英文)	Tutorial on Self-medication
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	畦西 克己・首藤 誠・石丸 侑希・小森 浩二・長谷部 茂・三田村 しのぶ・百木 和・吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3444a2		

授業概要・目的	セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当すること」と定義されている。近年、我が国では、高齢化の進展、生活習慣病の増加、地域包括ケアシステムの構築等によって、予防医学やセルフメディケーションの重要性が指摘されている。管理栄養士は国民の健康維持・増進、疾病の予防において、食生活、栄養指導の中心的役割を担っている。本科目は、薬局・ドラッグストアにおけるセルフメディケーションのあり方、クライアントや薬剤師などのコミュニケーションについて修得し、管理栄養士の地域医療における役割を学修する。
到達目標	①OCT薬について理解できる。 ②病状や症状からその原因を突き止め、薬、栄養、食事面で対処できる対応力を修得する。 ③顧客に対するコミュニケーション力を修得する。 ④地域医療における多職種連携によるチーム医療について修得する。 ⑤地域医療における管理栄養士の役割を修得する。 ⑥保健・医療・福祉に関する情報を収集し、資料作成およびプレゼンテーション能力を修得する。
授業方法と留意点	授業方法は下記の授業計画に従い、本科目はグループワークを通して、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する。必要に応じてテキストの使用や資料を配布する。実践形式を重要視した授業とし、レポートおよび課題の提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	登録販売者試験対策および登録販売者資格後における薬局現場での実践活用

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1回 OTC医薬品に関する知識および活用	症状別の薬の選択、薬の成分、商品、健康管理などの知識と活用	テキスト・配布資料などを事前に学習し、課題に対して事前に準備しておく。
2	2回 症例に症例に応じた顧客対応	OTC医薬品、サプリメント、食事療法などに関する知識の活用と病状および症状に応じた顧客対応の実践	テキスト・配布資料などを事前に学習し、課題に対して事前に準備しておく。
3	3回 保健・医療・福祉に関する情報収集および資料作成	健康情報資料の作成とプレゼンテーションの実践	テキスト・配布資料などを事前に学習し、課題に対して事前に準備しておく。
4	4回-6回 症例解析 ＜内容＞一連の顧客対応事例から患者の病因・病態ならびに対応の適切性について、小グループで討議し、成果物を作成する。 ＜到達目標＞課題資料から、患者状態を把握し、その対応の適切性について評価できる。	Teamsを用いたリアルタイム授業方式で実施します(小グループ討議および症例サマリーの作成)。	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討議、成果物評価(総括的評価))
5	7回-10回 顧客接遇 ＜内容＞顧客の主訴から患者の病因・病態に関する様々な可能性の列挙ならびに適切な対応(OTC医薬品の選択、受診勧奨等)について小グループで討議する。個々にロールプレイ形式で顧客接遇を行ない、知識の共有化およびコミュニケーション能力の向上を図る。 ＜到達目標＞顧客の訴えから適切な患者情報を聴取・評価し、個々の患者に適した対処方法を提案できる。	Teamsを用いたリアルタイム授業方式で実施します(小グループ討議およびロールプレイ)。	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討議、ロールプレイ)(総括的評価)
6	11回-15回 保健・医療・福祉に関する情報媒体の作成およびプレゼン ＜内容＞保健・医療・福祉に関するテーマについて小グループで討議し、その情報提供媒体を作成する。発表会を行い、知識の共有化およびプレゼン力の向上を図る。 ＜到達目標＞(1)疾患の予防、治療におけるOTC医薬品、サプリメント、保健機能食品、漢方薬等の選択・使用方法について説明できる。(2)在宅医療、介護の仕組みについて説明できる。(3)地域の包括的な支援・サービス提供体制について説明できる。	Teamsを用いたリアルタイム授業方式で実施します(発表用資料作成およびプレゼンテーション)。	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(発表、成果物評価(発表用資料等))(総括的評価)
7			
8			
9			

	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	臨床栄養学、薬理学、栄養薬理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬の選び方を学び 実践する OTC 薬入門</td> <td>上村直樹</td> <td>薬ゼミファーマブック</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>らくらく完全攻略！登録販売者試験合格テキスト&問題集第4版</td> <td>團野浩</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬の選び方を学び 実践する OTC 薬入門	上村直樹	薬ゼミファーマブック	2	らくらく完全攻略！登録販売者試験合格テキスト&問題集第4版	團野浩	ナツメ社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	薬の選び方を学び 実践する OTC 薬入門	上村直樹	薬ゼミファーマブック																	
2	らくらく完全攻略！登録販売者試験合格テキスト&問題集第4版	團野浩	ナツメ社																	
3																				
評価方法 (基準)	原則、演習には全て出席し、課題（発表資料等）を全て提出していることを単位認定の必須要件とします。なお、本科目で評価対象とする観点については、講義の初めに示します。その上で、発表用資料等の成果物の評価（30点）とグループワーク、発表、質疑応答、ロールプレイ等のルーブリック等によるパフォーマンス評価（70点）を合わせて100点とし、60点以上を合格とします。																			
学生への メッセージ	ドラッグストアの就職希望者は受講してください。また、登録販売者試験対策にも役立ちます。																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎科学実験	科目名 (英文)	
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉親, 安藤 真美, 岸本 良美, 野原 綾, 水間 智哉, 山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1032a0		

授業概要・目的	管理栄養士養成における食べ物と健康に関する講義および実験・実習科目の知識と技術をより深く理解するために必要な基礎的事項について実験を通して学ぶ。具体的には、実験器具の種類・取扱い方、試薬の調製方法、有効数字の取扱い方などの化学実験の基礎をはじめ食品成分分析や食品衛生実験における定性、定量の原理やマイクロピペットの扱い方、遠心分離機や分光光度計などの基礎的な操作法を修得する。また、食品加工実習の基礎となる食品素材の加工特性や調理学実習の調理性と嗜好性の理解に必要な調理科学の基礎を学ぶ。さらに、各種官能評価により食品および調理・加工品のおいしさの評価を行い調理学実習の基礎を学修する。
到達目標	① 正しい実験器具の取扱い、試薬の調製、有効数字を踏まえた正しいレポートの作成ができる。 ② 実験で使用する薬品管理、廃液処理が適切にでき、安全な実験ができる。 ③ マイクロピペットの取り扱い、遠心分離操作や分光光度計を使った比色測定ができる。 ④ 定性と定量の原理を理解し、ヨウ素反応を用いた定性分析と食品の滴定酸度分析ができる。 ⑤ カゼイン沈殿法、pHによる植物性色素の変化、糖質のアミノカルボニル反応の原理・操作を理解できる。 ⑥ 官能評価の手法を用いて、食品や調理・加工品の評価ができる。
授業方法と留意点	実験前に実施項目の目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。実験終了後、各個人で内容のまとめを行い、実験レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
科目学習の効果 (資格)	本実験は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) などの資格取得に活かせることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	「基礎科学実験」で学ぶ内容の概説 (全員5名)	事前：シラバスを読んでおく。 事後：配布プリントを使って復習する。
2	化学実験基礎 ① (実験器具の取扱い)	実験器具の種類、実験器具の取扱い、安全な実験法 (平原)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
3	化学実験基礎 ② (試薬、溶液の調製法)	試薬・溶液の調製、希釈方法、精密天秤による秤量方法 (平原)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
4	化学実験基礎 ③ (実験結果の取扱い)	有効数字の取り扱い、検量線作成法、最小二乗法の基礎 (平原)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
5	化学実験基礎 ④ (薬品管理、廃液処理、レポート作成)	薬品および溶剤の管理方法、実験廃液の処理方法 レポート作成方法 (平原)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
6	実験操作法 ① (実験操作-基礎)	ガスバーナー、マイクロピペットの取り扱い 遠心分離操作 (岸本)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
7	実験操作法 ② (実験操作-実践)	分光光度計の原理と比色法、pH測定、実験値の取り扱い (岸本)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
8	定性分析と定量分析① (定性の理解)	定性分析とは、同定法、ヨウ素反応を用いた定性分析 (水間)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
9	定性分析と定量分析② (定量の理解)	定量分析とは、重量分析と容量分析、食品の滴定酸度分析 (水間)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
10	食品の利用と科学 ① (カゼイン沈殿法の基礎)	カゼイン沈殿法の原理、酸を使った牛乳の沈殿 (山田)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
11	食品の利用と科学 ② (カゼイン沈殿法の実践)	カッターチーズの加工 (山田)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
12	食品の利用と科学 ③ (pHによる植物性色素の変化)	pHによる野菜・果物の色の変化 (山田)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
13	食品の利用と科学 ④ (アミノカルボニル反応の基礎)	糖質の種類によるクッキーの色の変化 (山田)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
14	調理科学 官能評価 ① (5味識別、順位法)	基本的な味の味覚や強さの判定 順位法による調理品の特性判定 (安藤)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。
15	調理科学 官能評価 ② (2点比較法、3点比較法、評点法)	2点比較法、3点比較法による調理品の特性判定 評点法による調理品の特性判定 (安藤)	事前：プリントを読んでおく。 事後：学習内容に関するレポートをまとめる。

関連科目	調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ、食品加工学実習、食品衛生学実験
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『プリント教材』		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『調理科学実験』	大羽和子、川端晶子 編	学建書院
	2	『食品学実験書』	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社
	3	『食品加工、食品機能実験』	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾 歩、山本久美	東京教学社
評価方法 (基準)	毎回の実験後1週間後に、実験内容をまとめたレポートを提出する。実験内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載すること。このレポート(80%)および実験中の内容(20%)より評価する。			
学生への メッセージ	この授業では、実験・実習の理解に必要な実験の基礎について学びます。実験内容の予習復習を行い積極的に実験に参加して理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室319、320、321、324、325			
備考				

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	農学部	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	FF01451a2		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	8号館1階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	農学部	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	FF01455a2		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館1階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。
----	---

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3441a2		

授業概要・目的	<p>本講義は土曜日の集中講義の形式で行う(シラバスの日程参照)。 主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることが期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画	事前・事後学習課題			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	4/20(土)3限:インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 講義委でのインターンシップと民間企業が行う1day 仕事体験の違いを理解する 学生と社会人の違いを理解する インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
	2	4/20(土)4限: 企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> 組織の形態を知る ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
	3	4/20(土)5限: 実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> 産業の分類を知る 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間) 事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間)
	4	5/18(土)3限: 企業研究を志望動機に結びつける	<ul style="list-style-type: none"> 志望動機を組み立て方について考える 企業研究を志望動機に結びつける 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自身の興味のある企業について調べること(0.5時間) 事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間)
	5	5/18(土)4限: 社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを知る 身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間) 事後学修: 配付されたテキストを精読すること(0.5時間)
	6	5/18(土)5限: 社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> 文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(0.5時間)
	7	6/1(土)3限: 社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> 口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: マナーの大切さを再度考えること(0.5時間)
	8	6/1(土)4限: 履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> エントリーシートとは何かを知る エントリーシートを書くための前準備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: エントリーシートを書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修: 講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること(0.5時間)
	9	6/1(土)5限: 履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修: 講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間)
	10	6/15(土)3限: グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> 企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える 実際にグループディスカッションに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修: グループディスカッション時の自身の行動を振り返る(0.5時間)
	11	6/15(土)4限: グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> 議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修: 自グループ及び他グループの発表を振り返ること(0.5時間)
	12	6/15(土)5限: 実習先の決定と事務連絡について、事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> 実習先の決定と事務連絡 報告書の書き方 事前訪問のマナーと準備について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5時間) 事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間)

	13	7/27(土) 3限:課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	14	7/27(土) 4限:課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	15	7/27(土) 5限:振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修:インターンシップIで学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修:インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
	16	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	17	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修:直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
	25	事後学修① 9月14日(土) 3限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修:個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	26	事後学修② 9月14日(土) 4限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修:個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	27	事後学修③ 9月28日(土) 3限(予定)/寝屋川キャンパス	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修:代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	28	事後学修④ 9月28日(土) 4限(予定)/寝屋川キャンパス	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修:代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	29	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修:実習記録簿を見直してくること(0.5時間)
	30	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修:インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(各回のミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す			
学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターシップ開始(予定) インターシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある			
担当者の 研究室等	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階/枚方キャンパス非常勤控室)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターシップ先の都合により、インターシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明・鎌田 祥輝・谷口 雄一・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業生を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明・鎌田 祥輝・谷口 雄一・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																
関連科目	教職関連科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林														
2	学習指導要領解説	文部科学省															
3																	
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																

科目名	栄養教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Teaching II (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習は小学校・中学校の役割や組織について知り、栄養教諭としての職務を理解し、その使命感や責任感を養うことを目的とする。また、児童・生徒への理解や関係づくりや指導に関する実践力を養う。大学で学んだ理論と教育現場での実践とを結び付けてリフレクションし、栄養教諭を目指す自己の課題を見極め、さらに向上を目指して知識と技能の修得に努める。教育実習終了後には、実習の反省・問題点の整理を行い、報告会を実施することにより、今後の課題を確認し、教育実習の体験を生かし、児童・生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。																		
到達目標	① 学校運営や学級経営、指導方法について知り、栄養教諭としての係わり方について考えることができる。 ② 担任や栄養教諭の指導方法を意欲的につかもうとする。 ③ 児童・生徒と係わりながら関係を築き、指導力を養おうとする。 ④ 給食の時間に給食を教材に指導することができる。 ⑤ 研究授業をとおして、児童・生徒の食に対する関心を高めることができる。 ⑥ 教育実習を反省し、成果と課題をまとめ発表ができる。																		
授業方法と留意点	[実習場所] 枚方市内の小学校 [実習方法] 1. 栄養教育習校の管理職による講義 2. 栄養教育習校の学級担任による講義 3. 栄養教育習校の栄養教諭による講義 4. 指導案作成と学級担任、学年主任、教務主任からの指導 5. 給食の時間の参観																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事前指導 ・オリエンテーション ・事前打ち合わせ ・指導案作成 2. 実習内容 ・学校運営について学ぶ ・学級運営と児童生徒の指導について学ぶ ・生徒指導 ・学級活動参観 ・学校行事参観 ・実習校における食の全体計画と年間計画を学ぶ ・実習校における家庭・地域との連携について学ぶ ・栄養食事管理について学ぶ ・給食の時間の指導 ・給食当番の指導 ・給食の時間中の事故防止 ・給食の時間における衛生管理 ・研究授業の実施 ・食育指導案の作成 ・授業研究における授業と反省 3. 事後指導 ・報告会																		
関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ 教職実践演習 全ての教職課程必修科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食に関する指導の手引き 第二次改訂版</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房	2	別途、指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房																
2	別途、指示する																		
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 ・受け入れ校 50% ・実習ノート 40% ・学修への取り組み(ルーブリック評価) 10%																		
学生へのメッセージ	教育実習での体験を大学で学んだ理論と結び付け、栄養教諭として必要な知識と技能を修得するとともに、新たな発見や課題点に気づき栄養教諭としての実践力を高めましょう。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879(直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp																		
備考	事前・事後総学習時間は15時間程度である。																		

科目名	給食運営実習 (校外)	科目名 (英文)	Field Practice in Food Service(Off-Campus)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3064a0		

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>特定給食施設における栄養士・管理栄養士の役割や業務を理解するために、病院、学校、給食センター、介護福祉施設、事業所等で給食業務を体験し、施設の特性や喫食者に応じた給食の提供方法を修得することを目的とする。具体的には、喫食者の状況に応じた食事の計画や調理を含めた給食サービス提供を実際に体験し学ぶことにより、各施設における栄養士・管理栄養士としての業務について必要な知識、技能・能力を修得し、実践力を高めることをめざす。また、事前学習で計画した自らの課題に沿った実習を行い、実践力を高め、自発的に取り組む能力を修得する。</p> <p>管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目</p> <p>[実習目的]</p> <p>特定給食施設における給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>① 特定給食施設における栄養士の役割を理解する。</p> <p>② 特定給食施設における栄養士業務全般について、必要な知識、技能・能力を身につける。</p> <p>③ 特定給食施設における喫食者の特徴を理解でき、自らの課題に自発的に取り組むことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>[実習内容]</p> <p>特定給食施設における食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。</p> <p>1-1. 給食運営について理解する</p> <p>1-2. 献立作成について</p> <p>1-3. 給食費について</p> <p>1-4. 材料発注について</p> <p>1-5. 検収について</p> <p>1-6. 食数管理について</p> <p>2-1. 調理作業について</p> <p>2-2. 配膳・提供方法について</p> <p>[実習場所]</p> <p>大阪府内の事業所、福祉施設、その他。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>2年次後期授業終了後、原則2～3月に特定給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)において、1週間(45時間)の給食運営実習を行う。</p> <p>① 実習の目的・目標・学ぶ姿勢について指導を受ける。</p> <p>② 実習施設ごとに事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせを行う。</p> <p>③ 実習施設ごとにオリエンテーション(実習計画・実習施設概要・留意事項等)を受ける。</p> <p>④ 実習施設についての理解(組織・運営)を深める。</p> <p>⑤ 食材料管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑥ 作業管理・業務分担の把握・考察を行う。</p> <p>⑦ 安全・衛生管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑧ 給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ。</p> <p>⑨ 施設毎の実習報告を行う。</p> <p>[実習計画]</p> <p>第1週</p> <p>月曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)オリエンテーション(施設の概要と特徴説明等)(学習内容・午後)オリエンテーション(栄養部門業務の概要、栄養部門給食運営の概要説明等)</p> <p>火曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)給食業務・帳票の解説・閲覧、衛生管理の在り方(学習内容・午後)学生各自のテーマ別情報収集(1)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>水曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)検収作業、調理業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問、学生各自のテーマ別情報収集(2)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>木曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)盛付・配膳業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問(アンケート調査)学生各自のテーマ別情報収集(3)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>金曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)アンケート調査結果の意見交換、コンピュータ管理の実務経験(学習内容・午後)学生各自のテーマ別結果まとめ、テーマ:給食業務についての調査項目、実習成果報告会・反省会</p>																
関連科目	「給食経営管理論I」「給食経営管理論II」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習・校外実習ハンドブック</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック(第3版)</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版														
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、実習記録)、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	給食業務に必要な対応能力や他職種連携能力が実際の現場を通して身に付く。																
担当者の研究室等備考	農学部 8号館 2F 教員室 223																

科目名	給食運営実習 (校外)	科目名 (英文)	Field Practice in Food Service(Off-Campus)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3064a0		

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>特定給食施設における栄養士・管理栄養士の役割や業務を理解するために、病院、学校、給食センター、介護福祉施設、事業所等で給食業務を体験し、施設の特性や喫食者に応じた給食の提供方法を修得することを目的とする。具体的には、喫食者の状況に応じた食事の計画や調理を含めた給食サービス提供を実際に体験し学ぶことにより、各施設における栄養士・管理栄養士としての業務について必要な知識、技能・能力を修得し、実践力を高めることをめざす。また、事前学習で計画した自らの課題に沿った実習を行い、実践力を高め、自発的に取り組む能力を修得する。</p> <p>管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目</p> <p>[実習目的]</p> <p>特定給食施設における給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>① 特定給食施設における栄養士の役割を理解する。</p> <p>② 特定給食施設における栄養士業務全般について、必要な知識、技能・能力を身につける。</p> <p>③ 特定給食施設における喫食者の特徴を理解でき、自らの課題に自発的に取り組むことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>[実習内容]</p> <p>特定給食施設における食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。</p> <p>1-1. 給食運営について理解する</p> <p>1-2. 献立作成について</p> <p>1-3. 給食費について</p> <p>1-4. 材料発注について</p> <p>1-5. 検収について</p> <p>1-6. 食数管理について</p> <p>2-1. 調理作業について</p> <p>2-2. 配膳・提供方法について</p> <p>[実習場所]</p> <p>大阪府内の事業所、福祉施設、その他。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>2年次後期授業終了後、原則2～3月に特定給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)において、1週間(45時間)の給食運営実習を行う。</p> <p>① 実習の目的・目標・学ぶ姿勢について指導を受ける。</p> <p>② 実習施設ごとに事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせを行う。</p> <p>③ 実習施設ごとにオリエンテーション(実習計画・実習施設概要・留意事項等)を受ける。</p> <p>④ 実習施設についての理解(組織・運営)を深める。</p> <p>⑤ 食材料管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑥ 作業管理・業務分担の把握・考察を行う。</p> <p>⑦ 安全・衛生管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑧ 給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ。</p> <p>⑨ 施設毎の実習報告を行う。</p> <p>[実習計画]</p> <p>第1週</p> <p>月曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)オリエンテーション(施設の概要と特徴説明等)(学習内容・午後)オリエンテーション(栄養部門業務の概要、栄養部門給食運営の概要説明等)</p> <p>火曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)給食業務・帳票の解説・閲覧、衛生管理の在り方(学習内容・午後)学生各自のテーマ別情報収集(1)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>水曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)検収作業、調理業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問、学生各自のテーマ別情報収集(2)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>木曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)盛付・配膳業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問(アンケート調査)学生各自のテーマ別情報収集(3)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>金曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)アンケート調査結果の意見交換、コンピュータ管理の実務経験(学習内容・午後)学生各自のテーマ別結果まとめ、テーマ:給食業務についての調査項目、実習成果報告会・反省会</p>																
関連科目	「給食経営管理論I」「給食経営管理論II」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習・校外実習ハンドブック</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック(第3版)</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版														
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、実習記録)、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	給食業務に必要な対応能力や他職種連携能力が実際の現場を通して身に付く。																
担当者の研究室等備考	農学部8号館2F教員室223																

科目名	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	科目名（英文）	Field Practice I (Food Service Business Management)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3065a0		

授業概要・目的	給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うために、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。また、職場内全般のコミュニケーション力・企画提案力について理解する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来る。 ・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来る。 ・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来る。 																
授業方法と留意点	給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務を観察・体験し、単に給食の提供を行っているだけではなく、経営資源（人・物・金・情報等）を活用しながら、栄養管理の有効性と経営管理の効率性を両立させるために、さまざまな業務を総合的に組合せながら、試行錯誤や創意工夫を繰り返す中で、コミュニケーション力・企画提案力を身につけ、リーダーシップを発揮していることに気づくことが大切である。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>3年次の8～9月に1週間（45時間）の給食施設（学校・病院・福祉施設・事業所等）実習を行う。</p> <p>①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）</p> <p>②実習施設ごとの実習計画による実習（実習）</p> <p>③実習施設についての理解（組織・運営）（実習）</p> <p>④食材料管理の把握・考察（実習）</p> <p>⑤作業管理・業務分担の把握・考察（実習）</p> <p>⑥安全・衛生管理の把握・考察（実習）</p> <p>⑦給食に関するマネジメント全般についての理解（実習）</p> <p>⑧給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶなど、実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行うこと。（実習）</p> <p>⑨実習成果に関する報告書及び発表（グループ及び発表）</p> <p>[実習内容]</p> <p>① 医療関連施設における栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、部門業務がどのような連携で運営されているかを学ぶ。（給食管理・栄養指導・臨床栄養管理、組織管理）</p> <p>② 給食経営管理の知識や技術が、給食の現場においてどのように生かされているかを学習する。（マーケティング、経営管理）</p> <p>③ 個人の栄養アセスメントに基づいた、栄養管理を実施するにあたり、給食業務がどのような工夫や技術が活用されているかを学習する。（マーケティング、選択オーダー、業務分析等）</p> <p>④ 医療関連施設では、食数管理が複雑であるので、どのような体制やシステムで運営されているかを学習する。（食数管理、食事オーダー管理）</p> <p>⑤ 医療関連施設や介護施設では食種が多く、個別に複雑な食事内容が要求される。給食運営のシステムとして、このようなニーズにどのように対処しているかを学習する。（基本姿勢、業務体制・他部門との連絡調整）</p> <p>⑥ 適時・適量配膳においてどのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを学習する。（作業管理、温度管理、施設・設備管理）</p> <p>⑦ 栄養指導や栄養管理業務を含め、栄養部門の業務が安定して遂行されるためには、どのような工夫や合理化が行われてきたかを学ぶ。（組織・労務管理等）</p> <p>⑧ 衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から学習する。（衛生管理、危機管理、HACCP等）</p> <p>⑨ 嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等を検討する。</p>																
関連科目	「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習・校外実習ハンドブック</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック（第3版）</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「栄養管理と生命科学シリーズ」給食経営と管理の科学</td> <td>井川聡子、松月弘恵</td> <td>理工図書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック（第3版）	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	「栄養管理と生命科学シリーズ」給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック（第3版）	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	「栄養管理と生命科学シリーズ」給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書														
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート及び実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	科目名（英文）	Field Practice II（Public Health Nutrition）
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー（DP）	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3066a0		

授業概要・目的	地域の健康・栄養改善を実践的、総合的に把握するとともに、保健所、保健センターの役割を理解し、PDCAサイクルを基本とした管理栄養士の業務内容を体験学習することにより、栄養行政における管理栄養士の役割や専門性、多職種連携のあり方等について学ぶことを目的とする。また、公衆栄養マネジメントの実践により、地域住民への栄養指導、地域の関係組織・団体などの育成や支援のプロセスについて系統的に学び、これまでに得た専門的知識と実践的に得た技術の統合により、管理栄養士として必要なマネジメント能力を修得するとともに、公衆栄養という実践科学への理解を深める。保健所、保健センター等実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。																
到達目標	① 保健所、市町村保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。 ② 地域住民の健康、福祉等に関する管理栄養士の業務内容とその主な役割を説明できる。 ③ 地域住民を対象とした健康教育である「健康・栄養教室」等の企画、広報、実施、評価（判定）、フィードバック等の一連のプロセスを説明できる。 ④ 地域の関係機関の育成・支援のプロセスを説明できる。																
授業方法と留意点	保健所・保健センターにて当該施設の管理栄養士を指導者とした臨地実習を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「実習内容」 1. 実習の目的・意義を理解する。 2. 保健所、保健センターの役割を理解する。 3. 各自の実習の目標を設定する。 4. 実習スケジュールを理解する。 5. 保健所、保健センターの業務の概要を理解する。 6. 管理栄養士業務に接することにより栄養部門業務の全体像を把握する。 7. 職種間連携を体験する。 8. 住民への栄養関連サービスを体験する。 9. 実践体験から地域社会の栄養問題を考える。 10. 実践体験から住民参加の重要性に気づく。 11. 実践体験から公衆栄養マネジメントの重要性に気づく。 12. 栄養行政における問題点や課題への取り組み方を学ぶ。 13. 実習内容を整理し、レポートにまとめる。 「実習方法・事前事後学習課題」 1. 原則として1グループ8～10人編成（実習時に4～5人の班割編成）とし、各班にリーダーを1名設定する。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等を理解する。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. あらかじめ担当教員と大阪府や各保健所、保健センターが十分協議し、作成された臨地実習計画書を理解する。 5. 実習に先立って臨地実習計画書で提示された課題に取り組む。 6. 実習は、臨地実習計画書に基づいて積極的に取り組む。 7. 実習記録は、実習期間中毎日記録し、臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 実習最終日に課題の報告を行い、臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 9. 各自の実習における学びを振り返り、班員と検討し、レポートを作成する。																
関連科目	公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱ・公衆栄養学実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆栄養学臨地実習レポートBOOK</td> <td>矢澤彩香・大西智美</td> <td>南山堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆栄養学臨地実習レポートBOOK	矢澤彩香・大西智美	南山堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	公衆栄養学臨地実習レポートBOOK	矢澤彩香・大西智美	南山堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、課題・レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	黒川通典（221）																
備考																	

科目名	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice III（Clinical Nutrition）
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4067a0		

授業概要・目的	<p>[概要] 医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。指導者から講義・説明を受けるのみではなく、事前または実習中に課された課題に対して、取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>[目的]講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、修得する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																		
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理および栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。 ② 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。 ③ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>[実習方法] 3年次後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、2週間（90時間）の実習を行う。 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容] 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>第1週 オリエンテーション、施設概要や業務内容説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際、患者情報収集・アセスメントの実施 カンファレンス・症例検討等への参加</p> <p>第2週 対象患者の栄養評価、栄養管理計画書の作成、ベッドサイド訪問 カンファレンス・症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録の作成 実習報告会、反省会</p>																		
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																		
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 219 研究室（百木）、220 研究室（畦西）																		
備考	関西医科大学付属病院、市立ひらかた病院ほか約30施設で実施する																		

科目名	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice III（Clinical Nutrition）
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4067a0		

授業概要・目的	<p>[概要] 医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。指導者から講義・説明を受けるのみではなく、事前または実習中に課された課題に対して、取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>[目的]講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、修得する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																		
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理および栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。 ② 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。 ③ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>[実習方法] 3年次後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、2週間（90時間）の実習を行う。 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容] 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>第1週 オリエンテーション、施設概要や業務内容説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際、患者情報収集・アセスメントの実施 カンファレンス・症例検討等への参加</p> <p>第2週 対象患者の栄養評価、栄養管理計画書の作成、ベッドサイド訪問 カンファレンス・症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録の作成 実習報告会、反省会</p>																		
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																		
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 219 研究室（百木）、220 研究室（畦西）																		
備考	関西医科大学付属病院、市立ひらかた病院ほか約30施設で実施する																		

科目名	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice IV (Clinical Nutrition)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4068a0		

授業概要・目的	<p>医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得し、自身で実践することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、患者とのコミュニケーションをとりながら効果の評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。医療現場の指導者から講義・説明を受けるとともに、事前または実習中に課された課題に取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、対象患者に対し実践する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>② 栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。</p> <p>③ 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。</p> <p>④ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>3年次後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、3週間（135時間）の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ2～4人で実施し、随時、臨地実習担当教員の指導を受ける。 2 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4 実習にあたり、実習先施設においてオリエンテーションを受け、施設の特徴、管理栄養士の役割を理解する。 5 実習中は、対象患者とコミュニケーションを取り、対象者に適した栄養管理の過程を段階的に実施する。 6 実習記録を毎日記録し、1日の振り返りと翌日の計画について指導者からの助言・指導を受ける。 7 実習終了後、各自の実習における学びを振り返り、レポート作成、報告会に向けて準備を行う。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <p>1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。</p> <p>1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。</p> <p>1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。</p> <p>2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成、実践を行う。</p> <p>2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。</p> <p>2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。</p> <p>2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>1 週目 オリエンテーション、施設の概要や業務内容の説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際 対象患者の情報収集、アセスメント カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>2 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成 個別・集団栄養指導見学 カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>3 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成、対象患者の栄養管理報告 給食業務の実際 カンファレンス、症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録作成 実習報告会、反省会</p>																
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館219研究室（百木）、220研究室（畦西）																
備考	枚方公済病院、大阪労災病院ほか4施設で実施する。																

科目名	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice IV (Clinical Nutrition)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4068a0		

授業概要・目的	<p>医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得し、自身で実践することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、患者とのコミュニケーションをとりながら効果の評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。医療現場の指導者から講義・説明を受けるとともに、事前または実習中に課された課題に取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、対象患者に対し実践する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>② 栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。</p> <p>③ 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。</p> <p>④ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>3年後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、3週間（135時間）の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ2～4人で実施し、随時、臨地実習担当教員の指導を受ける。 2 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4 実習にあたり、実習先施設においてオリエンテーションを受け、施設の特徴、管理栄養士の役割を理解する。 5 実習中は、対象患者とコミュニケーションを取り、対象者に適した栄養管理の過程を段階的に実施する。 6 実習記録を毎日記録し、1日の振り返りと翌日の計画について指導者からの助言・指導を受ける。 7 実習終了後、各自の実習における学びを振り返り、レポート作成、報告会に向けて準備を行う。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>[実習内容]</p> <p>1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。</p> <p>1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。</p> <p>1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。</p> <p>2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成、実践を行う。</p> <p>2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。</p> <p>2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。</p> <p>2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>1 週目 オリエンテーション、施設の概要や業務内容の説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際 対象患者の情報収集、アセスメント カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>2 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成 個別・集団栄養指導見学 カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>3 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成、対象患者の栄養管理報告 給食業務の実際 カンファレンス、症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録作成 実習報告会、反省会</p>																
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館219研究室（百木）、220研究室（畦西）																
備考	枚方公済病院、大阪労災病院ほか4施設で実施する。																

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等	<p>小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)</p>																		
備考																			

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>			
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>			
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各指導教員が指定するテキスト		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準:</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度: 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題: 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>			
担当者の研究室等	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>			
備考				

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	各指導教員が指定するテキスト	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別途、指示する。	
	2		
	3		
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>		
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>		

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	各指導教員が指定するテキスト	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別途、指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>		
担当者の研究室等	<p>小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)</p>		
備考			

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等	<p>小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)</p>																		
備考																			

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等	<p>小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)</p>																		
備考																			

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等	<p>小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)</p>																		
備考																			

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>			
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>			
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各指導教員が指定するテキスト		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>			
担当者の研究室等	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>			
備考				

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	各指導教員が指定するテキスト	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別途、指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>		
学生へのメッセージ	学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。		
担当者の研究室等	小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)		
備考			

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	各指導教員が指定するテキスト	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別途、指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>		
学生へのメッセージ	学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。		
担当者の研究室等	小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)		
備考			

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平原 嘉親
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>			
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>			
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各指導教員が指定するテキスト		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準:</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度: 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題: 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>			

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	食品栄養学研究	科目名 (英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度 (ルーブリック評価)、研究倫理の理解など</p> <p>②課題： 60%</p> <p>提出された課題の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。</p>																		
担当者の研究室等	<p>小川俊夫 (222)、坂根貞樹 (224)、藤林真美 (323)、水間智哉 (321)、吉井英文 (322)、平原嘉親 (320)、安藤真美 (319)、山田徳広 (325)、岸本良美 (324)、喜多大三 (225)、百木和 (219)、畦西克己 (220)、黒川通典 (221)、樽井雅彦 (223)</p>																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平原 嘉親
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した管理栄養士としての専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 社会に貢献できる管理栄養士としての専門的知識、技能を修得する。 ② 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ③ 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ④ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加の実験・調査を検討する。 研究を遂行するにあたっては、管理栄養士として必要となる学力を担保するとともに各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>管理栄養士として必要となる学力(40%) 積極的参加および研究に対する貢献度(10%) 卒業論文発表会および卒業論文(50%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブルボミツ サジヤト
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習 (応用) での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。() 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬 (11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬 (2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回 (成果報告会含む)：9月~10月中旬 (3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまてはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書 (レポート) および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生への	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実																

メッセージ	習で二度行きましょう。
担当者の研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで 教員室1（2号館2階）
備考	